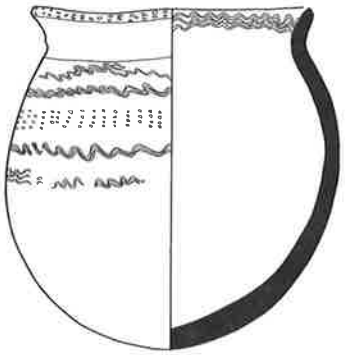
元総社蒼海遺跡群(12)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



H－15　出土小型甕

2007. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1　調査区遠景（北西から推定国府を望む）

2　調査区全景（上が北）

3　出土遺物

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野の国の中心地として栄えました。また、総社古墳群が築かれた総社・元総社地区には山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の律令中枢施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東４名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋藩は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と前橋が結ばれ、文化交流が始まりました。このように本市は、まさに、歴史性豊かなまちです。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（８）～(12)は古代上野国の中枢地域の調査であります。推定上野国府域に隣接することから多くの注目を集めております。今回の調査では、「国府のマチ」を形成する集落のほか、千網谷戸遺跡に代表される漏斗型耳飾りを出土した縄文晩期後半の住居跡、古代大溝の北側から検出された大型掘立柱建物跡１棟、鳥羽遺跡の対岸から検出された緑釉陶器群、また、中世の館跡など豊富な資料が発見されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、炎天下や寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成19年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　根岸　雅

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社遺跡群(12)発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所	群馬県前橋市元総社町1823番ほか
発掘調査期間	平成18年９月４日～平成18年12月15日
整理・報告書作成期間	平成18年12月18日～平成19年３月９日
発掘・整理担当者	梅澤克典・近藤雅順・阿久澤真一・遠藤たか美（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は梅澤・近藤・阿久澤・遠藤が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
　阿部シゲ子・井上和久・神澤とし江・北爪啓子・後藤進一・斉藤頼江・佐藤佳子・下境弥・杉渕富雄
　関根その子・曽我仁・勅使川原幸枝・登坂うた子・友永茂・内藤旭・中矢のり子・中山昭・長山桜夜子
　西山勝久・萩原秀子・橋本茂・町田妙子・町田敏彦・峰岸あや子・峯岸淳子・森下陽介・山野居綾
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮・長野）、1：25,000地形図（前橋）、1：6,000前橋市現形図を使用した。
3．本遺跡の略称は、18Ａ130－12である。
4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
　Ｈ…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　Ｔ…竪穴状遺構　　Ｗ…溝跡　　Ｉ…井戸跡
　Ｄ…土坑　　ＤＢ…土坑墓　　Ｐ…ピット　　Ｘ…不明遺構
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
　遺構　全体図…1：200　住居跡・竪穴状遺構・溝跡・井戸跡・土坑…1：30・1：60
　　竈…1：30　土坑墓…1：7.5
　遺物　土器…1/3・1/4　鉄器・鉄製品…1/2　石製品…1/3　瓦…1/2・1/5
6．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
7．土層注記は新版標準土色帳（小山・竹原1967）を基準とし、遺物観察表の色調についてもこれを使用した。
8．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。
　◎…締まり・粘性非常にあり、○…締まり・粘性あり、△…締まり・粘性ややあり、×…締まり・粘性なし
9．遺構平面図の ---------- は推定線を表す。
10．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
　遺構平面図　焼土…
　遺構断面図　構築面…
　遺物実測図　須恵器断面…　灰釉陶器断面…　灰釉陶器表面…
　　緑釉陶器断面…　青磁断面…　内黒…
　　煤付着…　粘土付着…
11．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。
　As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）
　Hr-FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
　Hr-FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
　As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　　次

序 …… i

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地 …… 1

2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針 …… 7

2　調査経過 …… 7

Ⅳ　基本層序 …… 9

Ⅴ　遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡 …… 10

(2)　竪穴状遺構 …… 23

(3)　溝跡 …… 23

(4)　土坑 …… 25

(5)　グリッド等出土遺物 …… 25

Ⅵ　まとめ …… 37

図　　版

口絵1　調査区遠景（北西から推定国府を望む）

2　調査区全景

3　出土遺物

PL. 1　H－1・2・4～7号住居跡

2　H－8・11～14号住居跡

3　H－15号住居跡

4　H－16・18・19・23・24・26号住居跡

5　H－28号住居跡、W－4号溝跡周辺全景

6　H－30・32～34号住居跡

7　H－36・39号住居跡、北西部全景

8　H－42～45・47・48号住居跡

9　H－51・55・56・58・60・62・80号住居跡

10　H－64～66・70・72・73号住居跡

11　H－74・79・81号住居跡、T－2、溝跡

PL. 12　I－1・4号井戸跡、I－6号井戸跡周辺全景、DB－1・D－7

13　H－1～6号住居出土遺物

14　H－7・8・13・14号住居出土遺物

15　H－14・15号住居出土遺物

16　H－15～17号住居出土遺物

17　H－18・19・23・24・26・28～30号住居出土遺物

18　H－30・32～34・36号住居出土遺物

19　H－36・39・42・44・45・46・48・64号住居出土遺物

PL. 20　H－50～52・55・56号住居出土遺物
21　H－56・62・64・65・66号住居出土遺物
22　H－66・68・70・72～74号住居出土遺物
PL. 23　H－74・79・81号住居、T－2、W－4出土遺物
24　鉄器・鉄製品

挿　図

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図
2　周辺遺跡図
3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4　基本層序
5　時期別の主軸方向
6　時期別の拡がり
7　元総社蒼海遺跡群（12）全体図
8　H－1・4号住居
9　H－2・3号住居
10　H－5・6号住居
11　H－7・8・57号住居
12　H－9・10・11号住居
13　H－12・13・14・68号住居
14　H－15号住居
15　H－16・17・20号住居
16　H－18・19・21号住居
17　H－22～25号住居
18　H－26～29号住居
19　H－30・31号住居
20　H－32号住居
21　H－33・34号住居
22　H－35・36号住居
23　H－37～39号住居
24　H－40・47・48～50号住居
25　H－42・43号住居
26　H－41・44～46号住居
27　H－51・52・63・75号住居、W－11・14号溝
28　H－53～55号住居
29　H－56・58・60・78・80号住居
30　H－61・62号住居
Fig. 31　H－64・65号住居
32　H－66・69・72・77号住居
33　H－70・71・73号住居
34　H－74・79号住居
35　H－81号住居、T－1・2号竪穴状遺構
36　W－3・5～9・15号溝
37　I－1～5号井戸
38　I－6号井戸、D－1～5号土坑
39　D－6～13号土坑
40　W－4・12号溝、DB－1号土坑墓
41　H－1～5号住居出土遺物
42　H－6～8・12～14号住居出土遺物
43　H－14・15号住居出土遺物
44　H－15～18号住居出土遺物
45　H－19・23・24・26・28・29号住居出土遺物
46　H－30～34号住居出土遺物
47　H－34・36・38号住居出土遺物
48　H－39・42・44・47号住居出土遺物
49　H－45・46・48・50～53号住居出土遺物
50　H－55・56・62・64・65号住居出土遺物
51　H－66・68・70・72～74号住居出土遺物
52　H－74・79・81号住居、T－2号竪穴状遺構、W－4号溝、I－6号井戸、グリッド出土遺物
53　鉄器・鉄製品・石製品
54　瓦（1）
55　瓦（2）
56　瓦（3）
57　瓦（4）
58　瓦（5）

表

Tab. 1　周辺遺跡概要一覧表
2　竪穴住居跡等一覧表
3　溝跡計測表
4　井戸跡・土坑・土坑墓計測表
5　土器観察表
Tab. 6　鉄器・鉄製品観察表
7　石製品観察表
8　瓦観察表
9　時期別の遺構数
10　井戸出土瓦分類表

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、７年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成18年４月19日付けで、前橋市長　高　木　政　夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成18年８月23日、調査依頼者である前橋市長　高　木　政　夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、９月４日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（12)」(遺跡コード：18Ａ130－12）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(12)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約2.5kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約0.5kmの所に上野国総社神社があり、西方約0.5kmには関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

２　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

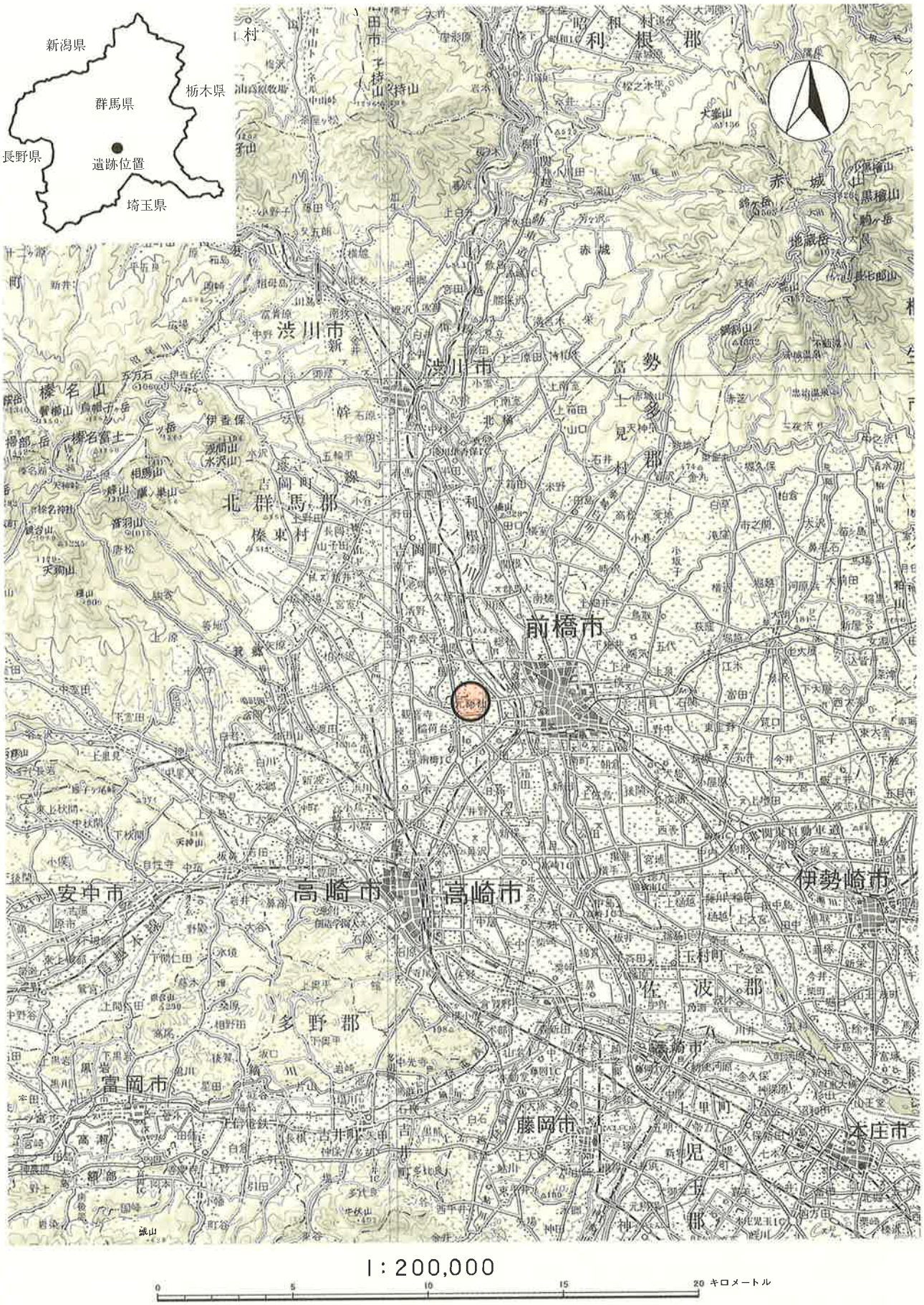


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から５カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東礎石が確認された。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群(7)(9)(10)【(9)(10)は平成18年度調査実施】と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは官人の用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具)、緑釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。
国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘建柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にＮ－64°－Ｅ方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。さらに、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、また、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

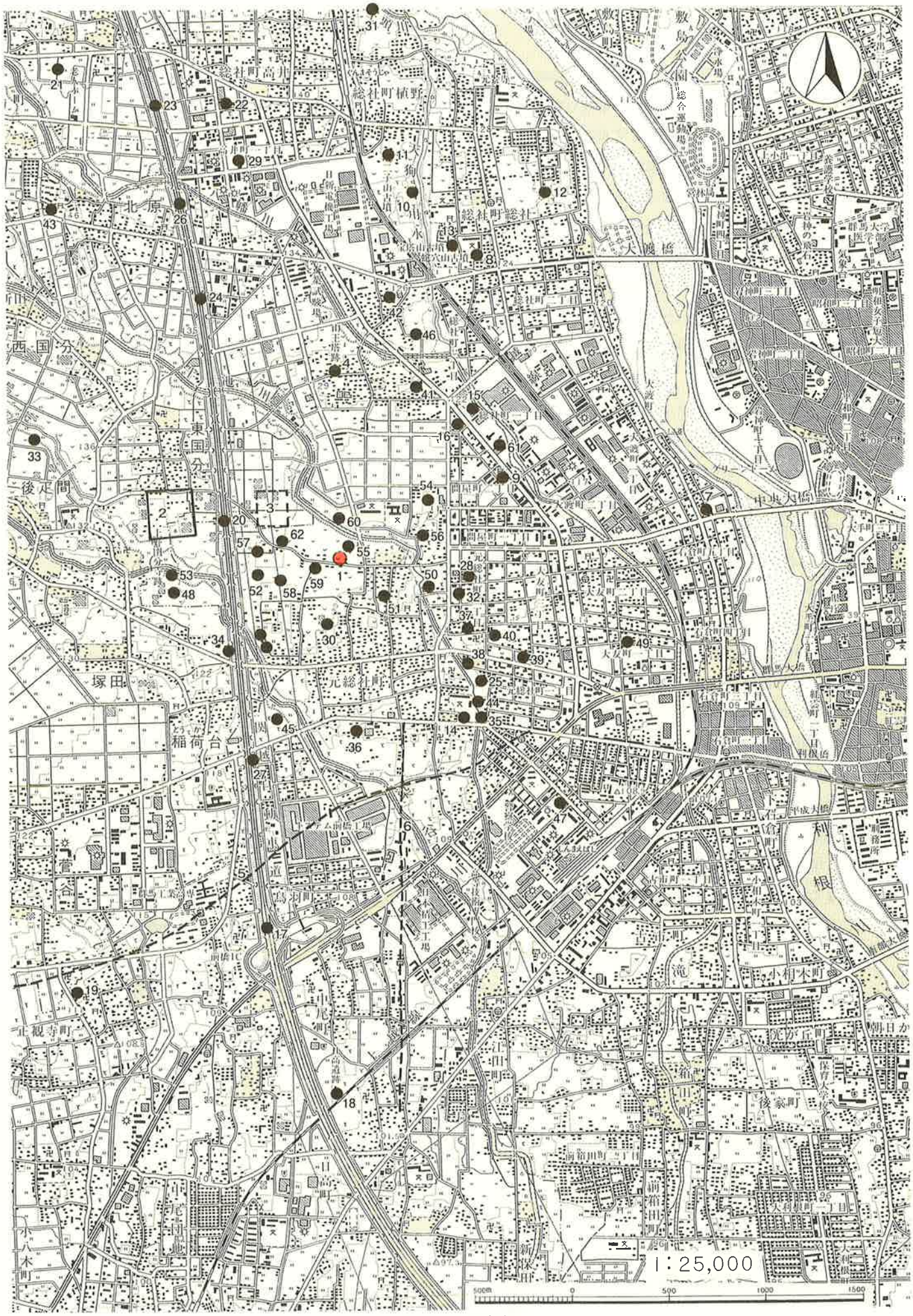


Fig. 2　周辺遺跡図

Tab.1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
25	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6,5～７m、下幅3,24m、深さ２m）
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983，88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985，87	奈良・平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986，88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986，95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989，95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群(7)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
51	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・椀類
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群(4)	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金粒、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群(2)、(6)	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・井戸跡・鍛冶工房跡、中世：溝跡
60	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡、溝跡
	元総社蒼海遺跡群(1)、(5)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓

＊調査年度の欄の(　)は調査開始年度を表す。

＊遺跡名の欄の(事業団)は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は1,363㎡である。グリッド座標については、国家座標（日本測地系）Ｘ＝＋44.000・Ｙ＝－72.200を基点（Ｘ0・Ｙ0）とする４ｍピッチのものを使用し、西から東へＸ133、Ｘ134、Ｘ135…、北から南へＹ109、Ｙ110、Ｙ111…となる。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のＸ144・Ｙ112の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	Ｘ＝＋43552.000	Ｙ＝－71624.000
世界測地系	Ｘ＝＋43906.904	Ｙ＝－71915.758

調査は、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘り下げ・遺構精査・写真撮影・測量の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、遺物台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本調査は、平成18年９月４日より重機による掘削を開始した。調査地は畑作地であるため耕作土と遺構面との土を分ける必要があり、また、土量が多く重機掘削に９日間要した。途中雨に降られる日が何日か続き、９月25日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げ・精査開始に至った。調査は２班体制とし、東及び西の両端から中央に向かって調査を進めることとした。

調査地は舌状台地の谷地部にあたり、東及び西側を除き粘性の強い地山で、雨の後の排水にとても苦労した。また、乾燥すると土が非常に硬くなり、水を撒きながら調査を進めた。さらに、奈良・平安時代の遺構が高い密度で検出され、遺構の新旧関係の判断に苦心した。11月16日には渋川西小学校の６年生62名が体験学習に訪れ、古代の人々の生活を想像しながら発掘調査の楽しさを味わって帰っていた。そして、精査の結果、竪穴住居跡78軒、竪穴状遺構２軒、溝跡15条、井戸跡６基、土坑13基、土坑墓１基が検出された。12月８日にラジコンヘリコプターによる調査区全景空中撮影を行い、12月15日に現場での作業を終了し、埋め戻しを行った。

12月18日より文化財保護課に戻り、整理作業を開始した。出土遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納などのすべての作業を翌年３月９日までに終了した。

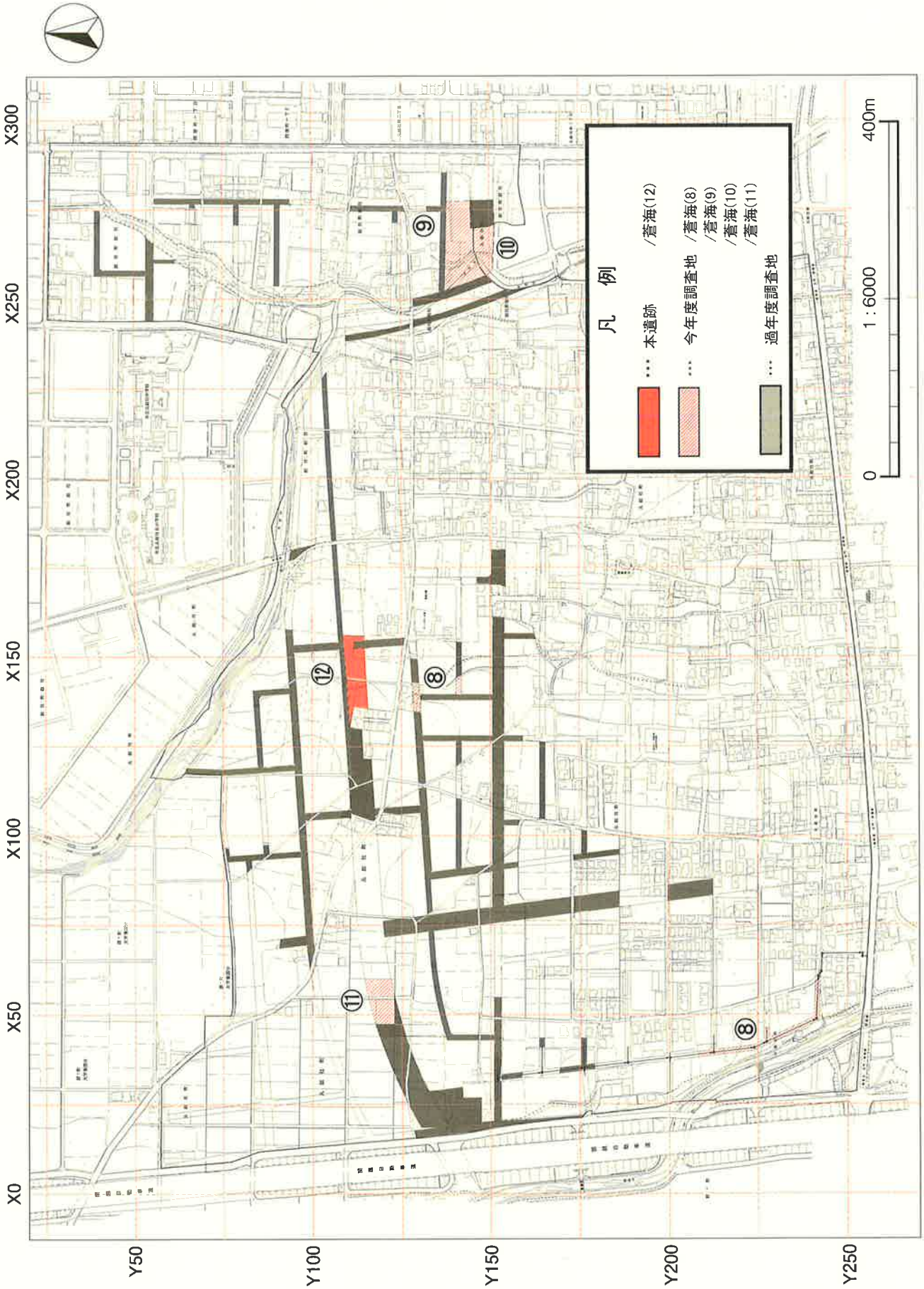


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

Ⅳ　基本層序

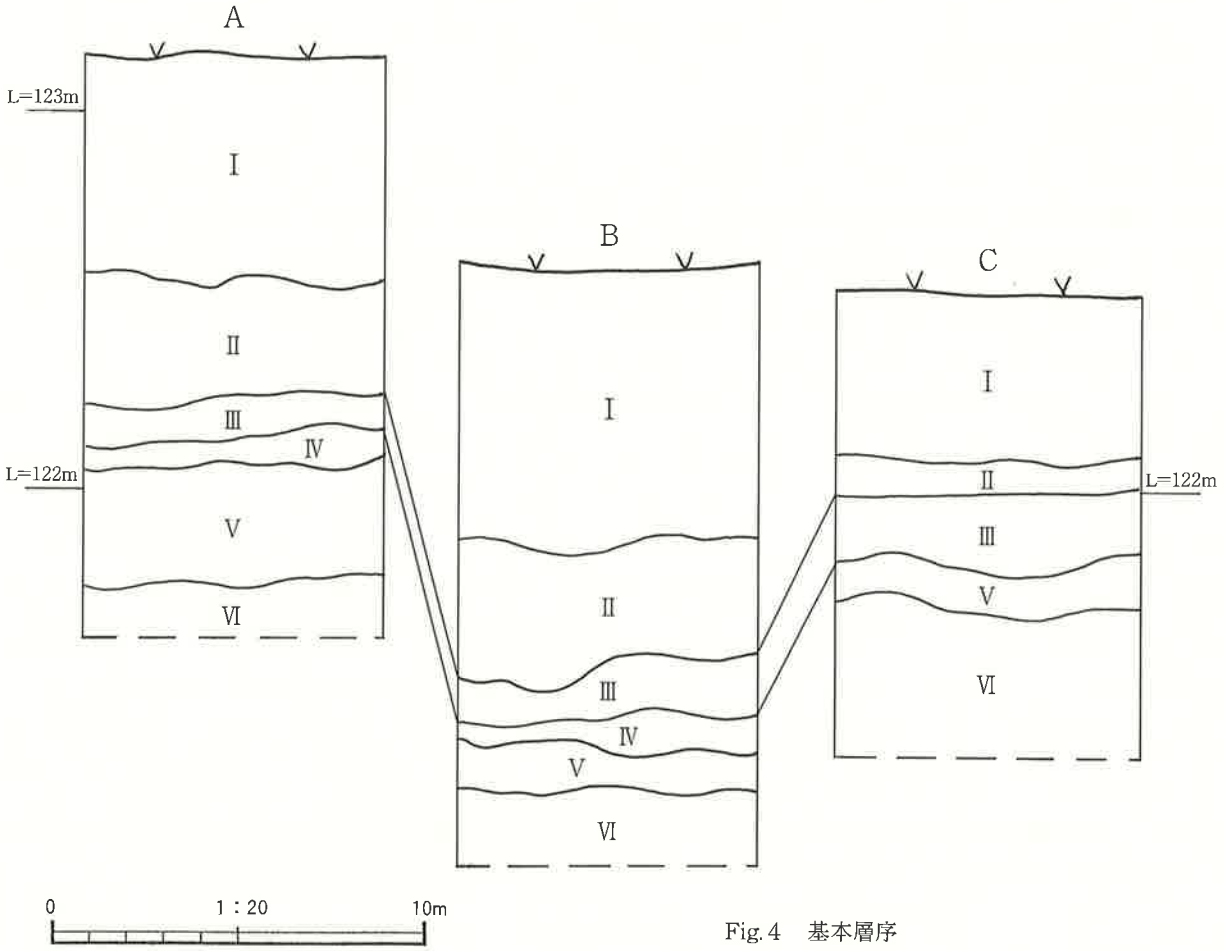


Fig.4　基本層序

本遺跡内のＡ地点・Ｂ地点・Ｃ地点の地層の堆積は上記のとおりである。

遺跡内の微地形は西から東に向かって次第に低くなる。奈良・平安時代の遺構構築面はⅢ層で、Ⅳ層及びⅤ層まで掘り込んで構築されている。なお、Ｂ地点は谷地部で、Ａ地点・Ｃ地点と色調等に違いがあるため、右側に別記する。

（Ａ地点・Ｃ地点）

Ⅰ層　現耕作土

Ⅱ層　灰黄褐色　粗（10YR4/2）
　　締まり○　粘性△

Ⅲ層　にぶい黄褐色　細（10YR4/3）
　　締まり○　粘性○

Ⅳ層　黒褐色　細（10YR3/2）
　　締まり○　粘性○

Ⅴ層　暗灰黄色　微（2.5YR4/2）
　　締まり○　粘性◎

Ⅵ層　浅黄色　微（2.5YR7/4）
　　締まり◎　粘性○

As-B混土層

As-C・Hr-FP混土層

As-C混土層

総社砂層の漸移層

総社砂層

（Ｂ地点）

Ⅲ層　黒褐色　細（10YR3/2）
　　締まり◎　粘性○

Ⅳ層　黒褐色　細（10YR3/1）
　　締まり◎　粘性○

Ⅴ層　暗褐色　微（10YR3/3）
　　締まり◎　粘性◎

Ⅵ層　灰黄褐色　微（10YR5/2）
　　締まり◎　粘性◎

V　遺構と遺物

（1）　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.8・41、PL.1・13）

位置　X150・151、Y109・110グリッド　**主軸方向**　N－102°－E　**規模**　東西4.40m、南北4.93m、壁現高50.5cm。　**面積**　17.4㎡　床面全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－106°－E。全長111cm、最大幅121cm、焚口部幅58cm。　**周溝**　なし。　**貯蔵穴**　長径61cm、短径52cm、深さ16.4cmの隅丸方形。　**ピット**　Ｐ６：長径120cm、短径115cm、深さ13.0cmの長円形。Ｐ７：長径33cm、短径30cm、深さ29.3cmの隅丸方形。Ｐ８：長径40cm、短径34cm、深さ31.0cmの円形。Ｐ９：長径86cm、短径60cm、深さ31.5cmの長方形。　**重複**　Ｈ－12・Ｈ－19と重複し、新旧関係はＨ－12→Ｈ－19→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数1,004点。そのうち須恵坏２点、須恵椀１点、須恵皿１点、土師甕３点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後葉と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.9・41、PL.1・13）

位置　X149・150、Y109・110グリッド　**主軸方向**（N－99°－E）　**規模**　東西(4.24)m、南北(5.0)m、壁現高43.5cm。　**面積**(18.1)㎡　床面全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－96°－E。全長160cm、最大幅129cm、焚口部幅74cm。　**周溝**　なし。　**ピット**　Ｐ６：長径58cm、短径42cm、深さ10cmの隅丸方形。Ｐ７：長径48cm、短径24cm、深さ7.5cmの不整形。Ｐ８：長径70cm、短径56cm、深さ22.5cmの楕円形。　**重複**　Ｈ－３・Ｈ－12・Ｈ－19・Ｈ－56・Ｈ－78と重複し、新旧関係はＨ－78→Ｈ－56→Ｈ－19→Ｈ－12→本遺構→Ｈ－３の順である。　**出土遺物**　総数641点。そのうち須恵坏１点、土師甕１点、鎌１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉～９世紀後葉と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.9・41、PL.13）

位置　X149・150　Y109グリッド　**主軸方向**（N－88°－E）　**規模**　東西(3.04)m、南北(1.07)m、壁現高45.5cm。　**面積**(7.8)㎡　床面全体的に平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　不明。　**貯蔵穴**　長径(76)cm、短径(53)cm、深さ19cmの隅丸方形。　**重複**　Ｈ－２・Ｈ－12と重複し、新旧関係はＨ－12→Ｈ－２→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数274点。そのうち須恵椀１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後葉と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.8・41、PL.1・13）

位置　X151、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**規模**　東西3.45m、南北3.36m、壁現高13cm。　**面積**13.1㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－97°－E。全長（114)cm、最大幅70cm、焚口部幅60cm。　**周溝**　なし。　**貯蔵穴**　長径60cm、短径47cm、深さ14cmの隅丸方形。　**ピット**　Ｐ７：長径50cm、短径47cm、深さ4.5cmの隅丸方形。　**重複**　Ｄ－７・Ｈ－７と重複し、新旧関係はＨ－７→本遺構→Ｄ－７の順である。　**出土遺物**　総数121点。そのうち土師坏１点、須恵坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後葉と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.10・41、PL.1・13）

位置　X150・151、Y113グリッド　**主軸方向**　N－63°－E　**規模**　東西3.87m、南北4.12m、壁現高59.5cm。　**面積**　15.6㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－65°－E。全長135cm、最大幅120cm、焚口部幅35cm。　**周溝**　なし。　**貯蔵穴**　長径［72］cm、短径［62］cm、深さ(9.5)cmの楕円形。　**重複**

Ｈ－７・Ｈ－17・Ｈ－20と重複し、新旧関係はＨ－20→Ｈ－７→Ｈ－17→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数561点。そのうち土師坏８点、土師甕４点、須恵台付壺１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から７世紀中葉と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.10・42、PL.1・13）

位置　X149･150、Y111･112グリッド　**主軸方向**　Ｎ－107°－Ｅ　**規模**　東西3.82m、南北3.64m、壁現高29cm。面積14.3㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁東隅寄り。主軸方向Ｎ－100°－Ｅ。全長102cm、最大幅48cm、焚口部幅64cm。　**周溝**　なし。　**重複**　Ｈ－15・Ｈ－18・Ｔ－２と重複し、新旧関係はＨ－15→本遺構→Ｈ－18→Ｔ－２の順である。　**出土遺物**　総数613点。そのうち土師坏２点、須恵坏３点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀前葉～中葉と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig.11・42、PL.1・14）

位置　X150・151、Y111・112グリッド　**主軸方向**［Ｎ－57°－Ｅ］　**規模**　東西［2.50］m、南北［3.56］m、壁現高51cm。　**面積**［13.5］㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向Ｎ－62°－Ｅ。全長110cm、最大幅131cm、焚口部幅70cm。　**周溝**　なし。　**貯蔵穴**　長径65cm、短径58cm、深さ12.9cmの円形。**重複**　Ｈ－４・Ｈ－５・Ｈ－17・Ｈ－57・Ｄ－７と重複し、新旧関係はＨ－57→本遺構→Ｈ－17→Ｈ－５→Ｈ－４→Ｄ－７の順である。　**出土遺物**　総数289点。そのうち土師坏２点、土師甕１点、土師壺１点、土師鉢１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から６世紀後葉～７世紀前葉と考えられる。

Ｈ－８号住居跡（Fig.11・42、PL.2・14）

位置　X147、Y109・110グリッド　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　規模東西2.60m、南北3.50m、壁現高27cm。　**面積**　12.5㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向Ｎ－94°－Ｅ。全長92cm、最大幅79cm、焚口部幅47cm。　**周溝**　なし。　**貯蔵穴**　長径84cm、短径70cm、深さ35.2cmの方形。　**重複**　Ｈ－16・Ｈ－81と重複し、新旧関係はＨ－81→Ｈ－16→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数275点。そのうち土師坏１点、土師小型鉢１点、土師甕２点、丸瓦２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後葉と考えられる。

Ｈ－９号住居跡（Fig.12）

位置　X151、Y109グリッド　**主軸方向**（Ｎ－80°－Ｅ）　**規模**東西（2.14）m、南北（9.90）m、壁現高40.5cm。**面積**（5.6）㎡　床面全体的に平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　不明。　**重複**　なし。　**出土遺物**　総数178点。**時期**　覆土から上限はHr-FP降下、下限はAs-B降下と考えられる。

Ｈ－10号住居跡（Fig.12）

位置　X146･147、Y109グリッド　**主軸方向**（Ｎ－89°－Ｅ）　**規模**東西（3.58）m、南北（9.9）m、壁現高22.5cm。**面積**（8.6）㎡　床面全体的に平坦な床面。　**竈**　なし。　**周溝**　不明。　**重複**　なし。　**出土遺物**　総数43点。**時期**　覆土から上限はHr-FP降下、下限はAs-B降下と考えられる。

Ｈ－11号住居跡（Fig.12、PL.2）

位置　X148・149、Y113・114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－84°－Ｅ　**規模**　東西3.62m、南北4.32m、壁現高36.5cm。**面積**［15.0］㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向Ｎ－81°－Ｅ。全長126cm、最大幅85cm、焚口部幅45cm。　**周溝**　なし。　**重複**　Ｈ－66・Ｈ－77・Ｉ－３と重複し、新旧関係はＨ－

77→H－66→本遺構→Ｉ－３の順である。　**出土遺物**　総数180点。　**時期**重複関係から８世紀代～９世紀代と考えられる。

Ｈ－12号住居跡（Fig.13・42、PL.2）

位置　X149・150、Y109・110グリッド　**主軸方向**［N－106°－E］　**規模**　東西［4.88］m、南北［3.76］m、壁現高49.5cm。　**面積**［18.3］㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。右袖の一部のみ検出。　**周溝**　なし。　**重複**　H－２・H－３・H－19・H－56・H－60・H－78と重複し、新旧関係はH－78→H－56→H－60→H－19→本遺構→H－２→H－３の順である。　**出土遺物**　総数202点。須恵坏２点、鎌１点を図示。**時期**覆土や出土遺物から９世紀前葉と考えられる。

Ｈ－13号住居跡（Fig.13・42、PL.2・14）

位置　X147・148、Y111・112グリッド　**主軸方向**［N－63°－E］　**規模**　東西［4.18］m、南北［2.64］m、壁現高39.5cm。　**面積**　［12.4］㎡　床面全体的に平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　H－14・H－15・H－68と重複し、新旧関係はH－68→H－15→H－14→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数252点。そのうち土師坏３点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後葉と考えられる。

Ｈ－14号住居跡（Fig.13・42・43、PL.2・14・15）

位置　X147･148、Y110･111グリッド　**主軸方向**　N－61°－E。　**規模**　東西3.12m、南北3.20m、壁現高40cm。**面積**　12.8㎡　床面全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－85°－E。全長90cm、最大幅84cm、焚口部幅40cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－13・H－16・H－81と重複し、新旧関係は本遺構→H－16→H－81→H－13の順である。　**出土遺物**　総数331。そのうち土師坏10点、土師甕４点、土師甑１点を図示。**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中葉～後葉。

Ｈ－15号住居跡（Fig.14・43・44、PL.3・15・16）

位置　X148・149、Y111・112グリッド　**主軸方向**　［N－62°－E］　**規模**　東西［3.72］m、南北［4.40］m、壁現高60cm。面積［16.4］㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－73°－E。全長113cm、最大幅111cm、焚口部幅63cm。　**周溝**　西壁・北壁・南壁を巡る。　**貯蔵穴**　長径60cm、短径40cm、深さ40cmの隅丸長方形。柱穴４基検出した。Ｐ１：長径30cm、短径28cm、深さ26cmの円形。Ｐ２：長径30cm、短径25cm、深さ33.5cmの隅丸方形。Ｐ３：長径27cm、短径20cm、深さ22.5cmの不定形。Ｐ４：長径36cm、短径34cm、深さ19.5cmの円形。　**重複**　H－６・H－13・H－18・H－68・H－69・D－５・Ｉ－２と重複し、新旧関係はD－５→Ｉ－２→H－６→H－18→本遺構→H－13→H－69→H－68の順である。　**出土遺物**　総数527点。そのうち土師坏４点、須恵坏１点、土師高坏１点、土師甕５点、土師小型甕２点、土師小型鉢１点、須恵提瓶１点、須恵短頸壺１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から６世紀後葉～７世紀前葉と考えられる。　**備考**　西中央付近から、落ち込みを検出。規模は、長径30cm、短径25cm、深さ33.5cmの半円形で多量の土器が出土。

Ｈ－16号住居跡（Fig.15・44、PL.4・16）

位置　X146・147、Y110・111グリッド　**主軸方向**［N－54°－E］　**規模**　東西［4.22］m、南北［3.00］m、壁現高36.5cm。　**面積**［13.8］㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　H－８・H－14・H－81と重複し、新旧関係はH－81→本遺構→H－14→H－８の順である。　**出土遺物**　総数34点。そのうち土師壺１点を図示。　**時期**　重複関係から７世紀前葉～７世紀中葉と考えられる。

Ｈ－17号住居跡（Fig.15・44、PL.16）

位置　Ｘ150・151、Ｙ112・113グリッド　**主軸方向**［Ｎ－64°－Ｅ］　**規模**　東西［4.68］m、南北［4.86］m、壁現高52cm。　**面積**［20.0］㎡　床面全体的に平坦な床面。　**竈**　不明。　周溝西壁・北壁・南壁を巡る。　**重複**　Ｈ－５・Ｈ－７・Ｈ－20・Ｈ－57と重複し、新旧関係はＨ－57→Ｈ－20→Ｈ－７→本遺構→Ｈ－５の順である。　**出土遺物**　総数261点。そのうち土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から７世紀中葉と考えられる。

Ｈ－18号住居跡（Fig.16・44、PL.4・17）

位置　Ｘ149・150、Ｙ111・112グリッド　**主軸方向**［Ｎ－110°－Ｅ］　**規模**　東西［3.12］m、南北［4.20］m、壁現高47.5cm。　**面積**［14.2］㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向Ｎ－109°－Ｅ。全長93cm、最大幅134cm、焚口部幅59cm。　**周溝**　なし。　貯蔵穴長径66cm、短径54cm、深さ12.3cmの長円形。　**ピット**　Ｐ６：長径［62］cm、短径50cm、深さ20.2cmの円形。Ｐ７：長径96cm、短径95cm、深さ14.6cmの円形。Ｐ８：長径62cm、短径60cm、深さ13.2cmの円形。　**重複**　Ｈ－６・Ｈ－15・Ｈ－69・Ｔ－２と重複し、新旧関係はＨ－69→Ｈ－15→Ｔ－２→本遺構→Ｈ－６の順である。　**出土遺物**　総数360点。そのうち須恵坏６点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀前葉と考えられる。

Ｈ－19号住居跡（Fig.16・45、PL.4・17）

位置　Ｘ150・151、Ｙ109・110グリッド　**主軸方向**［Ｎ－82°－Ｅ］　**規模**　東西［3.60］m、南北［3.96］m、壁現高78.5cm。　**面積**　［13.5］㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　Ｈ－１の床下土坑で削平。竈の構築材と思われる粘土が周辺に分布する。　**周溝**　西壁・北壁・南壁を巡る。　**貯蔵穴**　長径56cm、短径51cm、深さ14.5cmの円形。　**重複**　Ｈ－１・Ｈ－２・Ｈ－12と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－12→Ｈ－２→Ｈ－１の順である。　**出土遺物**　総数334点。そのうち土師坏４点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀前葉と考えられる。

Ｈ－20号住居跡（Fig.15）

位置　Ｘ150・151、Ｙ114グリッド　**主軸方向**（Ｎ－76°－Ｅ）　**規模**　東西（3.94）m、南北（3.06）m、壁現高32.0cm。　**面積**（12.6）㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　不明。　**重複**　Ｈ－５・Ｈ－17・Ｄ－４と重複し、新旧関係は本遺構→Ｄ－４→Ｈ－17→Ｈ－５の順である。　**出土遺物**　総数18点。　**時期**　重複関係から６世紀代～７世紀代と考えられる。

Ｈ－21号住居跡（Fig.16）

位置　Ｘ150、Ｙ114グリッド　**主軸方向**（Ｎ－108°－Ｅ）　**規模**　東西［2.38］m、南北（1.30）m、壁現高16cm。　**面積**（6.3）㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　不明。　**重複**　なし。　**出土遺物**　総数16点。　**時期**　覆土から上限はHr-FP降下、下限はAs-B降下と考えられる。

Ｈ－22号住居跡（Fig.17）

位置　Ｘ143、Ｙ114グリッド　**主軸方向**（Ｎ－105°－Ｅ）　**規模**　東西（1.00）m、南北（0.96）m、壁現高13cm。　**面積**（0.66）㎡　**床面**　平坦で堅緻な張り床。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　なし。　**時期**　覆土から上限はHr-FP降下、下限はAs-B降下と考えられる。

Ｈ－23号住居跡（Fig.17・45、PL.4・17）

位置　Ｘ137・138、Ｙ110グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－87°－Ｅ）　**規模**　東西2.82m、南北（1.70）m、壁現高34cm。

面積（4.34）㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。西壁に地山の掘り残しの高まり有。　**竈**　旧竈が南壁西寄りに位置する。主軸方向N－7°－W。全長70cm、最大幅93cm、焚口部幅34cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－27と重複し、新旧関係は本遺構→H－27の順である。　**出土遺物**　総数34点。そのうち須恵坏１点・須恵高台椀１点・須恵薬壺１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀前葉と考えられる。

H－24号住居跡（Fig.17・45、PL.4・17）

位置　X140・141、Y109・110グリッド　**主軸方向**（N－98°－E）　**規模**　東西［3.14］m、南北（2.36）m、壁現高41cm。　**面積**(4.82)㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁に位置する。主軸方向N－93°－E。全長104cm、最大幅93cm、焚口部幅38cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－53・I－６と重複し、新旧関係はH－53→本遺構→I－６の順である。　**出土遺物**　総数432点。そのうち土師坏１点、須恵蓋１点、須恵坏１点、土師鉢１点、釘１点、砥石１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀前葉と考えられる。

H－25号住居跡（Fig.17）

位置　X141・142、Y114・115グリッド　**主軸方向**（N－87°－E）　**規模**　東西2.86m、南北（1.14）m、壁現高11cm。　**面積**(2.77)㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　なし。　**出土遺物**　総数16点。　**時期**　覆土から上限はHr-FP降下、下限はAs-B降下と考えられる。

H－26号住居跡（Fig.18・45、PL.4・17）

位置　X138･139、Y110･111グリッド　**主軸方向**　N－87°－E。　**規模**　東西2.19m、南北3.07m、壁現高25cm。　**面積**　6.64㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。　**主軸方向**　N－86°－E。全長72cm、最大幅92cm、焚口部幅53cm。　**周溝**　なし。　**重複**　なし。　**出土遺物**　総数216。そのうち須恵高台椀２点、羽釜１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前葉と考えられる。

H－27号住居跡（Fig.18）

位置　X137･138、Y110グリッド　**主軸方向**（N－104°－E）　**規模**　東西2.50m、南北（1.66）m、壁現高20cm。　**面積**（3.16）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　H－23と重複し、新旧関係はH－23→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数43点。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から上限は８世紀前半、下限はAs-B降下と考えられる。

H－28号住居跡（Fig.18・45、PL.5・17）

位置　X138・139、Y112グリッド　**主軸方向**　N－102°－E　**規模**　東西2.50m、南北3.08m、壁現高19cm。　**面積**　7.02㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央に位置する。　**主軸方向**　N－99°－E。全長88cm、最大幅86cm、焚口部幅28cm。　**周溝**　なし。　**重複**　なし。　**出土遺物**　総数127点。そのうち須恵坏２点、須恵高台椀３点、羽釜１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前葉と考えられる。

H－29号住居跡（Fig.18・45、PL.17）

位置　X139・140、Y112グリッド　**主軸方向**（N－76°－E）　**規模**　東西3.08m、南北3.54m、壁現高46cm。　**面積**（7.83）㎡　**床面**　全体的に平坦で竈前は堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－78°－E。全長（76）cm、最大幅73cm、焚口部幅36cm。　**周溝**　北壁・西壁・南壁を巡る。　**重複**　H－36・H－42・H－54と重複し、新旧関係は本遺構→H－54→H－36・H－42の順である。　**出土遺物**　総数219点。そ

のうち土師坏１点、須恵蓋１点、須恵坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－30号住居跡（Fig.19・46、PL.6・17・18）

位置　X140～142、Y113・114グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**規模**　東西5.33m、南北3.82m、壁現高55cm。**面積**　19.20㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－86°－E。全長214cm、最大幅102cm、焚口部幅42cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－39と重複し、新旧関係は本遺構→H－39の順である。**出土遺物**　総数392点。そのうち土師坏２点、須恵盤１点、土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から７世紀末～８世紀初頭と考えられる。

Ｈ－31号住居跡（Fig.19、PL.46）

位置　X139・140、Y114・115グリッド　**主軸方向**（N－84°－E）　**規模**　東西2.70m、南北（1.54）m、壁現高21cm。　**面積**（3.50）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　H－34と重複し、新旧関係はH－34→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数234点。そのうち須恵高台椀１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

Ｈ－32号住居跡（Fig.20・46、PL.6・18）

位置　X137・138、Y113・114グリッド　**主軸方向**　N－57°－E　**規模**　東西4.78m、南北4.66m、壁現高75cm。**面積**　20.60㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。　**主軸方向**　N－56°－E。全長104cm、最大幅126cm、焚口部幅60cm。　**周溝**　東壁・北壁・西壁・南壁を巡る。　**貯蔵穴**　長径51cm、短径43cm、深さ33cmの隅丸方形。　**ピット**　P１：長径30cm、短径30cm、深さ43cmの円形。P２：長径35cm、短径31cm、深さ43cmの円形。P３：長径47cm、短径42cm、深さ37cmの円形。P４：長径36cm、短径36cm、深さ36cmの円形。　**重複**H－33・W－４・W－12と重複し、新旧関係はW－12→本遺構→H－33→W－４の順である。　**出土遺物**　総数128点。そのうち土師坏１点、須恵坏１点、土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から７世紀後葉と考えられる。

Ｈ－33号住居跡（Fig.21・46、PL.6・18）

位置　X137・138、Y113・114グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**規模**　東西2.98m、南北4.10m、壁現高67cm。**面積**　11.38㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－83°－E。全長138cm、最大幅120cm、焚口部幅68cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－32・W－12と重複し、新旧関係はW－12→H－32→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数508点。そのうち土師坏１点、須恵坏１点、須恵高台椀１点、土師甕１点を図示。**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－34号住居跡（Fig.21・46・47、PL.6・18）

位置　X139・140、Y113・114グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**規模**　東西4.20m、南北3.86m、壁現高24cm。**面積**　15.12㎡　**床面**　平坦で全体的に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－83°－E。全長122cm、最大幅116cm、焚口部幅40cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－31・H－43と重複し、新旧関係は本遺構→H－31・H－43の順である。　**出土遺物**　総数564点。そのうち土師坏３点、須恵蓋１点、須恵壺１点、土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後葉～９世紀初頭と考えられる。

Ｈ－35号住居跡（Fig.22）

位置　X136、Y112・113グリッド　**主軸方向**（N－86°－E）　**規模**　東西（1.82）m、南北3.18m、壁現高28cm。

面積（4.40）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　H－47・W－13と重複し、新旧関係は本遺構→H－47・W－13の順である。　**出土遺物**　総数23点。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から上限はHr-FP降下、下限は10世紀前葉と考えられる。

H－36号住居跡（Fig.22・47、PL.7・18・19）

位置　X140・141、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　規模東西4.32m、南北5.24m、壁現高57cm。**面積**　21.12㎡　**床面**全体的に平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－95°－E。全長184cm、最大幅130cm、焚口部幅64cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－29・H－54・H－62と重複し、新旧関係はH－29→H－54・H－62→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数995点。そのうち土師坏２点、須恵蓋３点、須恵坏10点、須恵高台椀１点、須恵小壺１点、土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀初頭と考えられる。

H－37号住居跡（Fig.23）

位置　X136、Y112グリッド　**主軸方向**　不明。　**規模**不明。　**面積**　不明。　**床面**　不明。　**竈**　先端部のみの検出であるが東壁に位置すると思われる。　**主軸方向**　N－113°－E。全長（66）cm　**周溝**　不明。　**重複**W－13と重複し、新旧関係はW－13→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数７点。　**時期**　覆土から上限はHr-FP降下、下限はAs-B降下と考えられる。

H－38号住居跡（Fig.23・47）

位置　X137・138、Y114・115グリッド　**主軸方向**（N－52°－E）　**規模**　東西（2.66）m、南北（2.42）m、壁現高30cm。　**面積**　（4.18）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**なし。　**重複**　D－7・DB－1と重複し、新旧関係は本遺構→D－7→DB－1の順である。　**出土遺物**　総数141。そのうち須恵蓋１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

H－39号住居跡（Fig.23・48、PL.7・19）

位置　X140・141、Y113・114グリッド　**主軸方向**　N－100°－E　**規模**　東西2.98m、南北3.86m、壁現高11cm。**面積**　10.93㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－102°－E。全長124cm、最大幅93cm、焚口部幅52cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－30と重複し、新旧関係はH－30→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数194点。そのうち須恵坏１点、須恵高台椀１点、羽釜１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後葉と考えられる。

H－40号住居跡（Fig.24）

位置　X136、Y113・114グリッド　**主軸方向**（N－97°－E）　**規模**　東西（1.78）m、南北（1.51）m、壁現高34cm。　**面積**（1.93）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　H－47の床下に火床部のみ確認できた。　**周溝**　なし。　**重複**　H－47と重複し、新旧関係は本遺構→H－47の順である。　**出土遺物**　総数２点。　**時期**　覆土や重複関係から上限はHr-FP降下、下限は10世紀前葉と考えられる。

H－41号住居跡（Fig.26）

位置　X132・133、Y110グリッド　**主軸方向**　平成13年度調査実施の「元総社小見内Ⅲ遺跡」の２区H－８号住居跡と同一であり、その住居の主軸方向は（N－85°－E）である。　**規模**　東西（0.56）m、南北（1.43）m、

壁現高43cm。 **面積** (0.55) ㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** 不明。 **重複** H－46・W－10と重複し、新旧関係はH－46との関係は不明で、本遺構→W－10の順である。 **出土遺物** なし。 **時期**「元総社小見内Ⅲ遺跡」によると９世紀前葉と考えられる。

H－42号住居跡 (Fig.25・48、PL.8・19)

位置 X139・140、Y111・112グリッド **主軸方向** N－76°－E **規模** 東西3.42m、南北3.68m、壁現高33cm。 **面積** 11.75㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 東壁南寄りに位置する。主軸方向N－77°－E。全長112cm、最大幅106cm、焚口部幅54cm。 **周溝** なし。 **貯蔵穴** 長径56cm、短径51cm、深さ26cmの円形。 **ピット** P６：長径33cm、短径31cm、深さ５cmの円形。 **重複** H－29・H－54・H－61・W－14と重複し、新旧関係はH－29・H－61→H－54→本遺構→W－14の順である。 **出土遺物** 総数408点。そのうち土師坏２点、須恵坏２点、土師甕１点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

H－43号住居跡 (Fig.25、PL.8)

位置 X138・139、Y113・114グリッド **主軸方向** N－98°－E **規模** 東西2.70m、南北3.54m、壁現高20cm。 **面積** 8.74㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁南寄りに位置する。主軸方向N－93°－E。全長94cm、最大幅94cm、焚口部幅30cm。 **周溝** なし。 **重複** H－34と重複し、新旧関係はH－34→本遺構の順である。 **出土遺物** 総数167点。 **時期** 覆土や重複関係から上限は９世紀初頭、下限はAs-B降下と考えられる。

H－44号住居跡 (Fig.26・48、PL.8・19)

位置 X134～136、Y110・111グリッド **主軸方向** (N－85°－E) **規模** 東西4.40m、南北 (3.46)m、壁現高29cm。 **面積** (12.47) ㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁に位置する。主軸方向N－92°－E。全長94cm、最大幅108cm、焚口部幅40cm。 **周溝** なし。 **重複** H－45・I－１と重複し、新旧関係はH－45→本遺構→I－１の順である。 **出土遺物** 総数262点。そのうち土師坏１点、須恵蓋２点、須恵坏３点、土師甕１点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

H－45号住居跡 (Fig.26・49、PL.8・19)

位置 X134～136、Y110グリッド **主軸方向** (N－69°－E) **規模** 東西4.28m、南北 (2.00)m、壁現高42cm。 **面積** (4.89) ㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** 不明。 **重複** H－44・I－１と重複し、新旧関係は本遺構→H－44→I－１の順である。 **出土遺物** 総数85点。そのうち須恵坏１点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から８世紀代と考えられる。

H－46号住居跡 (Fig.26・49、PL.19)

位置 X133・134、Y110グリッド **主軸方向** (N－62°－E) **規模**東西 [4.62]m、南北 [3.99]m、壁現高17cm。 **面積** (8.99) ㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁中央に位置する。主軸方向N－62°－E。全長110cm、最大幅86cm、焚口部幅40cm。 **周溝** 北壁・西壁・南壁を巡る。 **重複** H－49・H－50・W－10と重複し、新旧関係は本遺構→H－50→H－49→W－10の順である。 **出土遺物** 総数40点。そのうち土師坏１点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から８世紀代と考えられる。

H－47号住居跡 (Fig.24・48、PL.8)

位置 X136・137、Y112・113グリッド **主軸方向** (N－78°－E) 規模東西 (2.48)m、南北3.94m、壁現高27

cm。**面積**（6.80）㎡　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央に位置する。　**主軸方向**　N－82°－E。全長102cm、最大幅95cm、焚口部幅47cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－35・H－40重複し、新旧関係はH－35・H－40→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数124点。そのうち羽釜１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前葉と考えられる。

H－48号住居跡（Fig.24・49、PL.8・19）

位置　X137、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　**規模**　東西1.92m、南北2.88m、壁現高31cm。　**面積**　5.40㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－86°－E。全長117cm、最大幅74cm、焚口部幅35cm。　**周溝**　なし。　**重複**　W－12と重複し、新旧関係はW－12→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数69点。そのうち須恵坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀代と考えられる。

H－49号住居跡（Fig.24）

位置　X133・134、Y110グリッド　**主軸方向**（N－83°－E）　**規模**　東西（2.68）m、南北（1.00）m、壁現高31cm。　**面積**　（1.29）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　H－46・H－50・W－10と重複し、新旧関係はH－46→H－50→本遺構→W－10の順である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　覆土や重複関係から上限は10世紀前葉、下限はAs-B降下と考えられる。

H－50号住居跡（Fig.24・49、PL.20）

位置　X133・134、Y110グリッド　**主軸方向**（N－82°－E）　**規模**　東西［4.04］m、南北（2.75）m、壁現高30cm。　**面積**　（7.91）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁に位置する。主軸方向N－82°－E。全長86cm、最大幅97cm、焚口部幅46cm。　**周溝**　なし。　**貯蔵穴**　長径42cm、短径40cm、深さ34cmの円形。　**重複**　H－46・H－49と重複し、新旧関係はH－46→本遺構→H－49の順である。　**出土遺物**　総数369。そのうち須恵坏１点、須恵高台椀５点、灰釉高台椀１点、土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前葉と考えられる。

H－51号住居跡（Fig.27・49、PL.9・20）

位置　X142・143、Y113・114グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**規模**　東西3.02m、南北4.20m、壁現高39cm。　**面積**　11.90㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁南寄りに位置する。主軸方向N－85°－E。全長124cm、最大幅126cm、焚口部幅56cm。　**周溝**　なし。　**重複**　W－１・D－９と重複し、新旧関係はD－９→本遺構→W－１の順である。　**出土遺物**　総数78点。そのうち土師坏１点、須恵坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後葉と考えられる。

H－52号住居跡（Fig.27・49、PL.20）

位置　X138～140、Y109・110グリッド　**主軸方向**（N－83°－E）　**規模**　東西3.90m、南北（4.06）m、壁現高51cm。　**面積**（14.68）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁に位置する。**主軸方向**　N－84°－E。全長（84）cm、最大幅92cm、焚口部幅43cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－63・H－75・I－６・W－11・W－14と重複し、新旧関係はH－63・H－75→本遺構→I－６・W－11・W－14の順である。　**出土遺物**　総数1087点。そのうち須恵坏１点、土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

H－53号住居跡（Fig.28・49）

位置　X140・141、Y109・110グリッド　**主軸方向**（N－80°－E）　**規模**　東西［3.44］m、南北（2.70）m、壁現

高50cm。 **面積**（5.18）㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** なし。 **重複** H－24・I－6と重複し、新旧関係は本遺構→H－24→I－6の順である。 **出土遺物** 総数75点。そのうち緑釉陶器1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から上限はHr-FP降下、下限は8世紀前葉と考えられる。

H－54号住居跡（Fig.28）

位置 X139・140、Y111・112グリッド **主軸方向**（N－74°－E） **規模** 東西（2.24）m、南北（2.94）m、壁現高51cm。 **面積**（5.48）㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** なし。 **重複** H－29・H－36・H－42・H－61と重複し、新旧関係はH－29・H－61→本遺構→H－36・H－42の順である。 **出土遺物** 総数217点。 **時期** 重複関係から上限は8世紀後葉、下限は9世紀初頭と考えられる。

H－55号住居跡（Fig.28・50、PL.9・20）

位置 X142・143、Y110・111グリッド **主軸方向** N－92°－E **規模** 東西3.70m、南北4.29m、壁現高47cm。 **面積** 11.31㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁南寄りに位置する。主軸方向N－81°－E。全長67cm、最大幅75cm、焚口部幅30cm。 **周溝** なし。 **重複** W－1と重複し、新旧関係は本遺構→W－1の順である。 **出土遺物** 総数303点。そのうち土師坏2点、須恵坏2点、須恵高台椀1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

H－56号住居跡（Fig.29・50、PL.9・20・21）

位置 X148・149、Y109・110グリッド **主軸方向**［N－64°－E］ **規模** 東西［4.54］m、南北［3.14］m、壁現高55cm。 **面積**［14.1］㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。西壁に沿って、長径44cm、短径266cm、深さ14.5cmの長円形の落ち込みを検出。落ち込みから多量の土器片が出土。 **竈** 東壁中央に位置する。主軸方向［N－71°－E］。全長［38］cm、最大幅［72］cm、焚口部幅［40］cm。 **周溝** なし。 **重複** H－2・H－12・H－60・H－78と重複し、新旧関係はH－78→本遺構→H－60→H－12→H－2の順である。 **出土遺物** 総数419点。そのうち土師坏3点、土師甕3点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀前葉と考えられる。

H－57号住居跡（Fig.11）

位置 X150、Y112グリッド **主軸方向**（N－66°－E） **規模** 東西（1.1）m、南北（1.2）m、壁現高45cm。 **面積**（4.7）㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** なし。**重複** H－7・H－17と重複し、新旧関係は本遺構→H－7→H－17の順である。 **出土遺物** 総数なし。 **時期** 出土遺物や重複関係から6世紀代と考えられる。

H－58号住居跡（Fig.29、PL.9）

位置 X146・147、Y111・112グリッド **主軸方向**［N－58°－E］ **規模** 東西［3.66］m、南北［2.88］m、壁現高52.5cm。 **面積**［11.5］㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** なし。**重複** H－79・H－80と重複し、新旧関係はH－80→本遺構→H－79の順である。 **出土遺物** 総数284点。 **時期** 重複関係から7世紀代～8世紀代と考えられる。

H－59号住居跡 欠 番

H－60号住居跡（Fig.29、PL.9）

位置 X149、Y110グリッド **主軸方向**（N－118°－E） **規模** 東西（2.44）m、南北（2.58）m、壁現高27.5cm。

面積（10.3）㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁中央に位置する。主軸方向N－114°－E。全長128cm、最大幅60cm、焚口部幅46cm。　**周溝**　なし。　**貯蔵穴**　長径41cm、短径38cm、深さ7.1cmの円形。　**重複**　H－12・H－56と重複し、新旧関係はH－56→本遺構→H－12の順である。　**出土遺物**　総数111点。　**時期**　重複関係から７世紀中葉～９世紀前葉と考えられる。

H－61号住居跡（Fig.30）

位置　X139・140、Y111グリッド　**主軸方向**（N－75°－E）　**規模**　東西［2.50］m、南北3.38m、壁現高50cm。　**面積**（4.55）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　なし。　**重複**　H－42・H－54・D－10と重複し、新旧関係は本遺構→H－54→H－42・D－10の順である。　**出土遺物**　総数106点。　**時期**　覆土や重複関係から上限はHr-FP降下、下限は９世紀初頭と考えられる。

H－62号住居跡（Fig.30・50、PL.9・21）

位置　X141・142、Y110・111グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**規模**　東西5.02m、南北3.18m、壁現高50cm。　**面積**　14.97㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－88°－E。全長124cm、最大幅120cm、焚口部幅57cm。　**周溝**　なし。　**重複**　W－１・W－２重複し、新旧関係は本遺構→W－１・W－２の順である。　**出土遺物**　総数356点。そのうち土師坏３点、須恵器１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀末～９世紀初頭と考えられる。

H－63号住居跡（Fig.27）

位置　X139・140、Y109・110グリッド　**主軸方向**（N－84°－E）　**規模**　東西（0.70）m、南北（1.16）m、壁現高45cm。　**面積**（0.67）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　不明。　**重複**　H－52と重複し、新旧関係は本遺構→H－52の順である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　覆土や重複関係から上限はHr-FP降下、下限は９世紀中葉と考えられる。

H－64号住居跡（Fig.31・50、PL.10・19・21）

位置　X143・144、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**規模**　東西3.70m、南北5.44m、壁現高34cm。　**面積**　19.04㎡　**床面**　平坦で床面。　**竈**　東壁南寄りに位置する。**主軸方向**　N－77°－E。全長94cm、最大幅124cm、焚口部幅56cm。　**周溝**　なし。　**重複**　W－６・７・８と重複し、新旧関係は本遺構→W－６・７・８の順である。　**出土遺物**　総数351点。そのうち土師坏２点、須恵坏１点、須恵高台椀１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物７世紀末～８世紀初頭と考えられる。

H－65号住居跡（Fig.31・50、PL.10・21）

位置　X144・145、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**規模**　東西3.22m、南北3.74m、壁現高28cm。　**面積**　11.22㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁南寄りに位置する。主軸方向N－102°－E。全長88cm、最大幅112cm、焚口部幅45cm。　**周溝**　なし。　**重複**　H－79・W－３・D－２と重複し、新旧関係はH－79→本遺構→W－３・D－２の順である。　**出土遺物**　総数138点。そのうち須恵高台椀１点、羽釜１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前葉と考えられる。

H－66号住居跡（Fig.32・51、PL.10・21・22）

位置　X147・148、Y112グリッド　**主軸方向**［N－45°－E］　**規模**　東西［3.74］m、南北［2.84］m、壁現

高45.5cm。 **面積** ［12.7］㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－38°－E。全長126cm、最大幅108cm、焚口部幅40cm。 **周溝** なし。 **貯蔵穴** 長径66cm、短径54cm、深さ12.3cmの長円形。 **重複** H－11・H－69・H－77・Ⅰ－3と重複し、新旧関係はH－69→H－77→本遺構→H－11→Ⅰ－3の順である。 **出土遺物** 総数152点。そのうち土師坏2点、土師甕2点、土師小型甕1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀前葉と考えられる。

H－67号住居跡 欠 番

H－68号住居跡（Fig.13・51、PL.22）

位置 X147・148、Y112グリッド **主軸方向**（N－64°－E） **規模** 東西（2.45）m、南北（0.93）m、壁現高21cm。 **面積**（7.1）㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** 不明。**重複** H－13・H－15・H－69・D－7と重複し、新旧関係はH－69→本遺構→H－15→H－13→D－7の順である。 **出土遺物** 総数3点。そのうち土師坏1点を図示。 **時期** 遺物や重複関係から6世紀後葉～7世紀前葉と考えられる。

H－69号住居跡（Fig.32）

位置 X148・149、Y112グリッド **主軸方向**（N－102°－E） **規模** 東西（3.04）m、南北（1.46）m、壁現高50.5cm。 **面積**（9.8）㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** なし。 **貯蔵穴** 長径102cm、短径96cm、深さ9.5cmの円形。 **重複** H－15・H－18・H－66・H－68・D－5と重複し、新旧関係は本遺構→H－68→H－15→H－66→H－18→D－5の順である。 **出土遺物** 総数8点。 **時期** 重複関係から6世紀代と考えられる。

H－70号住居跡（Fig.33・51、PL.10・22）

位置 X147・148、Y112・113グリッド **主軸方向** N－76°－E **規模** 東西3.50m、南北4.12m、壁現高47cm。面積15.9㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。 **主軸方向** N－74°－E。全長144cm、最大幅114cm、焚口部幅67cm。 **周溝** 西壁・北壁・南壁を巡る。 **貯蔵穴** 長径66cm、短径54cm、深さ12.3cmの長円形。 **重複** H－71と重複し、新旧関係はH－71→本遺構の順である。 **出土遺物** 総数242点。そのうち土師坏1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀後葉～8世紀前葉と考えられる。

H－71号住居跡（Fig.33）

位置 X147、Y112・113グリッド **主軸方向**（N－25°－E） **規模** 東西（2.76）m、南北（2.0）m、壁現高40cm。**面積**（8.5）㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** なし。 **重複** H－70と重複し、新旧関係は本遺構→H－70の順である。 **出土遺物** 総数47点。 **時期** 重複関係から7世紀代と考えられる。

H－72号住居跡（Fig.32・51、PL.10・22）

位置 X146・147、Y112・113グリッド **主軸方向** N－91°－E **規模** 東西2.56m、南北3.60m、壁現高34.5cm。**面積** 12.1㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－91°－E。全長70cm、最大幅74cm、焚口部幅58cm。 **周溝** なし。 **貯蔵穴** 長径40cm、短径40cm、深さ16.5cmの方形。**重複** H－73と重複し、新旧関係はH－73→本遺構の順である。 **出土遺物** 総数208点。そのうち須恵坏1点、須恵椀4点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から9世紀後葉と考えられる。

H－73号住居跡（Fig.33・51、PL.10・22）

位置 X145・146、Y112・113グリッド **主軸方向**［N－72°－E］ **規模** 東西［3.14］m、南北［3.28］m、壁

現高36.5cm。 **面積** [12.4] ㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁中央に位置する。 **主軸方向** (N－71°－E)。全長 (76)cm、最大幅 (67)cm、焚口部幅 (61)cm。 **周溝** なし。 **重複** H－72と重複し、新旧関係は本遺構→H－72の順である。 **出土遺物** 総数300点。そのうち土師坏２点、土師小型台付甕１点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から８世紀後葉と考えられる。

H－74号住居跡 (Fig.34・51・52、PL.11・22・23)

位置 X144・145、Y112・113グリッド **主軸方向** N－64°－E **規模** 東西3.78m、南北3.74m、壁現高48cm。 **面積** 13.06㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－69°－E。全長100cm、最大幅103cm、焚口部幅30cm。 **周溝** なし。 **重複** H－73・W－３と重複し、新旧関係は本遺構→H－73・W－３の順である。 **出土遺物** 総数1349点。そのうち土師坏12点、須恵器２点、土師甕２点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から７世紀前葉と考えられる。 **備考** 菰編み石が多く、400～500gが４点、500～600gが４点、600～700gが９点、700～800gが７点、800～900gが１点出土した。

H－75号住居跡 (Fig.27)

位置 X138・139、Y110グリッド **主軸方向** (N－129°－E) **規模** 東西 (1.07)m、南北 (0.82)m、壁現高42cm。 **面積** (0.43) ㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** 不明。 **重複** H－52と重複し、新旧関係は本遺構→H－52の順である。 **出土遺物** なし。 **時期** 覆土や重複関係から上限はHr-FP降下、下限は９世紀中葉と考えられる。

H－76号住居跡 欠 番

H－77号住居跡 (Fig.32)

位置 X149、Y113グリッド **主軸方向** (N－48°－E) **規模** 東西 (3.20)m、南北 (1.20)m、壁現高45.5cm。 **面積** (7.6) ㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** 不明。 **重複** H－11・H－66・I－３と重複し、新旧関係は本遺構→H－66→H－11→I－３の順である。 **出土遺物** 総数54点。 **時期** 重複関係から６世紀代と考えられる。

H－78号住居跡 (Fig.29、PL.9)

位置 X148・149、Y109グリッド **主軸方向** (N－68°－E) **規模** 東西 (2.93)m、南北 (0.50)m、壁現高29.5cm。 **面積** (6.8) ㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** 不明。 **重複** H－２・H－12・H－56と重複し、新旧関係はH－２→H－12→H－56→本遺構の順である。 **出土遺物** 総数13点。 **時期** 重複関係から６世紀代と考えられる。

H－79号住居跡 (Fig.34・52、PL.11・23)

位置 X145・146、Y111・112グリッド **主軸方向** [N－49°－E] **規模** 東西 [4.18]m、南北 [3.06]m、壁現高44.5cm。 **面積** [11.4] ㎡ **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 不明。 **周溝** なし。 **重複** H－58・H－65・H－73・H－80と重複し、新旧関係はH－80→H－58→本遺構→H－73→H－65の順である。 **出土遺物** 総数360点。そのうち須恵坏６点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

H－80号住居跡 (Fig.29、PL.9)

位置 X146、Y111グリッド **主軸方向** (N－71°－E) **規模** 東西 (2.6)m、南北 (－)m、壁現高49cm。 **面積** (4.6)

㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　不明。　**周溝**　不明。　**重複**　H－58・H－79・と重複し、新旧関係は本遺構→H－58→H－79の順である。　**出土遺物**　総数３点。　**時期**　重複関係から７世紀代～８世紀代と考えられる。

H－81号住居跡（Fig.35・52、PL.11・23）

位置　X147・148、Y109グリッド　**主軸方向**（N－55°－E）　**規模**　東西（3.20）、南北（3.00）m、壁現高27.5cm。　**面積**（11.6）㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**竈**　東壁南隅寄りに位置する。主軸方向（N－55°－E）。全長（54)cm、最大幅（47)cm、焚口部幅（－)cm。　**周溝**　不明。　**重複**　H－８・H－14・H－16・H－56と重複し、新旧関係は本遺構→H－56→H－16→H－14→H－８の順である。　**出土遺物**　総数53点。そのうち土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

（２）竪穴状遺構

T－１号竪穴状遺構跡（Fig.35）

位置　X150・151、Y110・111グリッド　**主軸方向**　N－100°－E　**規模**　東西3.80m、南北2.80m、壁現高13cm　**面積**　12.3㎡　**床面**　全体的に平坦な床面。　**重複**　T－２と重複し、新旧関係はT－２→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数82点。　**時期**　覆土から10世紀代と考えられる。

T－２号竪穴状遺構跡（Fig.35・52、PL.11・23）

位置　X149・150、Y111グリッド　**主軸方向**［N－62°－E］　**規模**　東西［3.96]m、南北［3.06]m、壁現高27.5cm。　**面積**［12.1］㎡　**床面**　中心部に向かって落ち込む。中心部から伏せ甕が出土。　**重複**　T－１と重複し、新旧関係は本遺構→T－１の順である。　**出土遺物**　総数76点。そのうち土師坏１点、土師器台１点、土師小型鉢１点、土師甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

（３）溝跡

W－１号溝跡（Fig.7）

位置　X142・143、Y109～115グリッド　**主軸方向**　N－４°－W　**長さ**　21.3m　**最大幅**　上幅1.10m、下幅0.45m　**深さ**　35.5cm　**形状等**　U字形で東側に平坦部有。　**重複**　H－51・H－55・H－62・D－11・D－12と重複し、新旧関係はH－51・H－55・H－62・D－11・D－12→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数205点。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－２号溝跡（Fig.7）

位置　X141・142、Y109～115グリッド　**主軸方向**　N－５°－W　**長さ**　21.3m　**最大幅**　上幅0.95m、下幅0.85m　**深さ**　6.5cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－62と重複し、新旧関係はH－62→本遺構の順である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－３号溝跡（Fig.36）

位置　X144・145、Y109～114グリッド　**主軸方向**　N－５°－W　**長さ**　21.0m　**最大幅**　上幅0.84m、下幅0.64m　**深さ**　57.0cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－10・H－17・H－24と重複し、新旧関係はH－10→H－17

→H－24→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数126点。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－４号溝跡（Fig.40・52、PL.5・23）

位置　X136～138、Y114・115グリッド　**主軸方向**　南壁よりN－1°－Wで3.8m、N－90°－Eで8.3m、N－0°－Wで3.3m進み南壁にあたる。　**長さ**　15.4m　**最大幅**　上幅1.04m、下幅0.48m　**深さ**　55.5cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－32・W－12と重複し、新旧関係はW－12→H－32→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数119点。そのうち転用硯１点を図示。　**時期**　覆土から中世と考えられる。　**備考**　中央にDB－１がありその土坑墓との関係が考慮されるが、南壁の土層断面や覆土からは確定的なものは得られなかった。

W－５号溝跡（Fig.36）

位置　X144・145、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－88°－W・N－6°－E　**長さ**　東西に（2.98）m、南北に（2.95）m　**最大幅**　東西方向上幅0.84m、下幅0.50m、南北方向上幅0.66m、下幅0.40m　**深さ**　29cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－74と重複し、新旧関係はH-74→本遺構である。　**出土遺物**　総数１点。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－６号溝跡（Fig.36）

位置　X143、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－1°－W　**長さ**　2.9m　**最大幅**　上幅0.48m、下幅0.32m　**深さ**24cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－64と重複し、新旧関係はH－64→本遺構の順である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－７号溝跡（Fig.36）

位置　X144、Y110・111グリッド　**主軸方向**　N－5°－W　**長さ**　3.2m　**最大幅**　上幅0.47m、下幅0.42m　**深さ**　22cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－64・W－15と重複し、新旧関係はH－64→本遺構→W－15の順である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－８号溝跡（Fig.36）

位置　X144、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－6°－E　**長さ**　3.0m　**最大幅**　上幅0.46m、下幅0.32m　**深さ**　16cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－64と重複し、新旧関係はH－64→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数20点。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－９号溝跡（Fig.36）

位置　X143、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－13°－E　**長さ**　3.3m　**最大幅**　上幅1.46m、下幅1.26m　**深さ**　21cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－51と重複し、新旧関係はH－51→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数23点。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－10号溝跡（Fig.７）

位置　X133、Y109・110グリッド　**主軸方向**　N－7°－E　**長さ**　1.2m　**最大幅**　上幅0.60m、下幅0.44m　**深さ**　16cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－41・H－46・H－49と重複し、新旧関係はH－41・H－46・H－49→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数６点。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－11号溝跡（Fig.７）

位置　X139、Y110グリッド　**主軸方向**　N－3°－E　**長さ**　1.2m　**最大幅**　上幅0.75m、下幅0.65m　**深さ**21cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－52と重複し、新旧関係はH－52→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数27点。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

W－12号溝跡（Fig.7）

位置　X137、Y110～115グリッド　**主軸方向**　北部はN－16°－W、南部はN－4°－W　**長さ**　北部1.7m、南部15.9m　**最大幅**　上幅1.02m、下幅0.66m　**深さ**　19.5cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－32・H－33・H－48・W－4と重複し、新旧関係は本遺構→H－32・H－33・H－48・W－4の順である。　**出土遺物**　総数90点。　**時期**　覆土や重複関係から上限はHr-Fp降下、下限は8世紀初頭と考えられる。

W－13号溝跡（Fig.7）

位置　X136・137、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－34°－E　**長さ**4.2m　**最大幅**　上幅0.66m、下幅0.48m　**深さ**　6.5cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－37・W－12と重複し、新旧関係はW－12→本遺構→H－37の順である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　覆土や重複関係から上限はHr-Fp降下、下限はAs-B降下と考えられる。

W－14号溝跡（Fig.7）

位置　X139、Y110～112グリッド　**主軸方向**　N－5°－W　**長さ**11.1m　**最大幅**　上幅0.75m、下幅0.45m　**深さ**　13.0cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－42・H－52と重複し、新旧関係はH－42・H－52→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数7点。　**時期**　覆土や重複関係から上限は9世紀前葉、下限はAs-B降下と考えられる。

W－15号溝跡（Fig.36）

位置　X144・145、Y111グリッド　**主軸方向**　N－89°－W　**長さ**　1.0m　**最大幅**　上幅（1.10）m、下幅0.48m　**深さ**　60cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－64と重複し、新旧関係はH－64→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数20点。　**時期**　覆土から中世と考えられる。

（4）　井戸跡・土坑・土坑墓（Fig.37・38・39・40・52、PL.12）

井戸跡・土坑・土坑墓については、Tab.4井戸跡・土坑・土坑墓計測表（P.28）を参照のこと。
そのうち、I－6出土の土師坏1点、須恵器1点を図示。また、I－6から出土した多数の瓦の集計表を「Ⅵまとめ」に掲載。

（5）グリッド等出土遺物（Fig.52）

総数998点を出土。そのうち青磁2点を図示。

Tab. 2　住居跡等一覧表

遺構名	位置	規模(m) 東西	南北	壁現高(cm)	面積(㎡)	主軸方向	竈 位置	構築材	周溝	主な出土遺物 土師器	須恵器	その他
H－1	X150・151 Y109・110	4.04	4.93	51	17.40	N－102°－E	東壁中央南寄り	粘土・凝灰岩	－	坏・甕	坏・椀・皿	
H－2	X149・150 Y109・110	4.24	5.00	44	(18.1)	N－ 99°－E	東壁中央南寄り	粘土・凝灰岩	－	甕	坏	
H－3	X149・150 Y109	[3.04]	(1.07)	46	(7.8)	N－ 88°－E	－		－		椀	
H－4	X151 Y111・112	3.45	3.36	13	13.1	N－ 98°－E	東壁中央南寄り	石・凝灰岩	－	坏	坏	
H－5	X150・151 Y113	3.87	4.12	60	15.6	N－ 63°－E	東壁中央南寄り	粘土	－	坏・甕	台付壺	
H－6	X149・150 Y111・112	3.82	3.64	29	14.3	N－107°－E	東壁東隅寄り	粘土・凝灰岩	－	坏・甕	坏	
H－7	X150・151 Y111・112	[2.5]	[3.6]	51	(13.5)	N－ 57°－E	東壁中央南寄り	粘土・凝灰岩	－	坏・甕・鉢		
H－8	X147 Y109・110	2.60	3.50	27	12.5	N－ 85°－E	東壁中央南寄り	粘土・凝灰岩・瓦	－	坏・甕・小型鉢		
H－9	X151 Y109	(2.14)	(9.60)	41	(5.6)	N－ 80°－E	－		－			
H－10	X146・147 Y109	[3.58]	(9.90)	23	(8.6)	N－ 89°－E	－		－			
H－11	X148・149 Y113・114	3.62	4.32	37	15.0	N－ 84°－E	－	粘土・凝灰岩	－	坏・甕		
H－12	X149・150 Y109・110	[4.88]	[3.76]	50	(18.3)	N－106°－E	東壁中央南寄り		－	甕	坏	
H－13	X147・148 Y111・112	[4.18]	[2.64]	40	[12.4]	N－ 63°－E	－		－	坏・甕		
H－14	X147・148 Y110・111	3.12	3.20	40	12.8	N－ 61°－E	東壁中央南寄り	粘土	－	坏・甕・甑		
H－15	X148・149 Y111・112	[3.72]	[4.40]	60	[16.4]	N－ 62°－E	東壁中央南寄り	粘土・凝灰岩	○	坏・高坏・甕・小型甕	坏・提瓶・小型甕	
H－16	X146・147 Y110・111	[4.22]	[3.00]	37	[13.8]	N－ 54°－E	－		－	壺		
H－17	X150・151 Y112・113	[4.68]	[4.86]	52	[20.0]	N－ 64°－E	－		○	坏・甕		
H－18	X149・150 Y111・112	[3.12]	[4.20]	48	[14.2]	N－110°－E	東壁中央南寄り	粘土・石	－		坏	
H－19	X150・151 Y109・110	[3.60]	[3.96]	79	[13.5]	N－ 82°－E	－		○	坏		
H－20	X150・151 Y114	3.94	3.06	32	(12.6)	N－ 76°－E	－		－			
H－21	X150 Y114	[2.38]	(1.30)	16	(6.3)	N－108°－E	－		－			
H－22	X143 Y114	(1.00)	(0.96)	13	(0.66)	N－105°－E	－		－			
H－23	X137・138 Y110	2.82	(1.70)	34	(4.34)	N－ 87°－E	(南壁)	粘土	－		坏・薬壺	
H－24	X140・141 Y109・110	[3.14]	(2.36)	41	(4.82)	N－ 98°－E	東壁	粘土	－	坏・鉢	蓋・坏	釘・砥石
H－25	X141・142 Y114・115	2.86	(1.14)	11	(2.77)	N－ 87°－E	－		－			
H－26	X138・139 Y110・111	2.19	3.07	25	6.64	N－ 87°－E	東壁南	粘土	－		高台椀・羽釜	
H－27	X137・138 Y110	2.50	(1.66)	20	(3.16)	N－104°－E	－		－			
H－28	X138・139 Y112	2.50	3.08	19	7.02	N－102°－E	東壁中央	粘土・瓦・石	－	坏・羽釜		
H－29	X139・140 Y112	3.08	3.54	46	(7.83)	N－ 76°－E	東壁中央南	粘土・凝灰岩	○	坏	蓋・坏	
H－30	X140～142 Y113・114	5.33	3.82	55	19.20	N－ 80°－E	東壁中央南	粘土・凝灰岩	－	坏・甕		
H－31	X139・140 Y114・115	2.70	(1.54)	21	(3.50)	N－ 84°－E	－		－		高台椀	
H－32	X137・138 Y113・114	4.78	4.66	75	20.60	N－ 57°－E	東壁中央南	粘土	○	坏・甕	坏	砥石
H－33	X137・138 Y113・114	2.98	4.10	67	11.38	N－ 81°－E	東壁中央南	粘土	－	坏・甕	坏・高台椀	鋤先
H－34	X139・140 Y113・114	4.20	3.86	24	15.12	N－ 85°－E	東壁中央南	粘土	－	坏・甕	蓋・壺	刀子
H－35	X136 Y112・113	(1.82)	3.18	28	(4.40)	N－ 86°－E	－		－			
H－36	X140・141 Y111・112	4.32	5.24	57	21.12	N－ 88°－E	東壁中央南	粘土・凝灰岩	－	坏・甕	蓋・坏・小壺	刀子・砥石
H－37	X136 Y112	－	－	－	(0.18)	－	東壁	粘土	－			
H－38	X137・138 Y114・115	(2.66)	(2.42)	30	(4.18)	N－ 52°－E	－		－		蓋	
H－39	X140・141 Y113・114	2.98	3.86	11	10.93	N－100°－E	東壁中央南	粘土・凝灰岩	－		坏・羽釜	

遺構名	位　置	規模（m）			面 積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高（cm）			位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－40	X136 Y113・114	(1.78)	(1.51)	34	(1.93)	N－ 97°－E	(東壁)		－			
H－41	X132・133 Y110	(0.56)	(1.43)	43	(0.55)	－	－		－			
H－42	X139・140 Y111・112	3.42	3.68	33	11.75	N－ 76°－E	東壁南	粘土・凝灰岩	－	坏・甕	坏	刀子
H－43	X138・139 Y113・114	2.70	3.54	20	8.74	N－ 98°－E	東壁南	粘土	－			
H－44	X134～136 Y110・111	4.40	(3.46)	29	(12.47)	N－ 85°－E	東壁	粘土・石	－	坏・甕	蓋・坏	
H－45	X134～136 Y110	4.28	(2.00)	42	(4.89)	N－ 69°－E	－		－		坏	
H－46	X133・134 Y110	[4.62]	[3.99]	17	(8.99)	N－ 62°－E	東壁中央	粘土	○	坏		
H－47	X136・137 Y112・113	(2.48)	3.94	27	(6.80)	N－ 78°－E	東壁中央	粘土	－		羽釜	
H－48	X137 Y112・113	1.92	2.88	31	5.40	N－ 84°－E	東壁中央南	粘土	－		坏	
H－49	X133・134 Y110	(2.68)	(1.00)	31	(1.29)	N－ 83°－E	－		－			
H－50	X133・134 Y110	[4.04]	(2.75)	30	(7.91)	N－ 82°－E	東壁	粘土	－	甕	坏・高台椀	灰釉・砥石
H－51	X142・143 Y113・114	3.02	4.20	39	11.90	N－ 81°－E	東壁南	粘土	－	坏	坏	
H－52	X138～140 Y109・110	3.90	(4.06)	51	(14.68)	N－ 83°－E	東壁	粘土・凝灰岩	－	甕	坏	刀子・釘
H－53	X140・141 Y109・110	[3.44]	(2.70)	50	(5.18)	N－ 80°－E	－		－			緑釉
H－54	X139・140 Y111・112	(2.24)	(2.94)	51	(5.48)	N－ 74°－E	－		－			
H－55	X142・143 Y110・111	3.70	4.29	47	11.31	N－ 92°－E	東壁南	粘土・凝灰岩	－	坏	坏・高台椀	鉄鏃
H－56	X148・149 Y110・111	[4.54]	[3.14]	55	[14.10]	N－ 64°－E	東壁中央	粘土・凝灰岩	－	坏・甕		
H－57	X150Y112	(1.10)	(1.20)	45	(4.70)	N－ 66°－E	－		－			
H－58	X146・147 Y111・112	[3.66]	[2.88]	53	[11.50]	N－ 58°－E	－		－			
H－59	欠番											
H－60	X149Y110	[2.44]	(2.58)	28	(10.30)	N－118°－E	東壁中央	粘土	－		坏	
H－61	X139・140 Y111	[2.50]	3.38	50	(4.55)	N－ 75°－E	－		－			
H－62	X141・142 Y110・111	5.02	3.18	50	14.97	N－ 80°－E	東壁中央南	粘土	－	坏		
H－63	X139・140 Y109・110	(0.70)	(1.16)	45	(0.67)	N－ 84°－E	－		－			
H－64	X143・144 Y111・112	3.70	5.44	34	19.04	N－ 74°－E	東壁南	粘土	－	坏	坏・高台椀	
H－65	X144・145 Y111・112	3.22	3.74	28	(11.22)	N－ 92°－E	東壁南	粘土	－		高台椀・羽釜	
H－66	X147・148 Y112	3.74	2.84	46	[12.7]	N－ 45°－E	東壁中央南	粘土・凝灰岩	－	坏・甕		
H－67	欠番											
H－68	X147・148 Y112	(2.45)	(0.93)	21	(7.10)	N－ 64°－E	－		－	坏		
H－69	X148・149 Y112	3.04	1.46	51	(9.80)	N－102°－E	－		－			
H－70	X147・148 Y112・113	3.50	4.12	47	15.90	N－ 76°－E	東壁中央南寄り	粘土・凝灰岩	○	坏		
H－71	X147 Y112・113	[2.76]	[2.00]	40	(8.50)	N－ 25°－E	－		－			
H－72	X146・147 Y112・113	2.56	3.60	35	12.10	N－ 91°－E	東壁中央南寄り		－		坏・椀	
H－73	X145・146 Y112・113	3.14	3.28	37	(12.40)	N－ 72°－E	東壁中央		－	坏・台付甕		
H－74	X144・145 Y112・113	3.78	3.74	48	13.06	N－ 64°－E	東壁中央南	粘土・凝灰岩	－	坏・甕	坏	窪み石
H－75	X138・139 Y110	(1.07)	(0.82)	42	(0.43)	N－129°－E	－		－			
H－76	欠番											
H－77	X149 Y113	(3.20)	(1.20)	46	(7.60)	N－ 48°－E	－		－			
H－78	X148・149 Y110	(2.93)	(0.50)	30	(6.80)	N－ 68°－E	－		－			
H－79	X145・146 Y111・112	4.18	3.06	45	11.40	N－ 49°－E	－		－	坏		
H－80	X146 Y111	2.60		49	(4.60)	N－ 71°－E	－		－			
H－81	X147・148 Y109	[3.20]	[3.00]	28	(11.60)	N－ 55°－E	東壁南東隅寄り		－	甕		
T－1	X150・151 Y110・111	3.80	2.80	13	12.30	N－100°－E	－		－			
T－2	X149・150 Y111	3.96	3.06	28	12.10	N－ 62°－E	－		－	坏・器台		

Tab. 3 溝跡計測表

遺構名	位　置	長さ（m）	深　さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X142・143 Y109～115	21.3	35.5	19.5	110.0	80.0	45.0	5.0	N－ 4°－W	U字形で東側に平坦部有	As-B降下以降
W－2	X141・142 Y109～115	21.3	6.5	1.0	95.0	20.0	85.0	5.0	N－ 5°－W	U字形	As-B降下以降
W－3	X144・145 Y109～114	21.0	57.0	23.0	84.0	48.0	64.0	18.0	N－ 5°－W	U字型	As-B降下以降
W－4	X136～138 Y114・115	15.4	55.5	27.5	104.0	68.0	48.0	24.0	南西壁よりN－1°－Wで3.8m、N－90°－Eで8.3m、N－0°－Wで3.3m進み南東壁にあたる	U字形	As-B降下以降
W－5	X144・145 Y111・112	(5.93)	(29.00)	23.0	84.0	57.0	50.0	35.0	N－88°－Wで9.8m、N－ 6°－Eで2.95m	U字型	As-B降下以降
W－6	X143 Y111・112	2.9	24.0	10.0	48.0	35.0	32.0	11.0	N－ 1°－W	U字形	As-B降下以降
W－7	X144 Y110・111	3.2	22.0	5.0	47.0	36.0	42.0	12.0	N－ 5°－W	U字型	As-B降下以降
W－8	X144 Y111・112	3.0	16.0	15.0	46.0	34.0	32.0	10.0	N－ 6°－E	U字形	As-B降下以降
W－9	X143 Y112・113	3.3	21.0	13.0	146.0	64.0	126.0	40.0	N－13°－E	U字型	As-B降下以降
W－10	X133 Y109・110	1.2	16.0	9.5	60.0	50.0	44.0	40.0	N－ 7°－E	U字形	As-B降下以降
W－11	X139 Y110	1.2	21.0	13.5	75.0	70.0	65.0	55.0	N－ 3°－E	U字形	As-B降下以降
W－12	X137 Y110～115	1.7 15.9	19.5	5.5	102.0	66.0	66.0	30.0	N－16°－W N－ 4°－W	U字形	古　代
W－13	X136・137 Y111・112	4.2	6.5	4.5	66.0	48.0	48.0	30.0	N－34°－E	U字形	古　代
W－14	X139 Y110～112	11.1	13.0	5.0	75.0	50.0	45.0	30.0	N－ 5°－W	U字形	古　代
W－15	X144・145 Y111	1.0	60.0	36.0	110.0	52.0	48.0	18.0	N－89°－W	U字型	As-B降下以降

Tab. 4 井戸跡・土坑・土坑墓計測表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	出土遺物	備考
I－1	X135・136　Y110	204	164	－	楕円形		As-B降下以降
I－2	X148・149　Y111	301	286		円　形		
I－3	X148・149　Y113	236	226		円　形		
I－4	X146・147　Y113	310	306		円　形		
I－5	X146・147　Y114	[265]	[235]		円　形		
I－6	X140・141　Y110・111	412	378	340.0	楕円形		古代、東へ延びる幅1.2mの傾斜地有。
D－1	X146・147　Y111	80	68	7.0	隅丸方形		
D－2	X145　Y111	210	83	22.0	長円形		
D－3	X147　Y109・110	198	72	14.0	長方形		
D－4	X151　Y113	214	98	15.0	長円形		
D－5	X148・149　Y112	154	96	12.5	隅丸方形		
D－6	X147　Y112						
D－7	X148　Y112	100	98	22.5	隅丸方形		
D－8	X139　Y112	(64)	(58)	50.0	円　形		古　代
D－9	X143　Y113	72	[64]	36.0	円　形		古　代
D－10	X139・140　Y110・111	190	120	61.0	楕円形		古　代
D－11	X142・143　Y114	[102]	[102]	55.0	円　形		古代、覆土に焼土粒・灰が混じる。
D－12	X142　Y114	(77)	76	52.0	円　形		古代、覆土に焼土粒・灰が混じる。
D－13	X151　Y111						
DB－1	X137　Y115	(108)	106	72.0	楕円形		As-B降下以降

Tab. 5 土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－1 床直	須恵器 坏	①－ ②(3.3) ③4.9	①細粒 ②良好 還元焔 ③灰黄 ④1/3	底部～体部：内彎気味にゆるやかに立ち上がる。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り後、外周ナデ。	58	
2	H－1 貯蔵穴	須恵器 坏	①－ ②(2.3) ③－	①細粒 ②良好 還元焔 ③暗灰 ④底部	底部～体部：やや外反して直線的に開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り後、わずかに外周ナデ。内外面黒色処理	111	
3	H－1 覆土	須恵器 椀	①[11.0] ②(5.0) ③6.8	①細粒 ②良好 還元焔 ③灰 ④破片1/4	底部～口縁：丸みをもった下半から直線的に開いて立ち上がる。外面・内面：ロクロ整形。底部：回転糸切り後高台を付し、外周をわずかにナデ。	105	
4	H－1 覆土	須恵器 皿	①13.6 ②2.8 ③6.6	①粗粒 ②良好 還元焔 ③灰白 ④3/4	底部～口縁：やや外反して直線的に開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り後、高台を付し外周ナデ。	2	
5	H－1 竈	土師器 甕	①[20.5] ②(21.5) ③－	①粗粒 ②良好 ③赤褐 ④1/4	口頸部：やや崩れたコの字を呈す。外面：口縁横撫で。胴上部横位篦削り。胴下半斜め方向篦削り。内面：口縁～胴上半横撫で。胴下半横・斜位篦撫で。	57 ほか	
6	H－1 竈	土師器 甕	①[16.6] ②(8.3) ③－	①粗粒 ②良好 ③橙 ④口縁～胴上部1/3	口頸部：崩れたコの字を呈す。外面：口縁横撫で。胴上部横位篦削り。内面：口縁～胴上半横撫で。	37	
7	H－1 覆土	土師器 甕	①16.0 ②(8.2) ③－	①粗粒 ②良好 ③赤橙 ④口～胴上部1/3	口頸部：崩れたコの字を呈す。外面：口頸部横撫で。胴上部横位篦削り。内面：口縁～胴上半横撫で。	26 ほか	
8	H－2 覆土	須恵器 坏	①[13.4] ②4.0 ③8.8	①細粒 ②良好 還元焔 ③灰 ④1/4	底部～口縁：内彎気味に直線的に開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。やや上げ底。	46	
9	H－2 覆土	土師器 甕	①19.4 ②(11.7) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/5	口頸部：崩れたコの字を呈す。外面：口頸部横撫で。胴上部横位篦削り。内面：口縁～胴上半横撫で。	28 ほか	
10	H－3 床直	須恵器 椀	①[16.4] ②6.3 ③[8.5]	①中粒 ②良好 還元焔 ③灰白 ④1/5	緩やかに内彎して体部が立ち上がり、口縁部はごくわずか外反する。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り後、斜面台形の高台を付す。	21	
11	H－4 竈	須恵器 坏	①8.4 ②2.8 ③6.0	①粗粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④3/4	緩やかに内彎する体部から、口縁はわずかに外反する。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	5	
12	H－4 竈	須恵器 坏	①(14.2) ②4.2 ③7.7	①中粒 ② 酸化焔 ③にぶい黄橙 ④3/4	内彎して体部が膨らみ、口縁は外反して開く。内・外面：轆轤整形撫で。回転糸切り後、外周部のみ雑に撫で。	11 ほか	
13	H－5 床直	土師器 坏	①11.0 ②3.4 ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④完形	体部～口縁：丸底の底部から口縁は屈曲して外反気味に直立して立ち上がる。外面：口縁部横撫で。体部 横位・斜位の篦削り。内面：横撫で。	42	
14	H－5 床直	土師器 坏	①10.4 ②3.4 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	体部～口縁：やや尖り気味の丸底の底部から、口縁が屈曲して直線的に立ち上がる。外面：口縁部横撫で。体部横位篦削り。内面：横撫で。	81	
15	H－5 床直	土師器 坏	①10.0 ②3.3 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	体部～口縁：丸底の底部から屈曲して、口縁は直線的に立ち上がる。口縁と体部は短い稜で画される。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：横撫で。	94 ほか	
16	H－5 床直	土師器 坏	①10.4 ②3.3 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④4/5	体部～口縁：丸底の底部から屈曲して、口縁は直線的にやや開く。口縁と体部は稜線で画される。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：撫で。	84	
17	H－5 床直	土師器 坏	①10.6 ②3.3 ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④4/5	体部～口縁：丸底から緩やかに立ち上がり、口縁は直線的にやや開いて立ち上がる。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：横撫で。	87	
18	H－5 床直	土師器 坏	①10.2 ②3.5 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/4	体部～口縁：丸底から緩やかに立ち上がり、口縁は直線的に開く。外面：口縁横撫で。体部横位・斜位篦削り。内面：横撫で。	36 ほか	
19	H－5 床直	土師器 坏	①10.7 ②3.5 ③－	①粗粒 ②良好 ③橙 ④5/6	体部～口縁：丸底気味の底部から緩やかに立ち上がり、口縁は直立して立ち上がる。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：口縁横撫で。体部撫で。	57 ほか	
20	H－5 床直	土師器 坏	①[16.0] ②5.5 ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④1/3	体部～口縁：丸底気味の底部から緩やかに立ち上がり、口縁はやや内彎する。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：横撫で。	76	
21	H－5 床直	土師器 甕	①[18.8] ②(24.6) ③－	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/6	胴部～口縁：胴上部がわずかに膨らみ、口縁は外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴上部斜位、下部縦位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部縦位篦撫で。	54 ほか	
22	H－5 床直	土師器 甕	①[20.8] ②(19.4) ③－	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	胴部～口縁：胴中部がやや膨らみ、口縁は外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴上部斜位、下部縦位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部縦位篦撫で。	10 ほか	
23	H－5 床直	土師器 甕	①[15.8] ②(18.8) ③－	①粗粒 ②良好 ③灰褐 ④1/6	胴部～口縁：胴中部がわずかに膨れ、口縁は外反気味に開く。外面：口頸部横撫で。胴部縦位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部縦位篦撫で。	106 ほか	
24	H－5 床直	土師器 甕	①[12.4] ②(11.7) ③－	①粗粒 ②やや良好 ③灰褐 ④1/8	胴部：球胴気味。口頸部：外反気味に開く。外面：口頸部横撫で。胴上部横位篦削り。内面：口頸部撫で。胴上部横位篦撫で。	105	
25	H－5 覆土	須恵器 台付壺	①－ ②(4.4) ③11.7	①細粒 ②還元焔 良好 ③灰白 ④台部のみ	台部：直線的にハの字上に開く。外面：轆轤整形撫で。内面：底部回転篦削り。台部轆轤整形撫で。	120	
26	H－6 床直	土師器 坏	①[12.8] ②3.8 ③8.5	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	底部～口縁：平底の底部から直線的に開いて立ち上がる。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。底部篦削り。内面：体部横撫で。	38	
27	H－6 床直	須恵器 坏	①－ ②(4.2) ③6.4	①細粒 ②やや良好 酸化焔 ③橙 ④1/3	底部～体部：平底から内彎気味に立ち上がる。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	61	
28	H－6 床直	須恵器 坏	①13.0 ②3.8 ③6.5	①細粒 ②良好 還元焔 ③灰 ④3/4	底部～口縁：平底から外反気味に立ち上がる。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	13	
29	H－6 覆土	須恵器 坏	①[13.4] ②3.6 ③8.2	①細粒 ②良好 還元焔 ③灰白 ④1/2	底部～口縁：平底から内彎して立ち上がり、口縁はわずかに外反して開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	70	
30	H－6 覆土	須恵器 坏	①[16.6] ②4.8 ③11.0	①細粒 ②良好 還元焔 ③灰 ④1/3	底部～口縁：平底から浅めの体部が内彎して立ち上がり、口縁はわずかに外反して開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：撫で。	10 ほか	
31	H－7 床直	土師器 坏	①[12.4] ②4.4 ③－	①細粒 ②良好 ③灰褐 ④3/4	底部～口縁：丸底の底部から緩やかに立ち上がり、口縁は直立する。口縁と体部は稜で画される。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	53 ほか	
32	H－7 覆土	土師器 坏	①14.3 ②4.5 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④4/5	底部～口縁：丸底気味の底部から緩やかに立ち上がり、口縁は直立する。口縁と体部は稜で画される。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	50	
33	H－7 床直	土師器 甕	①[17.0] ②(23.0) ③－	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/5	胴下部がわずかに膨れ、口縁は短く直線的に開く。外面：口頸部横撫で。胴上部縦位篦削り後撫で。胴下部縦位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部篦撫で。	52 ほか	
34	H－7 床直	土師器 壺	①－ ②(18.5) ③－	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/4	胴部：球胴形。頸部：直立して立ち上がる。外面：頸部横撫で。胴部縦位篦削り。内面：頸部横撫で。胴部撫で。	44 ほか	
35	H－7 覆土	土師器 小形鉢	①[12.4] ②(9.2) ③－	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/8	口縁～頸部：短く直線的に開く。胴部：緩やかに内彎する。外面：口頸部横撫で。胴部横位篦削り。内面：撫で。	47	
36	H－8 貯蔵穴	土師器 坏	①[17.8] ②(3.3) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	底部～口縁：平底気味の体部から口縁が直線的に開いて立ち上がる。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	P.5 一括	
37	H－8 貯蔵穴	土師器 小型鉢	①[8.1] ②(3.9) ③－	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/3	胴部～口縁：胴上部で内彎気味に屈曲し、口縁は内屈する。外面：指頭による整形後、口縁は横撫で。内面：指頭による撫で。	P.5 一括	
38	H－8 竈	土師器 甕	①23.6 ②29.3 ③5.5	①中粒 ②良好 ③橙 ④5/6	胴上位に最大径。頸部でくの字状に屈曲し、口縁はやや外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴部縦位篦削り。内面：口縁～胴上部撫で。胴下部篦撫で。	1	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
39	H－8 床直	土師器 甕	①[22.3] ②(10.1)　③－	①粗粒　②良好　③橙 ④1/6	胴部球胴気味。口頸部緩やかに外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴上部横位篦削り。胴部斜位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部篦撫で。	11	
40	H－12 床直	須恵器 坏	①[11.7]　②3.9 ③[8.1]	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④1/4	平底の底部から内彎気味の体部が立ち上がる。内・外面：轆轤整形撫で。底部：篦切り後撫で。	床面一括	
41	H－12 覆土	須恵器 坏	①[14.0]　②4.0 ③[8.6]	①細粒　②やや良好　還元焔　③灰白　④1/5	平底の底部から内彎して体部が立ち上がる。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	2	
42	H－13 覆土	土師器 坏	①[12.7]　②(3.3) ③－	①中粒　②良好　③橙 ④1/4	丸底気味の底部から緩やかに立ち上がり、口縁は短く直立する。外面：口縁部横撫で。体部篦削り。内面：撫で。	2	
43	H－13 覆土	土師器 坏	①[12.8]　②4.5 ③－	①粗粒　②良好　③橙 ④4/5	やや丸底の底部から体部が内彎して立ち上がり、口縁は短く直立する。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：撫で。	11 ほか	
44	H－14 床直	土師器 坏	①11.4　②3.6 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④完形	丸底から体部が緩やかに内彎し、口縁は短く内屈する。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面横撫で。	40	
45	H－14 覆土	土師器 坏	①11.3　②3.5 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④3/4	丸底から緩やかに内彎し、口縁は短く内彎する。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横名で。	36	
46	H－14 床直	土師器 坏	①13.0　②4.6 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④完形	丸底から体部が緩やかに内彎し、口縁は短く内屈する。外面：体部篦削りの後、口縁横撫で。内面：横撫で。	39	
47	H－14 竈	土師器 坏	①[18.0]　②(5.2) ③－	①中粒　②良好　③橙 ④1/6	体部緩やかに内彎し、口縁は短く内屈する。外面：体部篦削りの後、口縁横撫で。内面横撫で。	103	
48	H－14 覆土	土師器 坏	①11.0　②3.5 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④完形	緩やかに内彎する体部から、口縁が直立して立ち上がる。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	72	
49	H－14 床直	土師器 坏	①10.9　②3.5 ③－	①細粒　②良好　③赤橙 ④完形	緩やかに内彎する体部から、口縁が外反気味に直立して立ち上がる。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：横撫で。	73	
50	H－14 覆土	土師器 坏	①11.6　②3.5 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④完形	緩やかに内彎する体部から口縁が短く直立して立ち上がる。外面：体部篦削りの後、口縁横撫で。内面：横撫で。	34	
51	H－14 床直	土師器 坏	①13.0　②3.1 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④完形	丸底から緩やかに体部が立ち上がり、口縁は短く直線的に開く。口縁と体部は稜で画される。外面：体部篦削りの後、口縁横撫で。内面：横撫で。	33	
52	H－14 床直	土師器 坏	①10.4　②3.6 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④5/6	丸底から緩やかに体部が立ち上がり、口縁は直線的に立ち上がる。口縁と体部は稜で画される。外面：体部篦削りの後、口縁横撫で。内面：横撫で。	38	
53	H－14 床直	土師器 坏	①11.4　②3.3 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④完形	浅めの体部から口縁が直立して立ち上がる。口縁と体部は緩やかな稜で隠される。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	87	
54	H－14 床直	土師器 坏	①12.0　②3.5 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④完形	浅めの体部から口縁が外反気味に直立する。口縁と体部は緩やかな稜で隠される。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	85	
55	H－14 覆土	土師器 坏	①[12.8]　②(5.0) ③－	①中粒　②良好　③橙 ④1/5	緩やかな丸底から体部が内彎し、口縁は短く直立する。口縁は体部よりすぼまり、緩やかな稜となる。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：撫で。	84	
56	H－14 床直	土師器 甕	①20.4　②(10.5) ③－	①粗粒　②良好　③にぶい橙　④1/5	胴部：直線的な長胴形。口頸部緩やかに外反して開く。外面：口縁撫で。胴部縦位篦削り。内面：口縁撫で。胴部～頸部縦位篦削りの後撫で。	80 ほか	
57	H－14 床直	土師器 甕	①[21.6]　②(8.5) ③－	①中粒　②良好　③にぶい橙　④口頸部破片	胴上位がやや膨らむ長胴形。口頸部緩やかに外反して開く。外面：胴部縦・斜位篦削りの後、口頸部横撫で。内面：胴上部～口縁横撫で。	89 ほか	
58	H－14 覆土	土師器 甕	①19.2　②(7.3) ③－	①中粒　②良好　③橙 ④1/5	胴部球胴形。口縁は外反気味に開く。外面：口縁横撫で。胴上部横位・斜位篦削り。内面：口縁～胴上部横撫で。	70 ほか	
59	H－14 床直	土師器 甕	①21.5　②(8.7) ③－	①粗粒　②良好　③橙 ④口頸部破片	胴部球胴形。口縁は直線的に開く。外面：口縁横撫で。胴上部横位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴上部斜位篦撫で。	10 ほか	
60	H－14 床直	土師器 甕	①14.4　②(13.5) ③－	①粗粒　②やや良好 ③にぶい橙　④1/3	球胴形の小形甕。口縁は外反気味に開く。外面：口縁横撫で。胴部斜位篦削り。内面：口縁横撫で。胴上部横位篦撫で。胴中部斜位篦撫で。	70 ほか	
61	H－14 床直	土師器 甕	①15.0　②(7.6) ③－	①中粒　②良好　③にぶい橙　④1/4	球胴形の小形甕。頸部区の手情に屈曲して口縁は直線的に開く。外面：口縁横撫で。胴上部横位篦削り。内面：口縁横撫で。胴上部横位篦撫で。	37	
62	H－14 床直	土師器 甕	①[15.0]　②[16.5] ③6.2	①粗粒　②良好　③灰褐 ④1/3	平底の底部から胴部内彎し球胴形を呈す。口縁～頸部は緩やかに外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴部斜位篦削り。内面：横位・斜位篦撫で。	50 ほか	
63	H－14 床直	土師器 甑	①19.5　②13.5 ③4.9	①粗粒　②良好　③赤褐 ④ほぼ完形	緩やかに内彎する胴部から口頸部が外反気味に開く。外面：口頸部横撫で。胴部斜位篦削り。内面：胴上部から口縁横撫で。胴下部篦及び指頭による撫で。	81	
64	H－15 床直	土師器 坏	①12.0　②3.8 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④2/3	丸底気味の底部から。口縁が外反して立ち上がる。体部と口縁は稜で画される。外面：口頸部横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	105	
65	H－15 床直	土師器 坏	①12.4　②5.0 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④3/4	丸底の底部から。口縁が内屈して直線的に立ち上がる。体部と口縁は稜で画される。外面：口頸部横撫で。体部篦削り。内面：撫で。	101 ほか	
66	H－15 西張出部	土師器 坏	①13.0　②4.4 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④ほぼ完形	丸底の浅めの体部から口縁が外反気味に開く。口縁と体部の境は稜をなす。外面：口頸部横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	127	
67	H－15 覆土	土師器 坏	①12.5　②3.3 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④ほぼ完形	浅い丸底気味の体部から口縁が直線的に開く。口縁と体部は弱い稜で画される。外面：口頸部横撫で。体部篦削りの後撫で。内面：横撫で。	107	
68	H－15 床直	須恵器 坏	①－　②(3.7) ③5.9	①細粒　②良好　還元焔 ③にぶい黄橙　④2/3	やや厚手の体部で口縁は内屈する。外面：口縁横撫で。体部指頭による整形。底部：木葉痕。内面：横撫で。	77 ほか	
69	H－15 床直	土師器 高坏	①13.2　②7.0 ③8.5	①細粒　②良好　③橙 ④口縁一部欠損	稜を有す浅めの坏部。口縁は外反して開く。脚部外反して開く。外面：口縁横撫で。体部篦削り。脚部縦位篦撫で。脚部裾横撫で。内面：撫で。	64 ほか	
70	H－15 覆土	土師器 高坏	①－　②(7.0) ③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/5	坏部は緩やかに内彎し、脚部はの字上に開く。外面坏部横位篦磨き。脚部縦位篦磨き。内面：撫で。	82	
71	H－15 床直	土師器 甕	①20.5　②(27.1) ③－	①中粒　②良好　③橙 ④1/3	胴張りのない長胴形。頸部は緩やかに外反する。外面：口頸部横撫で。胴部縦位篦削り。内面口縁撫で。頸部横位篦撫で。胴部縦位篦撫で。	4 ほか	
72	H－15 竈	土師器 甕	①20.0　②(10.0) ③－	①粗粒　②良好　③にぶい橙　④1/4	胴上部がやや膨らむ長胴形。頸部強く外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴部縦位篦削り。内面：口縁撫で。頸部～胴上部横位篦撫で。	139	
73	H－15 覆土	土師器 甕	①17.8　②(27.0) ③－	①粗粒　②良好　③にぶい橙　④4/5	胴張りのない長胴形。頸部緩やかに外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴上部縦位篦削り。胴下部斜位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部縦位篦撫で。	38 ほか	
74	H－15 西張出部	土師器 甕	①[24.4]　②33.0 ③6.7	①中粒　②やや良好 ③明赤褐　④5/6	緩やかに湾曲する球胴形。頸部緩やかに外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴部斜位篦削り。内面口頸部横撫で。胴部横位・斜位撫で。	19 ほか	
75	H－15 西張出部	土師器 甕	①21.2　②(16.5) ③－	①中粒　②やや良好　③黄橙　④3/1	胴中位が膨らむ球胴形。頸部緩やかに外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴部縦位篦削りの後撫で。内面：口縁横撫で。頸部～胴部横位篦撫で。	144 ほか	
76	H－15 覆土	土師器 小型甕	①16.0　②(18.8) ③[5.8]	①粗粒　②良好　③橙 ④4/5	緩やかに湾曲する球胴形。頸部わずかに外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴部縦位篦削り後撫で。内面：口縁横撫で。頸部～胴上部横位篦撫で。	15 ほか	
77	H－15 竈	須恵器 小型甕	①14.8　②18.1 ③－	①中粒　②良好　参加焔 ③にぶい橙　④4/5	胴上半と口縁内面に櫛描き波状文と刺突文。口唇上に櫛歯刺突。外面：口縁横撫で。胴部平行線叩き目を撫で。内面：同心円当て具痕を横位篦撫で調整。	141 ほか	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
78	H－15 貯蔵穴	土師器 台付甕	①－　②(4.6) ③－	①中粒　②良好　③にぶい赤褐　④台部のみ	台部緩やかに外反して開く。外面：台部縦位篦削り後撫で。台部裾横撫で。内面：台部横撫で。	110 ほか	
79	H－15 覆土	土師器 小型鉢	①[14.0]　②(7.3) ③－	①粗粒　②やや良好 ③にぶい橙　④1/3	丸底から緩やかに内彎して立ち上がる。外面：篦削り後撫で。内面：横位篦撫で。	117 ほか	
80	H－15 床直	須恵器 提瓶	幅21.7　高28.5 厚16.3　口径(9.2)	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④吊手欠損	表面が膨れ上がり、やや身の厚い器形。外面：口頸部撫で。胴部同心円の篦撫で。内面：口頸部横撫で。	121	
81	H－15 床直	須恵器 短頸壺	①9.2　②7.0 ③6.4　幅13.0	①細粒　②良好　還元焔 ③褐灰　④ほぼ完形	肩部がやや丸みを持って張る。口縁は短く直立する。外面：撫で。内面：口縁～胴部横撫で。底部指頭による撫で。底部：篦おこし	109	
82	H－16 覆土	土師器 壺	①11.0　②(6.5) ③－	①細粒　②良好　③赤 ④1/5	胴上部が丸みを持って膨らみ、口頸部やや外反して立ち上がる。外面：口頸部横撫で。凹線で輪積み痕の描出か。胴部横位篦削り後撫で。内面：横位撫で。	7	
83	H－17 床直	土師器	①[16.0]　②(5.6) ③－	①細粒　②良好　③赤 ④1/6	体部緩やかに湾曲し口縁は短く内屈する。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面横撫で。	30	
84	H－17 床直	土師器 甕	①[16.0]　②(7.5) ③－	①粗粒　②やや良好 ③橙　④口頸部破片	球胴形の胴部から頸部くの字に外反し直線的に立ち上がる。外面：口縁横撫で。胴上部横位・斜位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴上部横位篦撫で。	33	
85	H－18 床直	須恵器 坏	①12.3　②3.3 ③6.8	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④5/6	上げ底気味の底部から体部が直線的に開いて立ち上がる。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	18 ほか	
86	H－18 貯蔵穴	須恵器 坏	①12.4　②3.5 ③6.5	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④5/6	上げ底気味の底部から体部下半が内彎し、直線的に開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	78	
87	H－18 貯蔵穴	須恵器 坏	①13.5　②3.5 ③6.8	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④完形	平底から浅めの体部が直線的に開いて立ち上がる。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り外周篦削り。	80	
88	H－18 P8	須恵器 坏	①13.4　②3.8 ③8.0	①細粒　②良好　還元焔 ③灰白　④完形	平底から浅めの体部が直線的に開いて立ち上がる。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り後篦削り及び撫で。	71	
89	H－18 覆土	須恵器 坏	①12.7　②3.4 ③7.0	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④3/4	平底からやや内彎して立ち上がり、口縁は外反気味に開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	70	
90	H－18 覆土	須恵器 坏	①13.8　②3.6 ③8.2	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④3/4	平底から浅めの体部がやや内彎して立ち上がり、口縁わずかに外反する。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。	15 ほか	
91	H－19 覆土	土師器 坏	①10.6　②3.8 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④完形	丸底から緩やかに内彎し、口縁はわずかに内屈する。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：横撫で。	10	
92	H－19 床直	土師器 坏	①14.0　②3.2 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/2	浅めの丸底から緩やかに内彎し、口縁は短く内屈する。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：撫で。	42 ほか	
93	H－19 貯蔵穴	土師器 坏	①14.0　②4.3 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④口縁一部欠損	浅めの丸底から緩やかに内彎し、口縁は短く内屈する。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：撫で。	P5 一括	
94	H－19 覆土	土師器 坏	①15.3　②5.4 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④3/4	大きめの体部が緩やかに内彎し、口縁は短く内屈する。外面：口縁横撫で。体部横位・斜位篦削り。内面：撫で。	59	
95	H－23 床直	須恵器 坏	①[13.4]　②3.8 ③[7.5]	①細粒　②良好　③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り、外周回転篦削り。	5	
96	H－23 床直	須恵器 高台椀	①－　②(2.4) ③[9.9]	①細粒　②良好　③灰 ④破片	轆轤整形。口縁・体部：欠損。底部：内面撫で、外面回転篦削り、削り出し高台。	7	
97	H－23 床直	須恵器 蓋壺	①[13.4]　②(2.4) ③－	①細粒　②良好　③灰 ④蓋のみ1/2	轆轤整形。天井部：ほぼ水平、内・外面撫で。外周部に粘土を貼付し中央部を押圧し両端を隆起させる。摘み：環状摘み。	9	上野型特殊有蓋短頸壺
98	H－24 覆土	土師器 坏	①[12.4]　②(3.3) ③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/3	口縁・体部：やや外傾、内・外面横撫で。底部：平底気味、内面撫で、外面篦削り。	3	
99	H－24 覆土	須恵器 蓋	①[13.6]　②3.5 ③－	①細粒　②良好　③灰 ④1/3	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、内・外面撫で、返り無。摘み：小さめなボタン状摘み。	1	
100	H－24 床直	須恵器 坏	①10.5　②4.1 ③6.0	①細粒　②良好　③暗灰 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し、外周撫で。	122 ほか	
101	H－24 覆土	土師器 鉢	①[21.7]　②9.6 ③10.6	①細粒　②良好　③橙 ④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。体部：緩やかに丸みをもって外傾し口縁に至る。底部：平底気味、内面撫で、外面篦削り。	115 ほか	
102	H－26 床直	須恵器 高台椀	①13.2　②4.7 ③6.0	①細粒　②良好　③橙 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	54	酸化焔
103	H－26 床直	須恵器 高台椀	①14.3　②5.8 ③7.6	①細粒　②良好　③灰 ④5/6	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反し肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後やや長めの付け高台。	40	酸化焔 内面煤付着
104	H－26 床直	羽釜	①[19.6] ②(15.5)　③－	①細粒　②良好　③にぶい黄橙 ④口縁破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面撫で。鍔部：断面三角形でやや上向きに付く。	50 ほか	酸化焔
105	H－28 竈内	須恵器 坏	①13.2　②4.4 ③6.1	①細粒　②良好　③にぶい褐　④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反し肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	41	酸化焔
106	H－28 床直	須恵器 坏	①[13.0]　②4.1 ③[5.6]	①細粒　②良好　③にぶい黄橙 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反し肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	43	酸化焔
107	H－28 竈内	須恵器 高台椀	①[13.2]　②4.6 ③[6.4]	①細粒　②良好　③にぶい黄橙 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	60	酸化焔
108	H－28 床直	須恵器 高台椀	①[13.1]　②4.7 ③6.2	①細粒　②良好　③灰 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	21 ほか	
109	H－28 覆土	須恵器 高台椀	①[12.1]　②4.3 ③6.9	①細粒　②良好　③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	37 ほか	
110	H－28 床直	羽釜	①－　②(5.1) ③－	①細粒　②良好　③オリーブ黒　④口縁破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。	30	酸化焔
111	H－29 床直	土師器 坏	①[12.5]　②3.0 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底気味、内面撫で、外面篦削り。	23 ほか	
112	H－29 床直	須恵器 蓋	①[17.2]　②3.6 ③－	①細粒　②良好　③灰 ④1/3	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、内・外面撫で、返り無。摘み：大きめな環状摘み。	3	
113	H－29 竈内	須恵器 坏	①[13.4]　②4.2 ③[9.2]	①細粒　②良好　③灰 ④1/6	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り。	41 ほか	
114	H－30 覆土	土師器 坏	①11.4　②3.3 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④2/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底気味、内面撫で、外面篦削り。	81 ほか	
115	H－30 床直	土師器 坏	①[18.3]　②3.6 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/4	口縁部：大きく外傾、内・外面横撫で。底部：浅い丸底気味、内面撫で、外面篦削り。	102 ほか	
116	H－30 床直	須恵器 盤か	①－　②(4.1) ③13.8	①細粒　②良好　③灰白 ④底部のみ	轆轤整形。底部：内面撫で、外面回転篦調整後付け高台。	108 ほか	
117	H－30 竈内	土師器 甕	①[24.0] ②(28.8)　③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/3	口縁部：大きく外傾、内・外面横撫で。胴部：僅かに膨らみ、内面撫で、外面斜め篦削り。	60 ほか	
118	H－31 床直	須恵器 高台椀	①－　②(3.3) ③[7.3]	①細粒　②良好　③青灰 ④底部破片	轆轤整形。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	3	
119	H－32 床直	土師器 坏	①[13.0]　②(4.1) ③－	①細粒　②良好　③にぶい橙　④1/3	口縁部：外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：やや深い丸底、内面撫で、外面篦削り。	38 ほか	
120	H－32 覆土	須恵器 坏	①[13.4]　②2.6 ③[10.0]	①細粒　②良好　③灰 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面手持ち篦削り。	21	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
121	H－32 床直	土師器 甕	①－　②(4.2) ③7.8	①細粒　②良好　③にぶい黄橙　④底部破片	底部:内面撫で、外面篦削り。(胴部は球状になると考えられる。)	30	
122	H－33 竈内	土師器 坏	①[14.0]　②(3.3) ③－	①細粒　②良好　③橙 ④破片	口縁部：大きく外傾、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。		
123	H－33 床直	須恵器 坏	①[12.2]　②4.0 ③[7.6]	①細粒　②良好　③灰白 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り。	32	
124	H－33 覆土	須恵器 高台椀	①－　②(4.1) ③11.4	①細粒　②良好　③灰白 ④底部	轆轤整形。底部：内面撫で、外面回転篦調整後付け高台。	31	
125	H－33 竈内	土師器 甕	①[22.2] ②(14.0)　③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/5	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：僅かに膨らみ、内面撫で、外面斜め篦削り。	80 ほか	
126	H－33 貯蔵穴	土師器 甕	①22.2　②29.0 ③5.6	①細粒　②良好　③橙 ④ほぼ完形	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：中位やや上で膨らみ、内面撫で、外面斜め篦削り。底部：平底。	H-32-43	外面煤・粘土付着
127	H－34 床直	土師器 坏	①13.8　②3.9 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④3/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	2 ほか	
128	H－34 覆土	土師器 坏	①[13.2]　②(4.2) ③[7.0]	①細粒　②良好　③橙 ④1/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。		
129	H－34 覆土	土師器 坏	①[12.2]　②4.0 ③[7.6]	①細粒　②良好　③にぶい黄橙　④底部破片	口縁・体部：外傾、口縁端部内・外面横撫で、内面暗文有、外面篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。		暗文
130	H－34 床直	須恵器 蓋	①[15.1]　②2.3 ③－	①細粒　②良好　③灰白 ④4/5	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、水平部外面篦削り、端部外面撫で、内面撫で、返り無。摘み：直径4.6cmの環状摘み。	1	
131	H－34 床直	須恵器 壺	①－　②(2.5) ③[11.5]	①細粒　②良好　③灰 ④底部破片	轆轤整形。底部：内面撫で、外面撫で後接地部で強く上方へ屈曲する高台付き。	95	
132	H－34 床直	土師器 甕	①[21.6] ②(12.0)　③－	①細粒　②良好　③明赤褐　④口縁破片	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：僅かに膨らみ、内面撫で、外面斜め篦削り。	190 ほか	
133	H－36 床直	土師器 坏	①13.8　②4.8 ③9.7	①細粒　②良好　③にぶい橙　④完形	口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	217	
134	H－36 床直	土師器 坏	①12.8　②3.9 ③8.0	①細粒　②良好　③にぶい橙　④4/5	口縁・体部：外傾、口縁部内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	269 ほか	
135	H－36 床直	須恵器 蓋	①13.4　②3.5 ③－	①細粒　②良好　③灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、水平部外面篦削り、端部外面撫で、内面撫で、返り無。摘み：小さめな環状摘み。	108	
136	H－36 床直	須恵器 蓋	①[14.3]　②3.1 ③－	①細粒　②良好　③灰 ④3/4	轆轤整形。天井部：緩やかに傾斜、上部外面篦削り、端部外面撫で、内面撫で、返り無。摘み：環状摘み。	85 ほか	
137	H－36 覆土	須恵器 蓋	①[13.0]　②3.0 ③－	①細粒　②良好　③灰白 ④1/4	轆轤整形。天井部：緩やかに傾斜、上部外面篦削り、端部外面撫で、内面撫で、返り無。摘み：小さめな環状摘み。	23	
138	H－36 覆土	須恵器 蓋	①[15.5]　②(2.7) ③－	①細粒　②良好　③にぶい橙　④1/3	轆轤整形。天井部：緩やかに傾斜、上部外面篦削り、端部外面撫で、内面篦磨き、返り無。	250 ほか	内黒
139	H－36 床直	須恵器 坏	①9.2　②4.0 ③5.8	①細粒　②良好　③灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し。	142 ほか	
140	H－36 覆土	須恵器 坏	①12.0　②3.9 ③7.6	①細粒　②良好　③青灰 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し・篦削り。	158	
141	H－36 床直	須恵器 坏	①11.9　②3.5 ③7.7	①細粒　②良好　③青灰 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し・篦削り。	137	
142	H－36 覆土	須恵器 坏	①11.8　②2.8 ③8.2	①細粒　②良好　③灰 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し・篦削り。	169	
143	H－36 覆土	須恵器 坏	①[12.5]　②3.6 ③7.8	①細粒　②良好　③灰白 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し・篦削り。	26	
144	H－36 覆土	須恵器 坏	①[12.1]　②3.5 ③7.9	①細粒　②良好　③灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り。	37 ほか	底部外面線刻有
145	H－36 床直	須恵器 坏	①[13.9]　②3.4 ③7.8	①細粒　②良好　③灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し・篦削り。	149 ほか	
146	H－36 覆土	須恵器 坏	①11.6　②3.7 ③6.8	①細粒　②良好　③灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	7 ほか	
147	H－36 床直	須恵器 坏	①[12.1]　②3.4 ③6.6	①細粒　②良好　③灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	174	
148	H－36 覆土	須恵器 坏	①[12.6]　②3.8 ③[7.2]	①細粒　②良好　③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	2	
149	H－36 竈内	須恵器 高台椀	①－　②(4.1) ③8.6	①細粒　②良好　③灰 ④底部	轆轤整形。底部：内面撫で、外面回転篦調整後付け高台。	215	
150	H－36 覆土	須恵器 小壺	①[8.5]　②6.5 ③6.4	①細粒　②良好　③オリーブ灰　④4/5	轆轤整形。口縁部：短く外傾、内・外面撫で。体部：肩部がやや強く張り、内・外面撫で。底部:内面撫で、外面回転篦起し・篦削り。	251	
151	H－36 床直	土師器 甕	①[20.4]　②(6.3) ③－	①細粒　②良好　③橙 ④口縁破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で、外面斜め篦削り。	107	
152	H－38 覆土	須恵器 蓋	①[14.2]　②(2.8) ③－	①細粒　②良好　③灰 ④2/3	轆轤整形。天井部：緩やかに傾斜、上部外面篦削り、端部外面撫で、内面撫で、返り無。摘み：小さめな環状摘み。		
153	H－39 床直	須恵器 坏	①10.8　②2.9 ③6.1	①細粒　②良好　③浅黄橙　④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面静止糸切り。	11	小形酸化焔
154	H－39 床直	須恵器 高台椀	①[11.4]　②4.6 ③[6.5]	①細粒　②良好　③にぶい黄橙　④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	37 ほか	小形酸化焔
155	H－39 竈内	羽釜	①[19.1]　②(9.0) ③－	①細粒　②良好　③にぶい褐　④口縁破片	轆轤整形。口縁部：僅かに内傾、内・外面撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。		酸化焔
156	H－42 床直	土師器 坏	①[12.8]　②4.2 ③7.7	①細粒　②良好　③橙 ④3/4	口縁・体部：外傾、口縁部内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	67 ほか	
157	H－42 竈内	土師器 坏	①[13.2]　②4.1 ③8.1	①細粒　②良好　③にぶい黄橙　④1/2	口縁・体部：大きく外傾、口縁部内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	77 ほか	
158	H－42 床直	須恵器 坏	①12.2　②3.7 ③7.1	①細粒　②良好　③暗青灰　④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	52 ほか	
159	H－42 床直	須恵器 坏	①[12.2]　②3.7 ③[7.8]	①細粒　②良好　③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	128 ほか	
160	H－42 竈内	土師器 甕	①20.4　②27.0 ③4.6	①細粒　②良好　③橙 ④ほぼ完形	口縁部：弱い「コ」の字状口縁、内・外面横撫で。胴部：上位でやや膨らみ、内面撫で、外面篦削り。底部：平底。	148 ほか	外面粘土付着

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
161	H－44 竈内	土師器 坏	①13.4 ②4.7 ③8.9	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁・体部：外傾、口縁部内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	54	
162	H－44 竈内	須恵器 蓋	①16.2 ②3.6 ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④完形	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、水平部外面篦削り、端部外面撫で、内面撫で、返り無。摘み：小さめなボタン状摘み。	55	
163	H－44 覆土	須恵器 蓋	①[15.6] ②3.7 ③－	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、水平部外面篦削り、端部外面撫で、内面撫で、返り無。摘み：環状状摘み。	5	
164	H－44 覆土	須恵器 坏	①13.2 ②3.6 ③8.0	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。		
165	H－44 床直	須恵器 坏	①[12.5] ②(3.1) ③[7.0]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	51 ほか	
166	H－44 床直	須恵器 坏	①[13.5] ②3.1 ③[7.4]	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部僅かに外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	H－45－2	
167	H－44 竈内	土師器 甕	①[20.6] ②(13.9) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④破片	口縁部：弱い「コ」の字状口縁、内・外面横撫で。胴部：内面撫で、外面斜め篦削り。	56	
168	H－45 床直	須恵器 坏	①12.8 ②4.0 ③7.8	①細粒 ②良好 ③緑灰 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り、回転篦削り。	1 ほか	
169	H－46 覆土	土師器 坏	①[11.8] ②3.5 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	H－50－37	底部内面線刻有
170	H－47 竈内	羽釜	①[21.2] ②(4.8) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④口縁破片	轆轤整形。口縁部：僅かに内傾、内・外面撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。	9 ほか	酸化焔
171	H－48 床直	須恵器 坏	①[12.0] ②3.2 ③[8.0]	①細粒 ②良好 ③灰 ④2/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面手持ち篦削り。	36	
172	H－50 貯蔵穴	須恵器 坏	①12.8 ②4.0 ③6.0	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部僅かに外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	P5	酸化焔
173	H－50 貯蔵穴	須恵器 高台椀	①14.4 ②5.5 ③6.7	①細粒 ②良好 ③灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	P5	
174	H－50 覆土	須恵器 高台椀	①[13.4] ②5.3 ③5.5	①細粒 ②良好 ③灰 ④5/6	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	15 ほか	
175	H－50 床直	須恵器 高台椀	①[13.9] ②5.4 ③[7.0]	①細粒 ②良好 ③灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部僅かに外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	39	
176	H－50 床直	須恵器 高台椀	①[15.4] ②5.7 ③[8.6]	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口唇部僅かに肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	44	酸化焔
177	H－50 覆土	須恵器 高台椀	①[14.4] ②5.0 ③[6.2]	①細粒 ②良好 ③浅黄 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部僅かに外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。		酸化焔
178	H－50 床直	灰　釉 高台椀	①[14.0] ②4.2 ③7.0	①微粒 ②良好 ③オリーブ灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：腰部の張りは無く大きく外傾、内・外面撫で。底部：内・外面撫で。高台部：稜の無くなった崩れた三日月高台。釉薬は漬けがけ。	16	内面煤付着
179	H－50床直	土師器 甕	①[20.8] ②(5.9) ③－	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④口縁破片	口縁部：肉厚の「コ」の字状口縁、内・外面横撫で。	43	
180	H－51竈内	土師器 坏	①13.0 ②3.2 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底気味、内面撫で、外面篦削り。		
181	H－51 床直	須恵器 坏	①[13.4] ②4.4 ③8.2	①細粒 ②良好 ③暗灰 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	13 ほか	いぶし焼成か
182	H－52 覆土	須恵器 坏	①[13.3] ②3.7 ③7.1	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	33 ほか	
183	H－52 竈内	土師器 甕	①[17.3] ②(18.3) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④口縁破片	口縁部：「コ」の字状口縁、内・外面横撫で。胴部：上位でやや膨らみ、内面撫で、外面斜め篦削り。	357 ほか	
184	H－53 覆土	緑　釉	①－ ②－ ③－	①微粒 ②良好 ③明オリーブ灰 ④破片	皿か。		
185	H－55 床直	土師器 坏	①[13.2] ②3.3 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底気味、内面撫で、外面篦削り。	26 ほか	
186	H－55 床直	土師器 坏	①15.0 ②3.3 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁部：大きく外傾、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	31 ほか	
187	H－55 覆土	須恵器 坏	①11.2 ②4.0 ③7.4	①細粒 ②良好 ③灰 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し・篦削り。	35	内面煤付着
188	H－55 覆土	須恵器 坏	①[14.7] ②3.6 ③10.5	①細粒 ②良好 ③灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し・篦削り。	61	
189	H－55 床直	須恵器 高台椀	①16.2 ②4.3 ③[12.1]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦起し後付け高台。	53	
190	H－56 床直	土師器 坏	①11.6 ②3.9 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④体部一部欠損	丸底気味の体部から口縁が外反して直線的に立ち上がる。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：撫で。	43 ほか	
191	H－56 床直	土師器 坏	①12.4 ②4.5 ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	丸底気味の体部から口縁が直線的に開いて立ち上がる。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。外面:口縁横撫で。体部篦削り。内面:撫で。	25	
192	H－56 覆土	土師器 坏	①[12.2] ②4.5 ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④1/3	丸底気味の体部から口縁が直線的に開く。口唇わずかに外反する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：撫で。	3 ほか	
193	H－56 床直	土師器 甕	①19.8 ②38.5 ③4.6	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④3/4	胴張りのない長胴形。頸部強く外反して短く開く。外面：口頸部横撫で。胴部縦位篦削り。内面：口縁横撫で。頸部～胴部斜位篦撫で。	10 ほか	
194	H－56 床直	土師器 甕	①20.0 ②35.0 ③3.6	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④3/5	胴張りのない長胴形。頸部緩やかに外反する。外面：口頸部横撫で。胴上部縦位篦削り。胴下部縦位・斜位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部縦位篦撫で。	14 ほか	
195	H－56 床直	土師器 甕	①23.6 ②33.0 ③4.0 幅31.4	①粗粒 ②良好 ③橙 ④3/5	球胴形。頸部緩やかに外反して開く。外面：口頸部横撫で。胴上部横位篦削り。胴中・下部斜位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部指頭による撫で。	1 ほか	
196	H－62 床直	土師器 坏	①12.8 ②4.0 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	75	
197	H－62 竈内	土師器 坏	①[12.3] ②3.9 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④3/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	58	
198	H－62 床直	土師器 坏	①13.3 ②4.1 ③8.2	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④完形	口縁・体部：外傾、口縁端部内・外面横撫で、内面暗文有、外面篦削り。底部：平底気味、内面撫で、外面篦削り。	60 ほか	暗文
199	H－62 床直	須恵器	①－ ②(3.4) ③7.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④台部のみ	轆轤整形。台部：「ハ」の字状に開き、内・外面撫で。長径2.5cmの楕円形状の切り取り痕有。	82	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
200	H－64 床直	土師器 坏	①11.8　②3.6 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	54	
201	H－64 竈内	土師器 坏	①[15.7]　②4.1 ③－	①細粒　②良好　③にぶい橙　④1/3	口縁部：大きく外傾、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。内面黒色味を帯びる。		
202	H－64 床直	須恵器 坏	①15.1　②3.6 ③8.8	①細粒　②良好　③灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り。	34	
203	H－64 覆土	須恵器 高台椀	①[16.4]　②4.8 ③[11.8]	①細粒　②良好　③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り後付け高台。	113	
204	H－65 竈内	須恵器 高台椀	①[13.4]　②5.0 ③[5.3]	①細粒　②良好　③灰 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口唇部僅かに肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	21 ほか	酸化焔
205	H－65 竈内	羽釜	①[18.2] ②(14.7)　③－	①細粒　②良好　③灰黄 ④口縁破片	轆轤整形。口縁部：僅かに内傾、内・外面撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。	32	
206	H－66 床直	土師器 坏	①12.0　②(5.2) ③－	①中粒　②良好　③橙 ④3/5	丸底の体部から口縁が内屈して立ち上がる。外面：口縁横撫で。体部篦削りの後撫で。内面横撫で。	17 ほか	
207	H－66 床直	土師器 坏	①13.0　②(4.6) ③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/2	やや浅い丸底の体部から口縁が直立して立ち上がる。口縁と体部の境は弱い稜となる。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	55	
208	H－66 床直	土師器 甕	①21.0 ②(33.0)　③－	①粗粒　②良好　③橙 ④1/3	胴張りのない長胴形。頸部緩やかに外反する。外面：口頸部横撫で。胴部縦位篦削り。内面：口頸部横撫で。胴部縦位・横位撫で。	45	
209	H－66 床直	土師器 甕	①[21.0] ②(17.5)　③－	①中粒　②良好　③にぶい橙　④1/4	胴部緩やかに内彎し、胴上位が張る。口頸部は緩やかに外反する。外面：口頸部横撫で。胴部斜位篦削り後、横位撫削り。内面：口頸部横撫で。胴部撫で。	1 ほか	
210	H－66 床直	土師器 小型甕	①11.8　②14.0 ③6.6 幅12.3	①粗粒　②やや良好 ③にぶい橙　④完形	胴部内彎気味で頸部でわずかに外反する。外面：口頸部横撫で。胴部斜位篦削り・内面：口縁～胴上部横撫で。胴部粗目による篦撫で。	51	
211	H－68 床直	土師器 坏	①12.6　②4.3 ③－	①細粒　②良好　③にぶい橙　④5/6	丸底の体部から口縁が外反して直線的に開く。口縁と体部は稜で画される。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：横撫で。	3	
212	H－70 床直	土師器 坏	①[9.8]　②4.0 ③－	①中粒　②良好　③橙 ④1/4	丸底気味の体部から緩やかに内彎して口縁に至る。外面：口縁横撫で。体部横位篦削り。内面：横撫で。	13	
213	H－72 貯蔵穴	須恵器 坏	①[12.8]　②4.4 ③[5.5]	①細粒　②やや良好　酸化焔　③橙　④1/4	平底から体部が緩やかに内彎し、口縁は外反して開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り。外周部撫で。	20 ほか	
214	H－72 床直	須恵器 椀	①[14.6]　②5.2 ③[6.8]	①細粒　②良好　還元 ③にぶい黄橙　④2/3	体部は直線的に開き、口縁はわずかに外反する。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。断面台形の高台を付す。	2 ほか	
215	H－72 床直	須恵器 椀	①[15.0]　②4.6 ③[6.7]	①細粒　②良好　還元 ③にぶい黄橙　④1/3	わずかに内彎する体部から口縁が外反気味に開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り後、断面台形の高台を付し、周囲を撫で。	14 ほか	
216	H－72 竈	須恵器 椀	①14.4　②5.1 ③6.5	①細粒　②良好　還元 ③にぶい黄橙　④2/3	緩やかに内彎する体部から口縁強く外反して開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り未調整。断面台形の高台を雑に付す。	竈一括	
217	H－72 竈	須恵器 椀	①[13.6]　②5.1 ③6.5	①細粒　②良好　還元 ③灰白　④1/3	内彎気味の体部から口縁が外反して開く。内・外面：轆轤整形撫で。底部：回転糸切り後、断面台形の低い高台を付し、周辺部撫で。	竈一括	
218	H－73 覆土	土師器 坏	①[13.0]　②3.0 ③－	①粗粒　②やや良好 ③明褐　④1/2	平底気味の浅い体部から緩やかに湾曲して口縁は直立する。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：口縁横撫で。体部撫で。	7 ほか	
219	H－73 覆土	土師器 坏	①[16.0]　②(4.7) ③－	①粗粒　②良好　③橙 ④2/5	平底気味の浅い体部から緩やかに立ち上がり、口縁は直立する。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：撫で。	19 ほか	
220	H－73 覆土	小型台付 甕	①－　②(9.0) ③10.0　幅[14.2]	①粗粒　②良好　③にぶい赤褐　④1/5	内彎する球胴形。台部は外反して開く。外面：胴部横位・斜位篦削り。台部横撫で。内面：撫で。	5 ほか	
221	H－74 床直	土師器 坏	①11.9　②4.4 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④完形	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	415	
222	H－74 覆土	土師器 坏	①11.8　②4.8 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④完形	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	40	
223	H－74 床直	土師器 坏	①12.3　②4.1 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④完形	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	222	内面煤付着
224	H－74 床直	土師器 坏	①12.2　②4.3 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④ほぼ完形	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	300 ほか	
225	H－74 床直	土師器 坏	①11.8　②4.3 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④ほぼ完形	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	416 ほか	
226	H－74 覆土	土師器 坏	①[11.4]　②4.5 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/2	口縁部：直立から口縁端部僅かに外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	274	
227	H－74 覆土	土師器 坏	①11.6　②4.5 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④3/4	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	144	
228	H－74 覆土	土師器 坏	①11.6　②3.6 ③－	①細粒　②良好　③橙 ④3/5	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	158 ほか	
229	H－74 覆土	土師器 坏	①[12.3]　②4.4 ③－	①細粒　②良好　③にぶい赤褐　④1/2	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で、外面に調整による段有。交換点に弱い稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	225	
230	H－74 床直	土師器 坏	①13.4　②4.5 ③－	①細粒　②良好　③にぶい黄橙　④2/3	口縁部：僅かに外傾、内・外面横撫で、外面に調整による段有。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	417	
231	H－74 床直	土師器 坏	①[17.4]　②7.6 ③－	①細粒　②良好　③にぶい赤褐　④1/2	口縁部：僅かに内傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：深い丸底、内面撫で、外面篦削り。	389 ほか	
232	H－74 覆土	土師器 坏	①[10.9]　②(7.6) ③－	①細粒　②良好　③明赤褐　④1/3	口縁部：長く内傾、内・外面横撫で、外面に調整による段２つ有。交換点に稜有。底部：深い丸底、内面撫で、外面篦削り。	164 ほか	
233	H－74 覆土	須恵器 坏	①11.2　②3.6 ③－	①細粒　②良好　③青灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：短く直立、内・外面撫で。底部：丸底気味、内面撫で、外面回転篦削り。	11 ほか	
234	H－74 覆土	須恵器 坏	①13.6　②(3.4) ③10.0	①細粒　②良好　③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面手持ち篦削り。	259 ほか	
235	H－74 覆土	土師器 甕	①19.4 ②(31.5)　③－	①細粒　②良好　③にぶい橙　④1/2	口縁部：大きく外傾、内・外面横撫で。胴部：僅かに膨らみ、内面撫で、外面上位縦篦削り・下位斜め篦削り。	350 ほか	
236	H－74 覆土	土師器 甕	①22.2 ②(20.0)　③－	①細粒　②良好　③にぶい橙　④1/3	口縁部：大きく外傾、内・外面横撫で。胴部：僅かに膨らみ、内面撫で、外面篦削り。	98	
237	H－79 床直	土師器 坏	①[13.6]　②3.6 ③－	①粗粒　②良好　③橙 ④2/5	平底気味の浅い体部から緩やかに立ち上がり、口縁は短く内彎する。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：撫で。	29	
238	H－79 覆土	土師器 坏	①[12.8]　②(3.8) ③－	①中粒　②良好　③橙 ④1/5	平底気味の浅い体部から口縁が外反気味に直立する。外面：口縁横撫で。体部篦削り。内面：口縁横撫で。体部撫で。	33 ほか	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
239	H－81 覆土	土師器 甕	①[18.8] ②(20.1)　③－	①粗粒　②良好　③にぶい橙　④1/5	わずかに胴上部が膨らむ長胴形。頸部緩やかに外反する。外面：口頸部横撫で。胴部縦位箆削り。内面：口頸部横撫で。胴部縦位・横位の箆撫で。	1 ほか	
240	T－2 床直	土師器 坏	①10.5　②3.8 ③－	①粗粒　②やや良好 ③赤褐　④1/2	緩やかに湾曲する浅めの体部から口縁が内屈して立ち上がる。口縁と体部は量で画される。外面：口縁横撫で。体部箆削り。内面：撫で。	5 ほか	
241	T－2 床直	土師器 器台	①－　②(4.7) ③－	①中粒　②良好　③にぶい黄橙　④脚部のみ	脚部緩やかに外反して開く。外面：脚部縦位箆磨き。内面：脚部撫で。	21	
242	T－2 覆土	土師器 小型鉢	①[17.0]　②(8.5) ③－	①細粒　②良好　③橙 ④1/6	内彎する胴部から口縁が緩やかに外反して開く。頸部でわずかな稜をなす。外面：口縁横撫で。胴上部縦位箆削り。胴下部横位箆削り。内面：横撫で。	13	
243	T－2 床直	土師器 甕	①－　②(17.5) ③9.3　幅[25.8]	①細粒　②良好　③浅黄橙　④胴下半のみ	球胴形。外面：縦位箆削り。内面：胴中部横位箆撫で。胴下部撫で。底部箆削り。	35	
244	W－4 覆土	転用硯	①短径(11.3) ②厚さ1.2	①細粒　②良好　③灰 ④－	須恵器甕の転用。		転用硯
245	I－6 最下層	土師器 坏	①[11.8]　②(3.1) ③[7.8]	①細粒　②良好　③橙 ④1/3	口縁・体部：外傾、口縁端部内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面箆削り。		
246	I－6 最下層	須恵器 坏	①[13.7]　②3.8 ③[8.5]	①細粒　②良好　③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。		
247	X134 Y110	青　磁	①－　②－ ③－	①微粒　②良好　③オリーブ灰　④－			
248	X144 Y112	青　磁	①－　②－ ③－	①微粒　②良好　③オリーブ灰　④－			

Tab. 6　鉄器・鉄製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
1	H－2／床直	鎌	(16.8)	(3.4)	(0.3)	56.5	先端部欠損	31	曲刃鎌
2	H－12／床直	鎌	(13.1)	(2.9)	(0.3)	46.0	先端部欠損	4	曲刃鎌
3	H－24／床直	釘	(7.1)	(0.5)	(0.5)	14.8	不明	17	
4	H－33／床直	鋤先	(15.0)	(6.5)	(0.7)	91.5	1.3	121	U字形
5	H－34／床直	刀子	(6.9)	(0.8)	(0.2)	9.8	不明	130	柄部
6	H－36／床直	刀子	(7.5)	(1.0)	(0.2)	12.8	不明	261	柄部
7	H－36／覆土	刀子	(18.4)	(1.3)	(0.3)	54.0	ほぼ完形	285・291	
8	H－42／覆土	刀子	(4.5)	(0.5)	(0.2)	4.9	不明	7	柄部
9	H－52／覆土	刀子	(5.1)	(1.0)	(0.2)	5.1	不明	287	刃部
10	H－52／覆土	釘	(4.6)	(0.4)	(0.4)	4.2	不明	327	
11	H－55／覆土	鏃か	(7.6)	(2.2)	(0.3)	14.0	不明	97	
12	H－55／覆土	鏃	(7.5)	(2.5)	(0.3)	10.6	不明	102	
13	DB－1／覆土	釘	8.2	0.4	0.4	6.9	ほぼ完形		
14	DB－1／覆土	釘	7.7	0.5	0.5	11.6	ほぼ完形		木質付着

Tab. 7　石製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
1	H－24／覆土	砥石	(7.3)	(4.1)	(3.0)	101	凝灰岩	不明	74	4面使用
2	H－32／床直	砥石	(5.6)	(4.2)	(2.5)	94	凝灰岩	不明	32	4面使用
3	H－36／床直	砥石	(10.2)	(5.9)	(2.4)	212	凝灰岩	不明	221	4面使用・穿孔有
4	H－50／覆土	砥石	5.2	3.7	1.7	51	凝灰岩	完形		6面使用・穿孔有
5	H－74／覆土	窪み石	10.9	7.9	5.2	400	安山岩	完形	307	4面に窪み有

Tab. 8 瓦観察表

番号	出土遺構 層位	種類	①長さ ②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－8 竈内	丸	①40.1 ②1.6	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③黄灰色　④4/5	玉縁式。凸面：なで。凹面：糸切り痕、布目有。側面：面取り３回、凸面は狭い。	5ほか	
2	H－8 竈内	丸	①(26.5) ②1.5	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③黄灰色　④破片	玉縁式。凸面：なで。凹面：糸切り痕、布目有。側面：面取り３回。	2	
3	H－28 床直	軒丸	①30.4 ②1.9	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰色　④4/5	直径14.4cm。中房は消失し、鳥足状の蓮弁がめぐり、弁間に珠文が１つずつ付く。境界はなく、幅１cm前後の無文周縁。	52	上野国分寺のM002
4	H－28 竈内	平	①36.5 ②1.7	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰白色　④1/3	一枚作り。凹面：布目有。凸面：縄叩き。側面：面取り２回、凹面は狭い。	55ほか	
5	H－28 床直	丸	①34.8 ②2.1	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰白色　④1/3	行基式。凸面：縄叩き後、撫で消し。凹面：糸切り痕、布目有。側面：面取り３回、凸面は狭い。	53ほか	
6	H－28 竈内	丸	①(24.0) ②2.5	①細粒、石英含む　②良好 ③黒色　④破片	凸面：撫で。箆書き文字「大」。凹面：糸切り痕、布目有。側面：面取り２回、凹面は広い。		箆書き文字
7	H－28 床直	平	①(19.5) ②2.0	①細粒、石英含む　②良好 ③黄灰色　④破片	一枚作り。凹面:糸切り痕、布目有。凸面:撫で。側面:面取り２回。	54	
8	H－28 床直	平	①(16.8) ②2.2	①細粒、石英含む　②良好 ③黒褐色　④破片	桶巻き作り。凹面：模骨痕有、布目を部分的に撫で消し。凸面:縄叩き後、撫で消し。側面:面取り２回。	10	
9	H－39 床直	丸	①(21.0) ②1.7	①細粒、石英含む　②良好 ③黄灰色　④破片	凸面：縄叩き後、撫で消し。凹面：布目有。側面：面取り３回、凸面は狭い。	38	
10	H－39 覆土		①－ ②2.6	①細粒、石英多く含む ②良好　③灰色　④破片	凹面：布目有。凸面：撫で。箆書き文字。	9	箆書き文字
11	I－6 覆土	丸	①(36.8) ②1.9	①細粒、石英含む　②良好 ③黄灰色　④4/5	玉縁式。凸面:縄叩き後、撫で消し。凹面:糸切り痕、布目有。僅かに模骨痕が認められるか。側面：面取り３回、凸面は狭い。		
12	I－6 覆土	丸	①39.2 ②2.3	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③暗灰黄色　④4/5	行基式。凸面：撫で。凹面：糸切り痕、布目有。側面：面取り２回、凹面は狭い。		
13	I－6 覆土	平	①38.7 ②1.7	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰黄色　④完形	桶巻き作り。凹面：模骨痕・糸切り痕有、布目を部分的に撫で消し。凸面:縄叩き後、撫で消し。側面:面取り２回。		
14	I－6 覆土	平	①(20.6) ②2.0	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③黄灰色　④破片	一枚作りか。凹面：糸切り痕、布目有。凸面：撫で後、正格子（7×4cm）の叩き。側面：面取り２回。		
15	I－6 覆土	平	①(18.2) ②1.9	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰色　④破片	一枚作りか。凹面:布目を全面的に撫で消し。凸面:撫で後、斜格子（6.4×4.6cm）の叩き。側面：面取り２回。		
16	I－6 覆土	平	①(20.5) ②1.5	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰白色　④破片	一枚作りか。凹面：布目有。凸面：全体に大きな斜格子。側面：面取り２回、凹面は狭い。		
17	I－6 覆土	平	①39.5 ②1.6	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰白色　④4/5	一枚作り。凹面：糸切り痕、布目有。凸面：縄叩き後、撫で消し。側面：面取り２回。		
18	I－6 覆土	平	①(22.4) ②1.5	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰白色　④破片	一枚作り。凹面:糸切り痕、布目有。箆書き文字「キ」か。凸面：縄叩き後、撫で消し。側面：面取り２回、凹面は狭い。		箆書き文字
19	I－6 覆土	平	①(27.2) ②2.0	①細粒、黒色粒子含む②良好③灰色④破片	一枚作り。凹面：糸切り痕、布目有。凸面：縄叩き後、撫で消し。箆書き文字。側面：面取り２回。凹面は広い。		箆書き文字
20	I－6 覆土	平	①(28.6) ②1.3	①細粒、黒色粒子含む②良好③灰色④破片	一枚作り。凹面：布目を全体的に撫で消し。凸面：撫で後、斜格子(5×4.5cm)の叩き。側面:面取り２回、凹面は狭い。		
21	I－6 覆土	平	①37.2 ②2.6	①細粒、石英含む　②良好 ③灰色　④4/5	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。箆書き文字「大千」。側面：面取り２回。		箆書き文字
22	I－6 覆土	平	①(28.0) ②3.6	①中粒、黒色粒子含む ②良好　③黄灰色　④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。箆書き文字「十一」か。側面：面取り１回。		箆書き文字
23	I－6 覆土	平	①(25.8) ②1.7	①細粒、黒色粒子含む ②良好　③灰色　④破片	一枚作り。凹面：糸切り痕、布目有。凸面：撫で。押印文字「山田」。側面：面取り３回か。		押印文字
24	I－6 覆土	平	①(21.7) ②2.3	①細粒、石英多く含む ②良好　③灰色　④破片	一枚作り。凹面:布目有。箆書き文字「真●」。凸面:撫で。側面：面取り３回、凸面は広い。		箆書き文字
25	I－6 覆土		①－ ②2.0	①細粒、石英含む　②良好 ③灰色　④破片	凹面：布目有。凸面：撫で。箆書き文字。		箆書き文字

注）①　層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」床面より10cmを超える層位から出土の２段階に分けた。
　　②　最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）で示した。

Ⅵ　まとめ

1　集落の変遷について

本遺跡は、国分尼寺から南東へ300m、推定国府域から北西へ300mという国分尼寺と推定国府域のちょうど中間点に位置する。当然、周辺遺跡（過年度調査遺跡）との関わりを含めて集落をみていかなければならないが、今後も継続される調査データの蓄積が考慮されるため、ここでは本遺跡のまとめのみとする。

検出された遺構は、竪穴住居跡78軒、竪穴状遺構２軒、溝跡15条、井戸跡６基、土坑13基、土坑墓１基である。調査地全体からみた竪穴住居跡及び竪穴状遺構の100㎡あたりの軒数は5.8軒と密度は非常に高くなる。しかし、全ての遺構が同時期に存在していたわけではなく、時期別に集落をみていく必要がある。

そこで、ここでは、３つの視点（遺構数・主軸方向・拡がり）から集落をみていきたい。

（1）時期別の遺構数（Tab.9）

	6世紀		7世紀			8世紀			9世紀		
	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉
	H-57	T-2	H-7 H-56	H-16 H-5	H-32	H-30 H-19	H-29	H-14 H-8	H-34 H-12	H-6 H-42	H-2 H-1
	H-69		H-15 H-66	H-17		H-55 H-23	H-33	H-13	H-36 H-18	H-44	H-3
	H-77		H-68 H-74			H-64 H-24	H-79	H-51	H-54 H-41	H-52	H-72
	H-78		H-81			H-70		H-73	H-62		
				H-71			H-45			H-31	
							H-46			H-38	
							H-48				
小計	4	1	7	3	1	7	3	5	7	4	4
合計	5		12			18			17		

	10世紀			時期不明
	前葉	中葉	後葉	
	H-26		H-4	H-9 H-27 H-55
	H-28		H-39	H-10 H-35 H-58
	H-47			H-11 H-37 H-60
	H-50			H-20 H-40 H-61
	H-65			H-21 H-43 H-63
		T-1		H-22 H-49 H-80
				H-25 H-53
小計	5		2	
合計	8			20

時期不明の住居が20軒あるが（さらに、１つの住居がどのくらい継続したかを考慮しなければ）、100㎡あたり、ここでは６世紀には0.4軒、７世紀には0.9軒、８世紀には1.3軒、９世紀には1.2軒、10世紀には0.6軒住居があり、律令期の８・９世紀に濃い密度で「国府のマチ」が形成されていたことが分かる。

（2）時期別の主軸方向

竪穴住居の主軸方向を時期毎にまとめる。なお、主軸方向のあまりはっきりしないH-71とH-38は除いた。

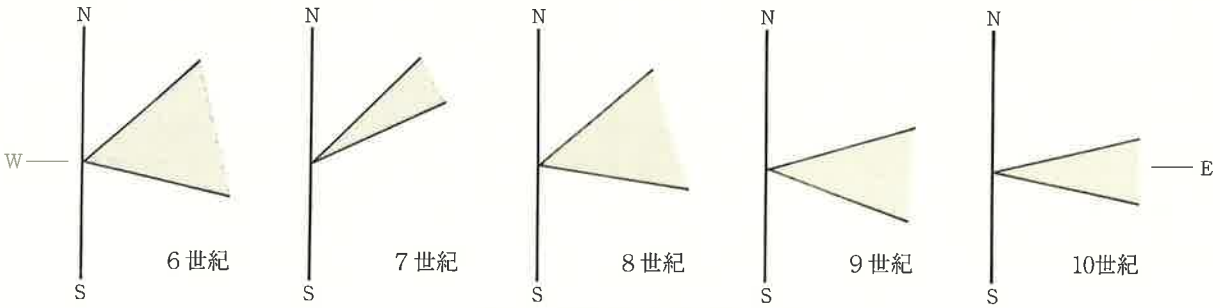


Fig.5　時期別の主軸方向

サンプル数が少なく、また、１世紀ごとのまとめであるが、おおよその傾向は掴め、７・９・10世紀の住居は、主軸方向に統一性があることが分かる。

（3）時期別の拡がり

６世紀は竪穴住居４軒と竪穴状遺構１軒が検出された。調査地の東側で検出されており、北に隣接する「元総社小見内Ⅲ遺跡」でも、６世紀の住居は本遺跡から北東に拡がる傾向にある。

７世紀は竪穴住居12軒が検出された。これも、調査地の東側に多いことが分かる。

８世紀は18軒の竪穴住居が検出され、調査地にまんべんなく拡がる。

９世紀も８世紀と同様な傾向で17軒の竪穴住居が調査地にまんべんなく拡がる。

10世紀は７軒の竪穴住居と１軒の竪穴状遺構が検出された。数は少なく密度は濃くないが、これも調査地にまんべんなく拡がっている。

時期別の拡がりについても、時期不明な住居が20軒もあり当時の様子を正確には表しきれないが、６・７世紀は北を流れる牛池川を中心に、川からあまり離れないところに集落が拡がっていて、８世紀以降は集落の範囲が本調査地一帯に拡がっていったと考えられる。

本遺跡では、６世紀から集落が形成されはじめ、８・９世紀に最盛期を迎える。さらに、９世紀からは住居の主軸方向について規制が働いていたと推測される。しかし、これらは狭い範囲での傾向であり、正確な時期別の集落の拡がりについては、調査成果の蓄積を待って、今後整理していく必要がある。また、住居の規模やそこに住む人たちの性格（使用土器）などについても、適宜比較検討を進めていきたい。

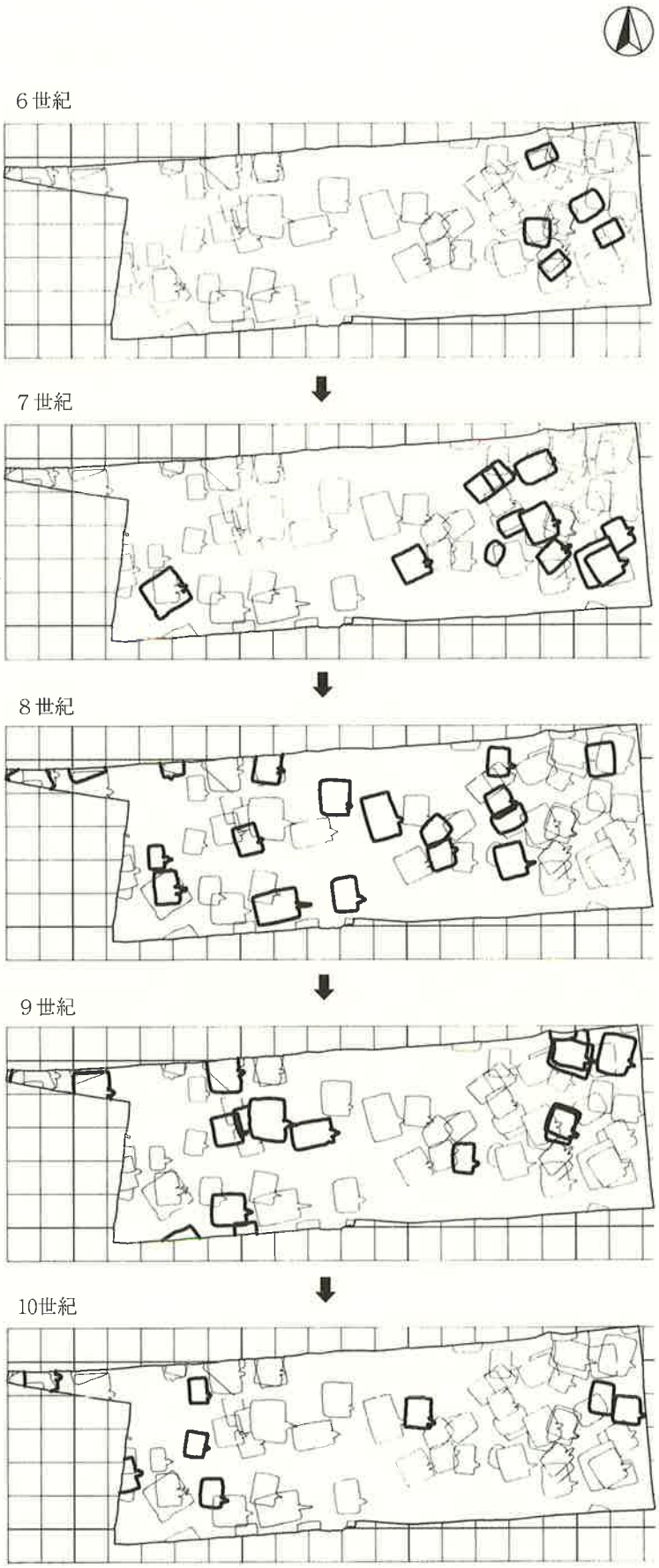


Fig.6　時期別の拡がり

2　井戸から出土の瓦について

Ⅰ－６号井戸跡は、９世紀中葉の住居を切って構築され、最深部から９世紀代と比定される土師坏や須恵坏、須恵甕などの土器を出土している。このことから、この井戸は９世紀中頃に作られ10世紀には廃絶されたと考えられる。律令期の最後のわずかな期間しか使用されていないのである。

そして、この井戸からは多量の瓦が出土した。井戸の廃棄と同時にこれらの瓦も廃棄されたと考えられるが、これら多量の瓦はどこからこの集落に持ち込まれたのであろうか。技法による分類から探ってみたい。なお、分類は栗原和彦（前橋市文化財保護課調査指導員）の指導に依る。

Tab.10　井戸出土瓦分類表

種類		技法	叩き目	凸　面	凹　面	側面面取り	数	挿図番号	供給元
丸瓦	玉縁式	－	縄叩き	撫で消し	布目	３回	2	11	吉井・藤岡
	行基式		縄叩き	撫で消し	布目	３回	1		
			－	撫で消し	布目	３回	3		
			－	撫で消し	布目	２回	5	12	
			－	撫で消し	布目	１回	2		
			－	撫で消し	布目	不明	1		
小　計							14		
平　瓦		桶巻き作り	縄叩き	撫で	布目	３回（a…１・b…２）	2		
			縄叩き	撫で	布目	２回（a…４）	10	13	
			縄叩き	撫で	布目	１回	1		
			縄叩き	広く撫で消し	布目	３回	1		
			縄叩き	広く撫で消し	布目	２回（a…３）	5		
			縄叩き	広く撫で消し	布目	不明	2		
			正格子	広く撫で消し	布目	２回（a…１）	3	14	
			斜格子	広く撫で消し	布目	２回	2	16	
			斜格子	広く撫で消し	広く撫で消し	２回	1	15	
			－	撫で	布目	３回	1		
			－	撫で	布目	２回	2		
小　計							30		
平　瓦		一枚作り	縄叩き	撫で	布目	２回（a…６・c…１）	10	17･18･19	
			縄叩き	撫で	布目	１回	2		
			縄叩き	撫で	撫で	２回（a…１）	2		
			縄叩き	櫛状工具	布目	１回	1		
			縄叩き	櫛状工具	撫で	２回	1		
			縄叩き	－	布目	２回（c…１）	2		
			縄叩き	－	布目	１回	1		
			縄叩き	－	撫で	２回	1		
			正格子	撫で	布目・撫で	２回	1		
			斜格子	撫で	布目	２回（a…１・c…１）	3	20	笠　懸
			斜格子	櫛状工具	櫛状工具	２回（c…１）	1		
			－	撫で	布目	３回（a…３・b…２）	6	24	
			－	撫で	布目	２回（a…１・c…５）	12	21	吉井・藤岡
			－	撫で	布目	１回	5	22	吉井・藤岡
			－	撫で	布目	不明	2		
			－	撫で	撫で	２回	3		
			－	櫛状工具	櫛状工具	２回	1	23	笠　懸
			－	櫛状工具	布目	不明	1		
			－	撫で	櫛状工具	２回（a…１）	1		
小　計							56		
不　明							33	25	
合　計							133		

※側面面取りの（ａ・ｂ・ｃ）は面取り幅の特徴で、（ａ…）は凹面の幅広の数、（ｂ…）は凸面の幅狭の数、（ｃ…）は凹面の幅狭の数を表す。

丸瓦は、玉縁式２点と行基式12点がある。凸面で縄叩きが確認できたものは２点あったが２点を含めすべて撫で消し調整を行い、凹面には布目が残り、側面の面取り回数に１～３回の違いがある。技法の統一性は認められないが、胎土の特徴から「吉井・藤岡窯」と考えられる玉縁式瓦が２点確認できた。

平瓦は、模骨痕が確認でき桶巻き作りと考えられるものが30点、側面の角度や瓦の丸みから一枚作りと考えられるものが56点ある。桶巻き作りの瓦は凸面の叩きが縄叩き21点、正格子３点、斜格子３点あるが、撫でのみの調整と広く撫で消すものがあり、凹面は１点を除き布目が残る。側面の面取りは丸瓦より多様化し、回数だけでなく面取りの幅にも広いものや狭いものがある。一枚作りの瓦も桶巻き作りと同様に技法が多岐に渡り、工具に

櫛状工具も認められる。平瓦では、工具の特徴や胎土の特徴から「笠懸窯」と考えられるものが４点、「吉井・藤岡窯」と考えられるものが17点確認できた。

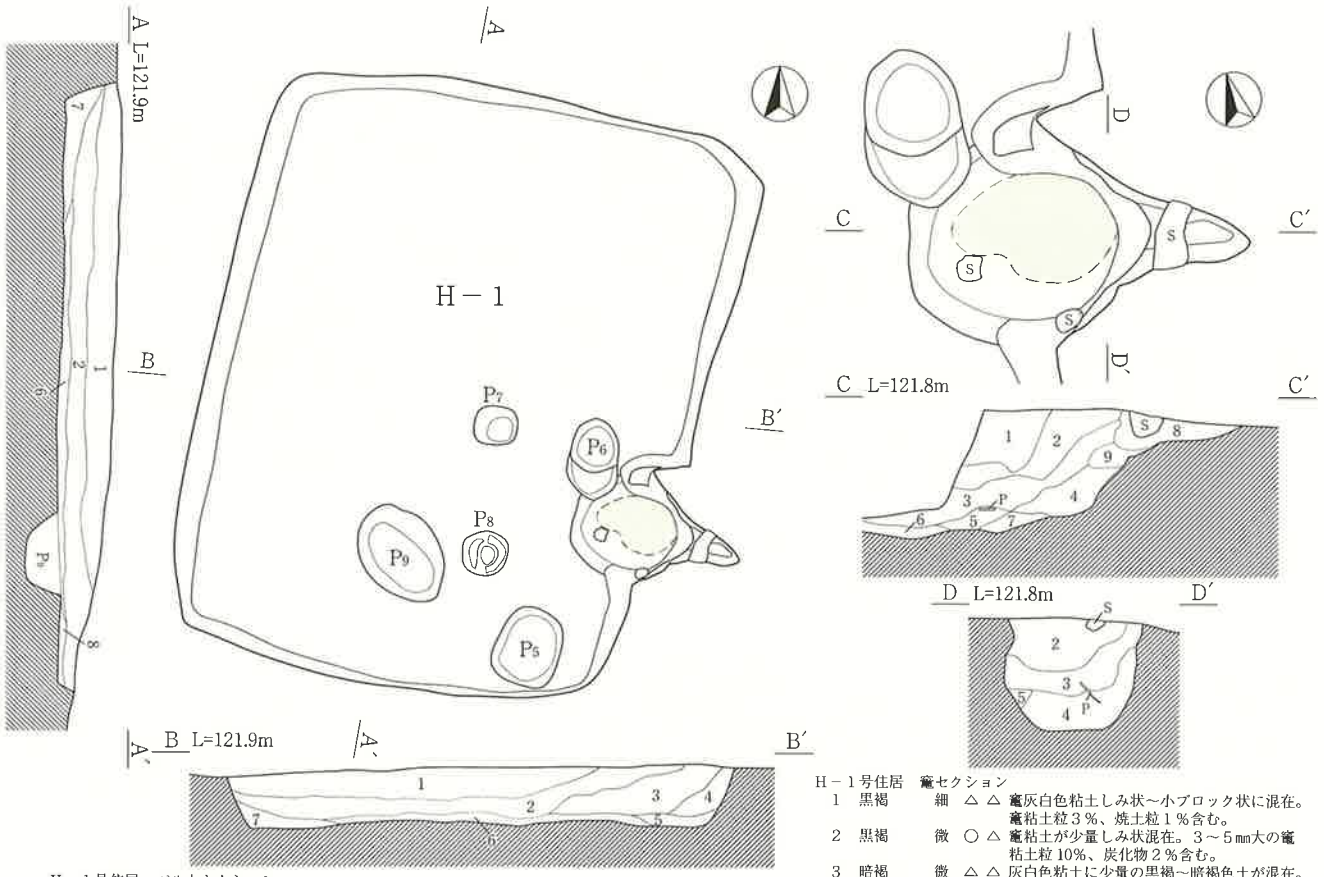
上記井戸出土瓦の技法や形状、産地から判断されることは、これらが国分二寺に使用されたであろうことを物語るものと思う。このうち国分尼寺は、北西へ300mのところに位置しており、ここから持ち込まれた可能性が最も高いと思う。このころの諸寺が荒廃している様子が記述されたものに「上野国交替実録帳」がある。すなわち、この記録の『國分二寺諸定額寺佛像經論資材雑具堂塔雑舎并府院諸郡官舎[』の頃には、国分尼寺についての直接の記述はないが、国分寺及び諸定額寺の荒廃状況は国分尼寺にも通じるものである。荒廃した寺から、竪穴住居建設資材として多量の瓦が採取され利用された状況が想像される。これが、何かの理由から不用となり、廃棄された結果の１つが井戸出土瓦であろう。

当時、国府や国分二寺周辺には多くの人々が居住し、「マチ」が出来ていた中での１現象をどのように理解すべきか、今後への課題と言えようか。

〈引用参考文献〉

群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『中尾』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1984年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『上野国分僧寺・尼寺中間地域１～８』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986年～
群馬県史編さん委員会編　坂口　一　『群馬県史研究24』「奈良・平安時代の土器の編年」　1986年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『上野国分寺』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『鳥羽遺跡　Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ区』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990年
東京都埋蔵文化財センター　『資料目録６』　㈶東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター　1991年
山武考古学研究所編　『総社閑泉明神北遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年
真塩明男・飯田祐二編　『上野国分尼寺寺域確認調査』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年
鈴木雅浩・高橋一彦編　『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年
山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年
山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年
齊木一敏・近藤雅順編　元総社蒼海遺跡群『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年
齊木一敏・高坂麻子編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年
高橋一彦・近藤薫編　元総社蒼海遺跡群『総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年
山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見Ⅱ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年
山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年
高橋一彦・高坂麻子編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見Ⅴ遺跡・元総社小見内Ⅵ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年
高橋一彦・高坂麻子編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年
近藤雅順・稲垣慎太郎編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内Ⅶ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年
近藤雅順・稲垣慎太郎編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年
岩崎琢郎・高坂麻子編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内Ⅸ遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年
山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内Ⅹ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年
スナガ環境測設株式会社編　『元総社蒼海遺跡群（３）』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年
高橋亨・高坂麻子編　『元総社蒼海遺跡群（５）』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006年
大崎和久・遠藤たか美編　『元総社蒼海遺跡群（６）』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006年

Fig.7　元総社蒼海遺跡群(12)　全体図

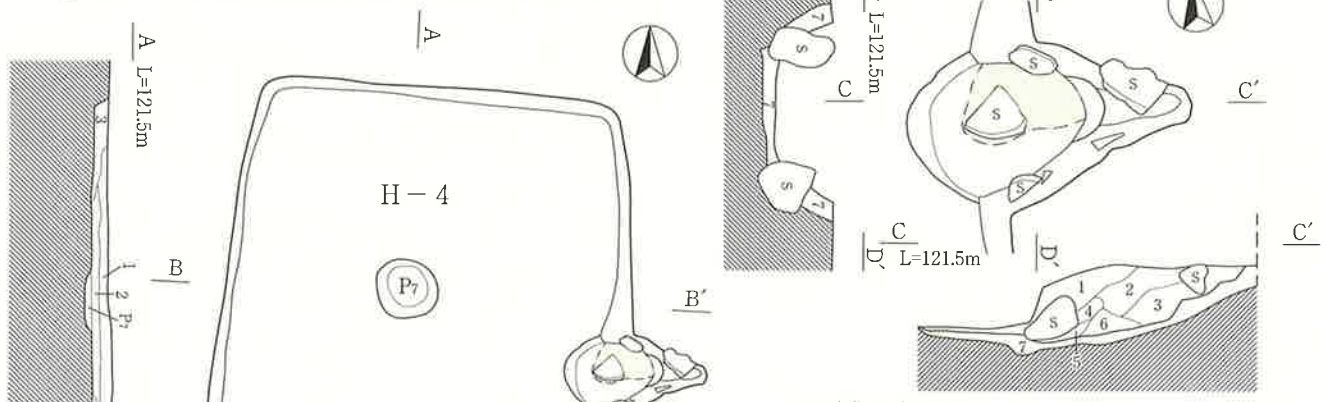


H－1号住居　ベルトセクション

1	黒褐～暗褐	細	△	△ 暗褐色砂質土主体。As-C粒20%、橙色粒３%、炭化物１%含む。
2	黒褐	細	△	△ 灰白色竈粘土が10～20%粒状～小ブロック状に混在。As-C25%、Hr-FP5%含む。
3	黒褐～暗褐	細	○	△ 灰褐色竈粘土が30%粒状～小ブロック状に混在。As-C粒20%、橙色粒10%含む。
4	黒褐	微	×	△ 褐色土が少量しみ状混在。竈粘土が５%しみ状～小ブロック状に混在。橙色粒５%、炭化物３%含む。
5	黒褐	微	×	△ 暗褐色土と竈粘土がわずかにしみ状混在。As-C粒２%含む。
6	暗褐	微	△	○ 竈粘土小ブロック２%含む。
7	黒褐	微	×	△ 褐色土が少量しみ状混在。As-C粒３%、黄色土小ブロック５%、炭化物１%含む。
8	黒褐	微	△	△ 竈灰褐色粘土小ブロック30%混在。As-C粒15%含む。

H－1号住居　竈セクション

1	黒褐	細	△	△ 竈灰白色粘土しみ状～小ブロック状に混在。竈粘土粒３%、焼土粒１%含む。
2	黒褐	微	○	△ 竈粘土が少量しみ状混在。３～５㎜大の竈粘土粒10%、炭化物２%含む。
3	暗褐	微	△	△ 灰白色粘土に少量の黒褐～暗褐色土が混在。炭化物２%含む。天井崩落粘土。
4	灰黄褐	細	△	○ 灰白色粘土の 10 ～ 20 ㎜大小ブロック主体。粘土焼土ブロック混在。天井崩落粘土。
5	黒褐	微	×	× 暗褐色土と灰状堆積物の混在土にわずかに灰色粘土がしみ状混在。10 ㎜大竈粘土小ブロック 15%混在。炭化物 10%含む。
6	黒	微	×	× 灰状堆積物主体。わずかに軟質焼土がしみ状混在。
7	暗褐	微	×	△ 軟質焼土と灰状堆積物のしみ状混在。
8	灰黄褐	微	×	△ 灰褐色粘土中に暗褐色土が少量しみ状混在。
9	灰黄褐	微	△	△ 灰白色～灰褐色粘土が30%斑状混在。



H－4号住居　竈セクション

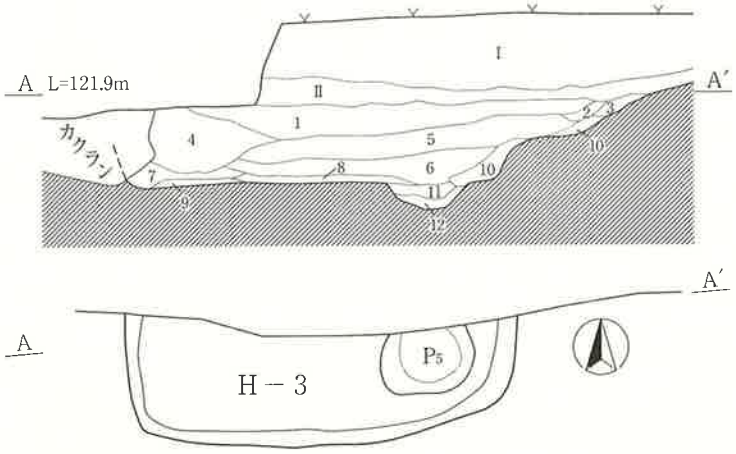
1	黒褐	微	△	△ 竈粒土が20%しみ状混在。As-C７%含む。
2	黒褐	微	△	△ 竈粘土35%しみ状混在。焼土粒７%含む。
3	黒褐	微	△	△ 竈粘土が15%しみ状混在。軟質焼土10%しみ状混在。10㎜大焼土小ブロック５%含む。
4	黒褐	微	△	○ 焼土が40%しみ状混在。天井部焼土崩落土。
5	黒褐	微	×	△ 灰状堆積物に少量の暗褐色土がしみ状混在。
6	暗褐	微	△	◎ 竈粘土主体。天井崩落粘土。
7	黒褐	微	△	△ 焼土粒５%、白色粘土ブロック10%、炭化物粒少量含む。

H－4号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○	○ ５～10㎜大の地山黄褐色砂質土小ブロック３%。橙色粒子５%、As-C粒%10%含む。
2	黒褐	微	◎	◎ 灰褐色粘土がしみ状～団粒状に20%混在。As-C粒３%含む。
3	黒褐	微	◎	◎ 黒褐～暗褐色粘質土中に灰褐色粘土が30%小ブロック～しみ状に混在。
4	黒褐	微	○	◎ ３層粘質土中に、竈灰白色粘土が15%しみ状混在、As-C粒５%含む。

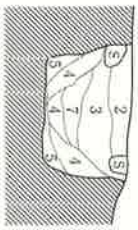
0　1:60　2m　　0　1:30　1m

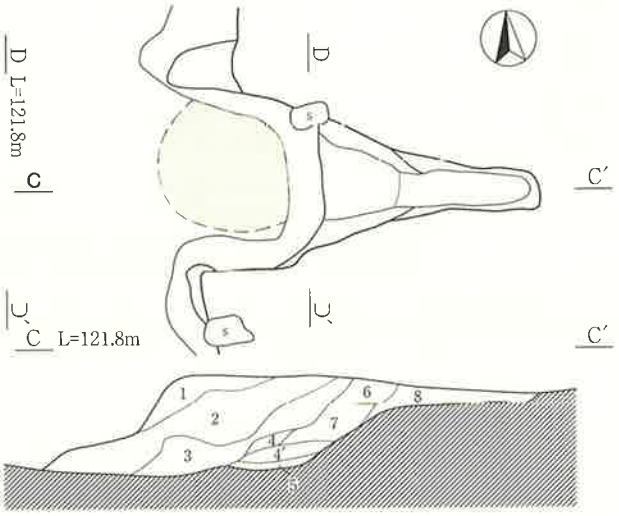
Fig.8　H－1・4号住居



H－3号住居　ベルトセクション

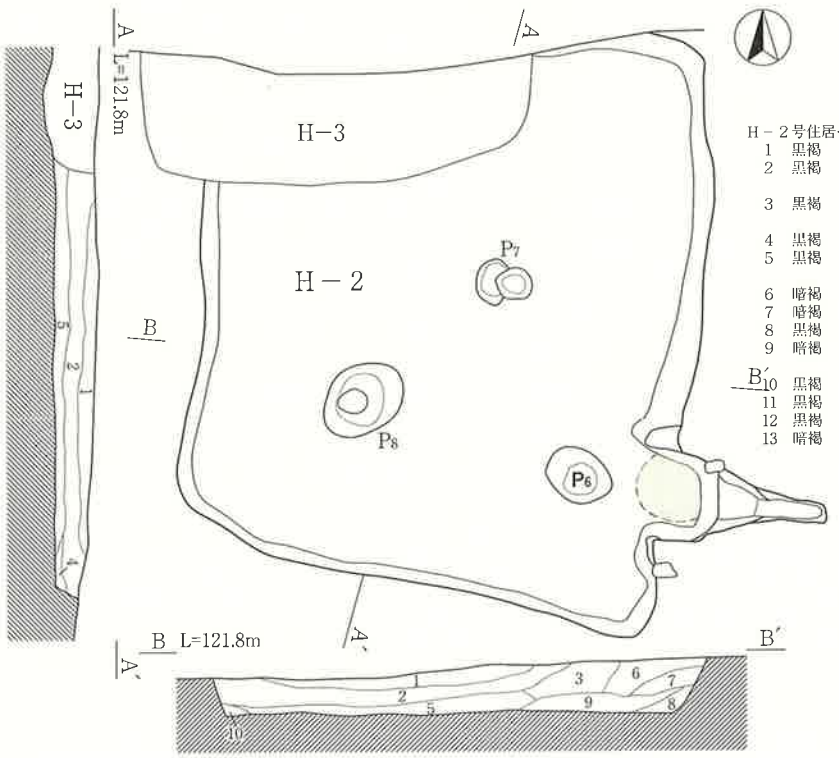
1	暗褐	粗	△	△	暗褐色土が少量しみ状混在。As-C15%含む。
2	黒褐	粗	△	△	焼土粒・小ブロックが10%混在。As-C粒３%含む。わずかに竈粘土粒を含む。
3	黒褐～暗褐	細	△	△	竈灰褐色粘土が少量しみ状混在。焼土粒２%、As-C粒５%含む。
4	黒褐	細	△	△	やや砂質。表土と1層土が混在。As-C粒７%含む。
5	黒褐	細	△	△	わずかに灰褐色粘質土がしみ状～団粒状に混在。As-C粒15%含む。１層より緻密。
6	黒褐～暗褐	微	△	△	灰褐色粘質土が少量しみ状に混在。As-C粒３%、焼土粒１%含む。
7	黒褐	微	△	○	暗褐色土が少量しみ状混在。やや砂質でやや緻密。焼土粒１%含む。
8	黒褐	微	△	○	少量の竈粘土が小ブロック状に混在。As-C粒２%、焼土粒・小ブロック２%含む。
9	黒褐	微	○	○	褐色粘質土が少量しみ状混在。
10	暗褐	微	△	△	竈灰褐色粘土が小ブロック～しみ状に混在。焼土粒２%含む。竈流出粘土。
11	黒褐	微	○	△	灰白色竈粘土小ブロックが５%混在。
12	暗褐	微	△	○	褐色粘質土が少量しみ状～団粒状に混在。焼土粒2%含む。

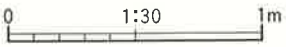




H－2号住居　竈セクション

1	黒褐	細	○	×	白色軽石(φ1～2㎜)10%、焼土粒(φ1～3㎜)３%、白色粘土粒(φ1～３㎜) 少量含む。
2	黒褐	細	◎	△	白色軽石(φ1～２㎜)、焼土ブロック(φ1～３㎜)10%、凝灰質砂岩小ブロック、炭化物粒少量含む。
3	暗褐	微	◎	△	５～10㎜大の焼土ブロック、灰状堆積物、炭化物を５%、粘土粒10%含む。
4	黒褐	微	×	×	少量の焼土粒・黄色ブロック・白色粘土ブロック含む。
4′	灰黄褐	微	×	△	灰層。焼土ブロック(φ1～２㎜)２%、炭化物１%、白色粘土粒(φ1～２㎜)３%含む。
5	暗褐	微	△	△	白色軽石粒３%、焼土粒１%含む。層下位に灰が堆積。
6	黒褐	細	○	×	白色軽石(φ1～２㎜)10%、炭化物粒１%含む。
7	褐色	細	○	×	白色軽石(φ1～２㎜)２%、焼土粒(φ1～２㎜)５%、白色粘土ブロック１%含む。
8	暗褐	微	○	△	焼土ブロック(φ1～３㎜)５%、層下位に少量の灰が堆積。炭化粒と白色粒１%含む。
9	黒褐	微	○	×	白色軽石粒(φ1～２㎜)３%、黄色粒２%、焼土粒、白色粘土粒１%含む。層上面に炭化物粒少量含む。





H－2号住居ベルトセクション

1	黒褐	細	○	○	As-C粒30%、橙色粒３%含む。
2	黒褐	細	△	△	やや砂質。As-C粒25%、焼土粒２%、橙色粒２%含む。
3	黒褐	細	△	△	竈粘土の生焼け焼土が20%しみ状混在。10～15㎜大の焼土小ブロックを５%含む。As-C粒15%含む。
4	黒褐	微	△	△	暗褐色土が少量しみ状混在。
5	黒褐	微	○	△	少量の暗褐色土がしみ状混在。As-C粒15%、焼土粒２%含む。
6	暗褐	微	△	△	４層土中に少量の褐色土がしみ状混在。
7	暗褐	微	△	△	暗褐色砂質土に少量の６層土がしみ状混在。
8	黒褐	細	△	△	灰褐色竈粘土と暗褐色土のしみ状混在。
9	暗褐	細	△	△	やや砂質。少量の褐色土がしみ状混在。竈灰褐色粘土粒・小ブロック５%混在。As-C粒15%含む。
10	黒褐	微	△	△	４層とほぼ同じ。
11	黒褐	微	△	△	As-C粒15%含む。
12	黒褐	微	△	△	やや砂質。As-C粒10%含む。
13	暗褐	細	△	△	黒色土に黒褐色土がしみ状～小ブロック～団粒状に20%混在。As-C粒７%含む。

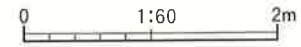
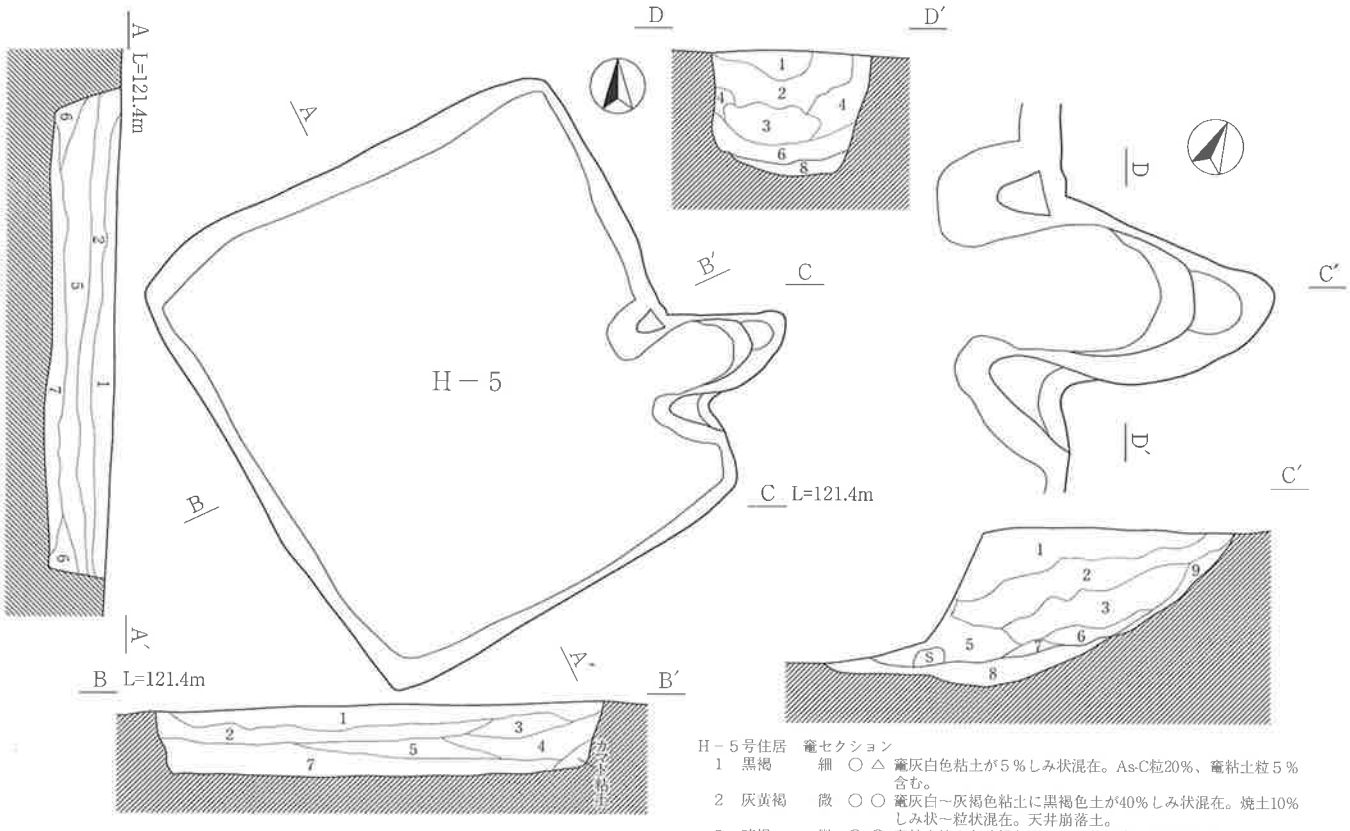


Fig.9　H－2・3号住居

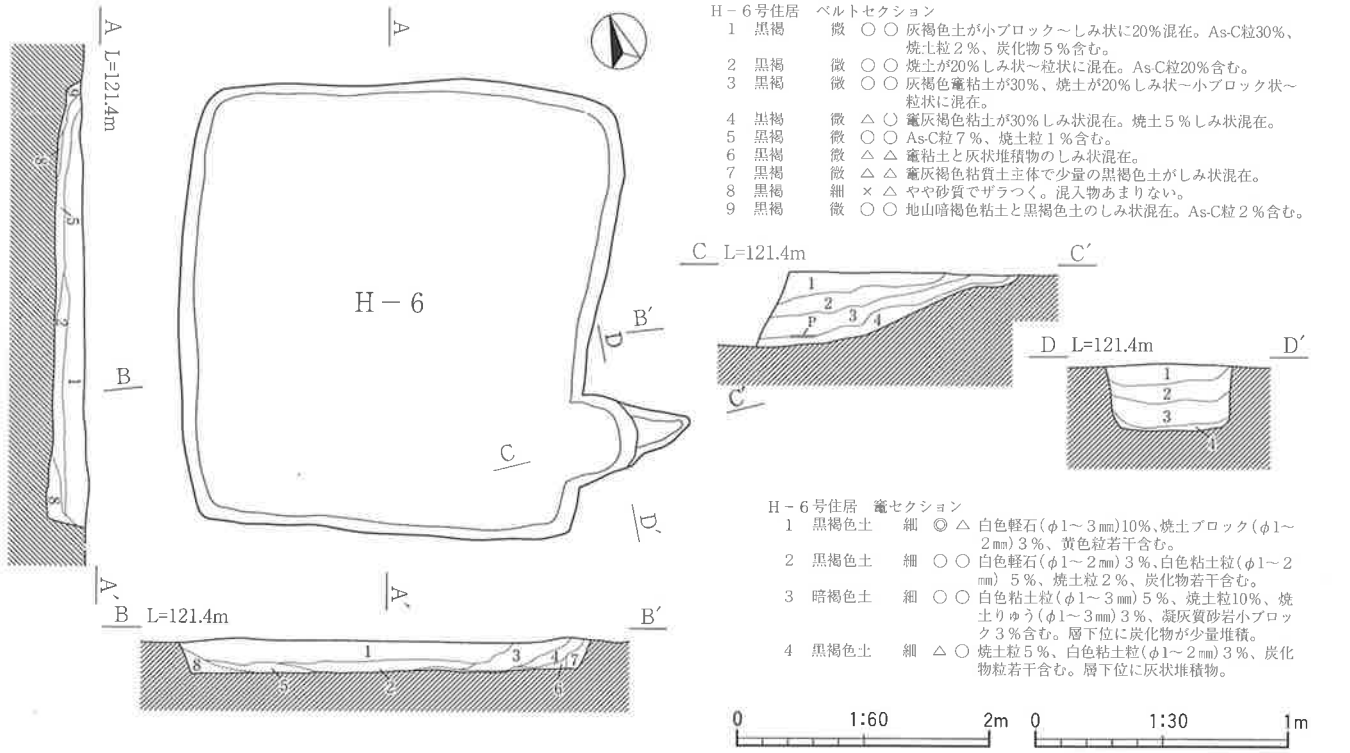


H－5号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○ △	ごくわずか灰褐色粘土が小ブロック～団粒状に混在。As-C粒、Hr-FP小粒25%含む。焼土粒３%含む。
2	黒褐	微	○ ○	灰褐色粘土が15%小ブロック～しみ状混在。As-C粒、Hr-FP小粒20%含む。焼土粒２%含む。
3	黒褐	微	○ ○	竈灰褐色粘土が15%粒状～小ブロック状に混在。As-C粒、Hr-FP小粒25%含む。焼土粒５%含む。
4	黒褐	微	○ ○	竈灰褐色粘土が10%しみ状混在。As-C粒20%、Hr-FP小粒３%含む。焼土粒３%含む。
5	黒褐	微	◎ ◎	灰褐色粘土が30%しみ状混在。As-C粒15%、焼土粒３%、炭化物２%含む。
6	黒褐	微	○ ◎	やや砂質。灰褐色粘土がしみ状～小ブロック状に20%混在。As-C粒５%、焼土粒３%含む。
7	黒褐	微	◎ ◎	As-C粒３%、焼土粒２%、炭化物１%含む。

H－5号住居　竈セクション

1	黒褐	細	○ △	竈灰白色粘土が５%しみ状混在。As-C粒20%、竈粘土粒５%含む。
2	灰黄褐	微	○ ○	竈灰白～灰褐色粘土に黒褐色土が40%しみ状混在。焼土10%しみ状～粒状混在。天井崩落土。
3	暗褐	微	○ ○	竈粘土焼土と暗褐色土のしみ状混在。焼土粒～小ブロック15%混在。天井崩落土。
4	黒～黒褐	細	△ ○	竈粘土が10%しみ状～小ブロック状に混在。As-C粒５%含む。
5	黒褐	微	△ △	竈粘土が25%しみ状混在。少量の焼土がしみ状～小ブロック状に混在。
6	黒褐	微	△ ◎	やや緻密。灰褐色粘土が少量しみ状～小ブロック状混在。
7	黒褐	微	△ △	暗褐色粘質土と灰状堆積物の混在土。
8	黒褐	微	○ ◎	灰褐色粘質土が小ブロック状に15%混在。掘り方埋土。
9	黒～黒褐	細	△ △	少量の竈灰褐色粘土がしみ状～小ブロック状に混在。焼土粒わずかに含む。



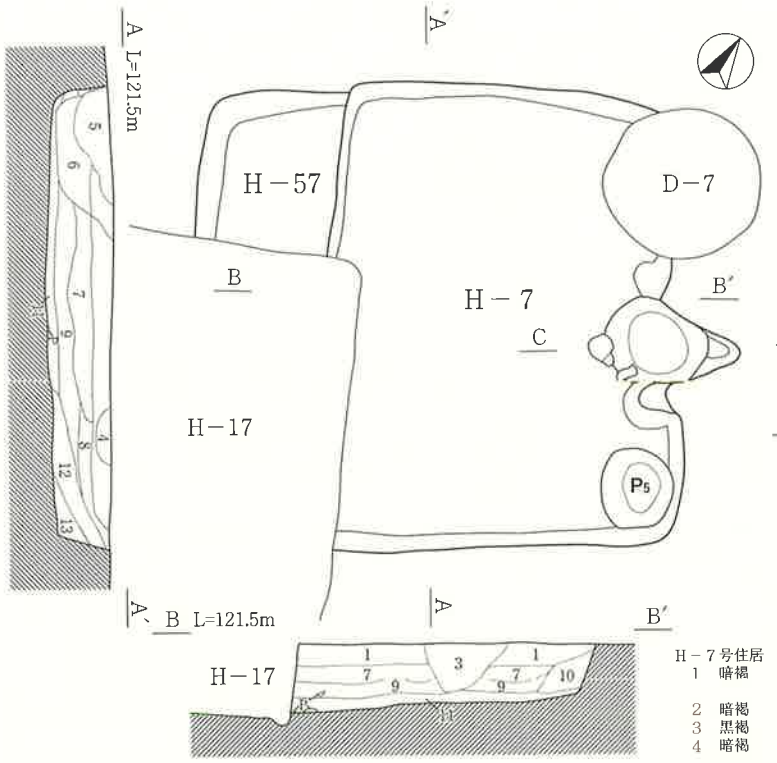
H－6号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○ ○	灰褐色土が小ブロック～しみ状に20%混在。As-C粒30%、焼土粒２%、炭化物５%含む。
2	黒褐	微	○ ○	焼土が20%しみ状～粒状に混在。As-C粒20%含む。
3	黒褐	微	○ ○	灰褐色竈粘土が30%、焼土が20%しみ状～小ブロック状～粒状に混在。
4	黒褐	微	△ ○	竈灰褐色粘土が30%しみ状混在。焼土５%しみ状混在。
5	黒褐	微	○ ○	As-C粒７%、焼土粒１%含む。
6	黒褐	微	△ △	竈粘土と灰状堆積物のしみ状混在。
7	黒褐	微	△ △	竈灰褐色粘質土主体で少量の黒褐色土がしみ状混在。
8	黒褐	細	× △	やや砂質でザラつく。混入物あまりない。
9	黒褐	微	○ ○	地山暗褐色粘土と黒褐色土のしみ状混在。As-C粒２%含む。

H－6号住居　竈セクション

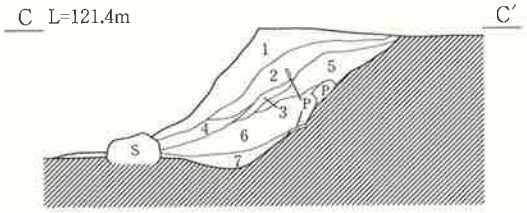
1	黒褐色土	細	◎ △	白色軽石（φ1～3㎜）10%、焼土ブロック（φ1～2㎜）３%、黄色粒若干含む。
2	黒褐色土	細	○ ○	白色軽石（φ1～2㎜）３%、白色粘土粒（φ1～2㎜）５%、焼土粒２%、炭化物若干含む。
3	暗褐色土	細	○ ○	白色粘土粒（φ1～3㎜）５%、焼土粒10%、焼土りゅう（φ1～3㎜）３%、凝灰質砂岩小ブロック３%含む。層下位に炭化物が少量堆積。
4	黒褐色土	細	△ ○	焼土粒５%、白色粘土粒（φ1～2㎜）３%、炭化物粒若干含む。層下位に灰状堆積物。

Fig.10　H－5・6号住居



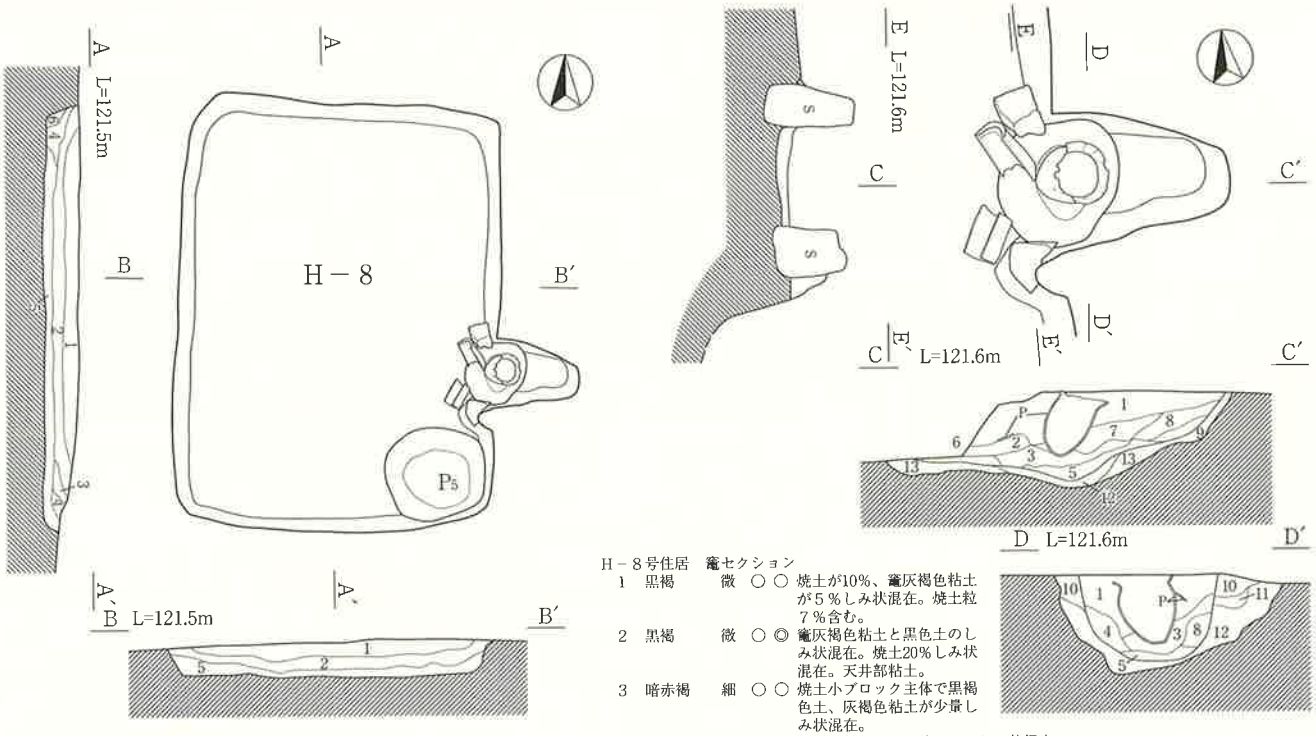
H－７号住居　ベルトセクション

1　黒～黒褐　微　○ △　わずかに灰褐色粘質土が小ブロック状混在。As-C粒30%含む。
2　黒褐　微　○ △　４層とほぼ同じ。As-C粒やや大きい。
3　黒褐　微　○ △　As-Bを少量含み砂質。As-C粒10%含む。
4　黒褐　微　○ △　As-Bを少量含む。わずかに灰褐色粘質土が小ブロック状に混在。炭化物１%含む。
5　黒褐　微　○ ×　As-Bを含みやや砂質の黒褐色土中に灰褐色粘質土が20%粒状～小ブロック状に混在。As-C粒25%、炭化物１%含む。
6　黒～黒褐　微　◎ ◎　黒色土と灰褐色粘質土のしみ状～ブロック状混在。As-C粒７%含む。
7　黒褐　細　△ △　わずかに灰褐色粘土がしみ状混在。As-C粒25%含む。
8　黒～黒褐　細　○ ○　灰褐色粘土が15%しみ状～小ブロック状混在。As-C粒15%含む。
9　黒褐　微　○ ○　やや緻密。わずかに灰褐色粘質土小ブロックを含む。As-C粒５%含む。
10　黒褐　微　○ ○　やや緻密。As-C粒３%含む。
11　黒～黒褐　微　○ ◎　灰褐～灰白色粘質土小ブロックが30%混在。As-C粒20%、炭化物３%含む。
12　黒褐　微　○ ○　10層に似るがやや緻密さに欠く。



H－７号住居　竈セクション

1　暗褐　細　○ △　白色軽石３%。焼土粒(φ1～３㎜)10%。白色軽石(φ1～５㎜)５%含む。
2　暗褐　細　○ ○　白色軽石粒１%。白色粘土粒(φ1～２㎜)10%含む。
3　黒褐　細　○ ◎　白色軽石・焼土粒１%、白色粘土ブロック５%含む。流出粘土。
4　暗褐　細　○ ◎　白色粘土小ブロック20%含む。層下位で少量の灰が混在。竈粘土の崩落土。
5　黒褐　微　○ ◎　黒褐色土が少量しみ状混在。As-C粒７%含む。
6　黒褐　細　○ △　竈粘土焼土小ブロックが20%混在。天井部焼土。
7　黒褐　微　△　△　暗褐色粘土と黒褐色土、灰状堆積物が混在。



H－８号住居　竈セクション

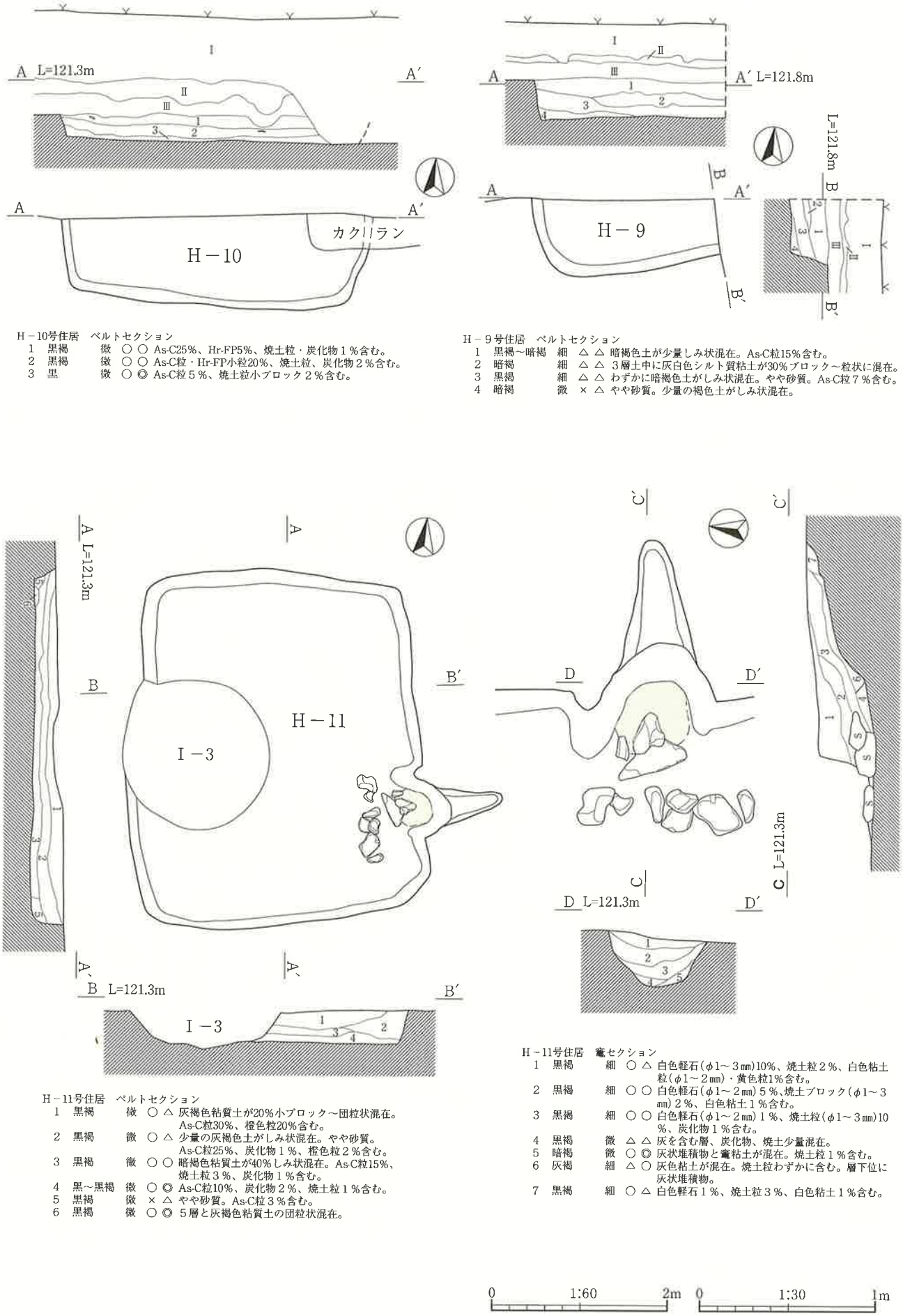
1　黒褐　微　○ ○　焼土が10%、竈灰褐色粘土が５%しみ状混在。焼土粒７%含む。
2　黒褐　微　○ ◎　竈灰褐色粘土と黒色土のしみ状混在。焼土20%しみ状混在。天井部粘土。
3　暗赤褐　細　○ ○　焼土小ブロック主体で黒褐色土、灰褐色粘土が少量しみ状混在。
4　黒褐　微　○ ○　灰褐色粘土10%、焼土５%しみ状混在。
5　黒褐　微　× △　灰状堆積物主体。焼土７%しみ状～小ブロック状混在。
6　黒褐　微　△ ◎　わずかに灰状堆積物がしみ状混在。
7　黒～黒褐　微　× △　やや緻密。灰褐色粘土が10%しみ状混在。焼土粒２%含む。
8　細　○ ○　３層と同じ。
9　黒褐　細　△ △　軟質焼土、灰状堆積物がわずかにしみ状混在。硬質焼土小ブロック７%含む。
10　黒褐　微　○ ○　少量の焼土がしみ状混在。As-C粒５%含む。
11　暗赤褐　微　△ △　暗赤褐色軟質焼土中に少量の暗褐色粘質土がしみ状混在。
12　暗褐　微　△ △　暗褐色土と軟質焼土のしみ状混在。粒度小～極小。しまりややある。粘性ややある。
13　黒褐　微　△ △　３層にわずかに灰状堆積物がしみ状混在。

H－８号住居　ベルトセクション

1　黒～黒褐　微　△ △　ごくわずか灰褐色粘質土がしみ状混在。As-C粒25%、焼土粒２%含む。
2　黒褐　微　△ ○　少量の灰褐色粘質土がしみ状混在。As-C粒20%、炭化物１%以下、焼土粒１%以下で含む。
3　黒褐　微　△ ○　２層中に、焼土粒が５%集中する部分。
4　黒　微　△ ○　As-C粒20%含む。
5　黒～黒褐　微　○ ○　黒褐色粘質土と灰褐色粘質土が少量しみ状混在。As-C粒10%含む。
6　黒褐　微　△ △　黒褐色粘質土主体。As-C粒５%含む。

0　1:60　2m　0　1:30　1m

Fig.11　H－７・８・57号住居



H－10号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○ ○	As-C25%、Hr-FP5%、焼土粒・炭化物１%含む。
2	黒褐	微	○ ○	As-C粒・Hr-FP小粒20%、焼土粒、炭化物２%含む。
3	黒	微	○ ◎	As-C粒５%、焼土粒小ブロック２%含む。

H－９号住居　ベルトセクション

1	黒褐～暗褐	細	△ △	暗褐色土が少量しみ状混在。As-C粒15%含む。
2	暗褐	細	△ △	３層土中に灰白色シルト質粘土が30%ブロック～粒状に混在。
3	黒褐	細	△ △	わずかに暗褐色土がしみ状混在。やや砂質。As-C粒７%含む。
4	暗褐	微	× △	やや砂質。少量の褐色土がしみ状混在。

H－11号住居　ベルトセクション

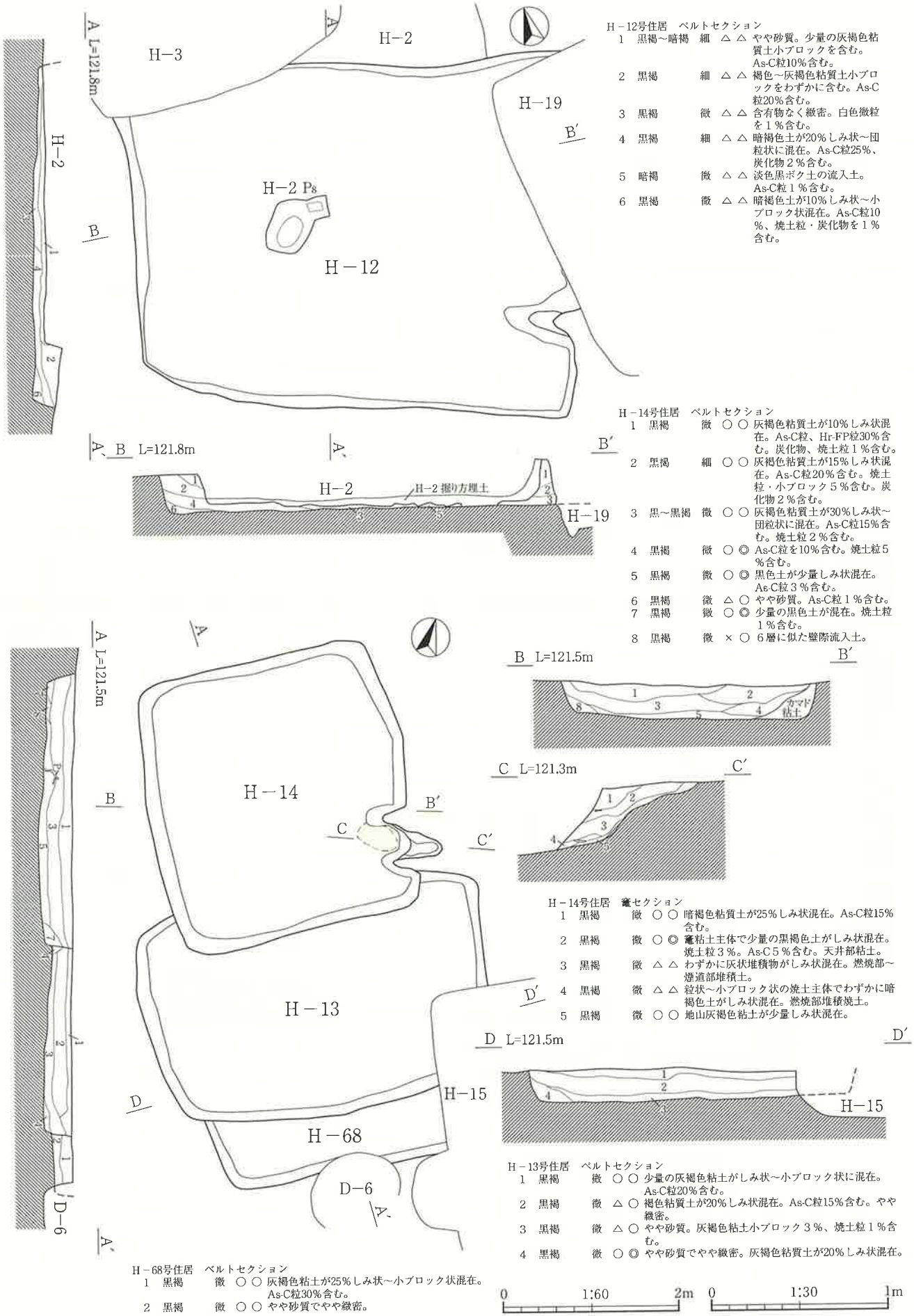
1	黒褐	微	○ △	灰褐色粘質土が20%小ブロック～団粒状混在。As-C粒30%、橙色粒20%含む。
2	黒褐	微	○ △	少量の灰褐色土がしみ状混在。やや砂質。As-C粒25%、炭化物１%、橙色粒２%含む。
3	黒褐	微	○ ○	暗褐色粘質土が40%しみ状混在。As-C粒15%、焼土粒３%、炭化物１%含む。
4	黒～黒褐	微	○ ◎	As-C粒10%、炭化物２%、焼土粒１%含む。
5	黒褐	微	× △	やや砂質。As-C粒３%含む。
6	黒褐	微	○ ◎	５層と灰褐色粘質土の団粒状混在。

H－11号住居　竈セクション

1	黒褐	細	○ △	白色軽石(φ1～３㎜)10%、焼土粒２%、白色粘土粒(φ1～２㎜)・黄色粒1%含む。
2	黒褐	細	○ ○	白色軽石(φ1～２㎜)５%、焼土ブロック(φ1～３㎜)２%、白色粘土１%含む。
3	黒褐	細	○ ○	白色軽石(φ1～２㎜)１%、焼土粒(φ1～３㎜)10%、炭化物１%含む。
4	黒褐	微	△ △	灰を含む層、炭化物、焼土少量混在。
5	暗褐	微	○ ◎	灰状堆積物と竈粘土が混在。焼土粒１%含む。
6	灰褐	細	△ ○	灰色粘土が混在。焼土粒わずかに含む。層下位に灰状堆積物。
7	黒褐	細	○ △	白色軽石１%、焼土粒３%、白色粘土１%含む。

0　1:60　2m　0　1:30　1m

Fig.12　H－９・10・11号住居



H－12号住居　ベルトセクション

1	黒褐～暗褐	細	△	△	やや砂質。少量の灰褐色粘質土小ブロックを含む。As-C粒10%含む。
2	黒褐	細	△	△	褐色～灰褐色粘質土小ブロックをわずかに含む。As-C粒20%含む。
3	黒褐	微	△	△	含有物なく緻密。白色微粒を１%含む。
4	黒褐	細	△	△	暗褐色土が20%しみ状～団粒状に混在。As-C粒25%、炭化物２%含む。
5	暗褐	微	△	△	淡色黒ボク土の流入土。As-C粒１%含む。
6	黒褐	微	△	△	暗褐色土が10%しみ状～小ブロック状混在。As-C粒10%、焼土粒・炭化物を１%含む。

H－14号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○	○	灰褐色粘質土が10%しみ状混在。As-C粒、Hr-FP粒30%含む。炭化物、焼土粒１%含む。
2	黒褐	細	○	○	灰褐色粘質土が15%しみ状混在。As-C粒20%含む。焼土粒・小ブロック５%含む。炭化物２%含む。
3	黒～黒褐	微	○	○	灰褐色粘質土が30%しみ状～団粒状に混在。As-C粒15%含む。焼土粒２%含む。
4	黒褐	微	○	◎	As-C粒を10%含む。焼土粒５%含む。
5	黒褐	微	○	◎	黒色土が少量しみ状混在。As-C粒３%含む。
6	黒褐	微	△	○	やや砂質。As-C粒１%含む。
7	黒褐	微	○	◎	少量の黒色土が混在。焼土粒１%含む。
8	黒褐	微	×	○	６層に似た壁際流入土。

H－14号住居　竈セクション

1	黒褐	微	○	○	暗褐色粘質土が25%しみ状混在。As-C粒15%含む。
2	黒褐	微	○	◎	竈粘土主体で少量の黒褐色土がしみ状混在。焼土粒３%。As-C５%含む。天井部粘土。
3	黒褐	微	△	△	わずかに灰状堆積物がしみ状混在。燃焼部～煙道部堆積土。
4	黒褐	微	△	△	粒状～小ブロック状の焼土主体でわずかに暗褐色土がしみ状混在。燃焼部堆積焼土。
5	黒褐	微	○	○	地山灰褐色粘土が少量しみ状混在。

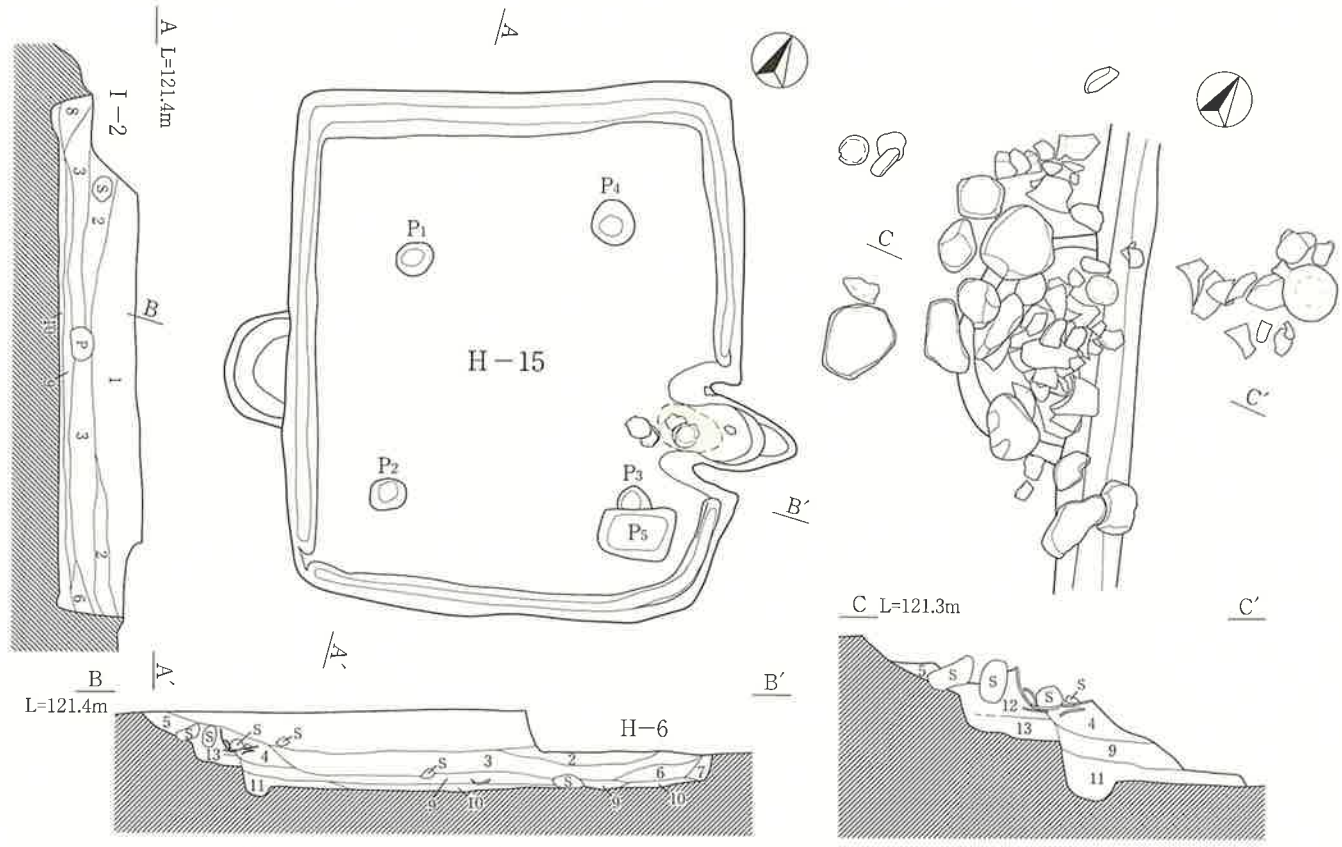
H－13号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○	○	少量の灰褐色粘土がしみ状～小ブロック状に混在。As-C粒20%含む。
2	黒褐	微	△	○	褐色粘質土が20%しみ状混在。As-C粒15%含む。やや緻密。
3	黒褐	微	△	○	やや砂質。灰褐色粘土小ブロック３%、焼土粒１%含む。
4	黒褐	微	○	◎	やや砂質でやや緻密。灰褐色粘質土が20%しみ状混在。

H－68号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○	○	灰褐色粘土が25%しみ状～小ブロック状混在。As-C粒30%含む。
2	黒褐	微	○	○	やや砂質でやや緻密。

Fig.13　H－12・13・14・68号住居

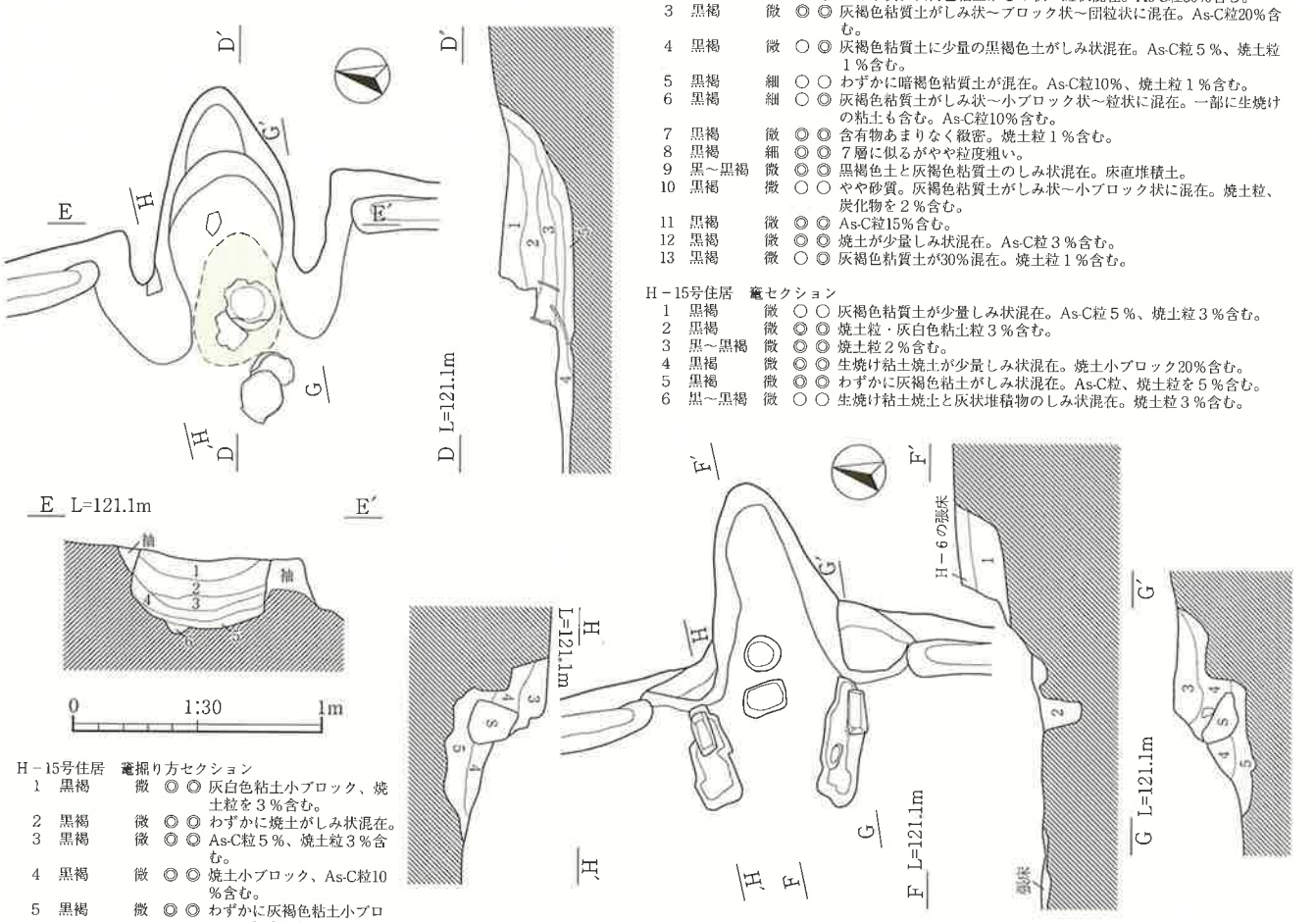


H－15号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○ ○	灰褐色粘質土がわずかにしみ状～小ブロック状混在。As-C粒35%、炭化物２%含む。
2	黒～黒褐	微	○ ○	やや砂質。灰褐色粘土がしみ状～斑状混在。As-C粒30%含む。
3	黒褐	微	◎ ◎	灰褐色粘質土がしみ状～ブロック状～団粒状に混在。As-C粒20%含む。
4	黒褐	微	○ ◎	灰褐色粘質土に少量の黒褐色土がしみ状混在。As-C粒５%、焼土粒１%含む。
5	黒褐	細	○ ○	わずかに暗褐色粘質土が混在。As-C粒10%、焼土粒１%含む。
6	黒褐	細	○ ◎	灰褐色粘質土がしみ状～小ブロック状～粒状に混在。一部に生焼けの粘土も含む。As-C粒10%含む。
7	黒褐	微	◎ ◎	含有物あまりなく緻密。焼土粒１%含む。
8	黒褐	細	◎ ◎	７層に似るがやや粒度粗い。
9	黒～黒褐	微	◎ ◎	黒褐色土と灰褐色粘質土のしみ状混在。床直堆積土。
10	黒褐	微	○ ○	やや砂質。灰褐色粘質土がしみ状～小ブロック状に混在。焼土粒、炭化物を２%含む。
11	黒褐	微	◎ ◎	As-C粒15%含む。
12	黒褐	微	◎ ◎	焼土が少量しみ状混在。As-C粒３%含む。
13	黒褐	微	○ ◎	灰褐色粘質土が30%混在。焼土粒１%含む。

H－15号住居　竈セクション

1	黒褐	微	○ ○	灰褐色粘質土が少量しみ状混在。As-C粒５%、焼土粒３%含む。
2	黒褐	微	◎ ◎	焼土粒・灰白色粘土粒３%含む。
3	黒～黒褐	微	◎ ◎	焼土粒２%含む。
4	黒褐	微	◎ ◎	生焼け粘土焼土が少量しみ状混在。焼土小ブロック20%含む。
5	黒褐	微	◎ ◎	わずかに灰褐色粘土がしみ状混在。As-C粒、焼土粒を５%含む。
6	黒～黒褐	微	○ ○	生焼け粘土焼土と灰状堆積物のしみ状混在。焼土粒３%含む。



H－15号住居　竈掘り方セクション

1	黒褐	微	◎ ◎	灰白色粘土小ブロック、焼土粒を３%含む。
2	黒褐	微	◎ ◎	わずかに焼土がしみ状混在。
3	黒褐	微	◎ ◎	As-C粒５%、焼土粒３%含む。
4	黒褐	微	◎ ◎	焼土小ブロック、As-C粒10%含む。
5	黒褐	微	◎ ◎	わずかに灰褐色粘土小ブロックが混在。焼土粒３%、As-C粒５%含む。

Fig.14　H－15号住居

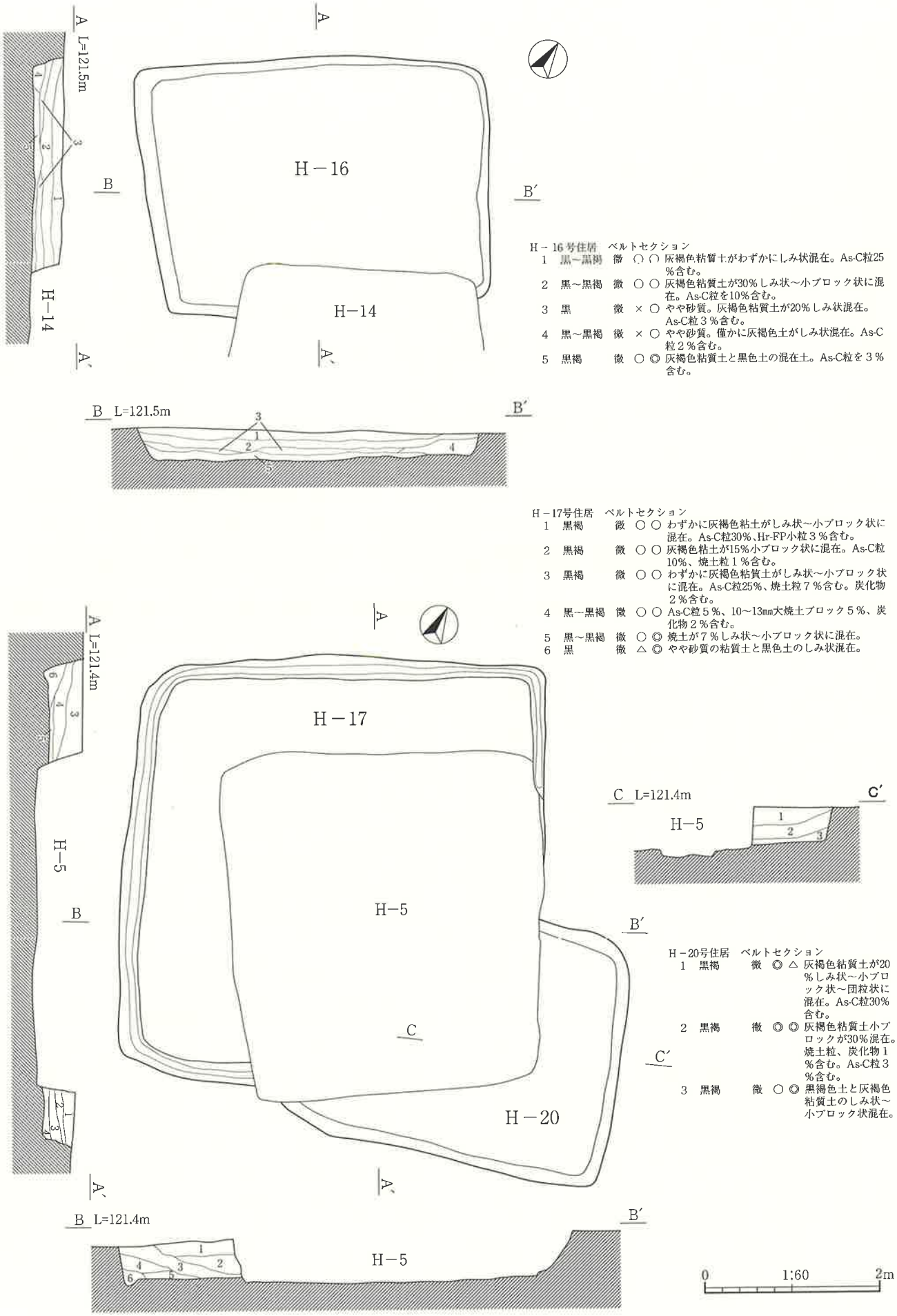
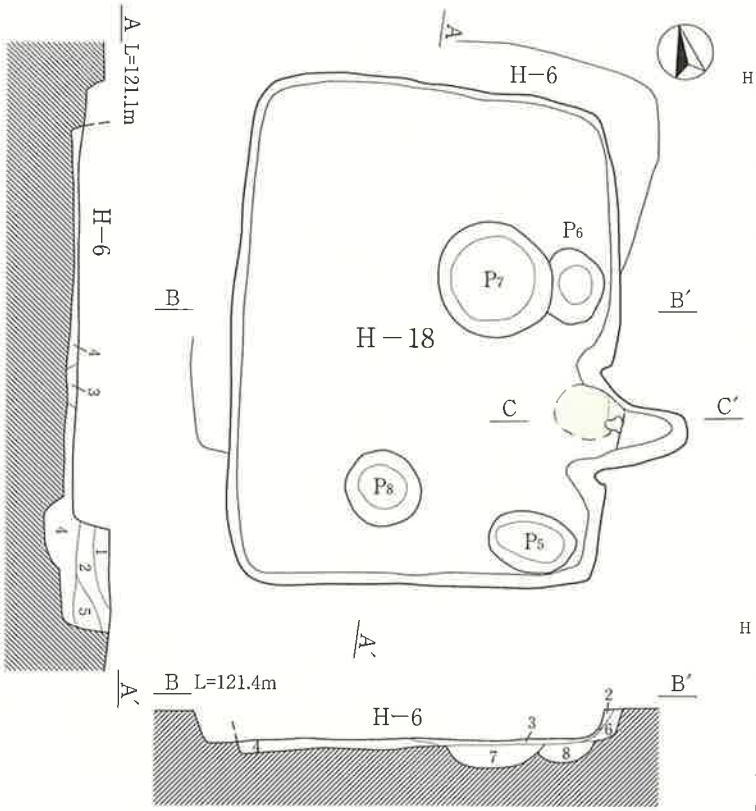
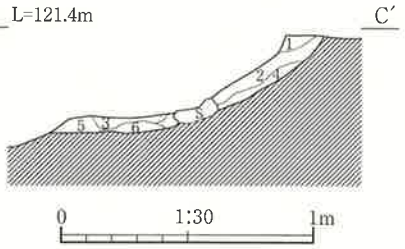


Fig.15　H－16・17・20号住居



H－18号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○	△	ごくわずか暗褐色土がしみ状混在。As-C粒15%、焼土粒３%含む。
2	黒褐	微	○	△	灰褐色粘土が30%しみ状～斑状～小ブロック状に混在。As-C粒10%、焼土粒７%、炭化物３%含む。
3	黒褐	微	○	○	焼土小ブロック・粒が30%混在。少量の灰状堆積物含む。
4	黒褐	微	○	○	黒褐色土と灰褐色粘質土の混在土。As-C粒15%、焼土粒３%、炭化物１%含む。
5	黒褐	微	○	△	やや緻密。As-C粒５%、焼土粒２%含む。
6	黒褐	微	○	△	焼土が10%しみ状混在。As-C粒５%含む。
7	黒褐	細	×	△	暗褐色土、焼土小ブロック、灰褐色粘土のブロック状～斑状混在。少量の灰状堆積物含む。床下土坑覆土か。
8	黒褐	微	○	○	As-C粒３%、焼土粒、炭化物２%含む。

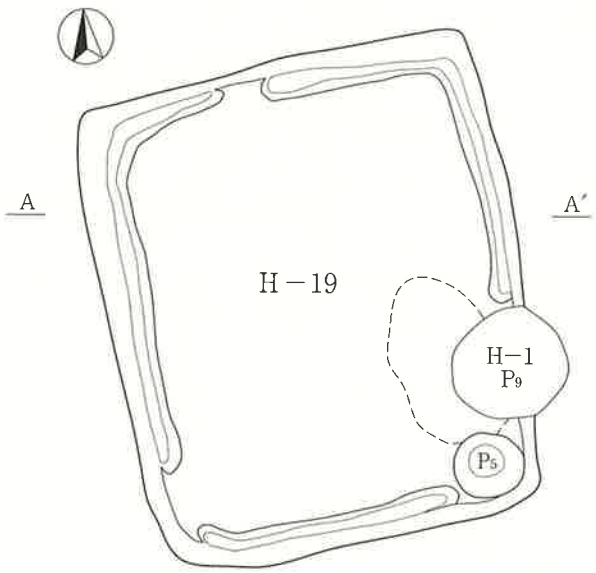


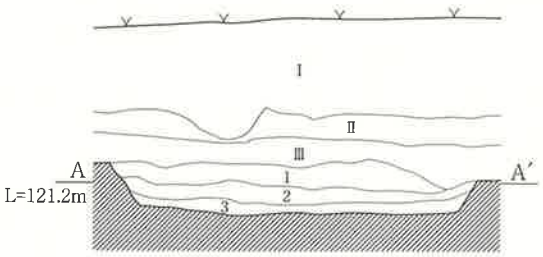
H－18号住居　竈セクション

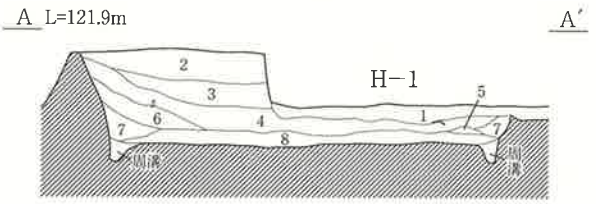
1	黒褐	微	○	△	やや砂質。ごくわずか暗灰褐色粘土がしみ状混在。As-C粒10%含む。
2	黒褐	微	◎	◎	暗灰褐色粘土中に少量の黒色土がしみ状混在。一部焼土化。天井部崩落焼土。
3	黒褐	微	○	○	層理状に灰状物質が混在。焼土粒５%含む。
4	黒褐	微	△	○	わずかに灰状堆積物を含む。燃焼部～煙道部堆積土。
5	黒褐	微	◎	◎	30%灰白色粘土がしみ状～小ブロック状に混在。焼土粒３%含む。
6	黒褐～暗褐	微	◎	◎	暗灰褐色粘土主体。埋め戻した粘土か。

H－19号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○	△	わずかに黄褐色土がしみ状～小ブロック状混在。As-C粒７%含む。
2	暗褐	粗	△	×	やや砂質。As-C粒30%含む。
3	暗褐	細	△	△	As-C粒20%、黄褐色土粒５%含む。
4	黒褐	細	×	△	わずかに暗褐色土がしみ状混在。As-C粒７%、黄褐色土粒２%含む。
5	黒褐	微	×	△	わずかに極暗赤褐色粘土がしみ状混在。
6	黒褐	細	×	△	少量の褐色土がしみ状混在。As-C５%含む。
7	暗褐	微	×	△	褐色土主体の壁際流入土。黄褐色土粒・小ブロックを５%含む。
8	黒褐	微	△	△	黄褐色土が20%しみ状混在。As-C３%含む。







H－21号住居　ベルトセクション

1	黒褐	細	○	△	As-C混土層に似る。As-C粒20%、焼土粒１%含む。
2	黒～黒褐	微	◎	△	少量の暗灰褐色粘質土しみ状混在。わずかに灰褐色粘質土しみ状混在。As-C20%含む。
3	黒褐	微	○	◎	やや砂質。As-C粒３%含む。

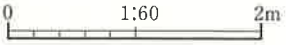
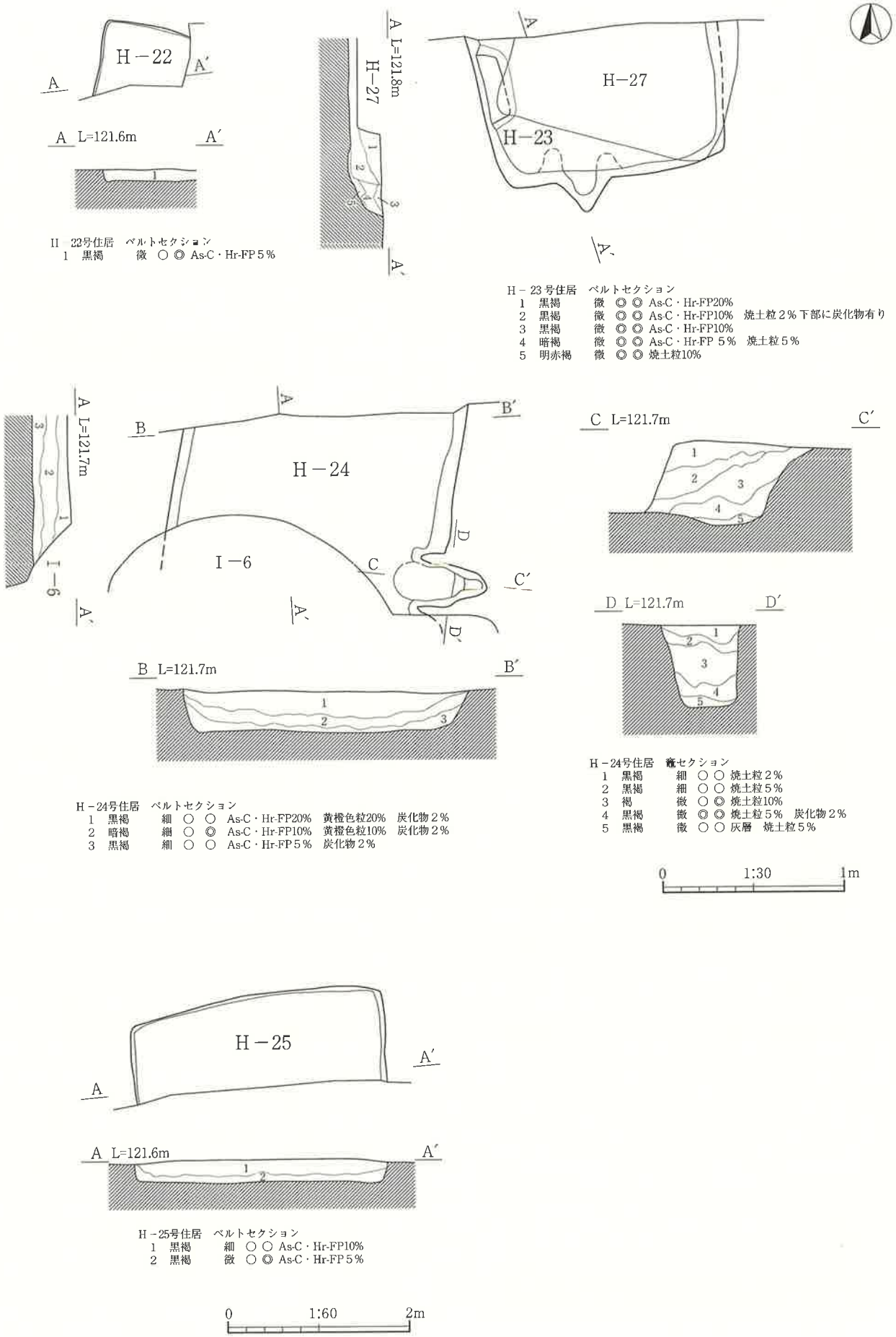


Fig.16　H－18・19・21号住居



II 22号住居 ベルトセクション
1 黒褐 微 ○ ◎ As-C・Hr-FP５％

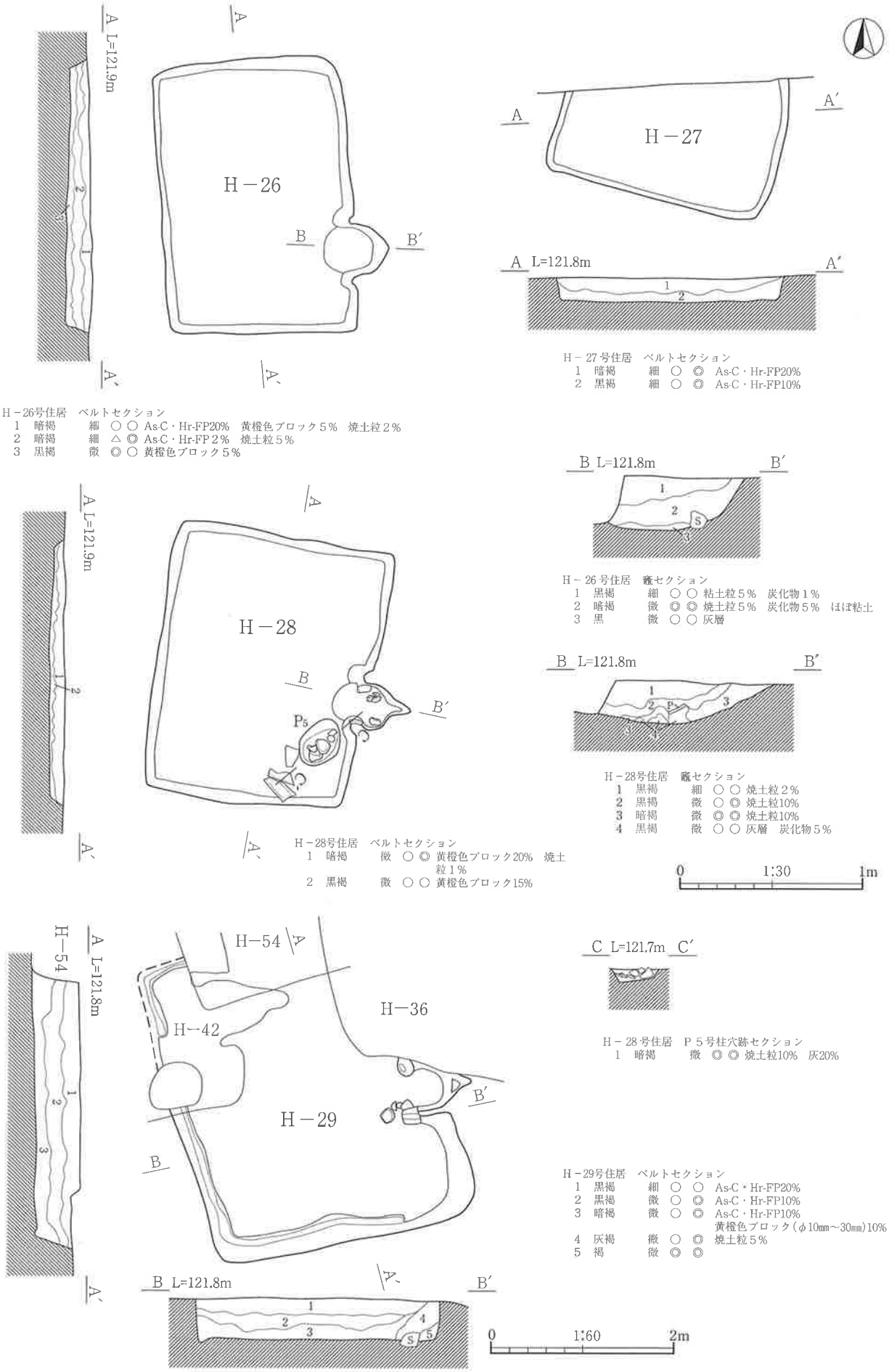
H－23号住居 ベルトセクション
1 黒褐 微 ◎ ◎ As-C・Hr-FP20%
2 黒褐 微 ◎ ◎ As-C・Hr-FP10% 焼土粒２％下部に炭化物有り
3 黒褐 微 ◎ ◎ As-C・Hr-FP10%
4 暗褐 微 ◎ ◎ As-C・Hr-FP ５％ 焼土粒５％
5 明赤褐 微 ◎ ◎ 焼土粒10%

H－24号住居 ベルトセクション
1 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP20% 黄橙色粒20% 炭化物２％
2 暗褐 細 ○ ◎ As-C・Hr-FP10% 黄橙色粒10% 炭化物２％
3 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP５％ 炭化物２％

H－24号住居 竈セクション
1 黒褐 細 ○ ○ 焼土粒２％
2 黒褐 細 ○ ○ 焼土粒５％
3 褐 微 ○ ◎ 焼土粒10%
4 黒褐 微 ◎ ◎ 焼土粒５％ 炭化物２％
5 黒褐 微 ○ ○ 灰層 焼土粒５％

H－25号住居 ベルトセクション
1 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP10%
2 黒褐 微 ○ ◎ As-C・Hr-FP５％

Fig.17 H－22～25号住居



H－26号住居　ベルトセクション
1　暗褐　細　○ ○ As-C・Hr-FP20%　黄橙色ブロック５%　焼土粒２%
2　暗褐　細　△ ◎ As-C・Hr-FP２%　焼土粒５%
3　黒褐　微　◎ ○ 黄橙色ブロック５%

H－27号住居　ベルトセクション
1　暗褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP20%
2　黒褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP10%

H－26号住居　竈セクション
1　黒褐　細　○ ○ 粘土粒５%　炭化物１%
2　暗褐　微　◎ ◎ 焼土粒５%　炭化物５%　ほぼ粘土
3　黒　微　○ ○ 灰層

H－28号住居　竈セクション
1　黒褐　細　○ ○ 焼土粒２%
2　黒褐　微　○ ◎ 焼土粒10%
3　暗褐　微　◎ ◎ 焼土粒10%
4　黒褐　微　○ ○ 灰層　炭化物５%

H－28号住居　ベルトセクション
1　暗褐　微　○ ◎ 黄橙色ブロック20%　焼土粒１%
2　黒褐　微　○ ○ 黄橙色ブロック15%

H－28号住居　Ｐ５号柱穴跡セクション
1　暗褐　微　◎ ◎ 焼土粒10%　灰20%

H－29号住居　ベルトセクション
1　黒褐　細　○ ○ As-C・Hr-FP20%
2　黒褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP10%
3　暗褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP10%
黄橙色ブロック（φ10㎜～30㎜）10%
4　灰褐　微　○ ◎ 焼土粒５%
5　褐　微　◎ ◎

Fig.18　H－26～29号住居

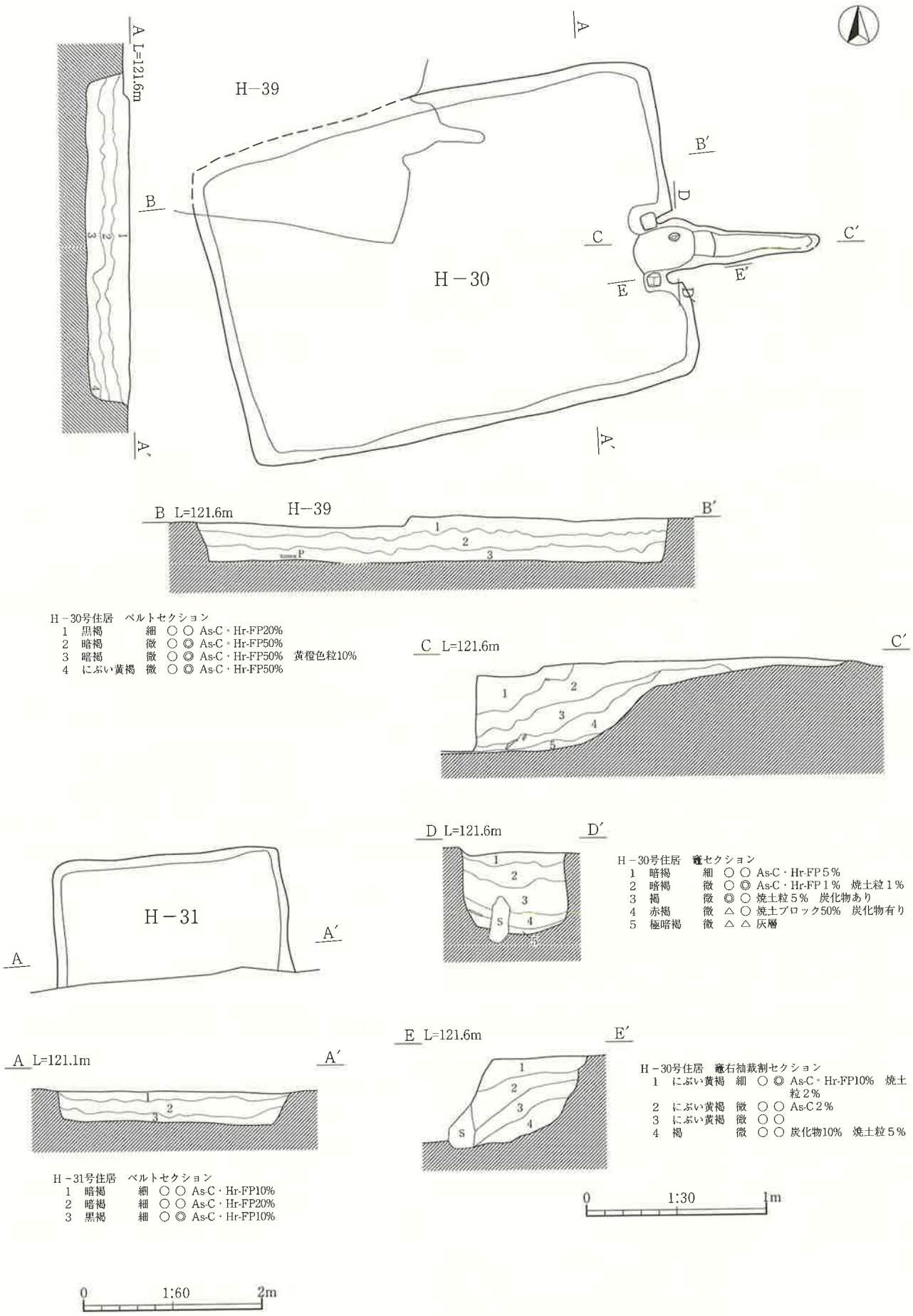


Fig.19　H－30・31号住居

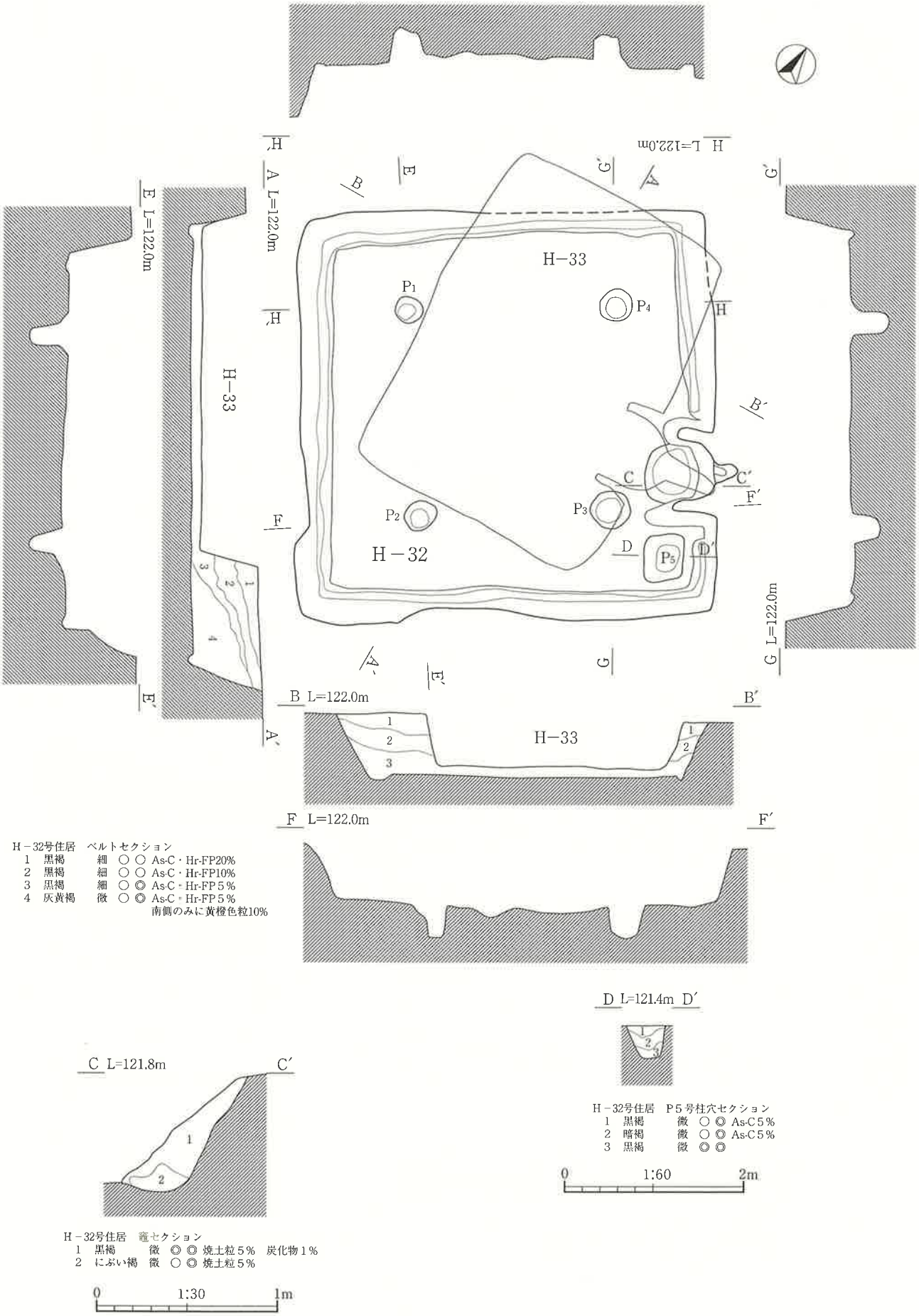


Fig.20　H－32号住居

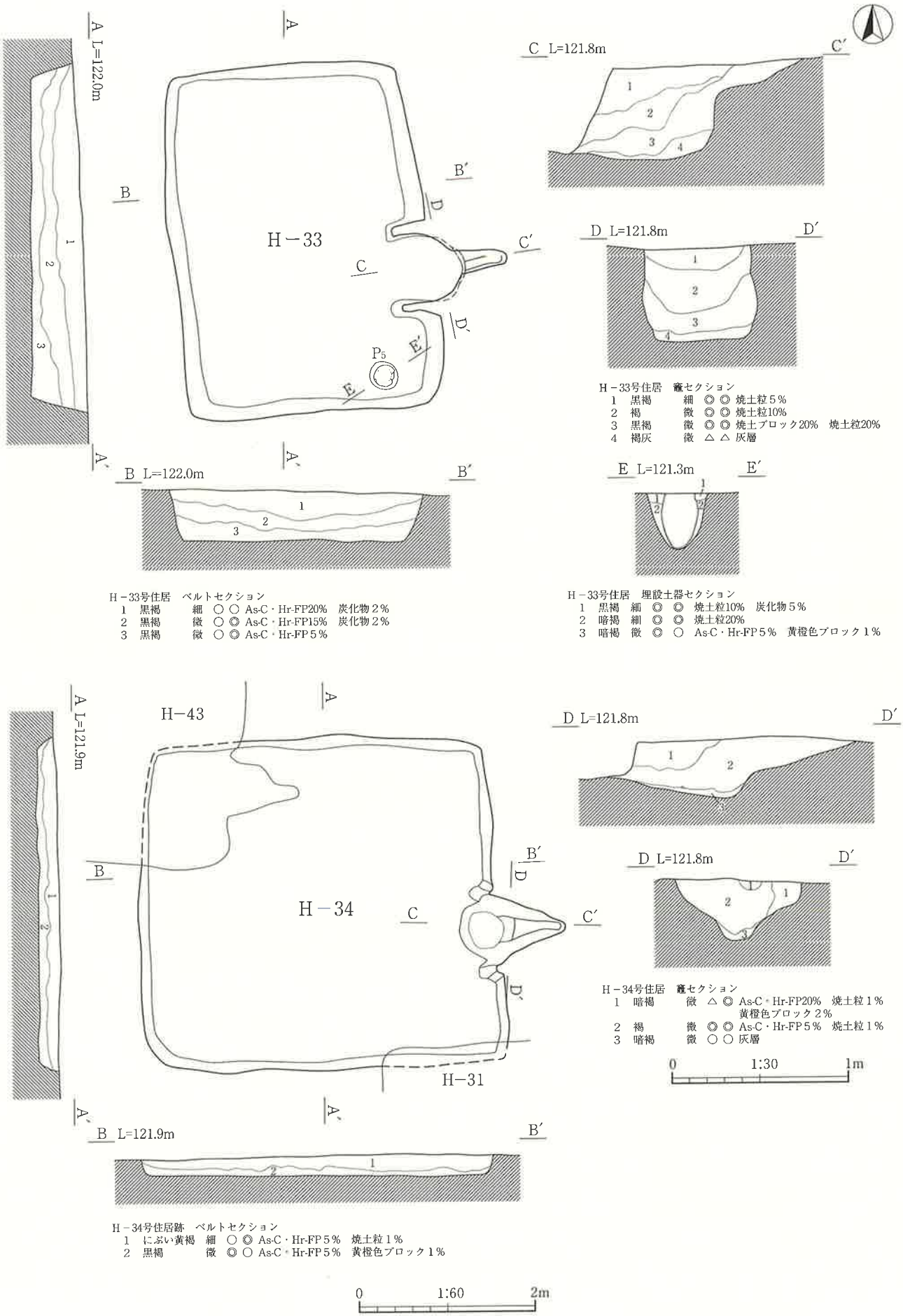


Fig.21　H－33・34号住居

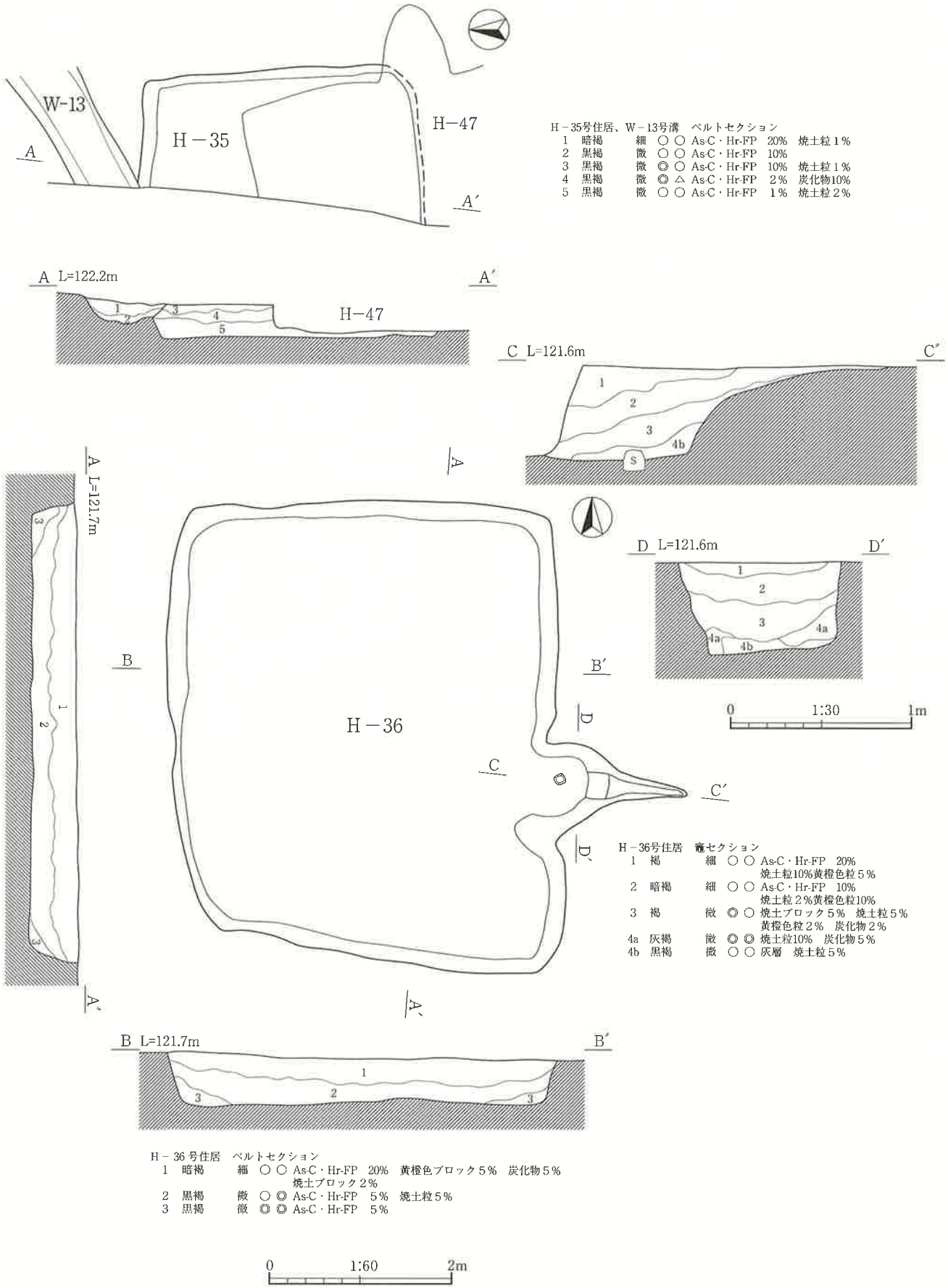


Fig.22　H－35・36号住居

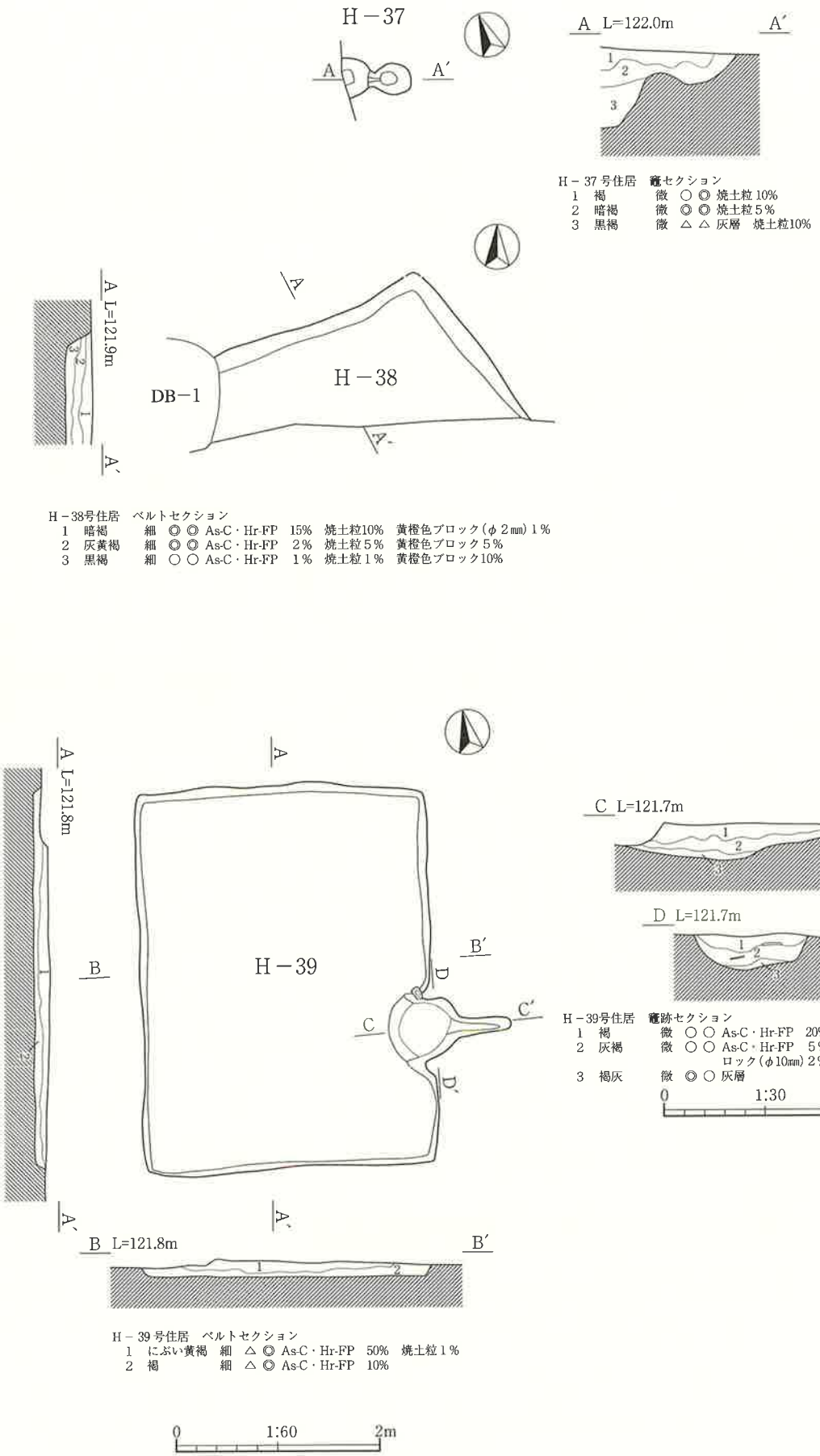
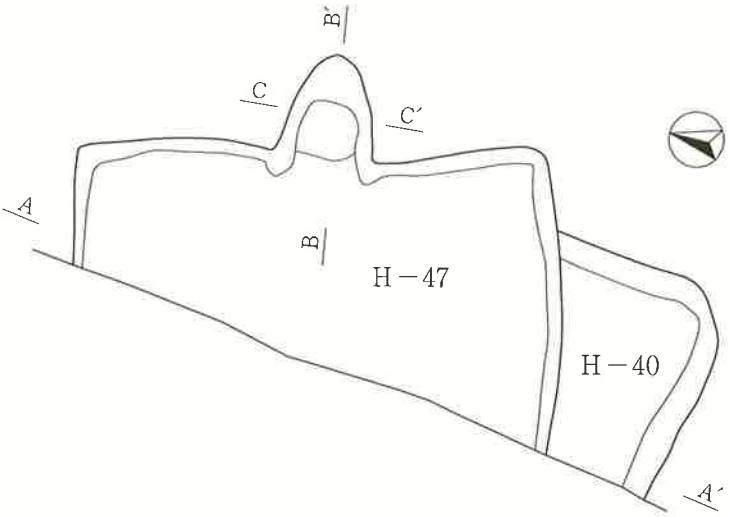
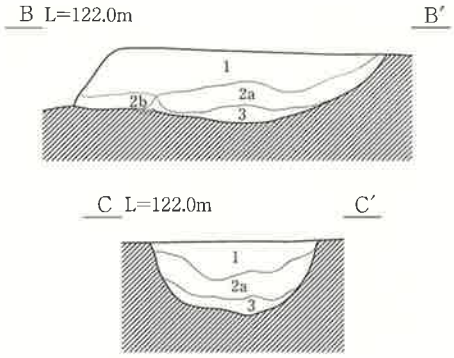


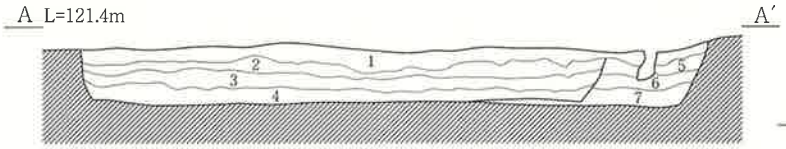
Fig.23　H－37～39号住居





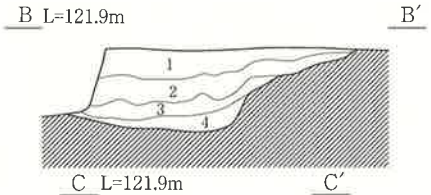
H－47号住居　竈セクション

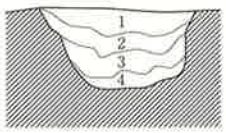
1	褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP 20%	黄橙色ブロック１%	
2a	にぶい黄褐	微	◎ ◎	As-C・Hr-FP 20%	黄橙色ブロック２%	
2b	灰褐	微	○ ◎	焼土粒５%	焼土ブロック２%	
3	暗褐	微	◎ ○	灰層	焼土粒２%	



H－40，47号住居　ベルトセクション

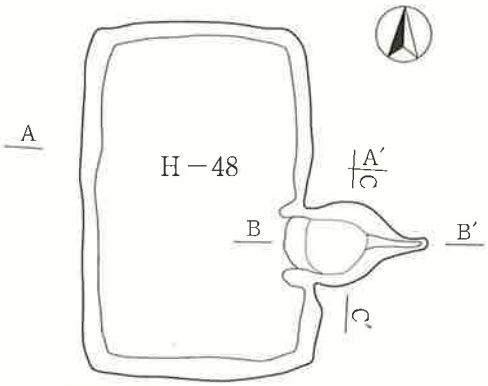
1	褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 20%	焼土粒１%	
2	にぶい黄褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10%		(H-47)
3	暗褐	微	△ ○	As-C・Hr-FP ５%	焼土粒２%	(H-47)
4	暗褐	微	○ ○	As-C・Hr-FP ２%	焼土粒１%	(H-47)
5	褐	細	○ △	As-C・Hr-FP 20%	焼土粒１%　黄橙色ブロック１%	(H-40)
6	黄褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP ５%	焼土粒１%　黄橙色ブロック２%	(H-40)
7	にぶい黄褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP １%	黄橙色ブロック10%	(H-40)

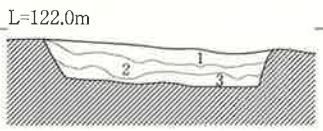




H－48号住居　竈セクション

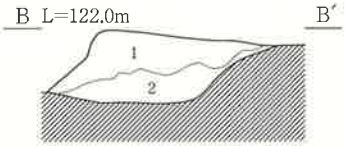
1	褐	微	○ ◎	As-C・Hr-FP 10%	黄橙色ブロック２%
2	にぶい黄褐	微	○ ◎	As-C・Hr-FP １%	焼土粒１%
3	暗褐	微	○ ◎	焼土粒１%	
4	暗褐	微	○ ◎	灰層	





H－48号住居　ベルトセクション

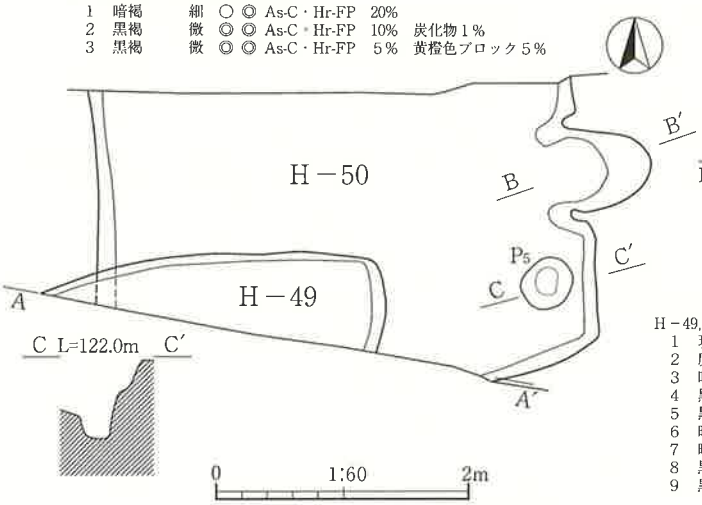
1	暗褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP 20%	
2	黒褐	微	◎ ◎	As-C・Hr-FP 10%	炭化物１%
3	黒褐	微	◎ ◎	As-C・Hr-FP ５%	黄橙色ブロック５%

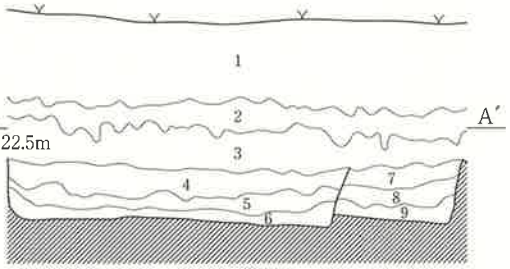


H－50号住居　竈セクション

1	にぶい黄褐	微	△ ◎	炭化物	２%崩れた粘土の可能性有り
2	黒褐	微	○ ◎	炭化物	10%下部に灰層

0　1:30　1m

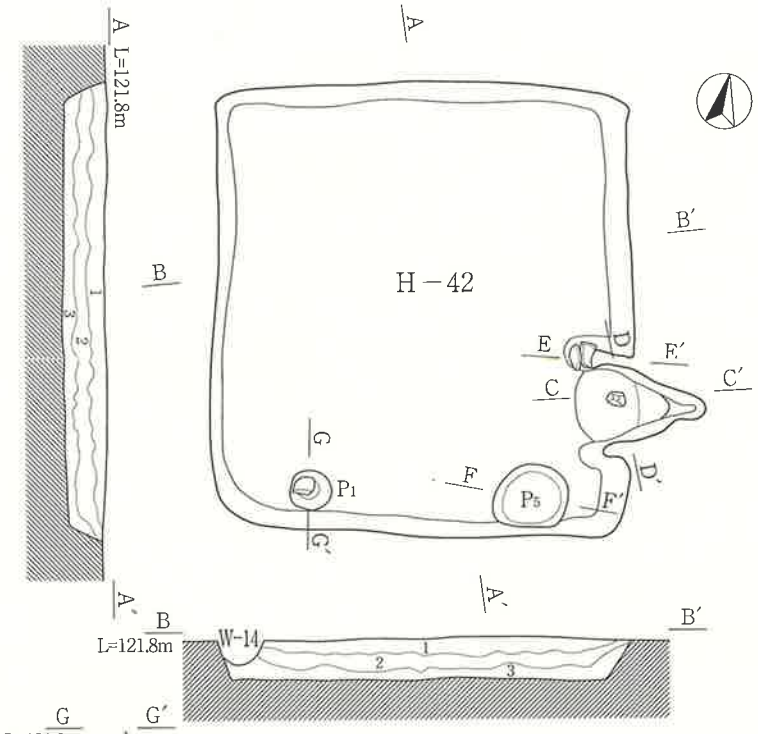




H－49，50号住居　ベルトセクション

1	現耕作土					
2	灰黄褐	粗	△ △	As-B 50%		
3	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10%		
4	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10%		(H-49)
5	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10%	黄橙色ブロック５%	(H-49)
6	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 20%	黄橙色ブロック10%	(H-49)
7	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 20%		(H-50)
8	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 20%		(H-50)
9	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10%		(H-50)

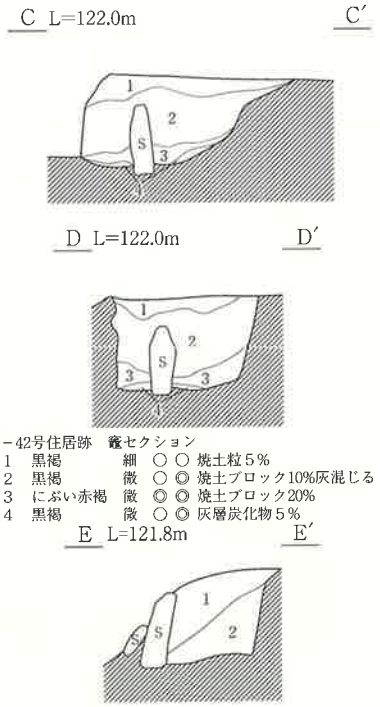
Fig.24　H－40・47・48～50号住居



H－42号住居　ベルトセクション
1　黒褐　細　○ ○ As-C・Hr-FP　10%
2　暗褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP　5%
3　黒褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP　5%

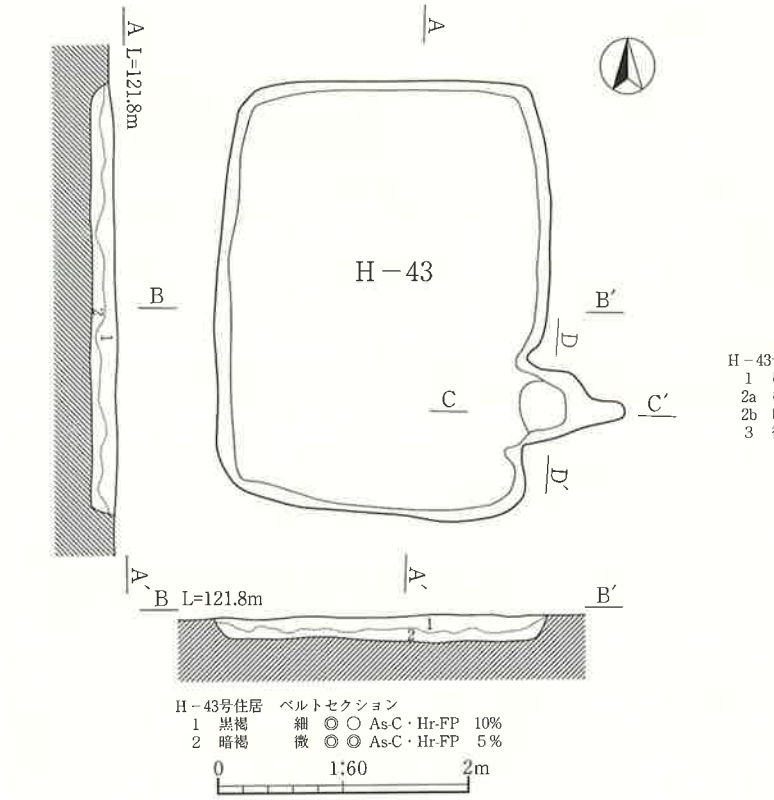
H－42号住居跡　P1号柱穴セクション
1　黒褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP　5%

H－42号住居　P5号柱穴セクション
1　褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP　5%　焼土粒1%
2　暗褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP　1%　焼土粒1%



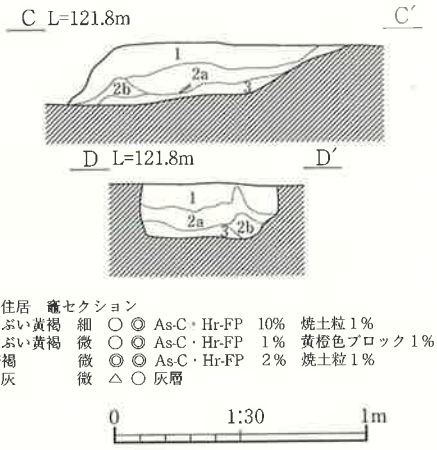
H－42号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○ ○ 焼土粒5%
2　黒褐　微　○ ◎ 焼土ブロック10%灰混じる
3　にぶい赤褐　微　◎ ◎ 焼土ブロック20%
4　黒褐　微　○ ◎ 灰層炭化物5%

H－42号住居　竈左袖裁割セクション
1　にぶい赤褐　微　◎ ◎ 焼土粒10%
2　褐色　微　◎ ◎ 焼土ブロック5%



H－43号住居　ベルトセクション
1　黒褐　細　◎ ○ As-C・Hr-FP　10%
2　暗褐　微　◎ ◎ As-C・Hr-FP　5%

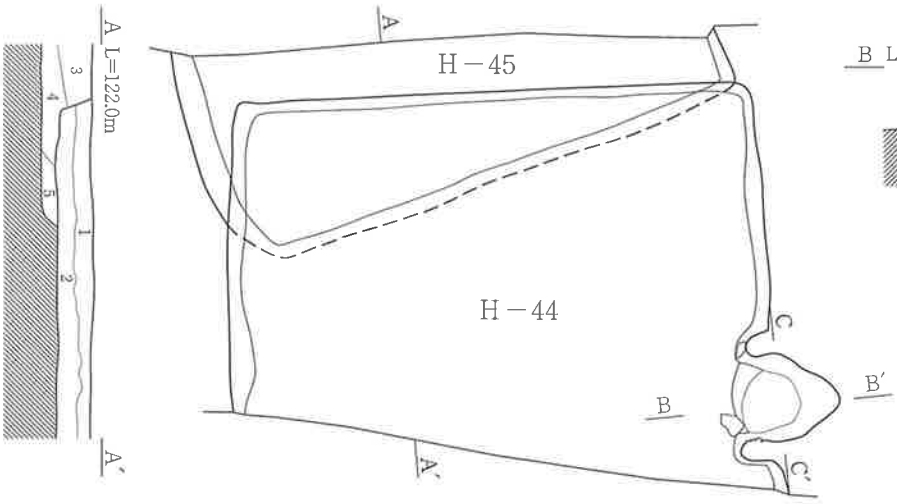
0　1:60　2m

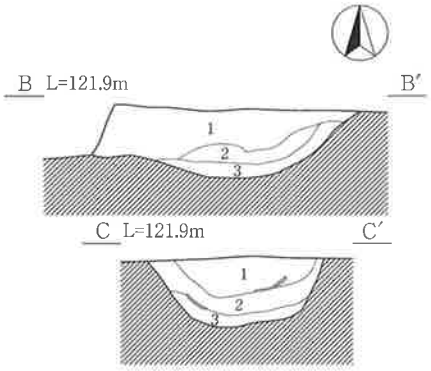


H－43号住居　竈セクション
1　にぶい黄褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP　10%　焼土粒1%
2a　にぶい黄褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP　1%　黄橙色ブロック1%
2b　暗褐　微　◎ ◎ As-C・Hr-FP　2%　焼土粒1%
3　褐灰　微　△ ○ 灰層

0　1:30　1m

Fig.25　H－42・43号住居



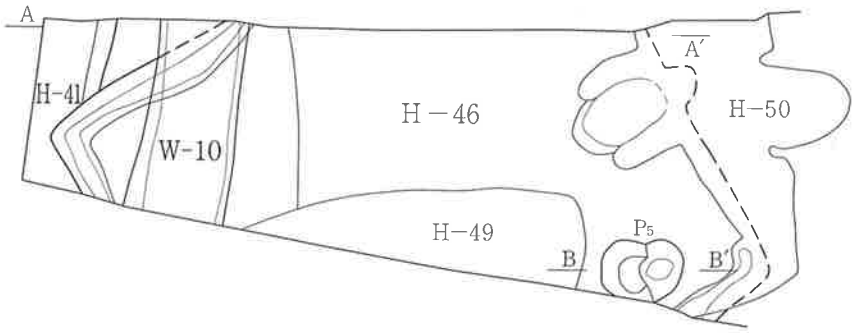


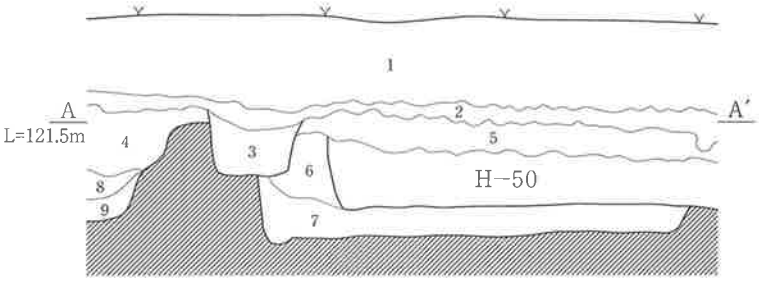
H－44号住居　竈セクション
1　暗褐　　微　○ ◎　焼土粒５％
2　にぶい赤褐　微　◎ ◎　焼土ブロック10%
3　灰褐　　微　△ △　灰層

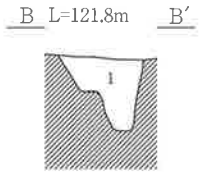
0　1:30　1m

H－44，45号住居　ベルトセクション

1	暗褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP　10%	焼土粒２％	(H-44)
2	暗褐	微	◎	◎	As-C・Hr-FP　2％		(H-44)
3	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP　10%		(H-45)
4	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP　5％		(H-45)
5	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP　20%	黄橙色ブロック（φ10㎜）２％	(H-45)







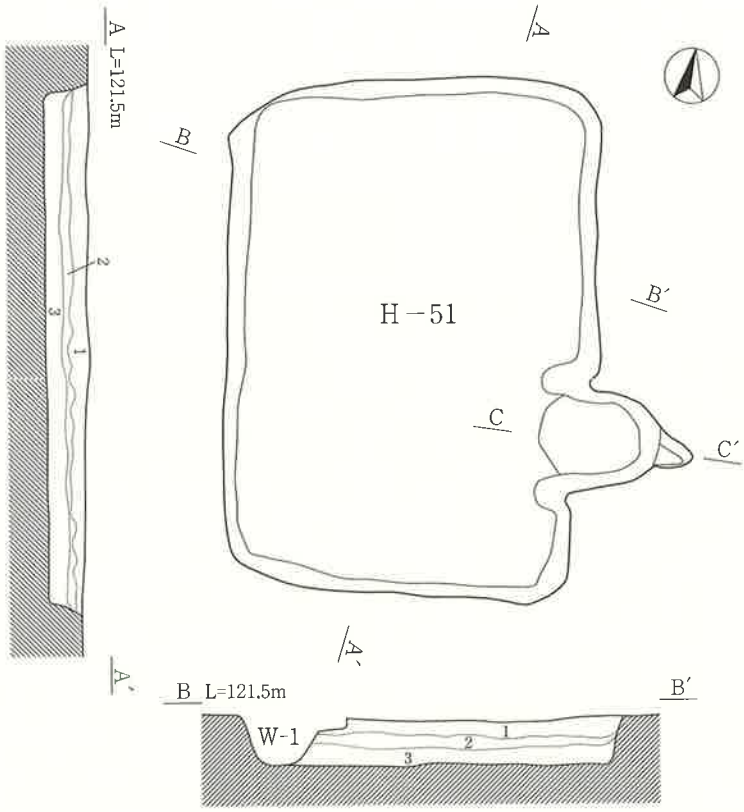
H－46号住居　P5号柱穴セクション
1　にぶい黄褐　細　△ ○　As-C・Hr-FP20%
黄橙色粒10%炭化物５％

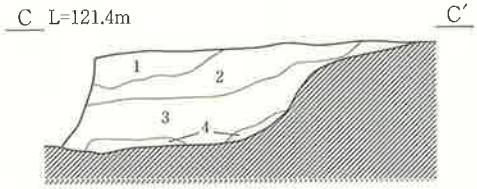
H－41，46号住居、W－10号溝　ベルトセクション

1	現耕作土						
2	灰黄褐	粗	△	△	As-B　50%		
3	灰黄褐	細	△	○	As-B　20%		(W-10)
4	にぶい黄褐	細	△	○	As-C＊Hr-FP　10%	黄橙色ブロック（φ10㎜）10%	
5	暗褐	細	○	○	As-C＊Hr-FP　10%		
6	灰黄褐	細	○	○	As-C＊Hr-FP　20%		(H-46)
7	にぶい黄褐	細	△	○	As-C＊Hr-FP　20%	黄橙色粒10%	(H-46)
8	にぶい黄褐	微	○	○	As-C＊Hr-FP　20%	黄橙色ブロック10%	(H-41)
9	にぶい黄褐	微	○	◎	As-C＊Hr-FP　5％	黄橙色粒10%	(H-41)

0　1:60　2m

Fig.26　H－41・44～46号住居



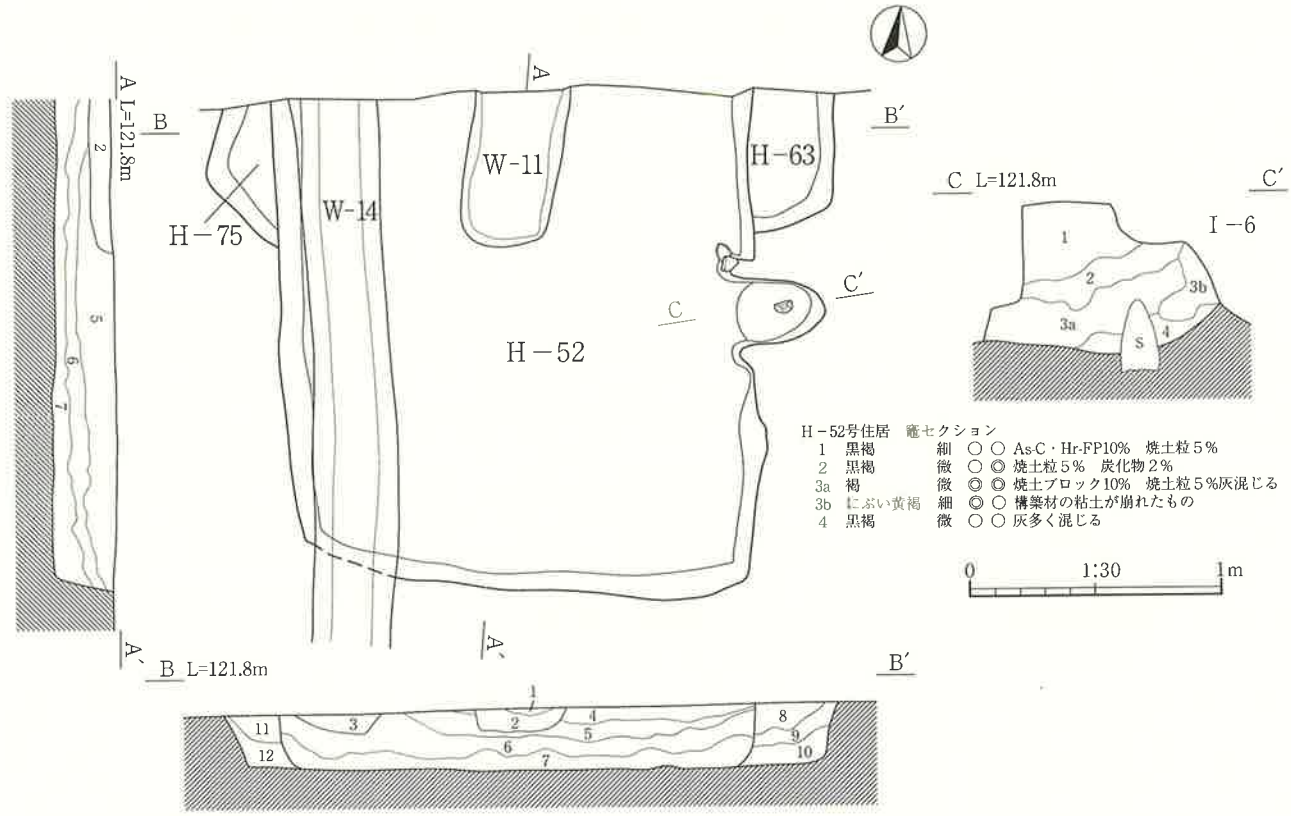


H－51号住居　ベルトセクション

1	褐	細	△ ◎	As-C・Hr-FP 20%	焼土粒５％　黄橙色ブロック20%
2	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 1％	黄橙色ブロック10%
3	暗褐	微	○ ◎	As-C・Hr-FP 1％	

H－51号住居　竈セクション

1	暗褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP 20%	
2	褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP 10%	焼土粒５％
3	灰褐	微	○ ○	As-C・Hr-FP 1％	焼土粒２％　黄橙色ブロック（φ５㎜）10%焼土ブロック10%
4	褐灰	微	△ ○	灰層	



H－52号住居　竈セクション

1	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP10%	焼土粒５％
2	黒褐	微	○ ◎	焼土粒５％　炭化物２％	
3a	褐	微	◎ ◎	焼土ブロック10%　焼土粒５％灰混じる	
3b	にぶい黄褐	細	◎ ○	構築材の粘土が崩れたもの	
4	黒褐	微	○ ○	灰多く混じる	

0　1:30　1m

H－52，63，75号住居、W－11，14号溝ベルトセクション

1	灰黄褐	粗	○ △	As-B 20%	炭化物５％		(W-11)
2	黒褐	粗	○ △	As-B 20%			(W-11)
3	黒褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP 20%	炭化物５％	焼土粒２％	(W-14)
4	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 20%			(H-52)
5	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 20%	炭化物５％	焼土粒５％	(H-52)
6	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10%	炭化物５％	焼土粒５％	(H-52)
7	黒褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP ５％	炭化物５％	焼土粒５％	(H-52)
8	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10%	焼土粒５％		(H-63)
9	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP ５％	焼土粒10%		(H-63)
10	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10%	焼土粒10%		(H-63)
11	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 20%			(H-75)
12	黒褐	微	○ ◎	As-C・Hr-FP 10%	黄橙色ブロック（φ10㎜）５％		(H-75)

0　1:60　2m

Fig.27　H－51・52・63・75号住居、W－11・14号溝

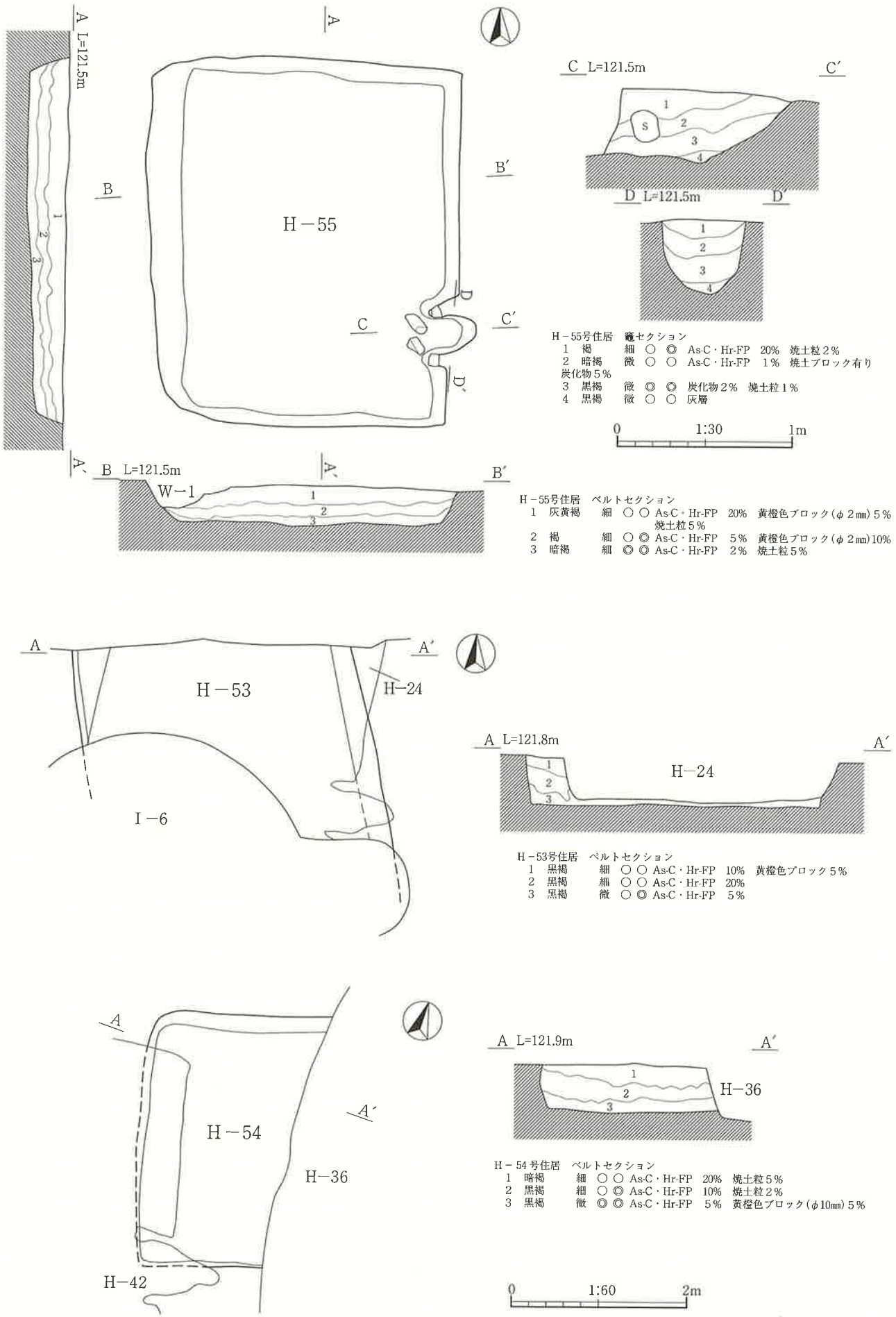
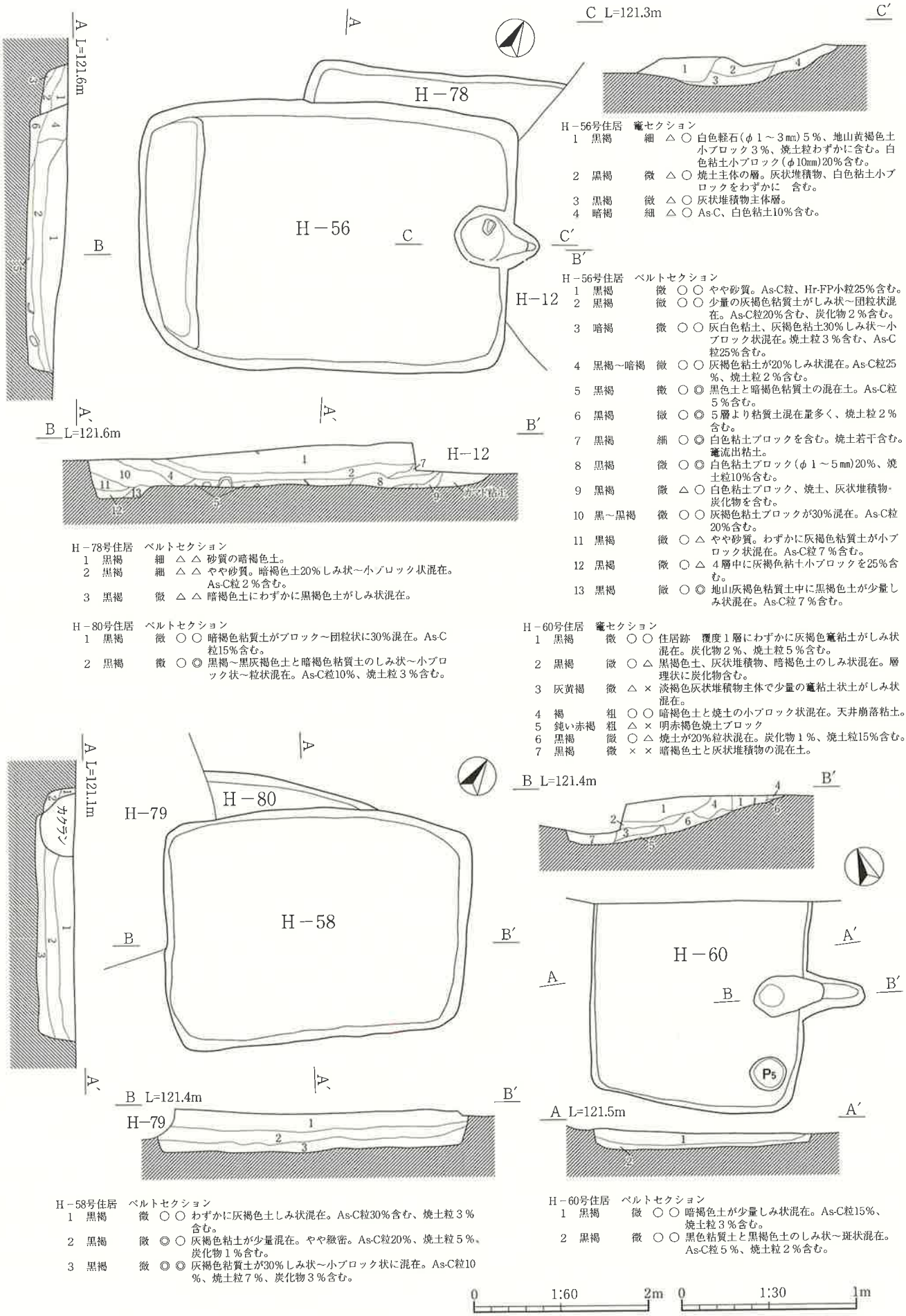


Fig.28　H－53～55号住居



H－56号住居　竈セクション

1　黒褐　細　△ ○　白色軽石（φ１～３㎜）５％、地山黄褐色土小ブロック３％、焼土粒わずかに含む。白色粘土小ブロック（φ10㎜）20％含む。
2　黒褐　微　△ ○　焼土主体の層。灰状堆積物、白色粘土小ブロックをわずかに　含む。
3　黒褐　微　△ ○　灰状堆積物主体層。
4　暗褐　細　△ ○　As-C、白色粘土10％含む。

H－56号住居　ベルトセクション

1　黒褐　微　○ ○　やや砂質。As-C粒、Hr-FP小粒25％含む。
2　黒褐　微　○ ○　少量の灰褐色粘質土がしみ状～団粒状混在。As-C粒20％含む、炭化物２％含む。
3　暗褐　微　○ ○　灰白色粘土、灰褐色粘土30％しみ状～小ブロック状混在。焼土粒３％含む、As-C粒25％含む。
4　黒褐～暗褐　微　○ ○　灰褐色粘土が20％しみ状混在。As-C粒25％、焼土粒２％含む。
5　黒褐　微　○ ◎　黒色土と暗褐色粘質土の混在土。As-C粒５％含む。
6　黒褐　微　○ ◎　５層より粘質土混在量多く、焼土粒２％含む。
7　黒褐　細　○ ◎　白色粘土ブロックを含む。焼土若干含む。竈流出粘土。
8　黒褐　微　○ ◎　白色粘土ブロック（φ１～５㎜）20％、焼土粒10％含む。
9　黒褐　微　△ ○　白色粘土ブロック、焼土、灰状堆積物・炭化物を含む。
10　黒～黒褐　微　○ ○　灰褐色粘土ブロックが30％混在。As-C粒20％含む。
11　黒褐　微　○ △　やや砂質。わずかに灰褐色粘質土が小ブロック状混在。As-C粒７％含む。
12　黒褐　微　○ △　４層中に灰褐色粘土小ブロックを25％含む。
13　黒褐　微　○ ◎　地山灰褐色粘質土中に黒褐色土が少量しみ状混在。As-C粒７％含む。

H－78号住居　ベルトセクション

1　黒褐　細　△ △　砂質の暗褐色土。
2　黒褐　細　△ △　やや砂質。暗褐色土20％しみ状～小ブロック状混在。As-C粒２％含む。
3　黒褐　微　△ △　暗褐色土にわずかに黒褐色土がしみ状混在。

H－80号住居　ベルトセクション

1　黒褐　微　○ ○　暗褐色粘質土がブロック～団粒状に30％混在。As-C粒15％含む。
2　黒褐　微　○ ◎　黒褐～黒灰褐色土と暗褐色粘質土のしみ状～小ブロック状～粒状混在。As-C粒10％、焼土粒３％含む。

H－60号住居　竈セクション

1　黒褐　微　○ ○　住居跡　覆度１層にわずかに灰褐色竈粘土がしみ状混在。炭化物２％、焼土粒５％含む。
2　黒褐　微　○ △　黒褐色土、灰状堆積物、暗褐色土のしみ状混在。層理状に炭化物含む。
3　灰黄褐　微　△ ×　淡褐色灰状堆積物主体で少量の竈粘土状土がしみ状混在。
4　褐　粗　○ ○　暗褐色土と焼土の小ブロック状混在。天井崩落粘土。
5　鈍い赤褐　粗　△ ×　明赤褐色焼土ブロック
6　黒褐　微　○ △　焼土が20％粒状混在。炭化物１％、焼土粒15％含む。
7　黒褐　微　× ×　暗褐色土と灰状堆積物の混在土。

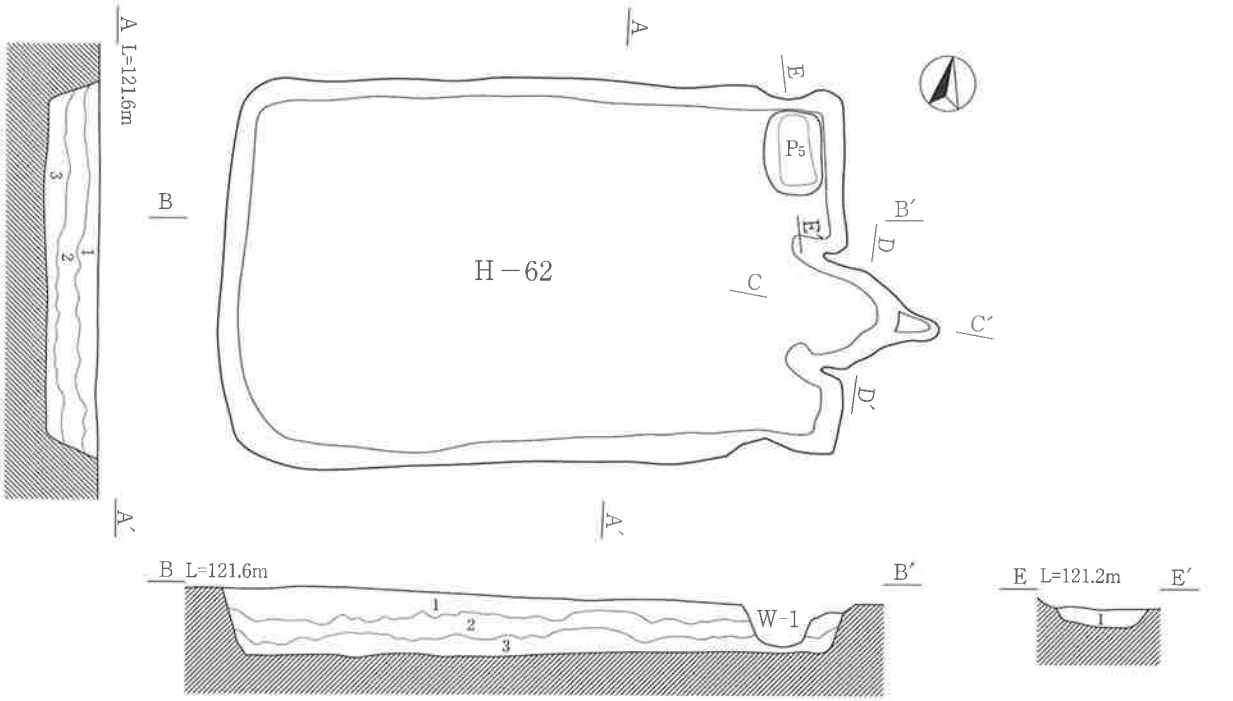
H－58号住居　ベルトセクション

1　黒褐　微　○ ○　わずかに灰褐色土しみ状混在。As-C粒30％含む、焼土粒３％含む。
2　黒褐　微　◎ ○　灰褐色粘土が少量混在。やや緻密。As-C粒20％、焼土粒５％、炭化物１％含む。
3　黒褐　微　◎ ◎　灰褐色粘質土が30％しみ状～小ブロック状に混在。As-C粒10％、焼土粒７％、炭化物３％含む。

H－60号住居　ベルトセクション

1　黒褐　微　○ ○　暗褐色土が少量しみ状混在。As-C粒15％、焼土粒３％含む。
2　黒褐　微　○ ○　黒色粘質土と黒褐色土のしみ状～斑状混在。As-C粒５％、焼土粒２％含む。

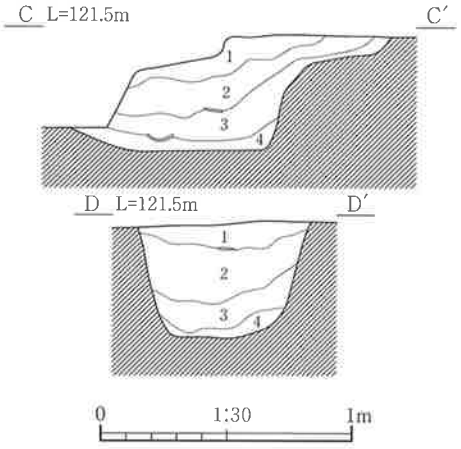
Fig.29　H－56・58・60・78・80号住居

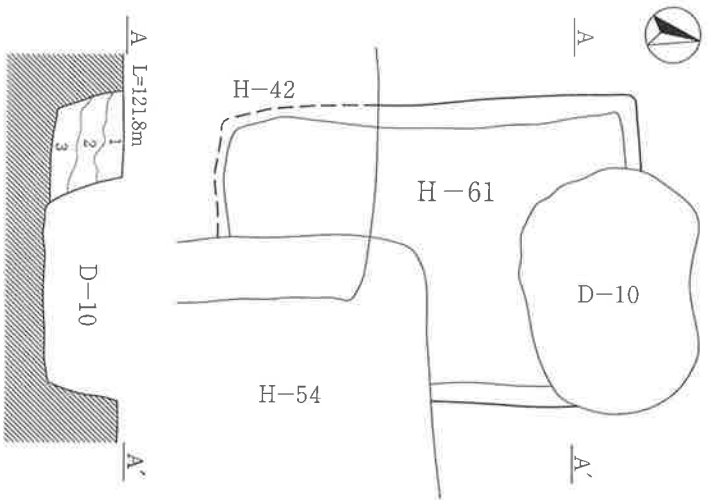


H－62号住居　ベルトセクション
1　暗褐　細　○ ○ As-C・Hr-FP　50%　焼土粒２%
2　暗褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP　20%　黄橙色ブロック10%
3　黒褐　微　○ ○ 黄橙色ブロック20%

H－62号住居　P5号柱穴セクション
1　暗褐　微　○ ◎ As-C　1%　焼土粒２%　炭化物５%

H－62号住居　竈セクション
1　黒褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP　10%　焼土粒２%
2　褐　微　○ ○ 焼土粒５%　黄橙色粒２%
3　暗褐　微　○ ◎ 焼土粒５%　炭化物５%
4　極暗褐　微　○ △ 灰層

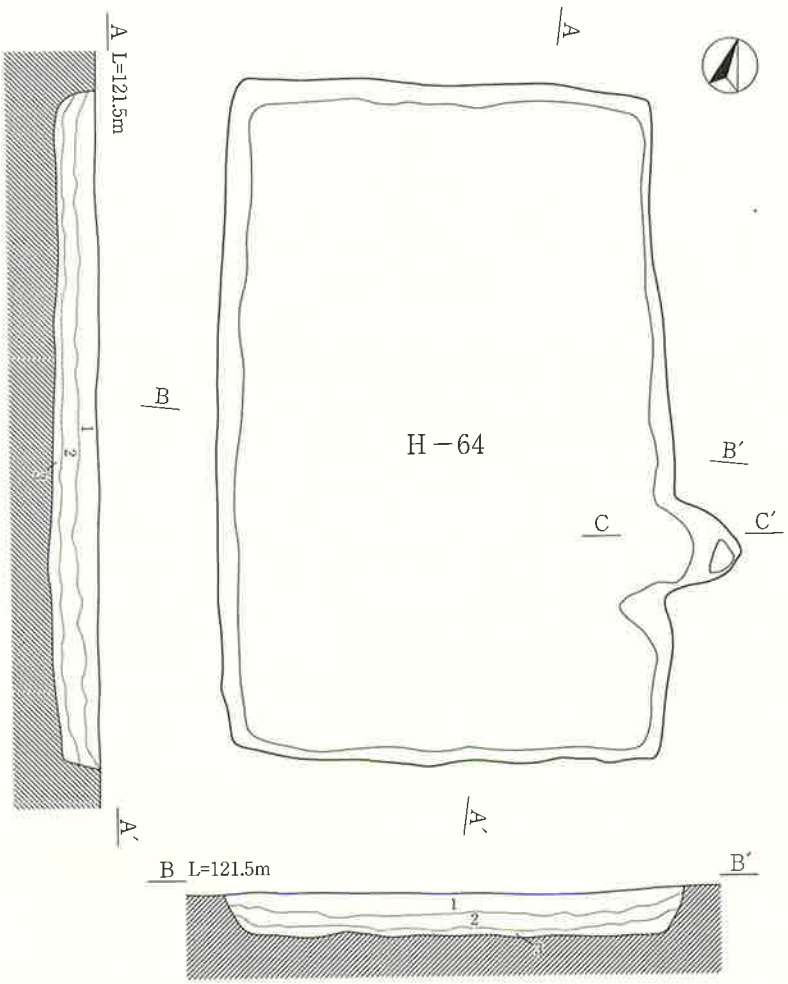


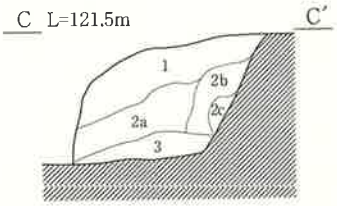


H－61号住居　ベルトセクション
1　黒褐　細　○ ○ As-C・Hr-FP　20%
2　暗褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP　10%　炭化物２%
3　暗褐　細　○ ◎ As-C・Hr-FP　5%　黄橙色ブロック10%

0　1:60　2m

Fig.30　H－61・62号住居



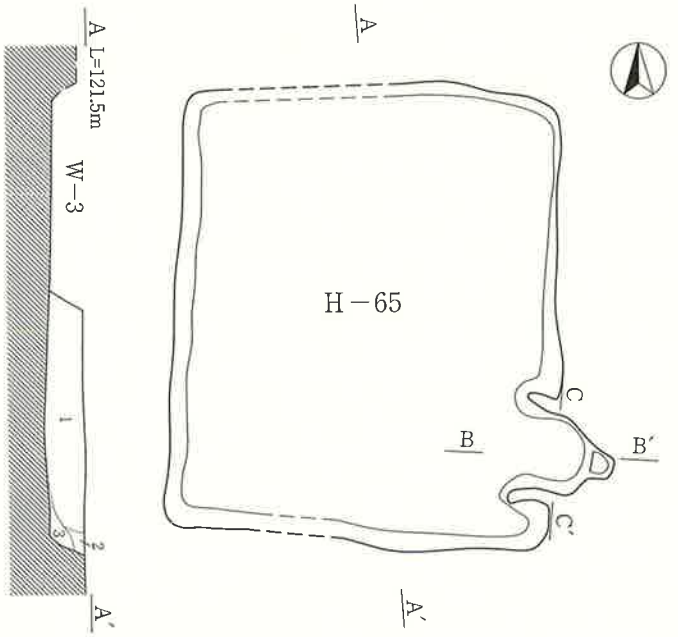


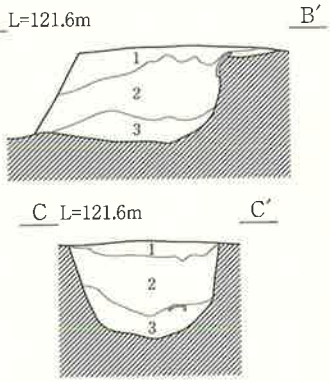
H－64号住居　ベルトセクション

1	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP　20%　黄橙色ブロック10%　焼土粒１%
2	灰黄褐	細	△	○	As-C・Hr-FP　５%　黄橙色ブロック５%　焼土粒１%
3	暗褐	微	◎	○	As-C・Hr-FP　１%　黄橙色ブロック１%　焼土粒１%

H－64号住居　竈セクション

1	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP　10%　焼土粒２%炭化物30%
2a	褐	微	○	○	焼土粒20%　炭化物15%
2b	暗褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP　１%　焼土粒２%炭化物２%
2c	黒褐	微	◎	◎	焼土粒１%
3	灰褐	微	○	○	炭化物10%





H－65号住居　竈セクション

1	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP　５%　焼土粒５%
2	黒褐	微	○	◎	焼土粒２%　炭化物２%
3	褐	微	◎	◎	焼土粒２%　灰多く混じる

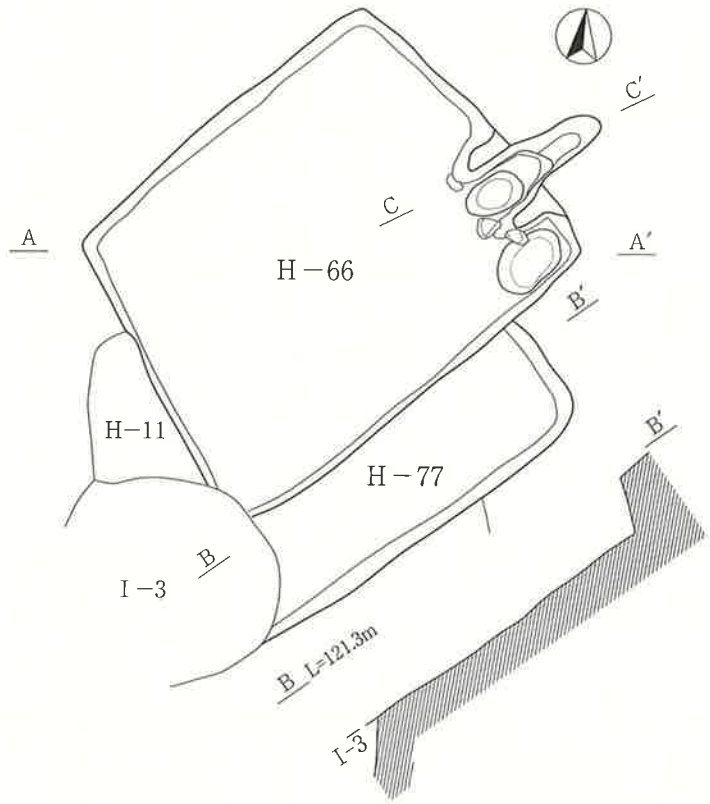
0　1:30　1m

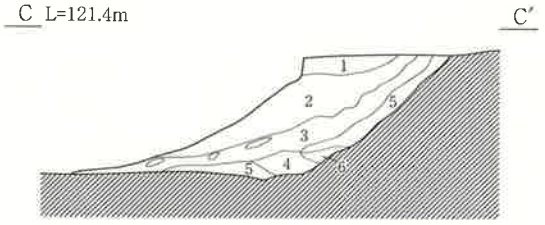
H－65号住居　ベルトセクション

1	灰黄褐	粗	○	△	As-B　50%（As-B混土層）
2	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP　５%
3	暗褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP　５%

0　1:60　2m

Fig.31　H－64・65号住居



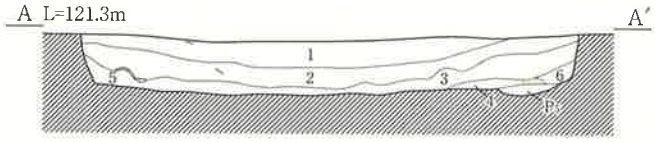


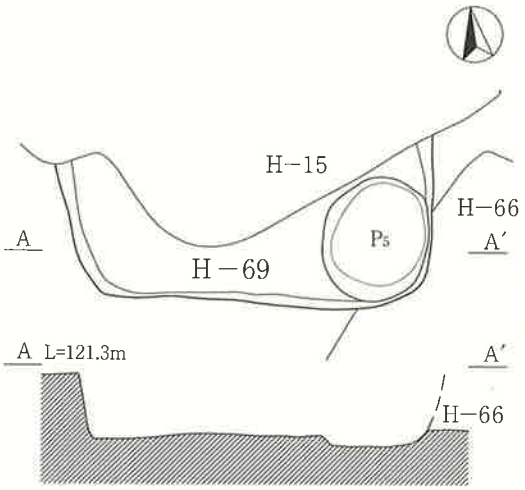
H－66号住居　竈セクション

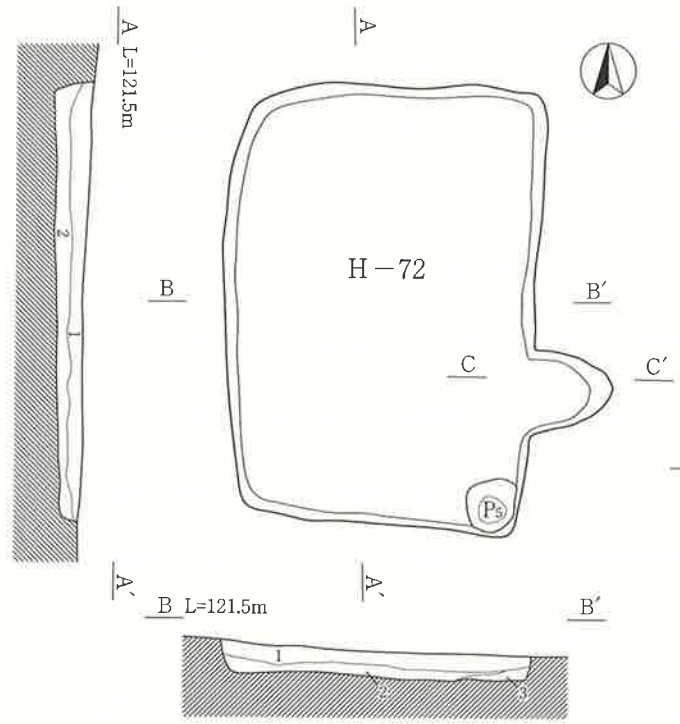
1	黒褐	細	△ △	As-C(φ１～２㎜)５％、焼土粒少量含む。
2	黒褐	細	○ ○	層上位に焼土粒(φ２～１㎜)10％少量。地山黄褐色土小ブロック５％含む、炭化物５％全体的に含む、白色粘土小ブロック10％含む。
3	黒褐	細	○ ○	層上位に焼土ブロック(φ５～30㎜)多く含む。白色粘土、灰状堆積物を含む。炭化物わずかに含む。天井部焼土崩落土。
4	黒褐	細	○ ○	焼土粒(φ１～３㎜)５％、炭化物若干含む。白色粘土主体の層。
5	黒褐	細	△ △	焼土ブロック・粒を少量、灰状堆積物を斑状に含む、炭化物若干含む。
6	微		○ ○	白色粘土流れ込み。

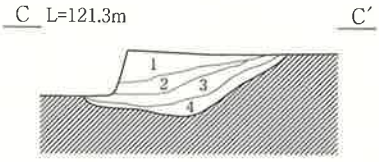
H－66号住居　ベルトセクション

1	黒褐	細	○ ○	わずかに灰褐色粘質土がしみ状混在。As-C粒25％含む。
2	黒～黒褐	微	○ ○	灰褐色粘質土が少量しみ状混在。As-C粒15％含む。
3	黒褐	細	○ ○	黒褐色土と暗灰褐色。灰褐色粘質土のしみ状混在。As-C粒15％含む。
4	黒褐	微	○ ◎	淡灰褐色粘土主体。竈流出粘土
5	黒褐	微	○ △	黒褐色土と灰褐色粘質土の粒状～しみ状混在。やや砂質。
6	黒褐	微	○ △	５層と似るが、灰褐色粘質土がやや多い。









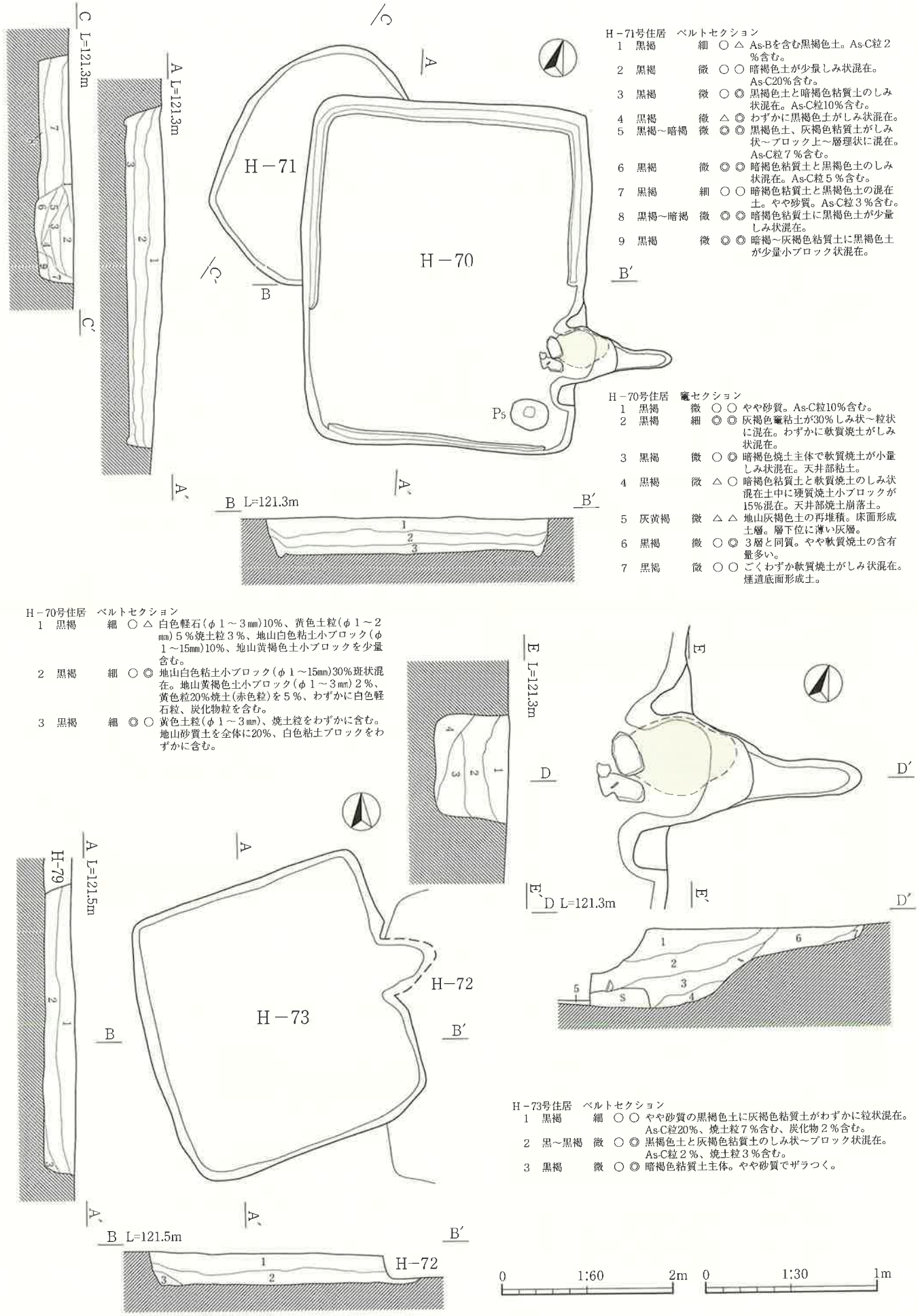
H－72号住居　竈セクション

1	黒褐	微	○ ○	灰褐色粘質土が20％小ブロック状～粒状混在。As-C粒７％、焼土粒１％含む。
2	黒褐	微	△ △	やや砂質の黒褐に灰褐色粘質土が少量粒状混在。As-C粒２％含む。
3	暗褐	細	△ △	黒褐色土・灰褐色粘土・焼土の混在土。
4	暗褐	微	△ ○	焼土と灰状堆積物の混在土。

H－72号住居　ベルトセクション

1	黒褐	微	○ ○	わずかに灰褐色粘質土が小ブロック～粒状に混在。As-C粒25％、焼土粒３％、炭化物２％含む。
2	黒褐	微	○ ○	灰褐色粘質土30％しみ状混在。As-C粒７％、焼土粒１％、炭化物ごくわずか含む。
3	黒褐	微	○ ◎	As-C粒２％、焼土粒１％含む。

Fig.32　H－66・69・72・77号住居



H－71号住居　ベルトセクション

1	黒褐	細	○	△	As-Bを含む黒褐色土。As-C粒２％含む。
2	黒褐	微	○	○	暗褐色土が少量しみ状混在。As-C20％含む。
3	黒褐	微	○	◎	黒褐色土と暗褐色粘質土のしみ状混在。As-C粒10％含む。
4	黒褐	微	△	◎	わずかに黒褐色土がしみ状混在。
5	黒褐～暗褐	微	◎	◎	黒褐色土、灰褐色粘質土がしみ状～ブロック上～層理状に混在。As-C粒７％含む。
6	黒褐	微	◎	◎	暗褐色粘質土と黒褐色土のしみ状混在。As-C粒５％含む。
7	黒褐	細	○	○	暗褐色粘質土と黒褐色土の混在土。やや砂質。As-C粒３％含む。
8	黒褐～暗褐	微	◎	◎	暗褐色粘質土に黒褐色土が少量しみ状混在。
9	黒褐	微	◎	◎	暗褐～灰褐色粘質土に黒褐色土が少量小ブロック状混在。

H－70号住居　竈セクション

1	黒褐	微	○	○	やや砂質。As-C粒10％含む。
2	黒褐	細	◎	◎	灰褐色竈粘土が30％しみ状～粒状に混在。わずかに軟質焼土がしみ状混在。
3	黒褐	微	○	◎	暗褐色焼土主体で軟質焼土が小量しみ状混在。天井部粘土。
4	黒褐	微	△	○	暗褐色粘質土と軟質焼土のしみ状混在土中に硬質焼土小ブロックが15％混在。天井部焼土崩落土。
5	灰黄褐	微	△	△	地山灰褐色土の再堆積。床面形成土層。層下位に薄い灰層。
6	黒褐	微	○	◎	３層と同質。やや軟質焼土の含有量多い。
7	黒褐	微	○	○	ごくわずか軟質焼土がしみ状混在。煙道底面形成土。

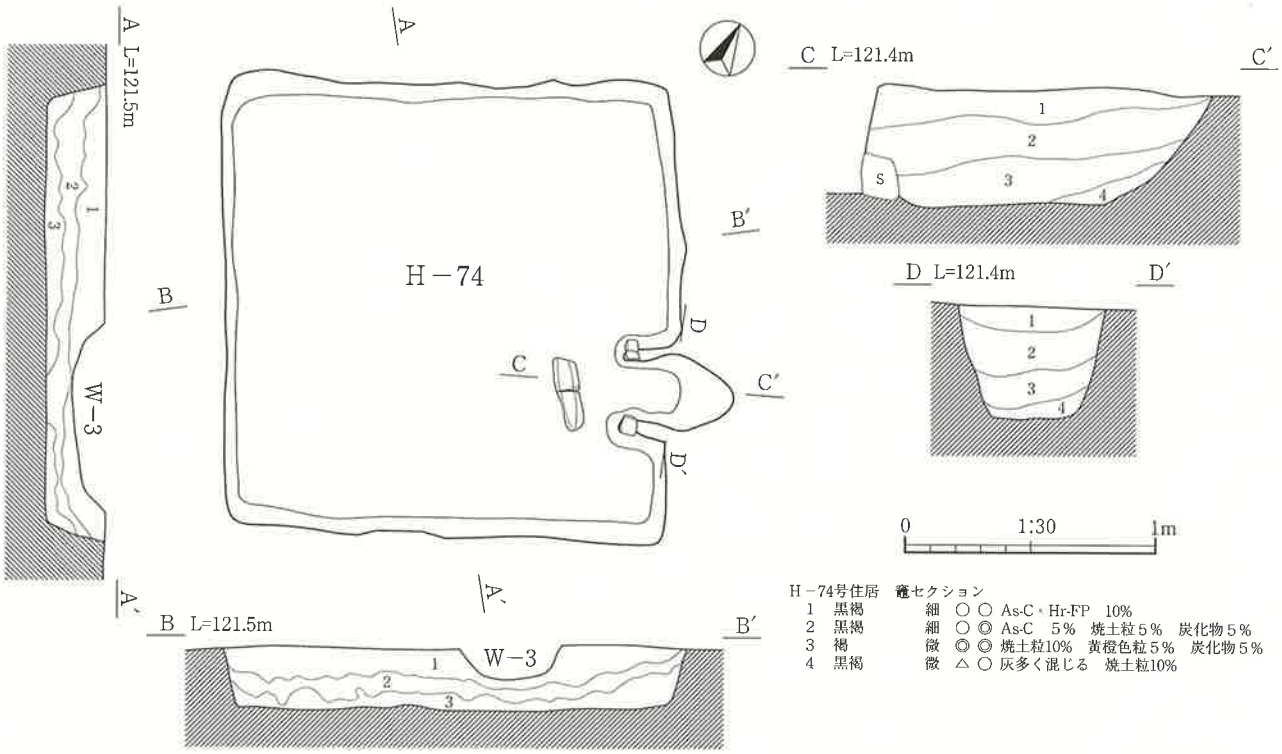
H－70号住居　ベルトセクション

1	黒褐	細	○	△	白色軽石（φ１～３㎜）10％、黄色土粒（φ１～２㎜）５％焼土粒３％、地山白色粘土小ブロック（φ１～15㎜）10％、地山黄褐色土小ブロックを少量含む。
2	黒褐	細	○	◎	地山白色粘土小ブロック（φ１～15㎜）30％斑状混在。地山黄褐色土小ブロック（φ１～３㎜）２％、黄色粒20％焼土（赤色粒）を５％、わずかに白色軽石粒、炭化物粒を含む。
3	黒褐	細	◎	○	黄色土粒（φ１～３㎜）、焼土粒をわずかに含む。地山砂質土を全体に20％、白色粘土ブロックをわずかに含む。

H－73号住居　ベルトセクション

1	黒褐	細	○	○	やや砂質の黒褐色土に灰褐色粘質土がわずかに粒状混在。As-C粒20％、焼土粒７％含む、炭化物２％含む。
2	黒～黒褐	微	○	◎	黒褐色土と灰褐色粘質土のしみ状～ブロック状混在。As-C粒２％、焼土粒３％含む。
3	黒褐	微	○	◎	暗褐色粘質土主体。やや砂質でザラつく。

Fig.33　H－70・71・73号住居

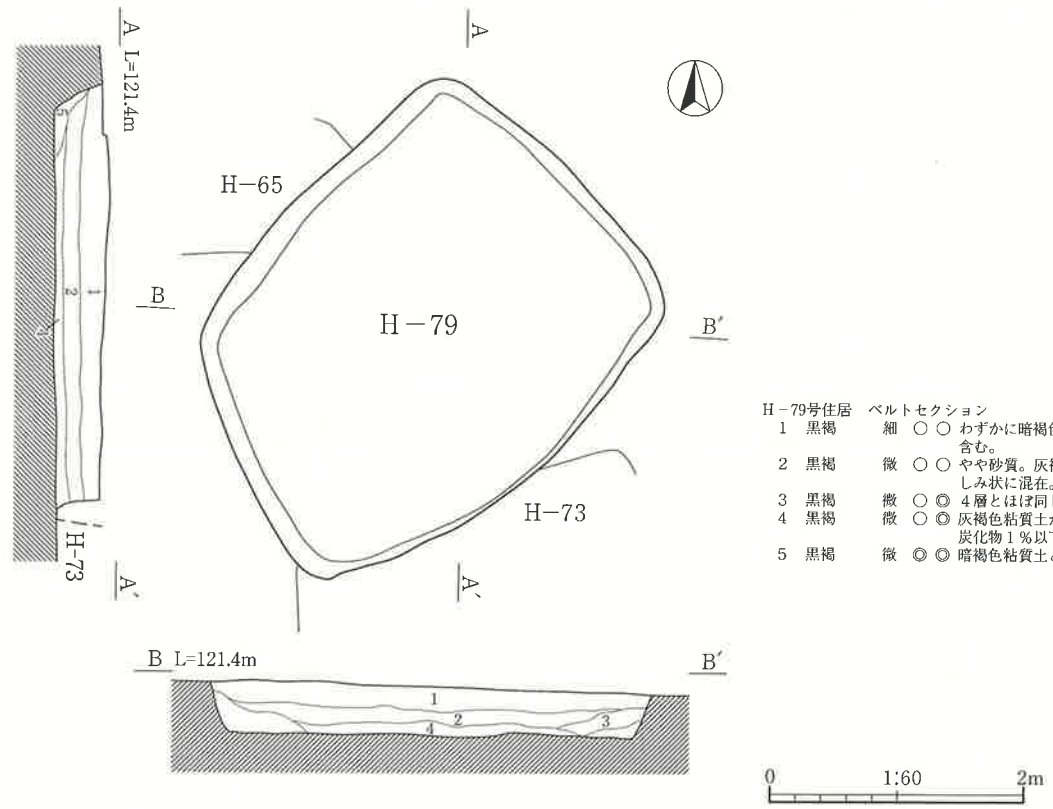


H－74号住居　竈セクション

1	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP　10%	
2	黒褐	細	○	◎	As-C　5%　焼土粒５%　炭化物５%	
3	褐	微	◎	◎	焼土粒10%　黄橙色粒５%　炭化物５%	
4	黒褐	微	△	○	灰多く混じる　焼土粒10%	

H－74号住居　ベルトセクション

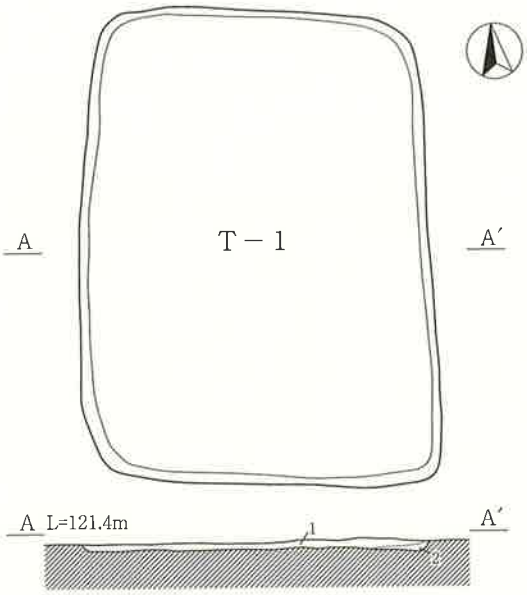
1	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP　20%　炭化物５%	
2	暗褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP　10%　炭化物10%　黄橙色ブロック（φ10～20㎜）５%	
3	にぶい黄褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP　５%　炭化物10%　黄橙色粒５%	



H－79号住居　ベルトセクション

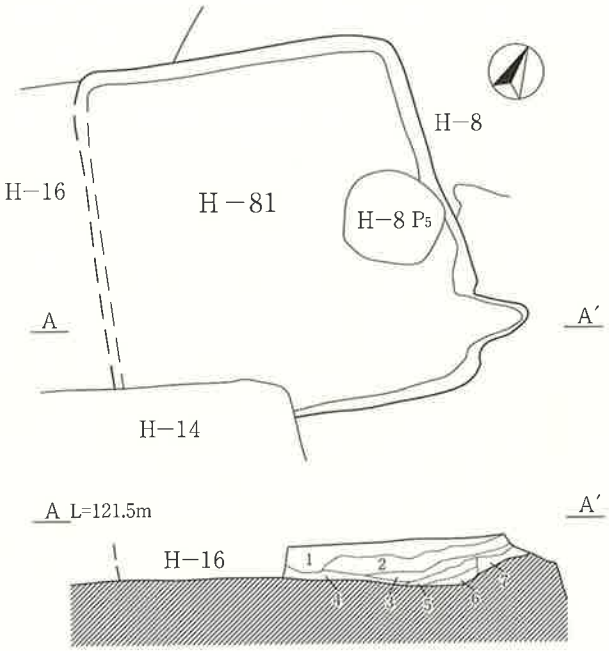
1	黒褐	細	○	○	わずかに暗褐色土がしみ状混在。As-C粒30%含む。
2	黒褐	微	○	○	やや砂質。灰褐色粘質土が少量ブロック状～しみ状に混在。炭化物１%以下で含む。
3	黒褐	微	○	◎	４層とほぼ同じ。炭化物５%含む。
4	黒褐	微	○	◎	灰褐色粘質土が20%しみ状～団粒状に混在。炭化物１%以下含む。
5	黒褐	微	◎	◎	暗褐色粘質土と灰褐色粘質土の混在土。

Fig.34　H－74・79号住居



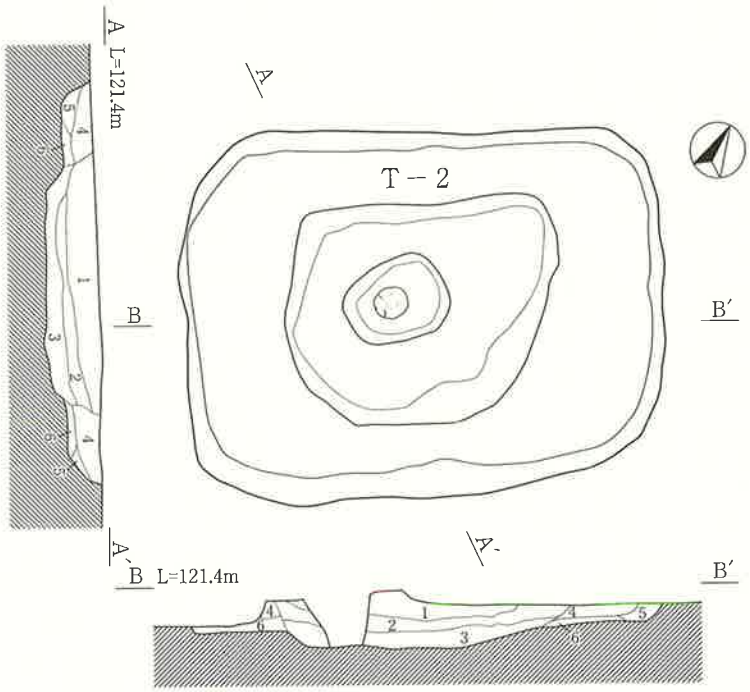
T－1号竪穴状遺構　ベルトセクション

1	黒褐	微	○ △	少量の暗灰褐色土がしみ状に混在。As-C25%、焼土粒1%含む。
2	黒褐	微	△ △	黒褐色土と暗褐色粘質土の混在。As-C粒15%含む。



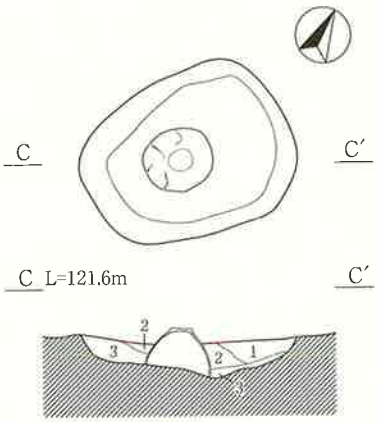
H－81号住居　ベルトセクション

1	黒褐	粗	△ △	暗褐色土が小量しみ状混在。As-C粒25%含む。粒地山As-C混じり黒色土に似る。
2	黒褐	細	△ △	灰褐色粘質土ブロック(φ10～20㎜)30%混在。As-C粒10%含む。
3	黒褐	微	△ △	黒灰褐色砂質粘土主体。わずかに灰褐色粘質土小ブロックを含む。
4	黒褐	微	○ ○	暗灰褐色粘質土主体。As-C粒10%含む。
5	黒褐	微	△ ○	灰状堆積物と暗褐色土のしみ状混在土。わずかに焼土小ブロックを含む。
6	暗褐	微	△ △	暗褐色土と黒灰褐色土の混在。やや砂質。わずかに軟質焼土がしみ状混在。
7	灰褐	微	○ ○	暗灰褐色粘質土と黒褐色土のしみ状混在土中に灰褐色粘質土小ブロック～団粒が20%混在。竈袖の流出粘土。



T－2号竪穴状遺構　ベルトセクション

1	黒褐	微	△ △	灰褐色度が20%しみ状～小ブロック状に混在。As-C・Hr-FP25%含む。炭化物2%含む。
2	黒～黒褐	微	△ △	灰褐色土が10%しみ状混在。As-C20%、橙色粒5%含む。
3	黒褐	微	○ ○	灰褐色土20%しみ状～団粒状混在。As-C10%、焼土粒3%含む。
4	黒褐	微	○ △	灰褐色粘質土が15%しみ状～小ブロック状混在。As-C20%含む。
5	黒～黒褐	微	○ ◎	黒色粘質土と灰褐色粘質土のしみ状～ブロック状混在。As-C2%含む。
6	黒褐	微	○ ○	黒色粘質土15%しみ状混在。As-C5%含む。

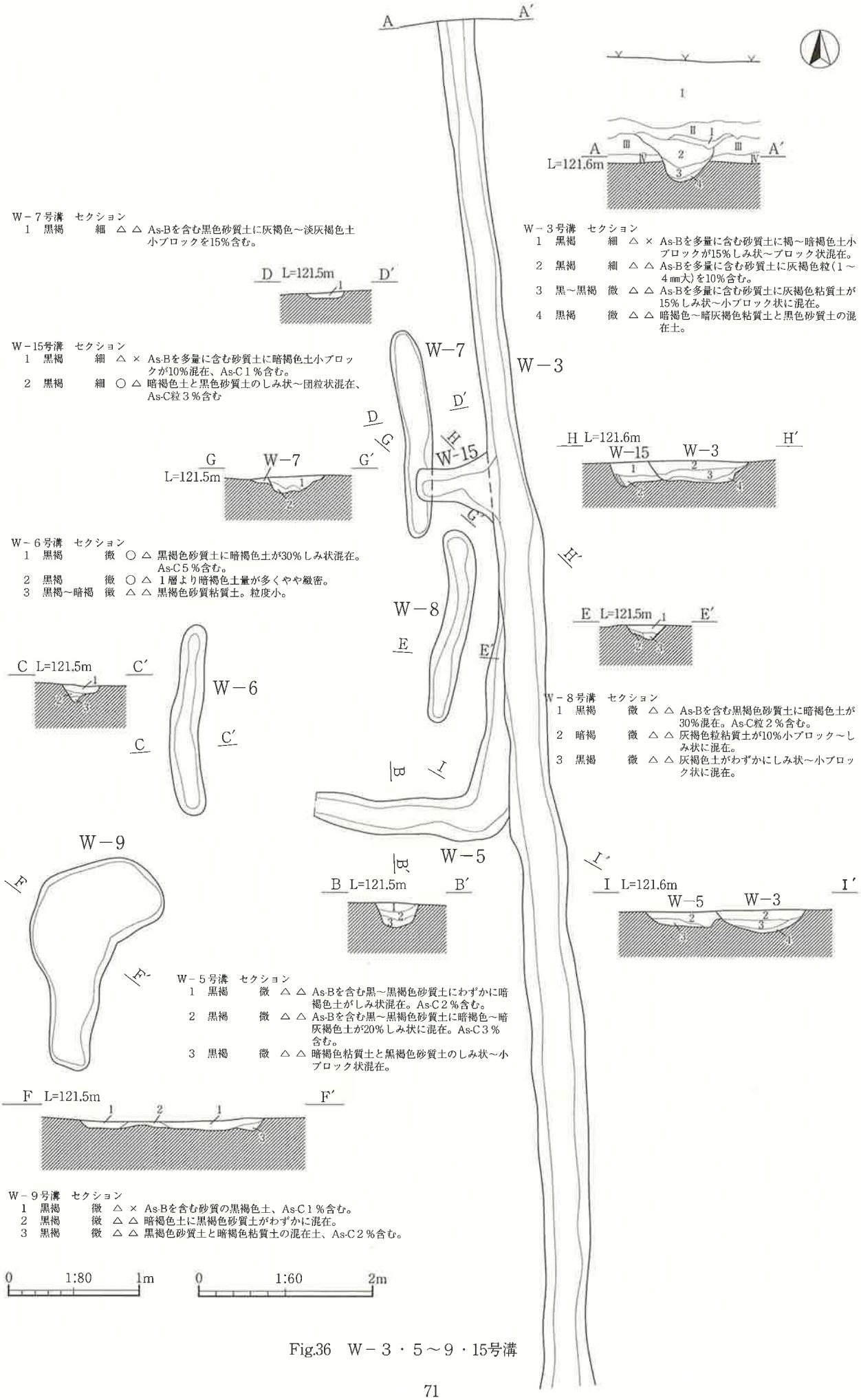


T－2号竪穴状遺構　伏甕セクション

1	黒	細	△ △	黒色砂質土、暗褐色粘質土、灰褐色粘質土の斑状混在。やや砂質。
2	黒～黒褐	微	○ ○	灰褐色粘質土が20%小ブロック状混在。
3	黒褐	微	○ ◎	少量の暗褐色粘土、黒色土が斑状混在。
	黒褐	微	◎ ◎	暗褐色粘土と灰褐色粘質土の混在土。

0　1:60　2m　0　1:30　1m

Fig.35　H－81号住居、T－1・2号竪穴状遺構



W－7号溝　セクション
1　黒褐　細　△ △　As-Bを含む黒色砂質土に灰褐色～淡灰褐色土小ブロックを15%含む。

W－15号溝　セクション
1　黒褐　細　△ ×　As-Bを多量に含む砂質土に暗褐色土小ブロックが10%混在、As-C１%含む。
2　黒褐　細　○ △　暗褐色土と黒色砂質土のしみ状～団粒状混在、As-C粒３%含む

W－６号溝　セクション
1　黒褐　微　○ △　黒褐色砂質土に暗褐色土が30%しみ状混在。As-C５%含む。
2　黒褐　微　○ △　１層より暗褐色土量が多くやや緻密。
3　黒褐～暗褐　微　△ △　黒褐色砂質粘質土。粒度小。

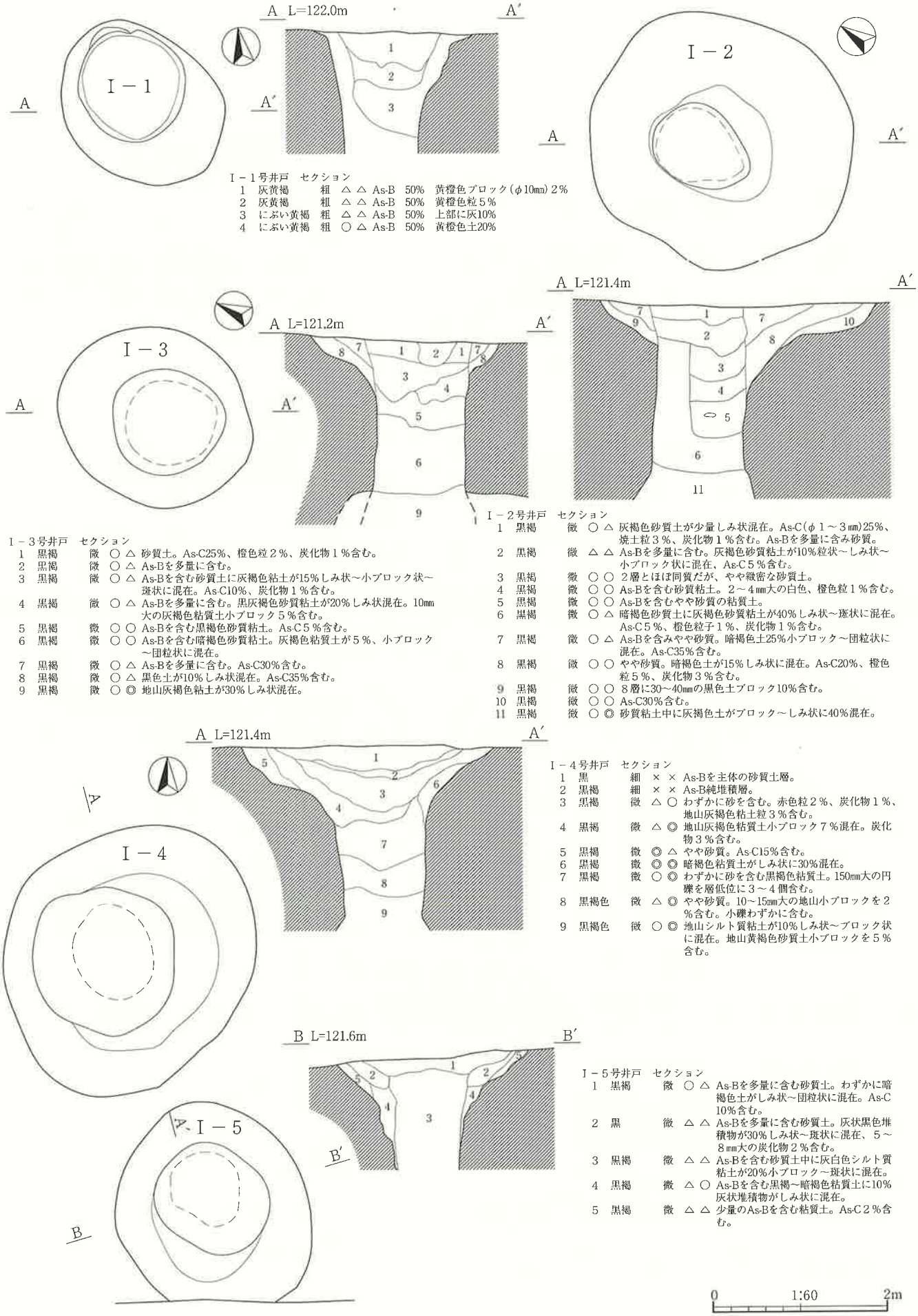
W－５号溝　セクション
1　黒褐　微　△ △　As-Bを含む黒～黒褐色砂質土にわずかに暗褐色土がしみ状混在。As-C２%含む。
2　黒褐　微　△ △　As-Bを含む黒～黒褐色砂質土に暗褐色～暗灰褐色土が20%しみ状に混在。As-C３%含む。
3　黒褐　微　△ △　暗褐色粘質土と黒褐色砂質土のしみ状～小ブロック状混在。

W－９号溝　セクション
1　黒褐　微　△ ×　As-Bを含む砂質の黒褐色土、As-C１%含む。
2　黒褐　微　△ △　暗褐色土に黒褐色砂質土がわずかに混在。
3　黒褐　微　△ △　黒褐色砂質土と暗褐色粘質土の混在土、As-C２%含む。

W－３号溝　セクション
1　黒褐　細　△ ×　As-Bを多量に含む砂質土に褐～暗褐色土小ブロックが15%しみ状～ブロック状混在。
2　黒褐　細　△ △　As-Bを多量に含む砂質土に灰褐色粒（１～４㎜大）を10%含む。
3　黒～黒褐　微　△ △　As-Bを多量に含む砂質土に灰褐色粘質土が15%しみ状～小ブロック状に混在。
4　黒褐　微　△ △　暗褐色～暗灰褐色粘質土と黒色砂質土の混在土。

W－８号溝　セクション
1　黒褐　微　△ △　As-Bを含む黒褐色砂質土に暗褐色土が30%混在。As-C粒２%含む。
2　暗褐　微　△ △　灰褐色粒粘質土が10%小ブロック～しみ状に混在。
3　黒褐　微　△ △　灰褐色土がわずかにしみ状～小ブロック状に混在。

Fig.36　W－３・５～９・15号溝



Ⅰ－1号井戸　セクション

1	灰黄褐	粗	△	△	As-B　50%	黄橙色ブロック（φ10㎜）2％
2	灰黄褐	粗	△	△	As-B　50%	黄橙色粒5％
3	にぶい黄褐	粗	△	△	As-B　50%	上部に灰10%
4	にぶい黄褐	粗	○	△	As-B　50%	黄橙色土20%

Ⅰ－3号井戸　セクション

1	黒褐	微	○	△	砂質土。As-C25%、橙色粒2％、炭化物1％含む。
2	黒褐	微	○	△	As-Bを多量に含む。
3	黒褐	微	○	△	As-Bを含む砂質土に灰褐色粘土が15%しみ状～小ブロック状～斑状に混在。As-C10%、炭化物1％含む。
4	黒褐	微	○	△	As-Bを多量に含む。黒灰褐色砂質粘土が20%しみ状混在。10㎜大の灰褐色粘質土小ブロック5％含む。
5	黒褐	微	○	○	As-Bを含む黒褐色砂質粘土。As-C5％含む。
6	黒褐	微	○	○	As-Bを含む暗褐色砂質粘土。灰褐色粘質土が5％、小ブロック～団粒状に混在。
7	黒褐	微	○	△	As-Bを多量に含む。As-C30%含む。
8	黒褐	微	○	△	黒色土が10%しみ状混在。As-C35%含む。
9	黒褐	微	○	◎	地山灰褐色粘土が30%しみ状混在。

Ⅰ－2号井戸　セクション

1	黒褐	微	○	△	灰褐色砂質土が少量しみ状混在。As-C（φ1～3㎜）25%、焼土粒3％、炭化物1％含む。As-Bを多量に含み砂質。
2	黒褐	微	△	△	As-Bを多量に含む。灰褐色砂質粘土が10%粒状～しみ状～小ブロック状に混在、As-C5％含む。
3	黒褐	微	○	○	2層とほぼ同質だが、やや緻密な砂質土。
4	黒褐	微	○	○	As-Bを含む砂質粘土。2～4㎜大の白色、橙色粒1％含む。
5	黒褐	微	○	○	As-Bを含むやや砂質の粘質土。
6	黒褐	微	○	△	暗褐色砂質土に灰褐色砂質粘土が40%しみ状～斑状に混在。As-C5％、橙色粒子1％、炭化物1％含む。
7	黒褐	微	○	△	As-Bを含みやや砂質。暗褐色土25%小ブロック～団粒状に混在。As-C35%含む。
8	黒褐	微	○	○	やや砂質。暗褐色土が15%しみ状に混在。As-C20%、橙色粒5％、炭化物3％含む。
9	黒褐	微	○	○	8層に30～40㎜の黒色土ブロック10%含む。
10	黒褐	微	○	○	As-C30%含む。
11	黒褐	微	○	◎	砂質粘土中に灰褐色土がブロック～しみ状に40%混在。

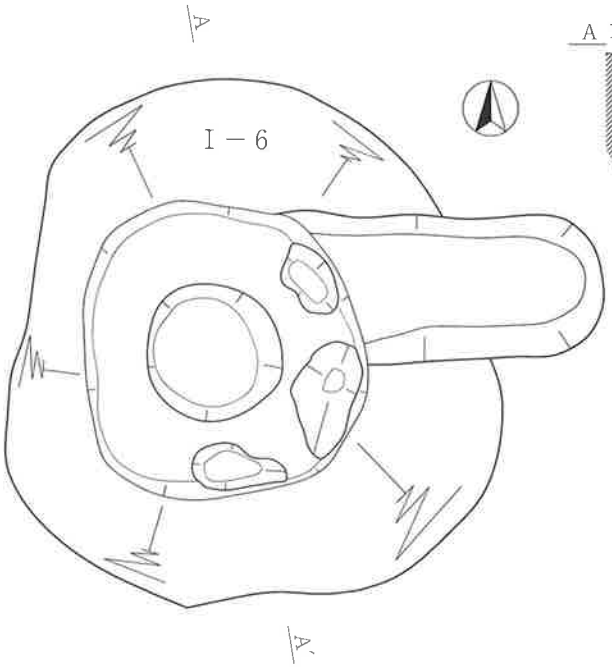
Ⅰ－4号井戸　セクション

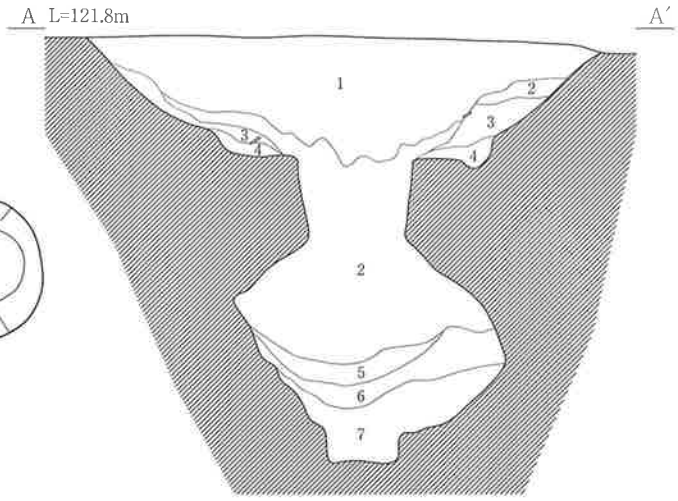
1	黒	細	×	×	As-Bを主体の砂質土層。
2	黒褐	細	×	×	As-B純堆積層。
3	黒褐	微	△	○	わずかに砂を含む。赤色粒2％、炭化物1％、地山灰褐色粘土粒3％含む。
4	黒褐	微	△	◎	地山灰褐色粘質土小ブロック7％混在。炭化物3％含む。
5	黒褐	微	◎	△	やや砂質。As-C15%含む。
6	黒褐	微	◎	◎	暗褐色粘質土がしみ状に30%混在。
7	黒褐	微	○	◎	わずかに砂を含む黒褐色粘質土。150㎜大の円礫を層低位に3～4個含む。
8	黒褐色	微	△	◎	やや砂質。10～15㎜大の地山小ブロックを2％含む。小礫わずかに含む。
9	黒褐色	微	○	◎	地山シルト質粘土が10%しみ状～ブロック状に混在。地山黄褐色砂質土小ブロックを5％含む。

Ⅰ－5号井戸　セクション

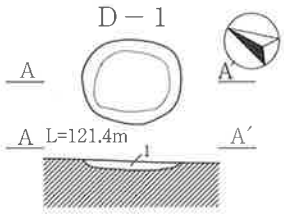
1	黒褐	微	○	△	As-Bを多量に含む砂質土。わずかに暗褐色土がしみ状～団粒状に混在。As-C10%含む。
2	黒	微	△	△	As-Bを多量に含む砂質土。灰状黒色堆積物が30%しみ状～斑状に混在、5～8㎜大の炭化物2％含む。
3	黒褐	微	△	△	As-Bを含む砂質土中に灰白色シルト質粘土が20%小ブロック～斑状に混在。
4	黒褐	微	△	○	As-Bを含む黒褐～暗褐色粘質土に10%灰状堆積物がしみ状に混在。
5	黒褐	微	△	△	少量のAs-Bを含む粘質土。As-C2％含む。

Fig.37　Ⅰ－1～5号井戸





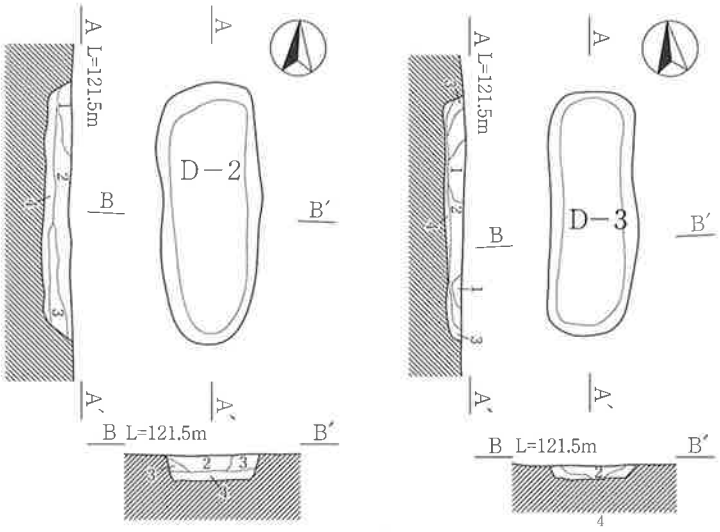
I－6号井戸　セクション
1　暗褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP　20%　黄橙色ブロック20%　炭化物５%
2　黒褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP　20%　焼土粒５%
3　にぶい黄褐　粗　○ △
4　黒褐　微　○ ◎ As-C・Hr-FP　10%　黄橙色ブロック（φ10～50㎜）20%
5　にぶい黄褐　微　◎ ○
6　灰黄褐　細　○ △
7　黒褐　細　○ △ 10YR４/２灰黄褐色土が縞状に入る

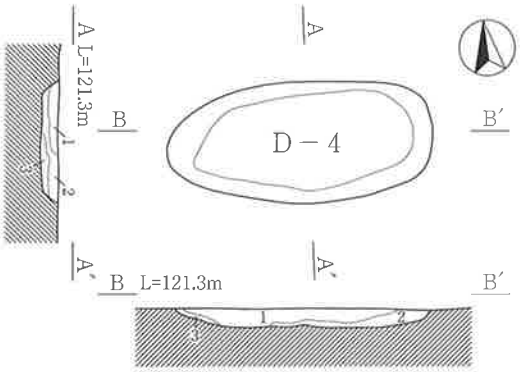


D－１号土坑　セクション
1　黒褐～暗褐　微　○ △ As-Bを多量に含む。地山褐色粘土ブロックを一部に含む。

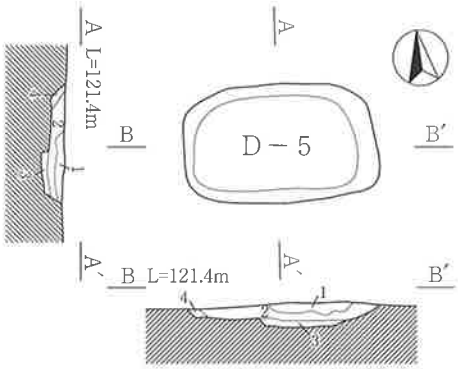
D－２号土坑　セクション
1　黒褐　細　○ △ As-Bを含む砂質土に10%灰褐色粘土がしみ状混在。焼土が５%しみ状～粒状混在。
2　黒褐　細　○ ○ As-Bを多量に含む砂質土。As-C２%含む。炭化物１%含む。
3　黒褐　細　△ △ As-Bを多量に含む砂質土。炭化物３%、焼土粒１%含む。
4　黒褐　微　△ △ As-Bを含む砂質土に灰褐色粘質土が20%しみ状～団粒状混在。

D－３号土坑　セクション
1　黒褐　微　○ △ As-Bを含む黒褐色土に、灰褐色粘土、黒色粘質土が小ブロック～団粒状に混在。As-C 15%含む。
2　黒～黒褐　微　○ △ As-Bを含む砂質土。As-C粒２%含む。
3　黒褐　微　○ △ As-Bを多量に含む砂質粘質土。
4　黒褐　微　◎ ○ 暗褐色粘質土主体。





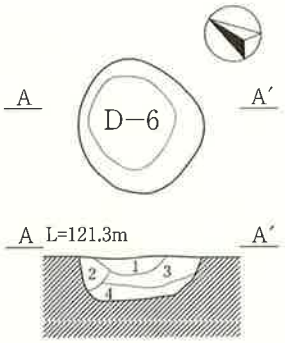
D－４号土坑　セクション
1　黒褐　微　○ ○ As-B含む砂質土中に、灰褐色粘質土が30%団粒～ブロック状に混在。
2　黒褐　微　○ △ As-B含む砂質土主体。わずかに灰褐色粘質土がしみ状混在。
3　黒褐　微　× ◎ 灰褐色砂質土主体。



D－５号土坑　セクション
1　黒褐～暗褐　微　○ △ やや砂質の粘質土。黒灰色灰状堆積物が35%斑状混在。As-C15%含む。
2　黒　微　× △ 黒灰色灰状堆積物主体。黒褐～暗褐粘質土が10%しみ状～団粒状に混在。５～８㎜大の焼土粒５%含む。
3　黒褐　微　△ △ 少量のAs-Bを含みやや砂質。ごくわずか灰状堆積物含む。10～20㎜大の小礫を10%含む。
4　黒褐　微　△ △ 暗褐色粘質土に少量の灰状堆積物がしみ状混在。

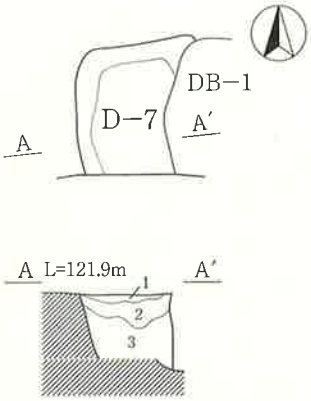
0　1:60　2m

Fig.38　Ｉ－６号井戸、Ｄ－１～５号土坑



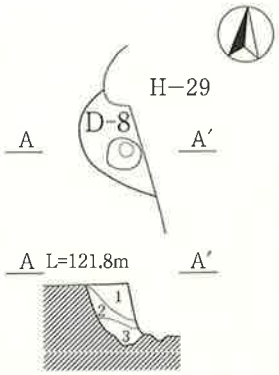
D－６号土坑　セクション

1	黒褐	細	○	○	灰褐色粘土が30％しみ状～小ブロック状に混在。As-C粒25％、炭化物１％含む。
2	黒褐	微	○	○	灰褐色粘質土と黒褐色土のしみ状～小ブロック状混在。As-C粒15％含む。
3	黒褐	微	△	○	やや緻密。暗褐色粘質土が少量しみ状混在。As-C粒５％含む。
4	黒～黒褐	微	△	○	黒色砂質土と３層のブロック～団粒状混在。



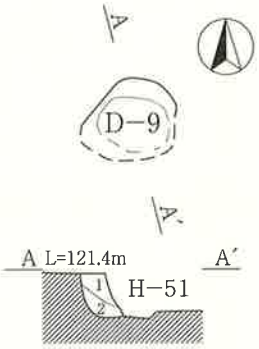
D－７号土坑　セクション

1	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP　20%
2	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP　10%
3	暗褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP　20%



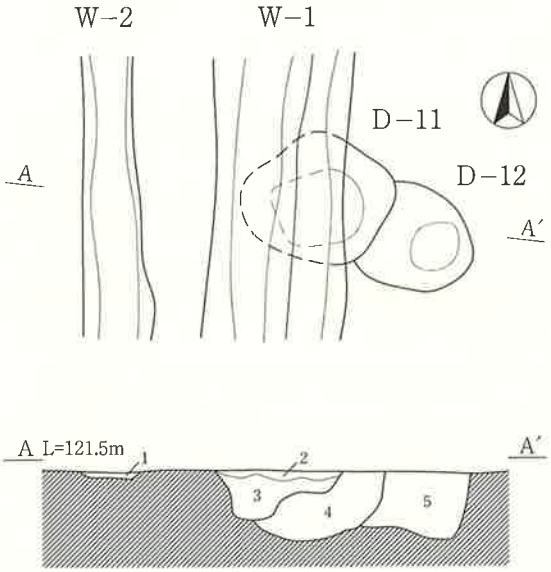
D－８号土坑　セクション

1	暗褐	細	△	◎	As-C・Hr-FP20%
2	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP15% 焼土粒２％
3	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP５％



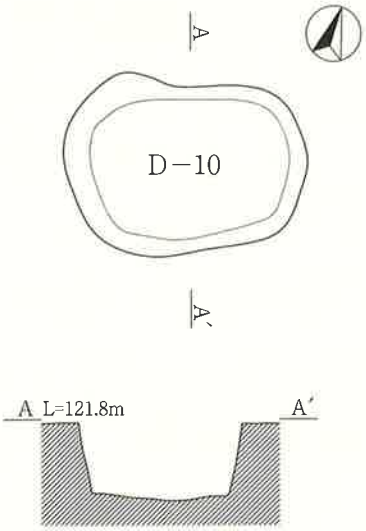
D－９号土坑　セクション

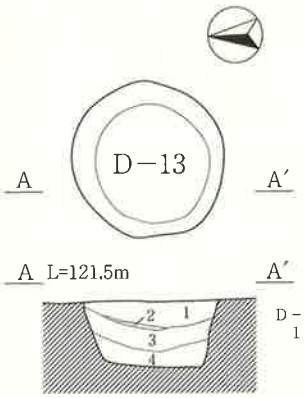
1	にぶい黄褐	細	△	○	As-C・Hr-FP　２％
2	褐	細	△	◎	As-C・Hr-FP　１％　黄橙色ブロック(φ５㎜)５％



D－11，12号土坑、W－１，２号溝跡　セクション

1	褐灰	細	◎	○	As-B混土層	(W－１)
2	暗褐	細	◎	◎	As-B混土層	(W－１)
3	黒褐	細	◎	◎	As-B混土層	(W－２)
4	暗褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP　５％　焼土粒２％　下部に灰が混じる	(D－11)
5	褐	微	◎	◎	As-C・Hr-FP　５％　焼土粒５％	(D－12)





D－13号土坑　セクション

1	黒ないし黒褐	微	△	△	As-Bを含む砂質土に、灰褐色粘土ブロック(φ10～25㎜)５％混在。黄色、橙色粒３％含む。
2	黒褐	微	×	△	灰状堆積物混在層。
3	黒褐	微	△	△	As-Bを多量に含む砂質土。
4	黒褐	細	×	△	As-Bを含む砂質土。黄褐色土小ブロック２％含む。

0　1:60　2m

Fig.39　D－６～13号土坑

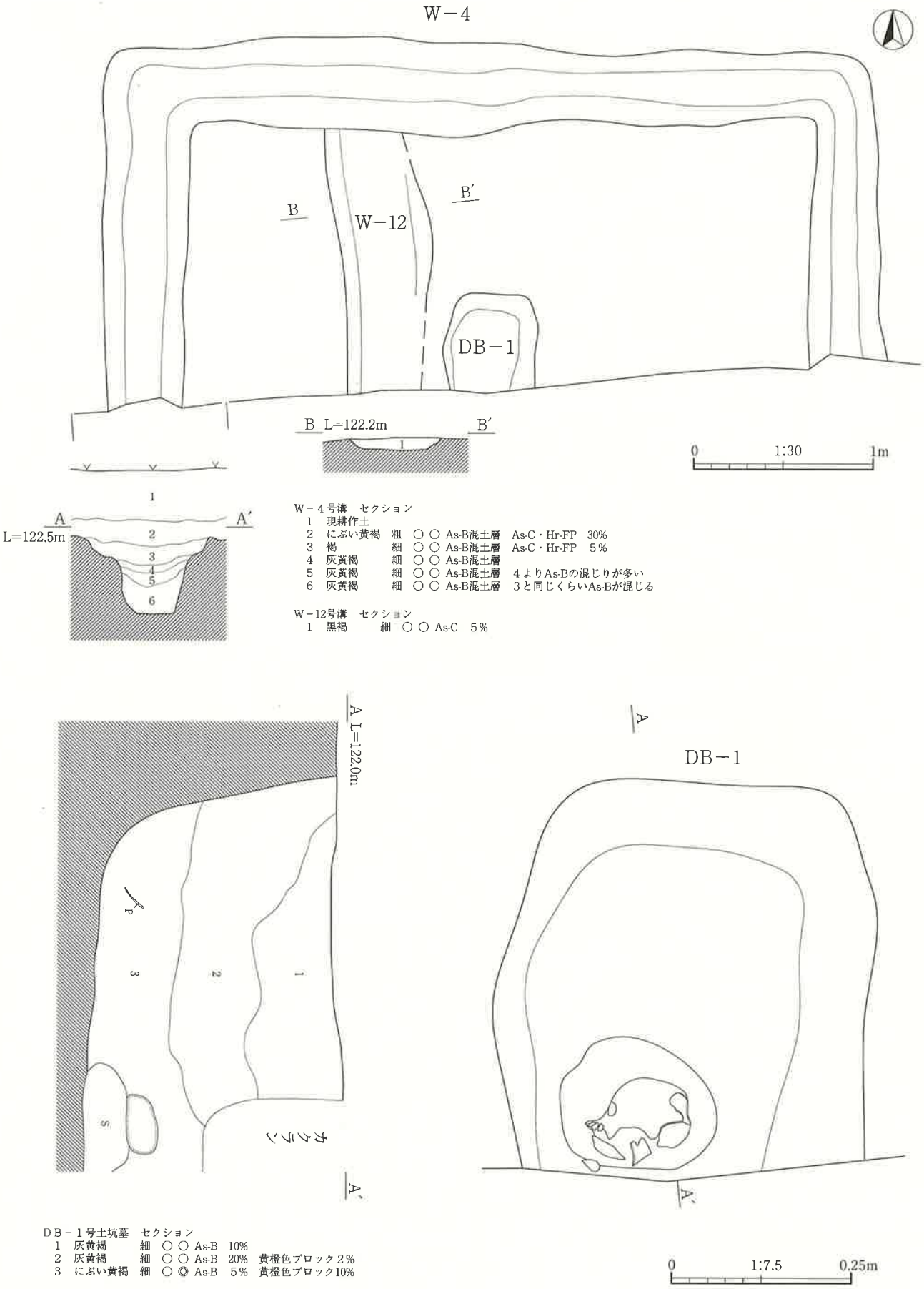


Fig.40 W－4・12号溝、DB－1号土坑墓

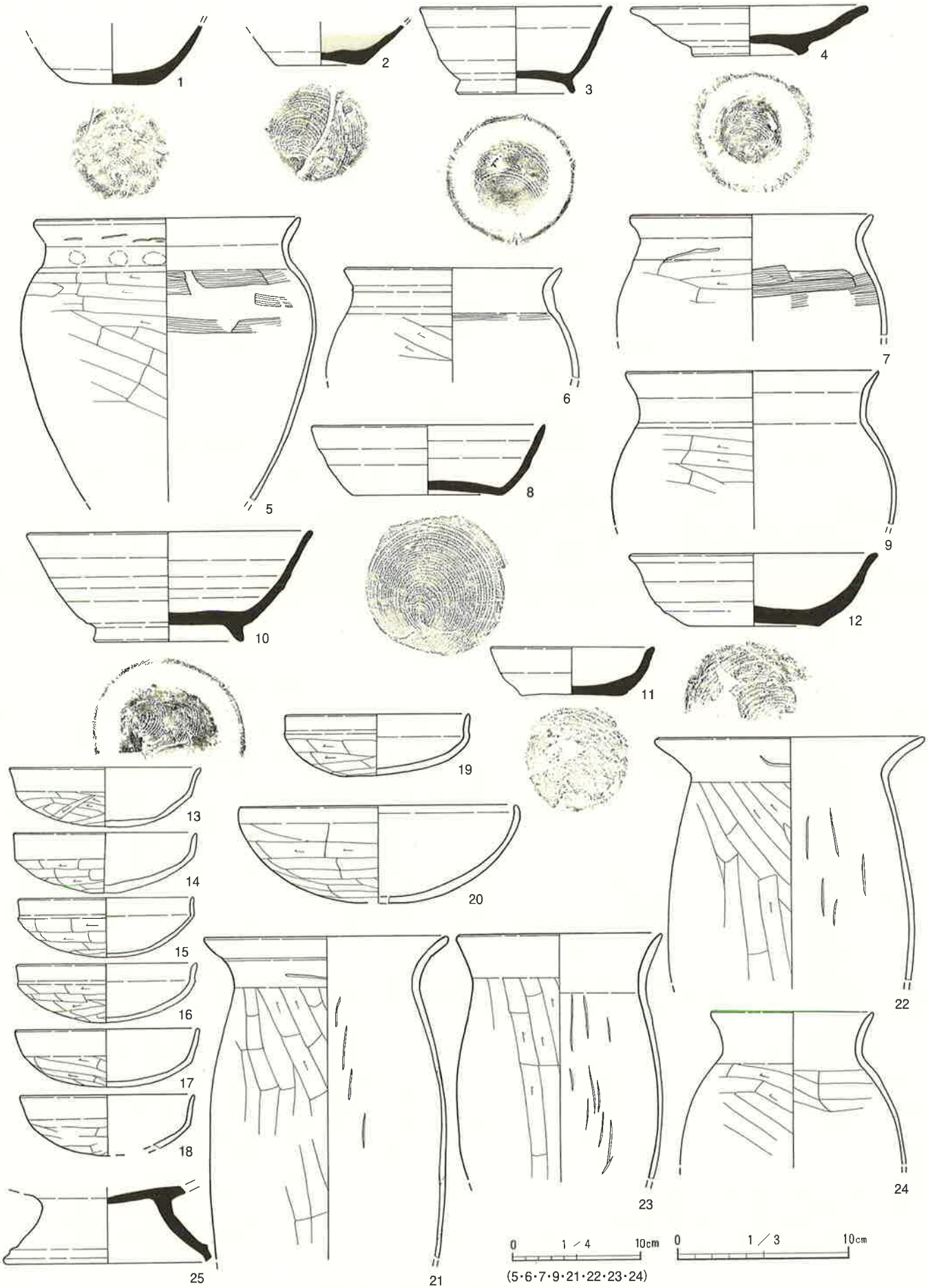


Fig.41　H－1～5号住居出土遺物

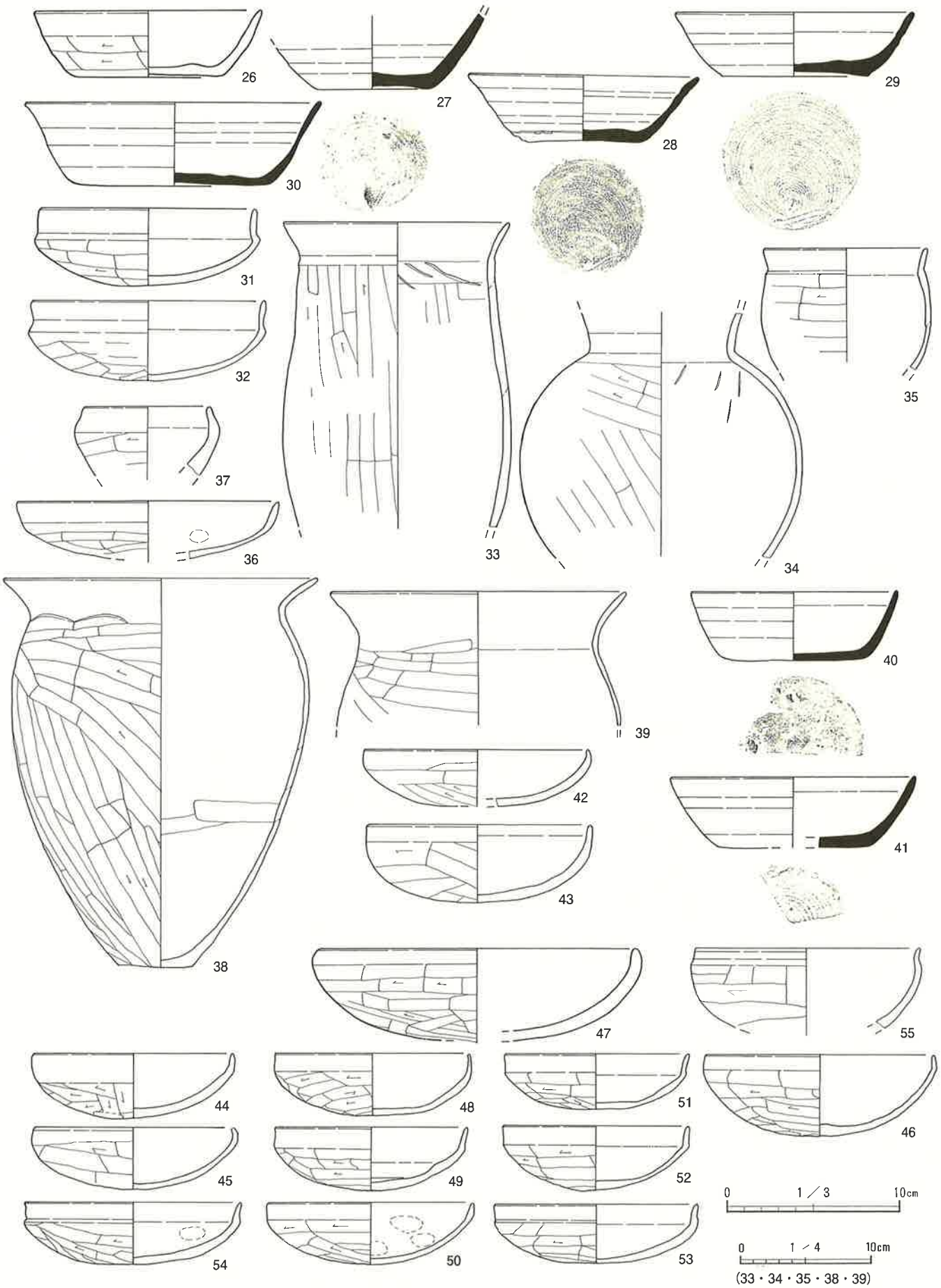


Fig.42　H－6～8・12～14号住居出土遺物

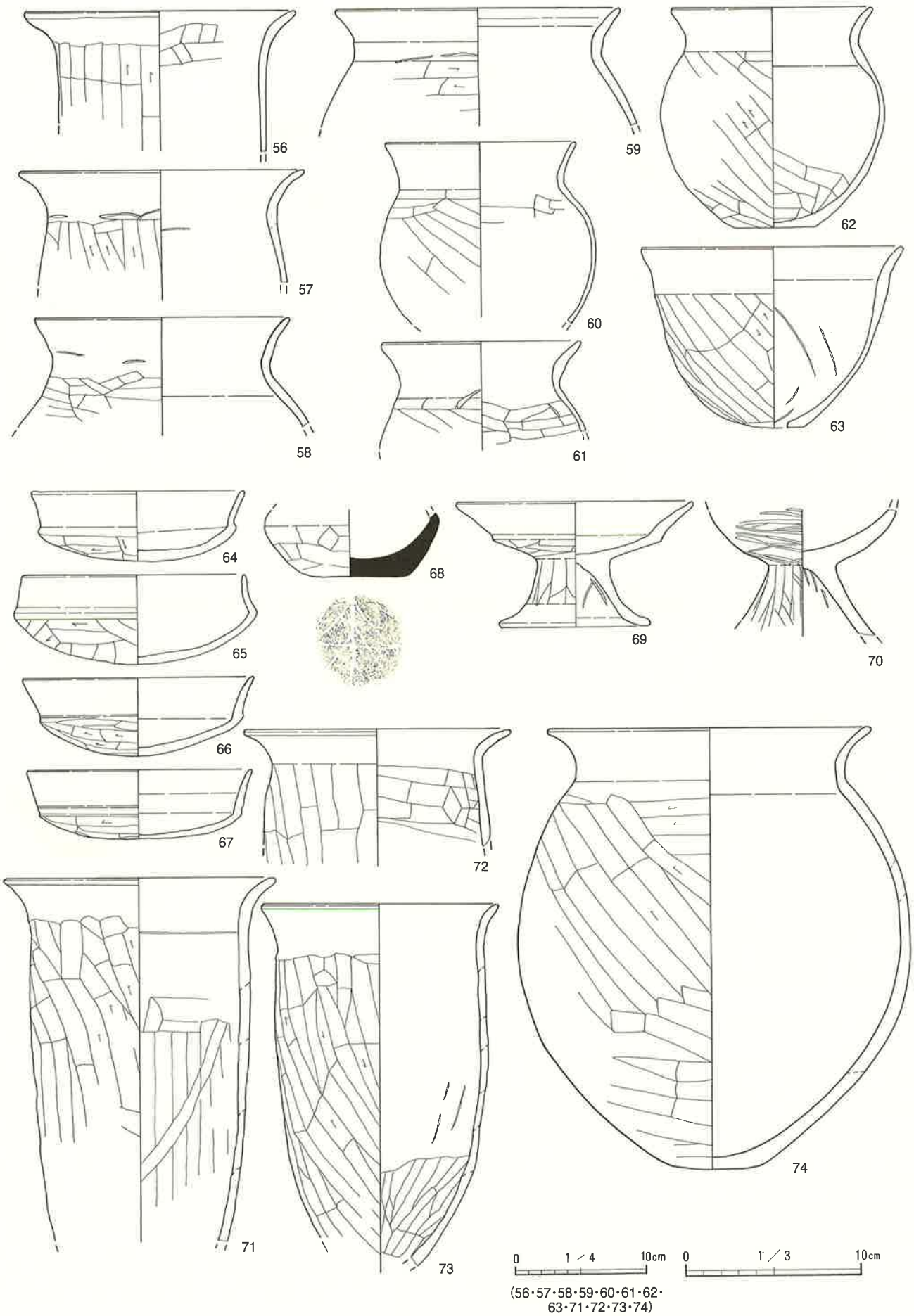


Fig.43　H－14・15号住居出土遺物

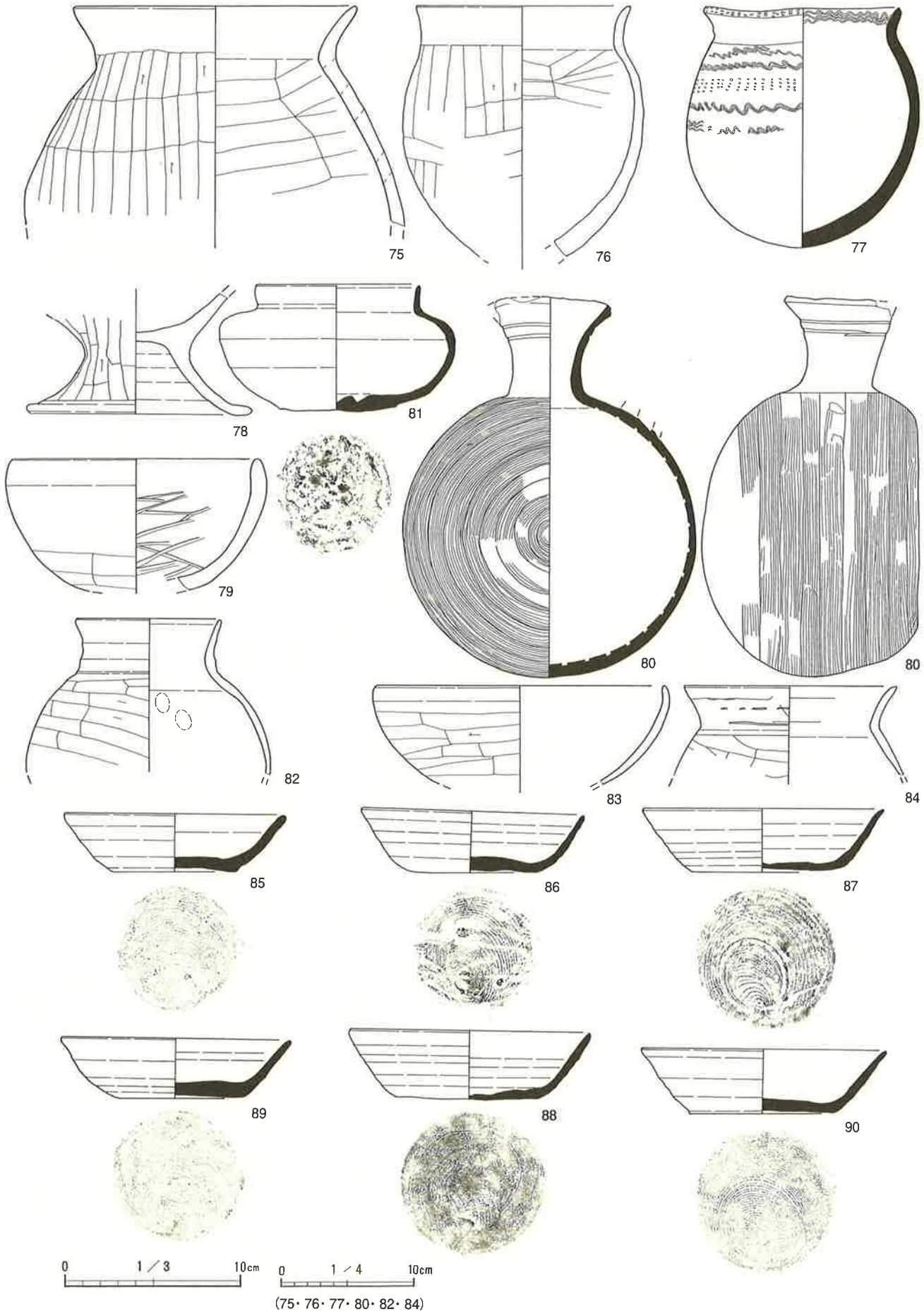


Fig.44　H－15～18号住居出土遺物

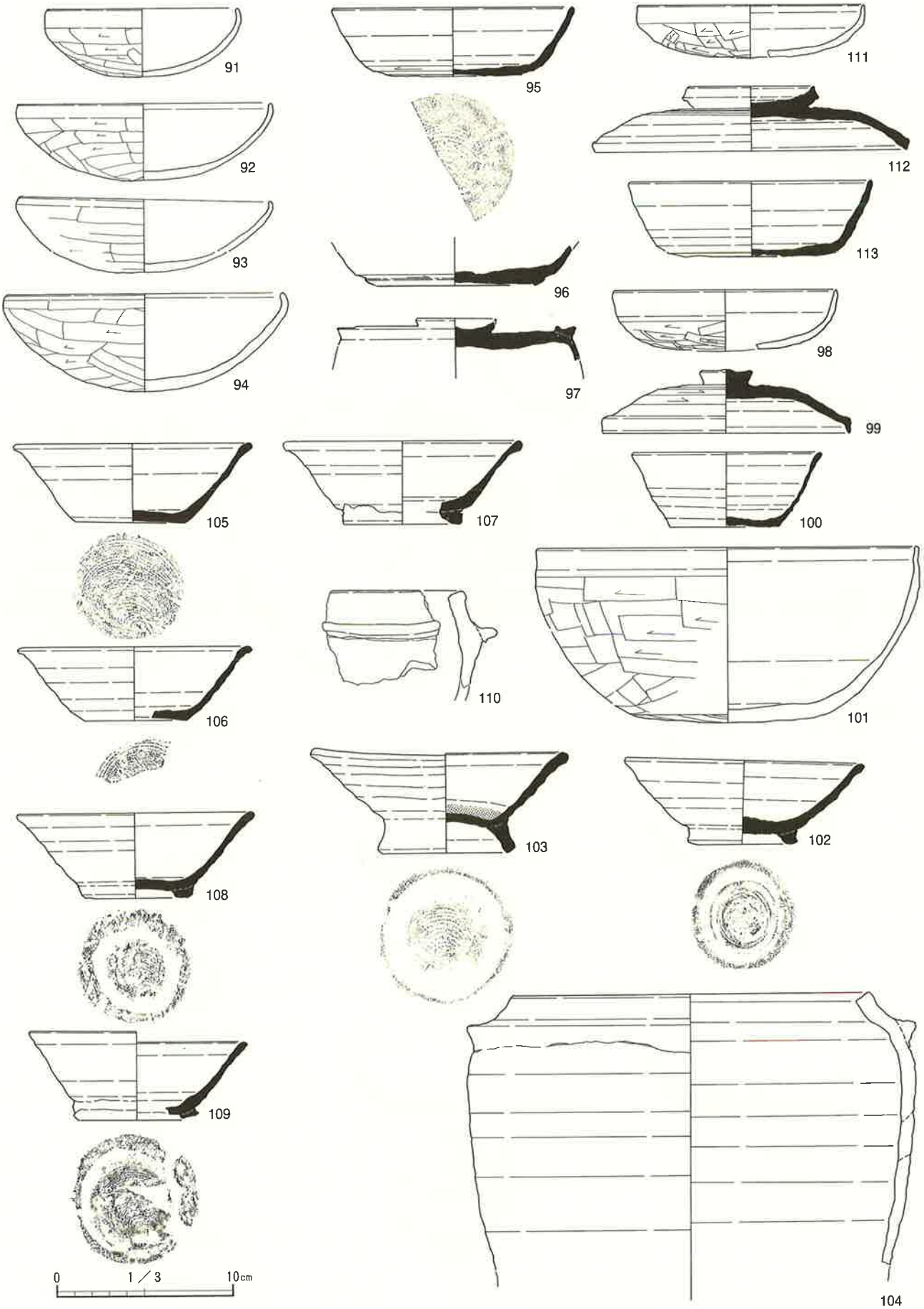


Fig.45　H－19・23・24・26・28・29号住居出土遺物

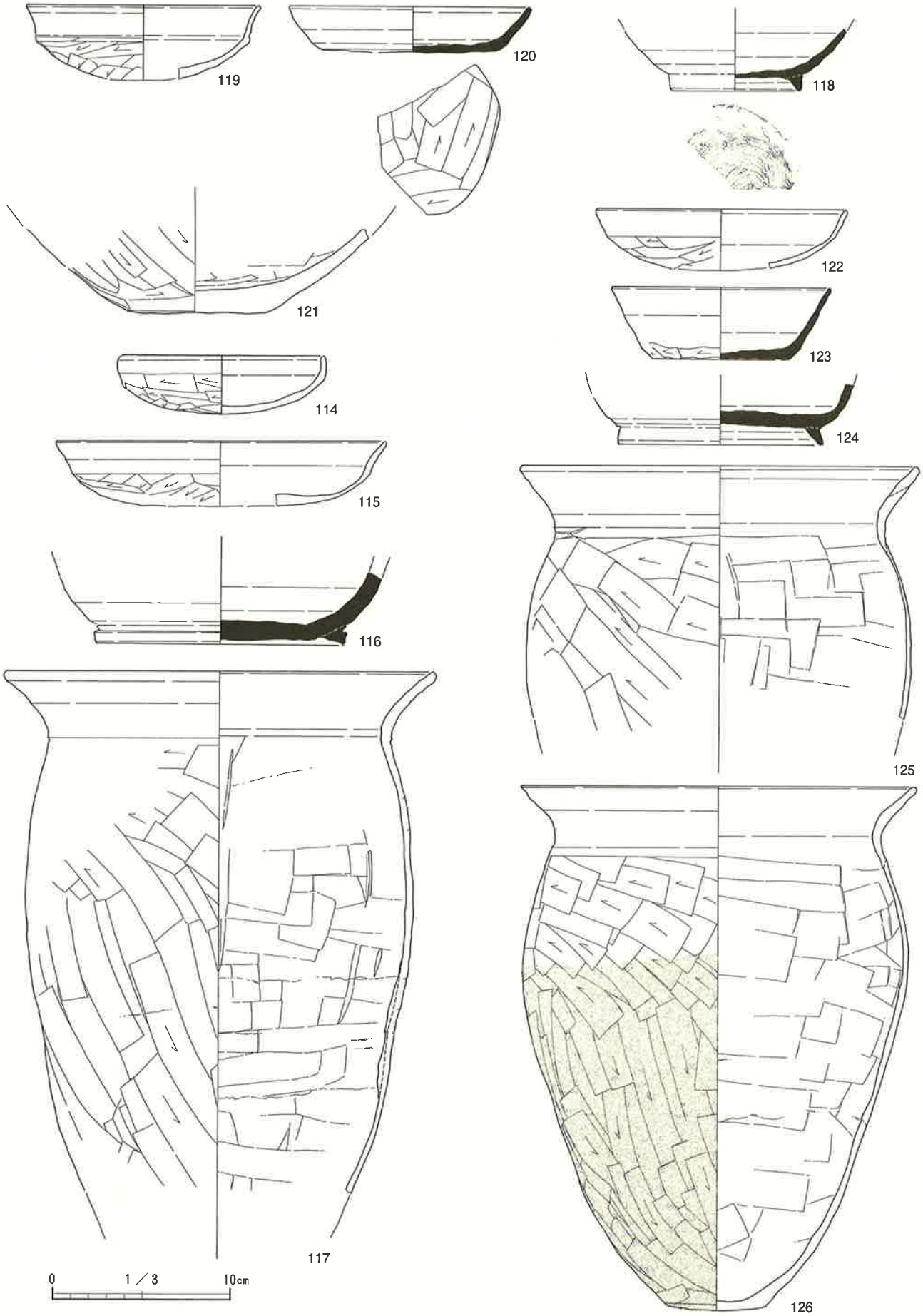


Fig.46　H－30～34号住居出土遺物

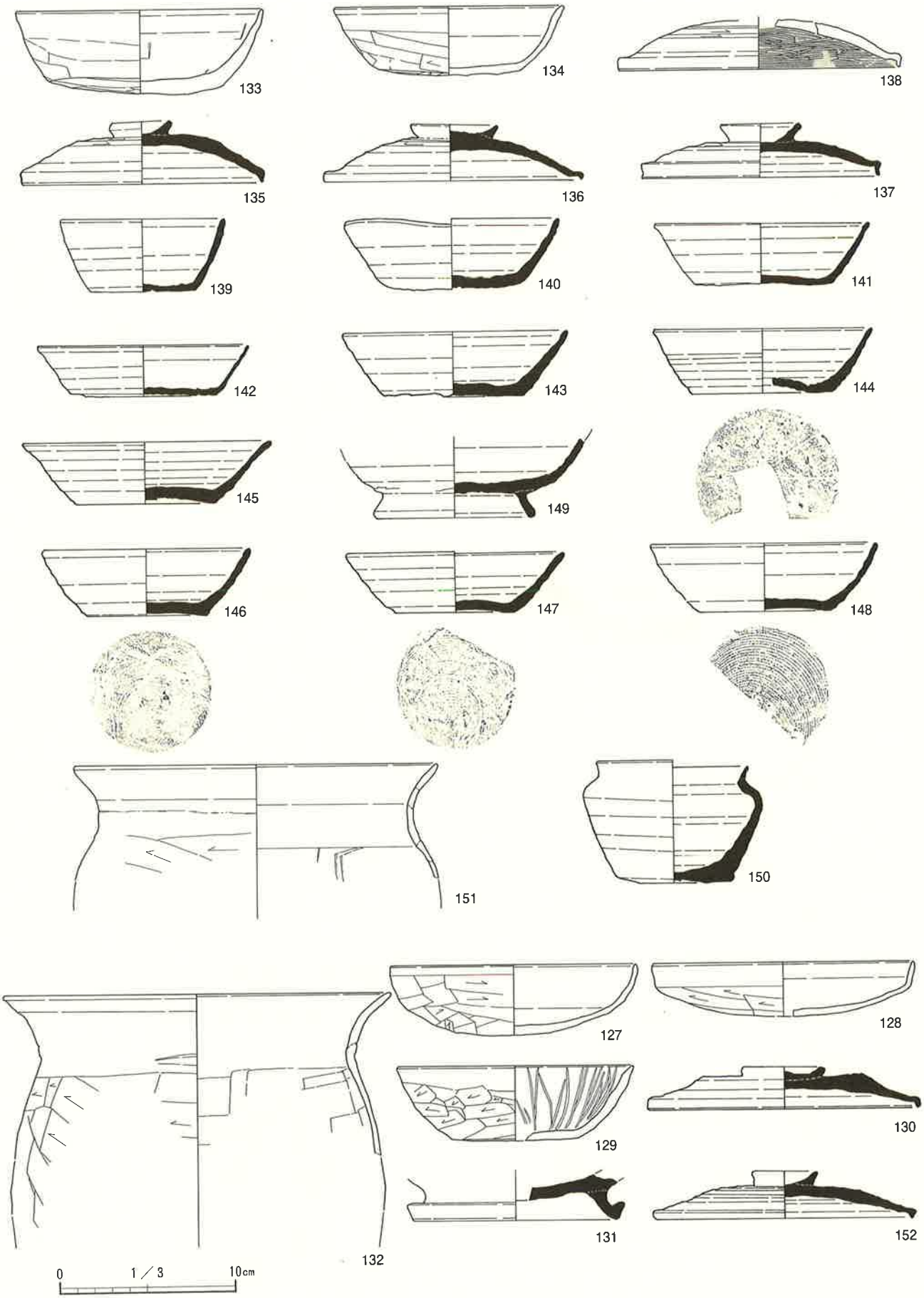


Fig.47　H－34・36・38号住居出土遺物

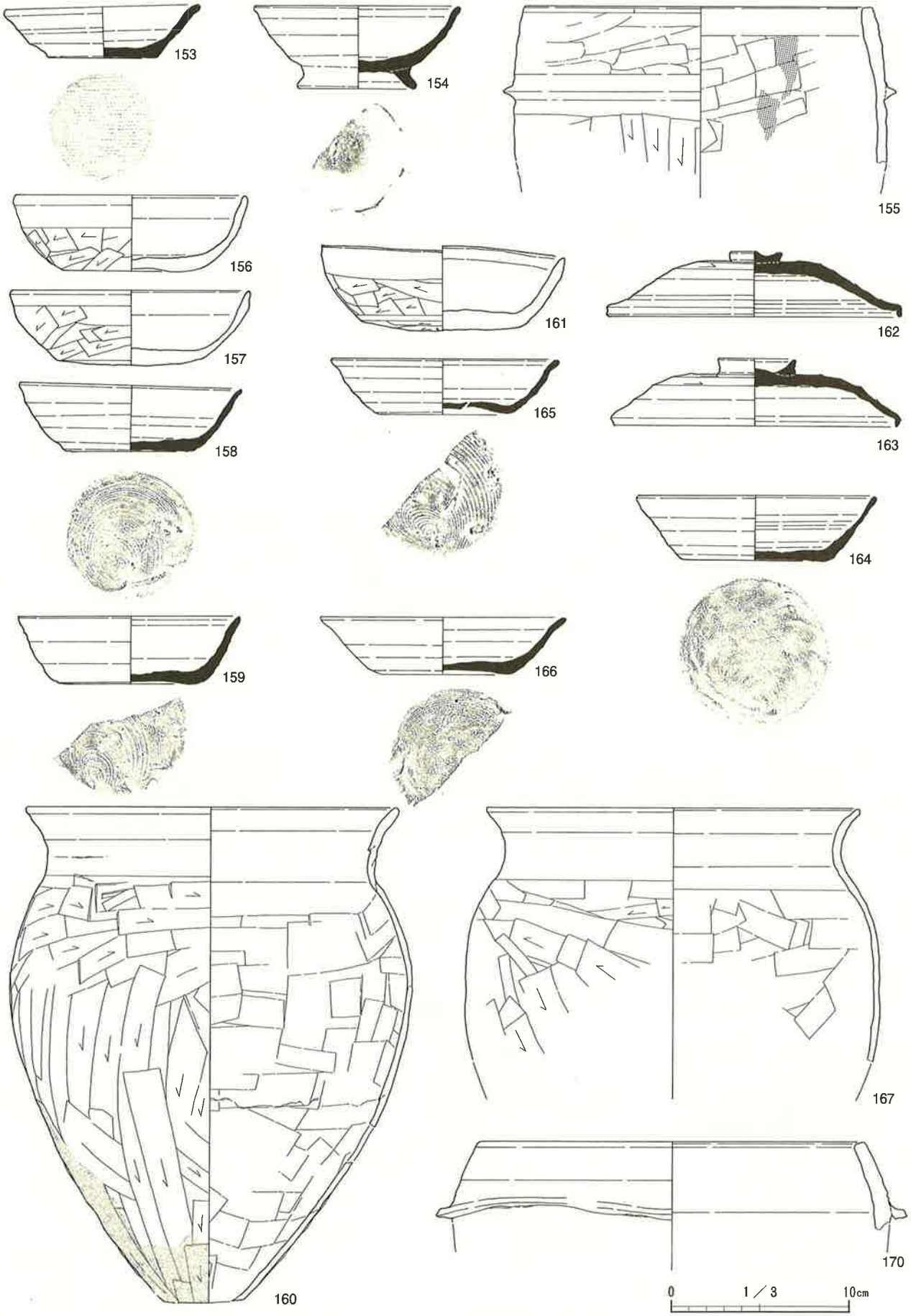


Fig.48　H－39・42・44・47号住居出土遺物

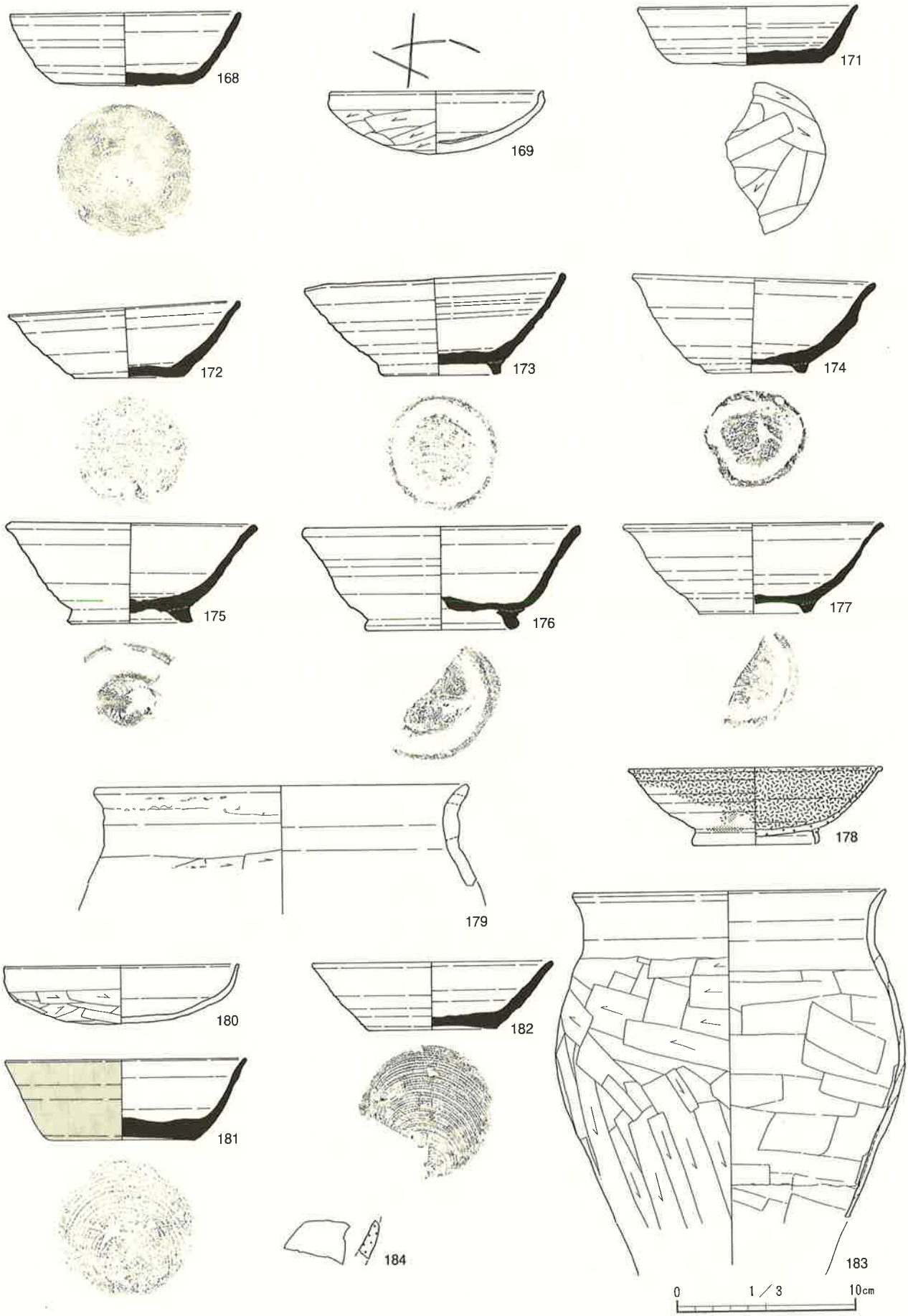


Fig.49　H－45・46・48・50～53号住居出土遺物

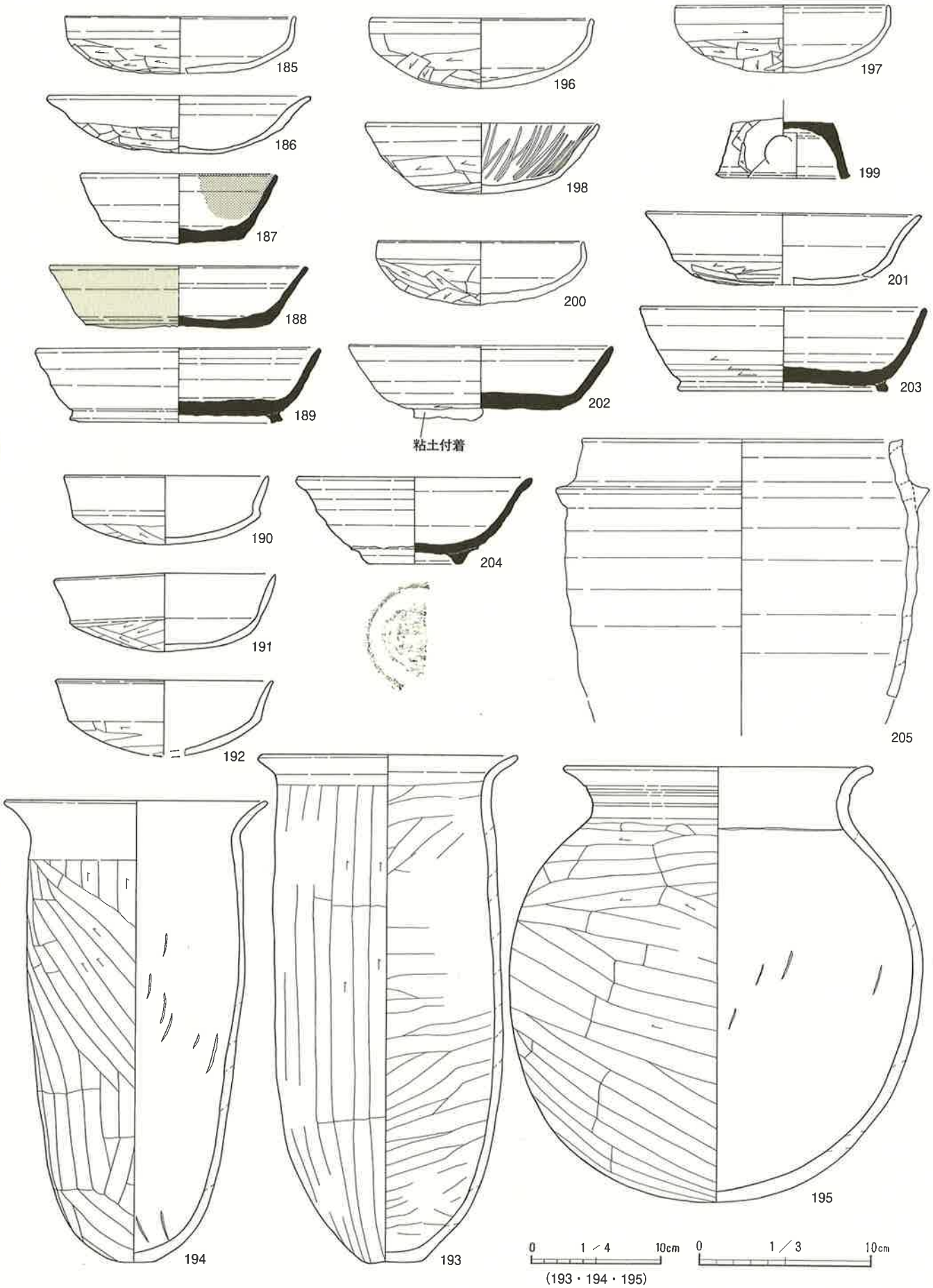


Fig.50　H－55・56・62・64・65号住居出土遺物

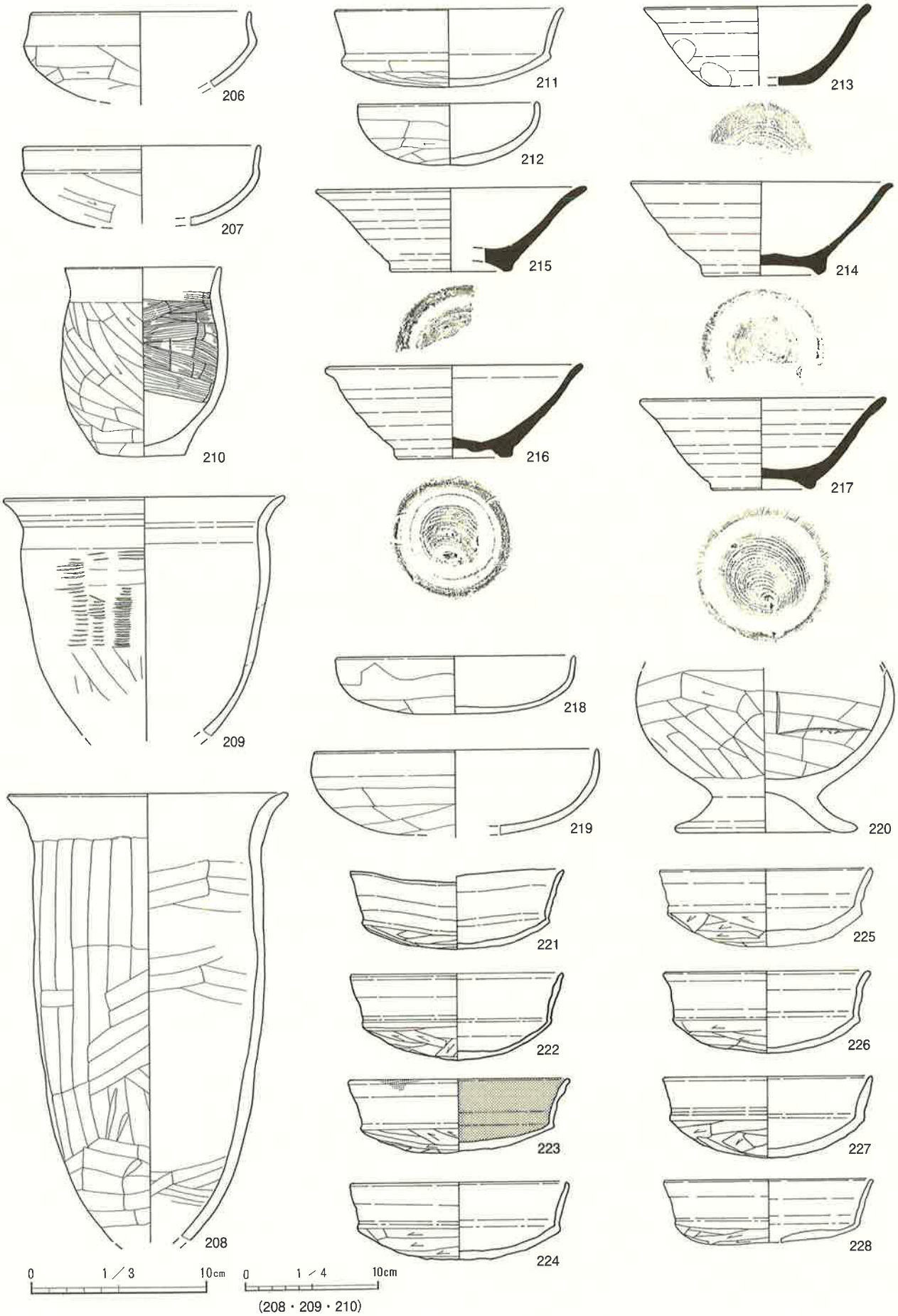


Fig.51　H－66・68・70・72～74号住居出土遺物

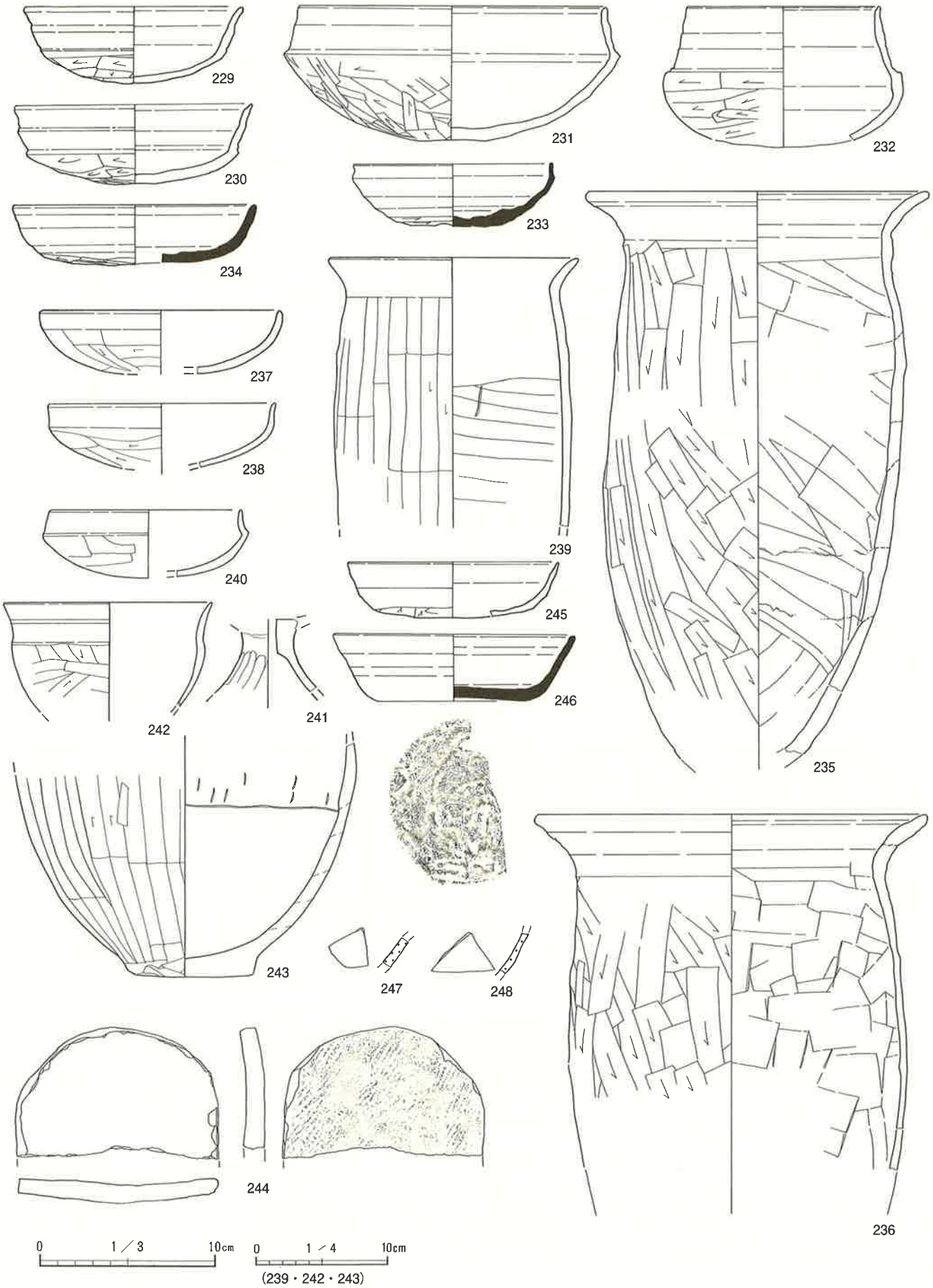


Fig.52　H－74・79・81号住居、T－2号竪穴状遺構、W－4号溝、I－6号井戸、グリッド出土遺物

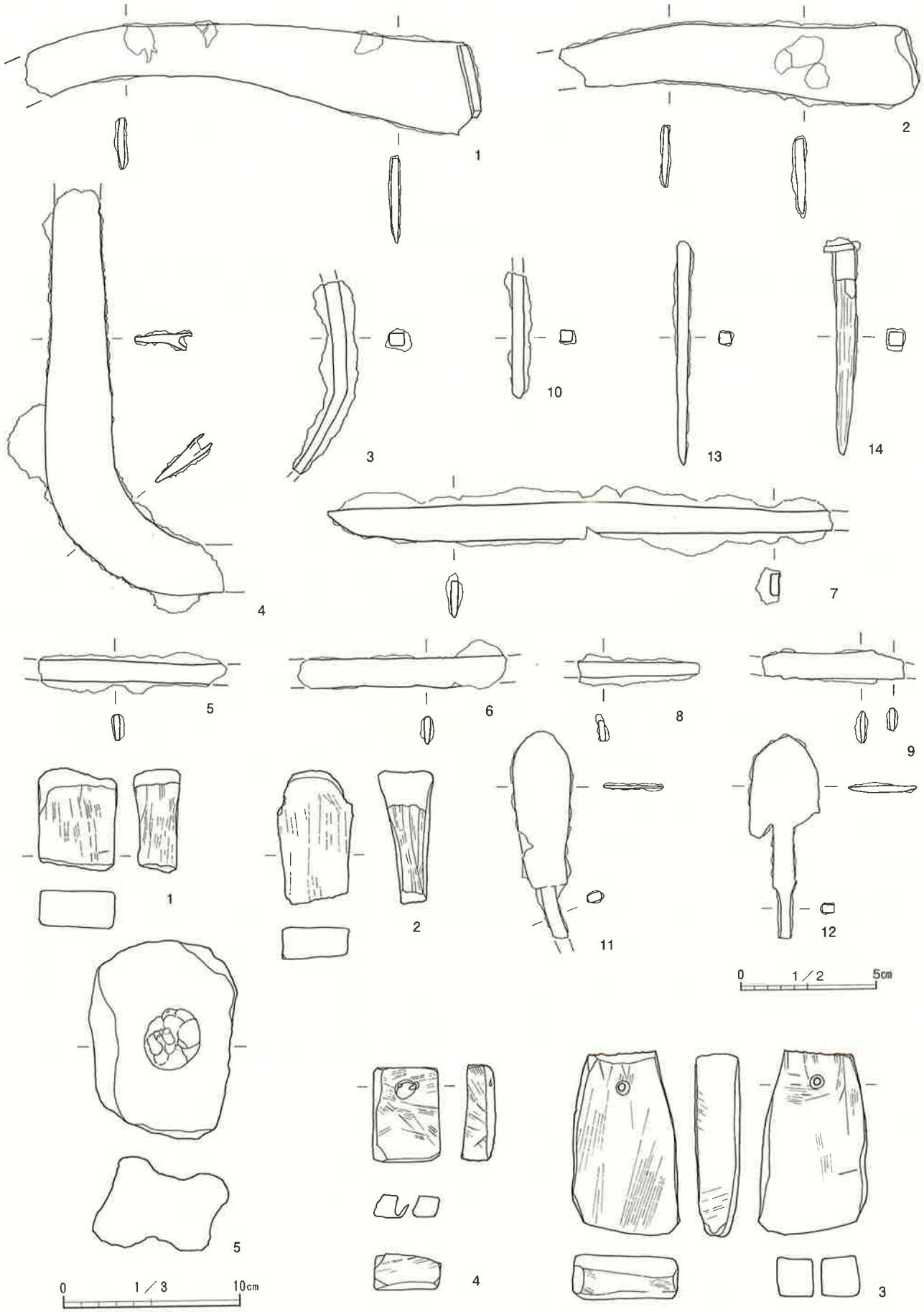


Fig.53　鉄器・鉄製品・石製品

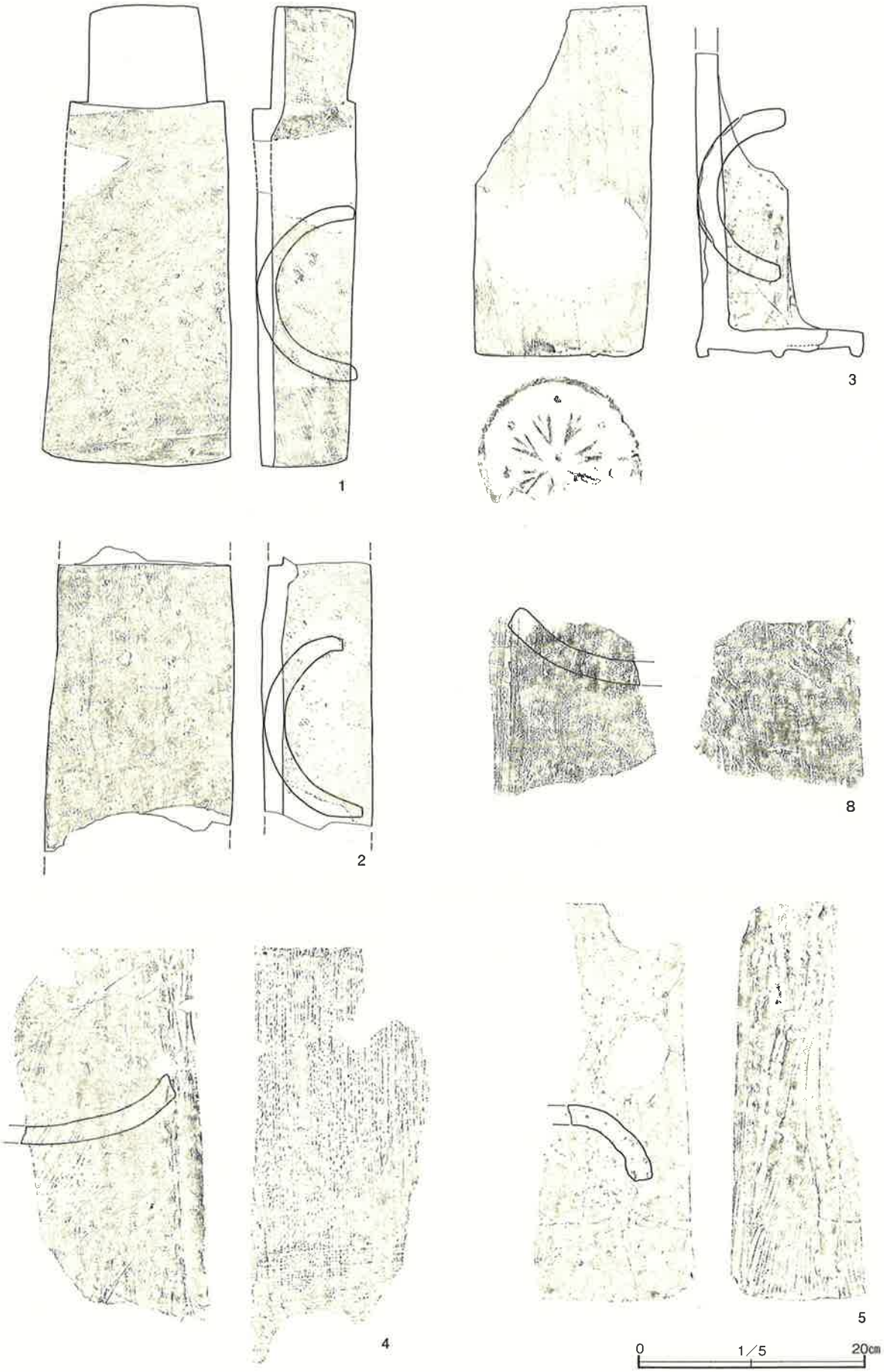
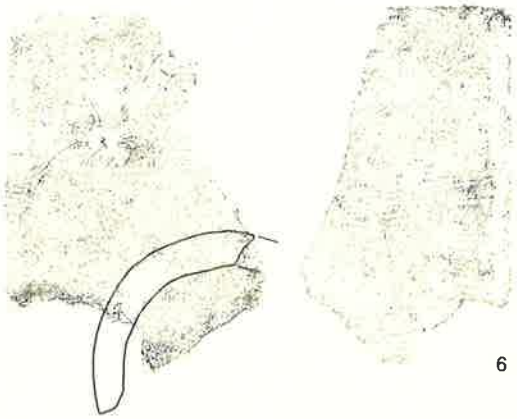
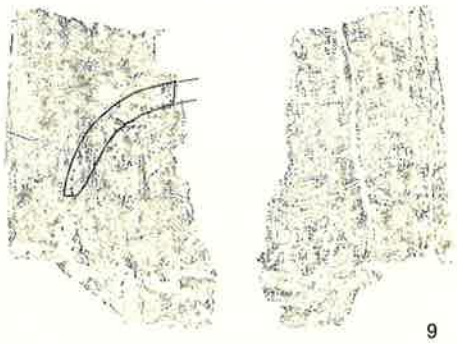
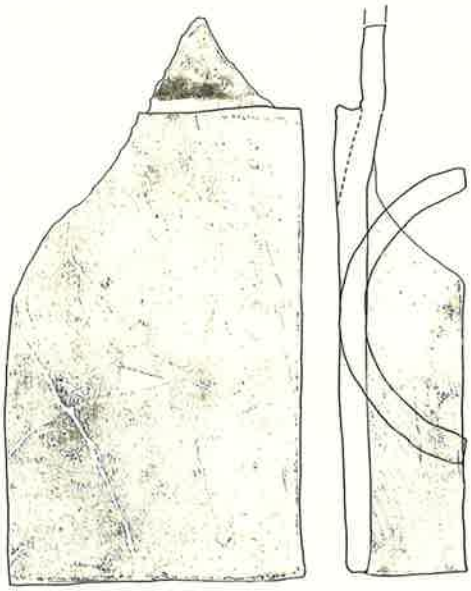
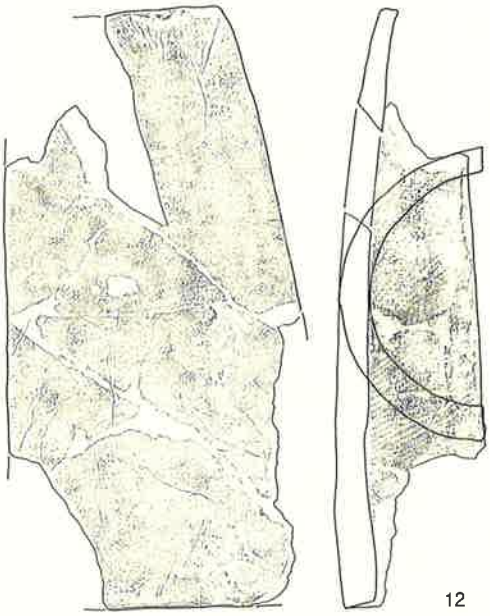


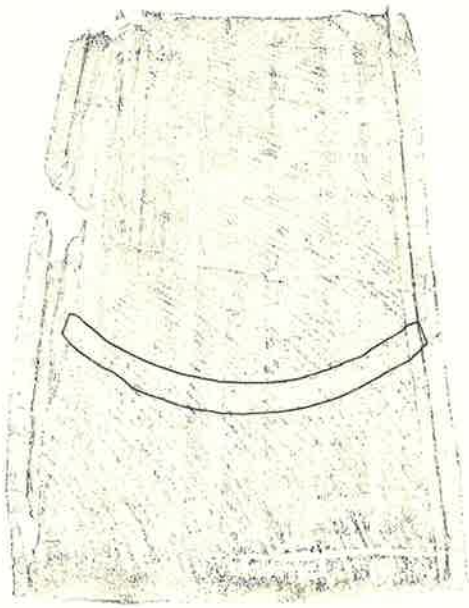
Fig.54　瓦（1）











0 1/5 20cm

Fig.55 瓦（2）

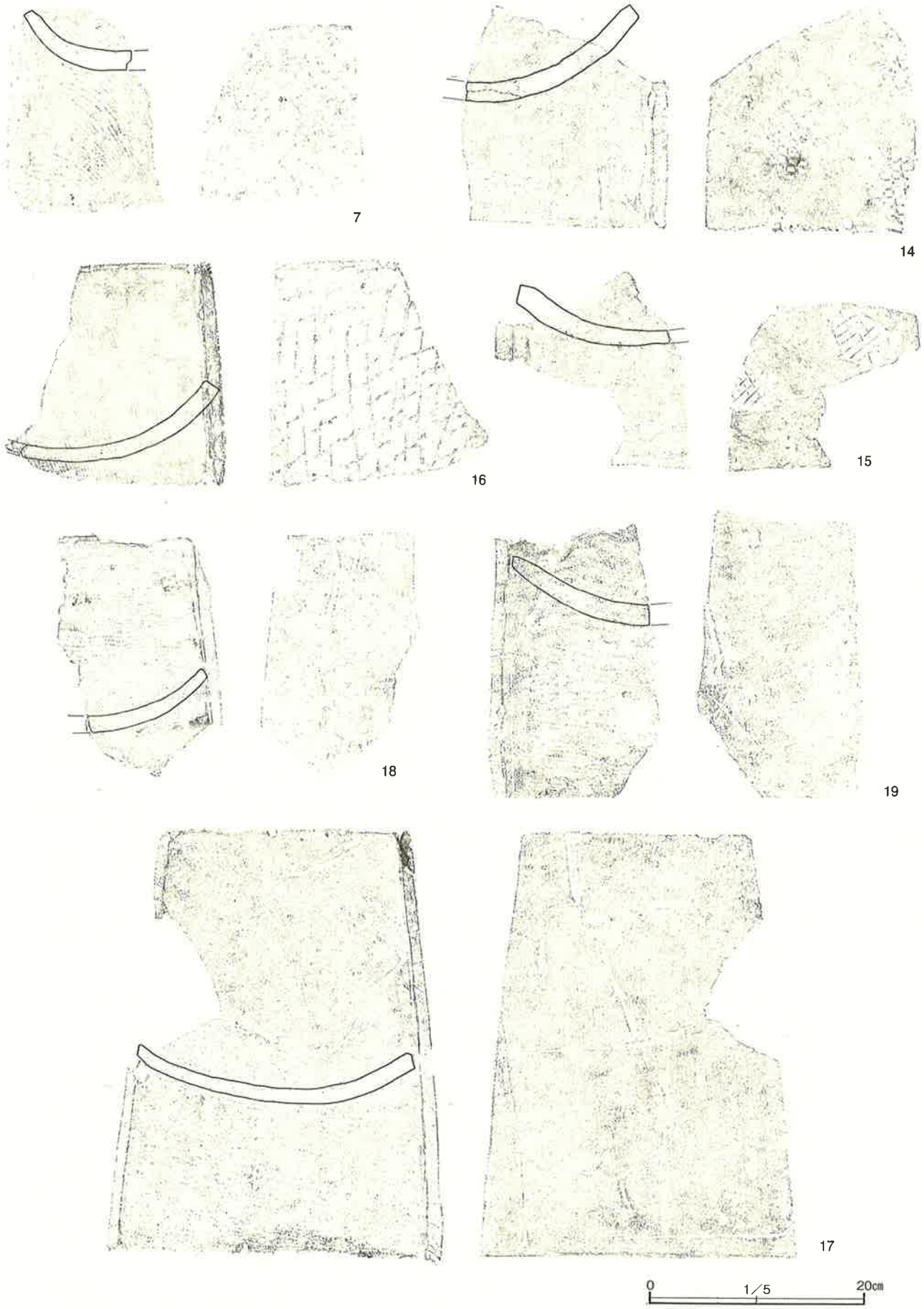
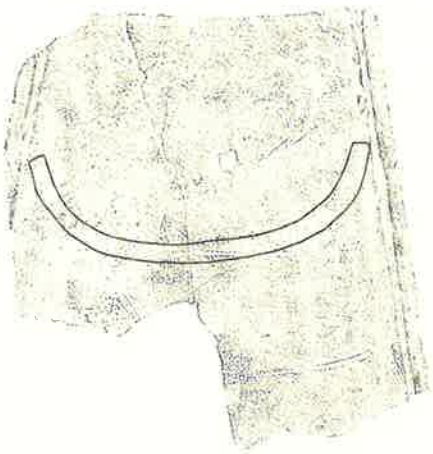
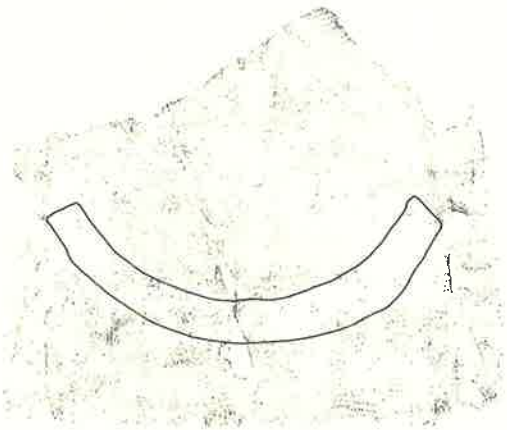
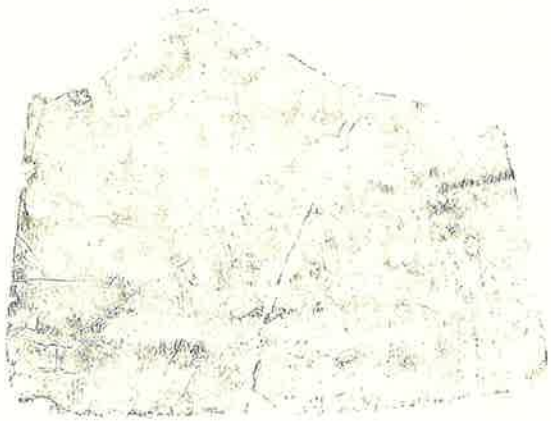


Fig.56 瓦（3）

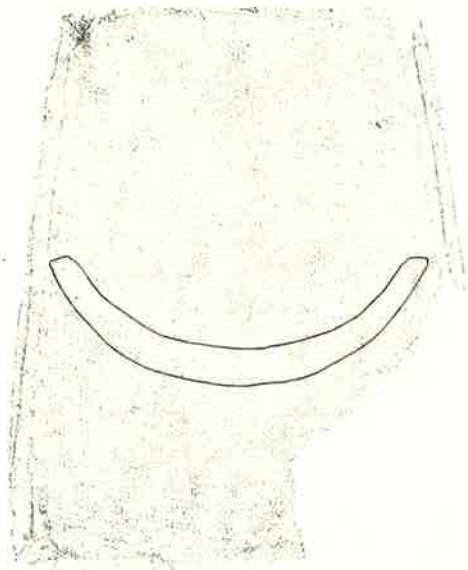


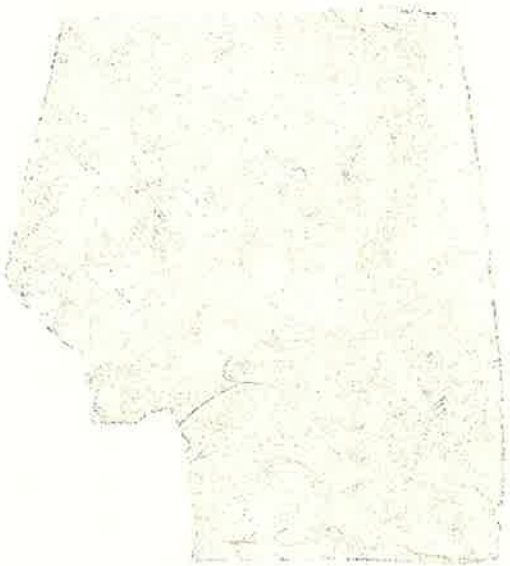
20





22

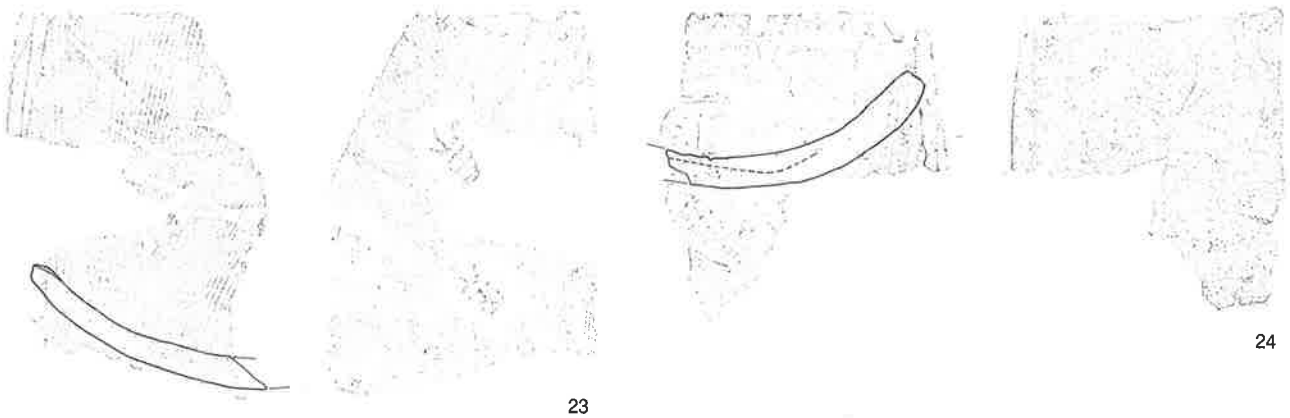




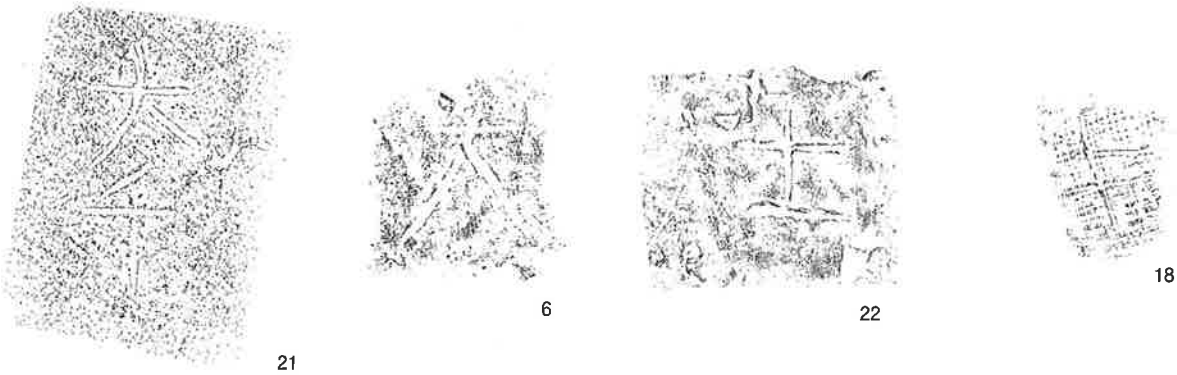
21

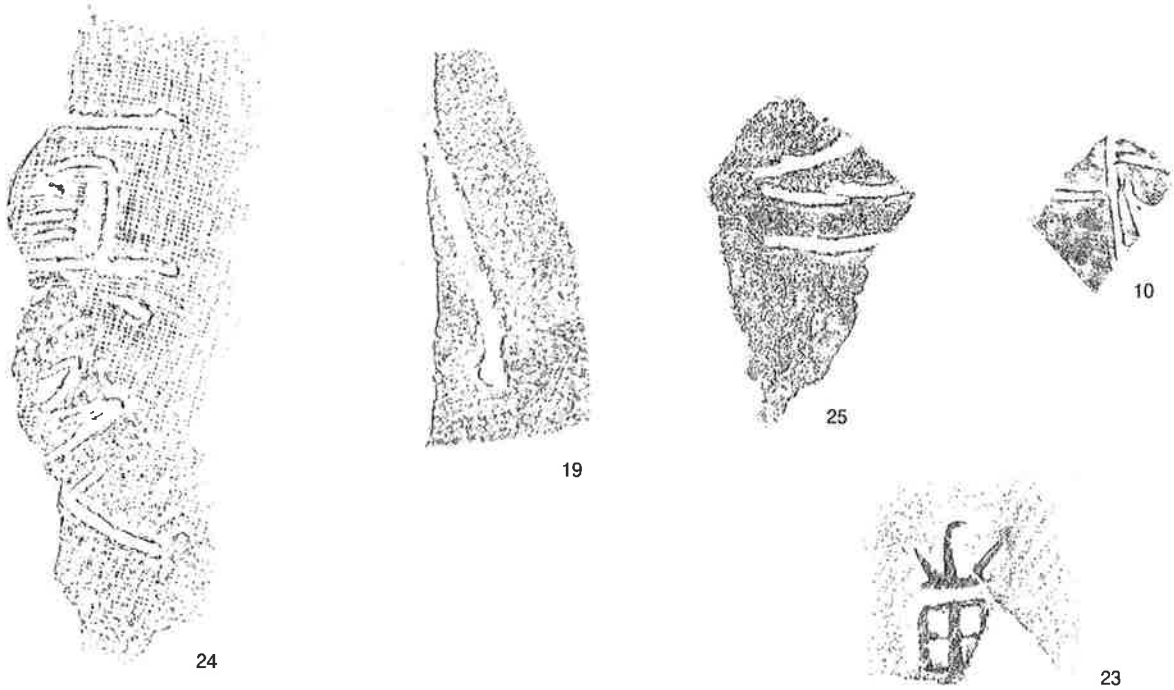
0 1／5 20cm

Fig.57　瓦（4）



0 1／5 20cm



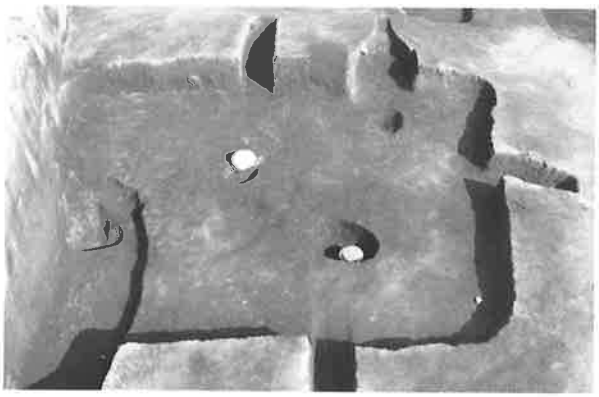


0 1／2 5cm

Fig.58 瓦（5）

H－１号住居跡　全景（西から）

H－１号住居跡　竈全景（西から）

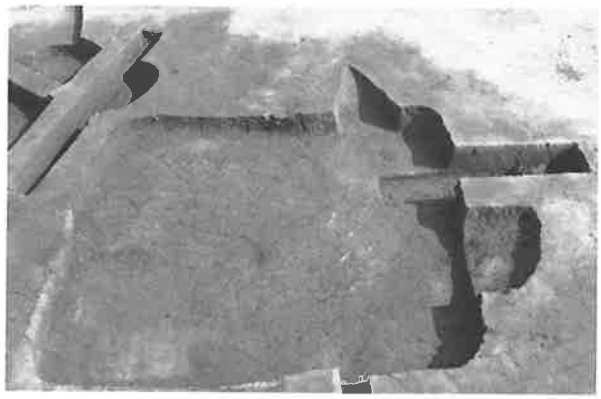


H－２号住居跡　全景（西から）

H－２号住居跡　竈全景（西から）

H－４号住居跡　全景（西から）

H－５号住居跡　全景（南面から）



H－６号住居跡　全景（西から）

H－７号住居跡　全景（南西から）

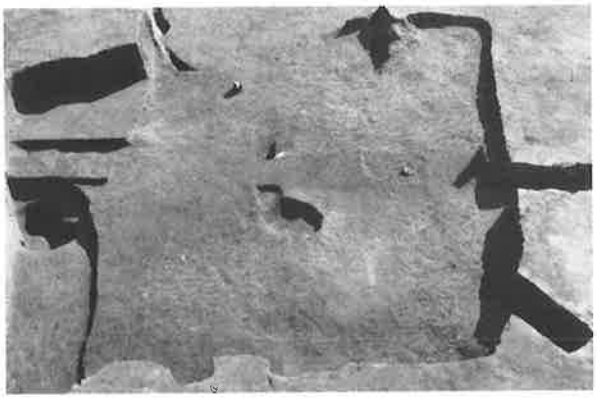
PL. 2

H－８号住居跡　全景（西から）

H－８号住居跡　竈セクション（南から）

H－８号住居跡　竈全景（西から）

H－11号住居跡　全景（西から）



H－12号住居跡　全景（西から）

H－13号住居跡　全景（南西から）

H－14号住居跡　遺物出土状況（南西から）

H－14号住居跡　遺物出土状況（北西から）

H－15号住居跡　全景（西から）

H－15号住居跡　竈全景（南西から）

H－15号住居跡　遺物出土状況（北西から）

H－15号住居跡　西側張り出し部遺物出土状況（北東から）

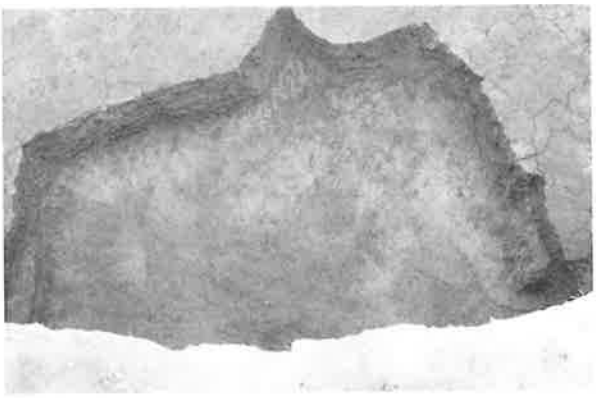
H－15号住居跡　西側張り出し部石組（北から）

PL. 4

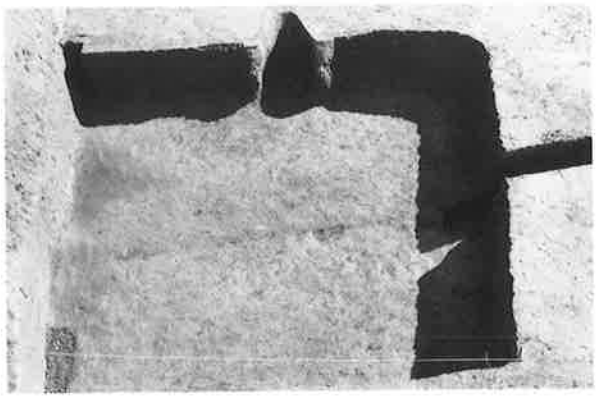
H－16号住居跡　全景（南東から）

H－18号住居跡　全景（北西から）

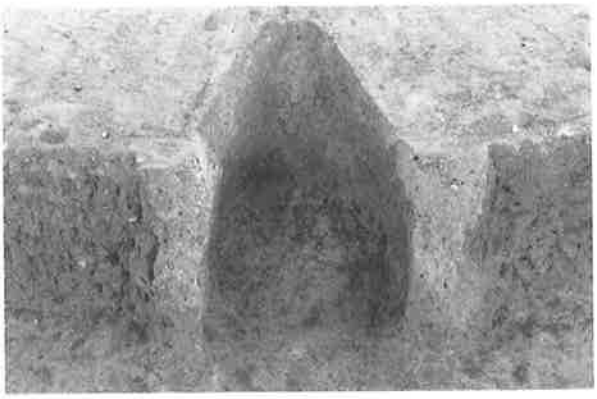
H－19号住居跡　全景（西から）



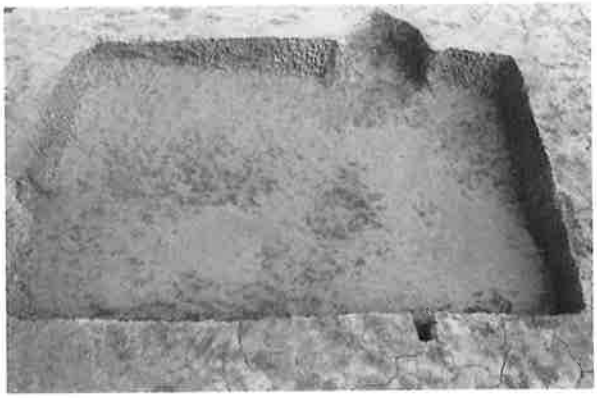
H－23号住居跡　全景（北から）



H－24号住居跡　全景（西から）



H－24号住居跡　竈全景（西から）



H－26号住居跡　全景（西から）

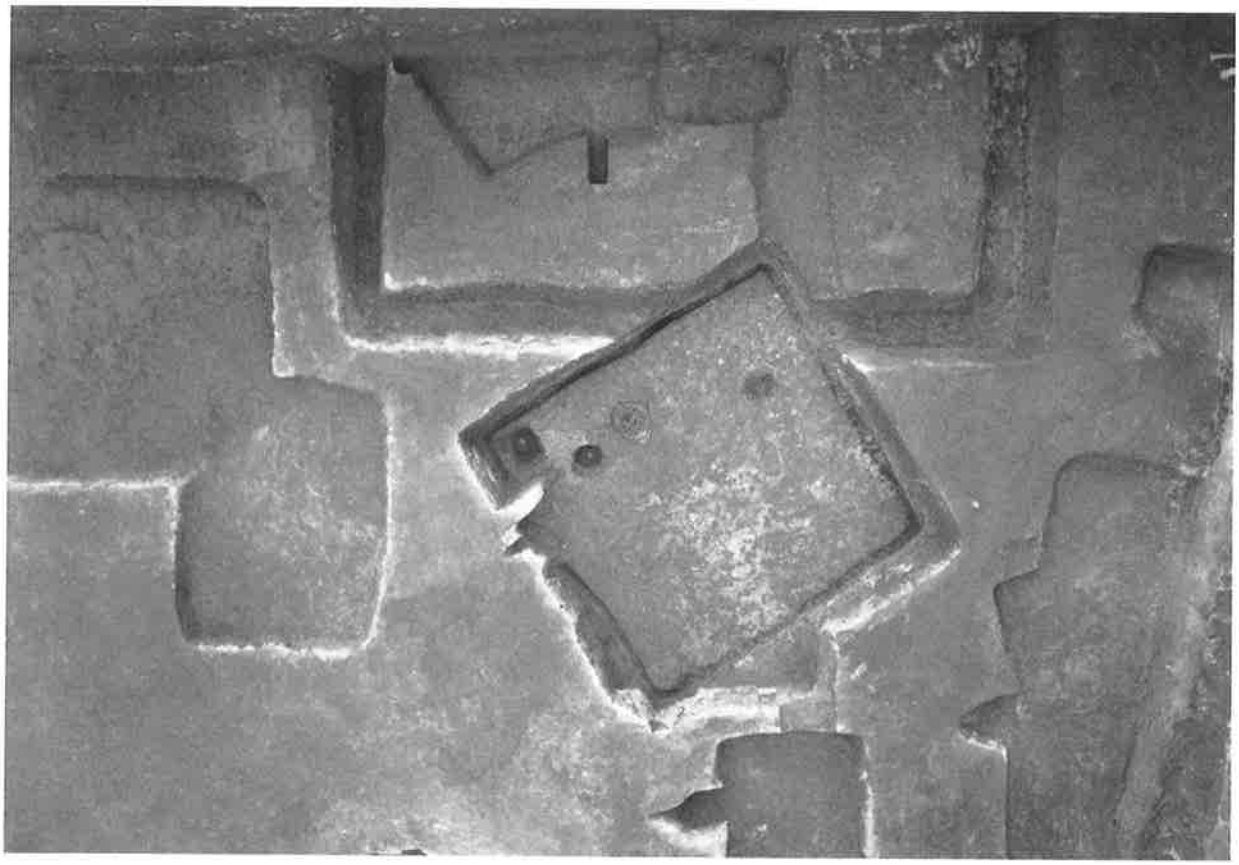
H－26号住居跡　竈全景（西から）

H－28号住居跡　遺物出土状況（南から）

H－28号住居跡　竈全景（西から）

H－28号住居跡　全景（西から）

H－28号住居跡　竈内遺物出土状況（西から）



W－４号溝跡周辺全景（上が南）

H－30号住居跡　全景（西から）

H－32号住居跡　全景（西から）

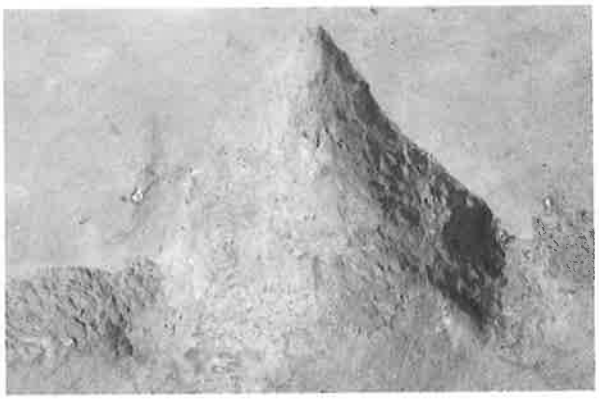
H－33号住居跡　全景（西から）

H－33号住居跡　竈全景（西から）

H－33号住居跡　埋設土器（西から）

H－33号住居跡　埋設土器セクション（南から）

H－34号住居跡　全景（西から）

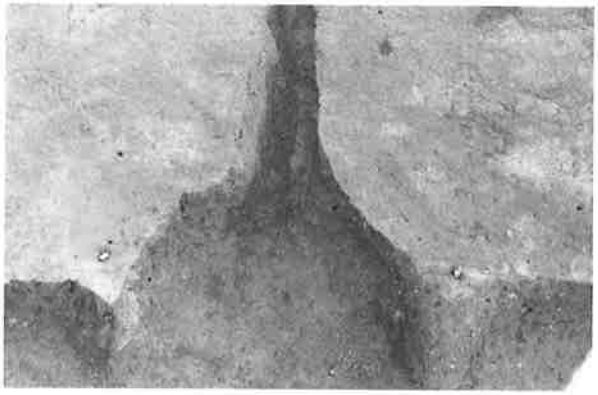


H－34号住居跡　全景（西から）

H－36号住居跡　全景（西から）

H－36号住居跡　遺物出土状況（南から）

H－39号住居跡　全景（西から）

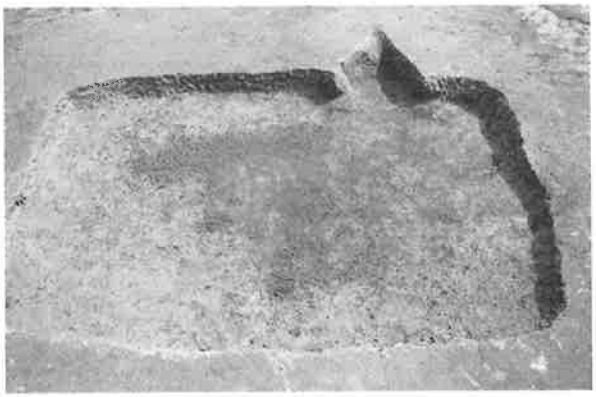


H－39号住居跡　竈全景（西から）

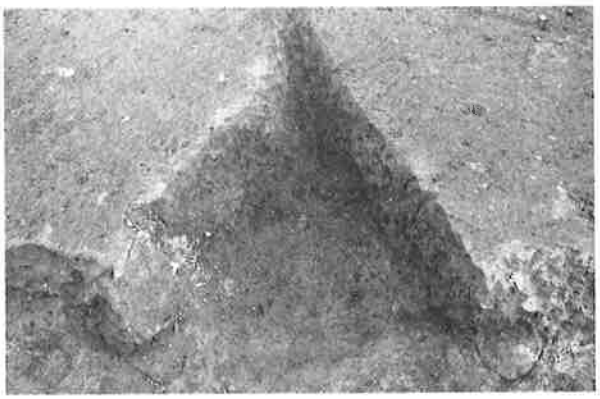
北西部全景（西から）

H－42号住居跡　竈内遺物出土状況（西から）

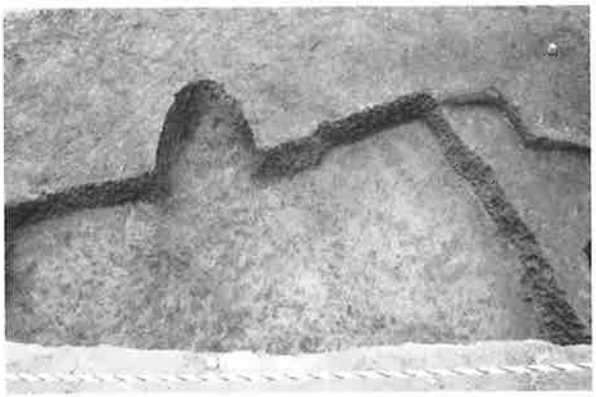
H－44、45号住居跡　全景（西から）



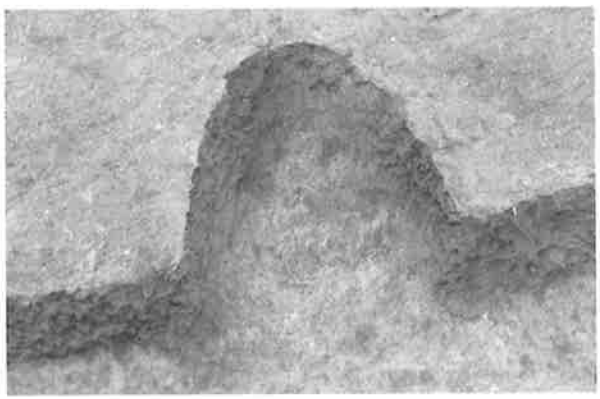
H－43号住居跡　全景（西から）



H－43号住居跡　竈全景（西から）



H－47号住居跡　全景（西から）



H－47号住居跡　竈全景（西から）

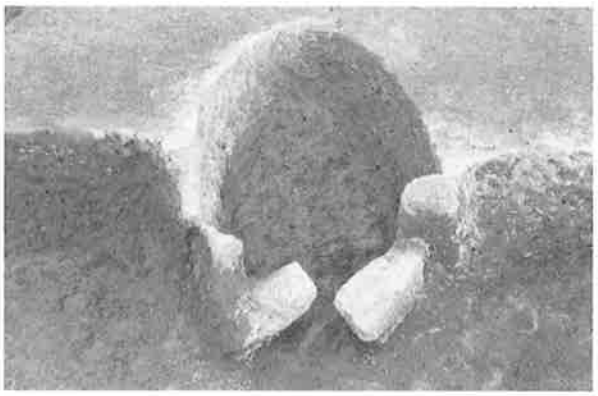
H－48号住居跡　全景（西から）

H－48号住居跡　竈全景（西から）

H－51号住居跡　全景（西から）

H－51号住居跡　竈全景（西から）

H－55号住居跡　全景（西から）



H－55号住居跡　竈全景（西から）

H－56号住居跡　全景（南西から）

H－58・80号住居跡　全景（南東から）

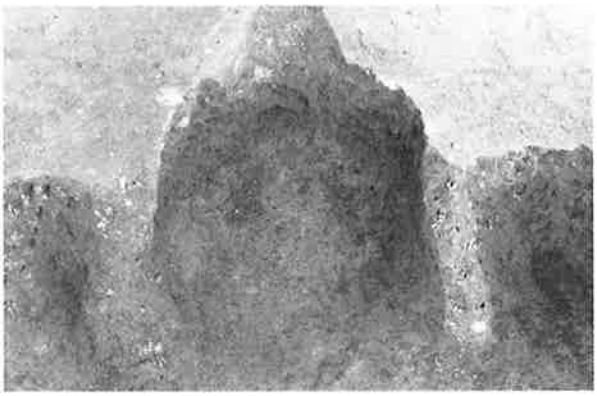
H－60号住居跡　全景（北西から）

H－62号住居跡　全景（西から）

H－64号住居跡　全景（西から）

H－64号住居跡　竈全景（西から）

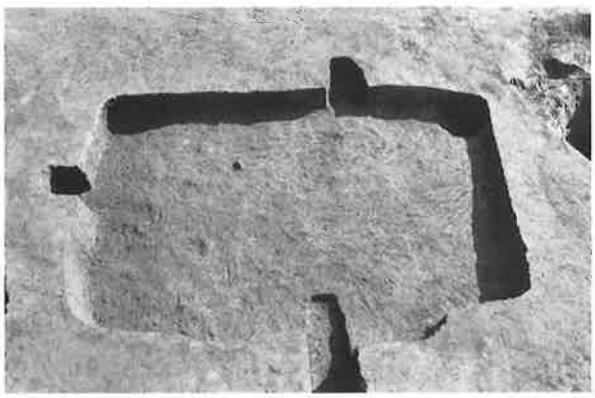
H－65号住居跡　全景（西から）



H－65号住居跡　竈全景（西から）

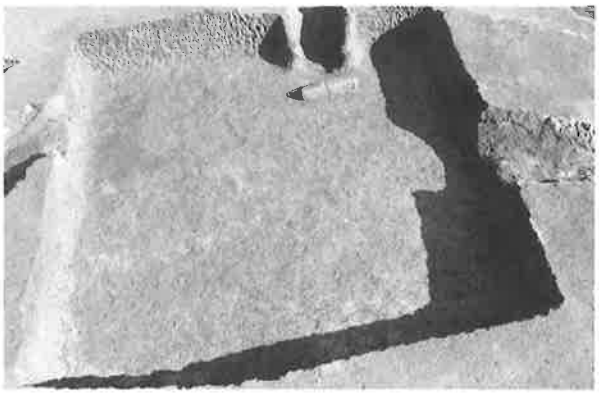
H－66号住居跡　全景（西から）

H－70号住居跡　全景（南西から）



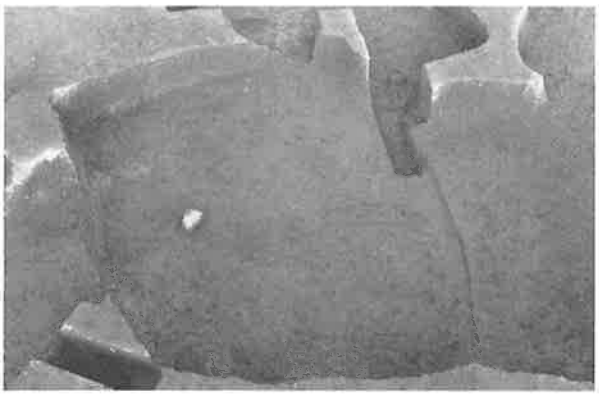
H－72号住居跡　全景（西から）

H－73号住居跡　全景（西から）



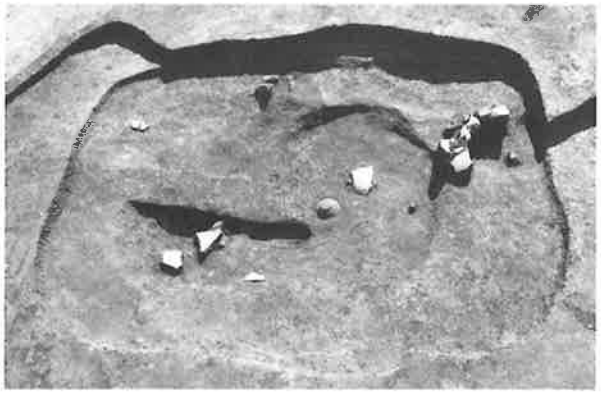
Ｈ－74号住居跡　全景（西から）

Ｈ－74号住居跡　竈全景（西から）



Ｈ－79号住居跡　全景（南西から）

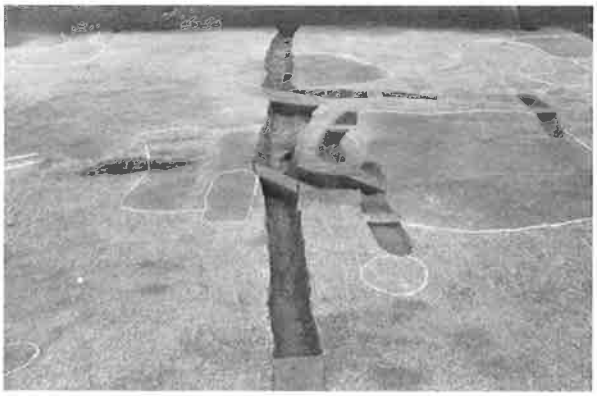
Ｈ－81号住居跡　全景（南西から）



Ｔ－２号竪穴状遺構全景（北西から）

Ｔ－２号竪穴状遺構　伏甕検出状況（南西から）

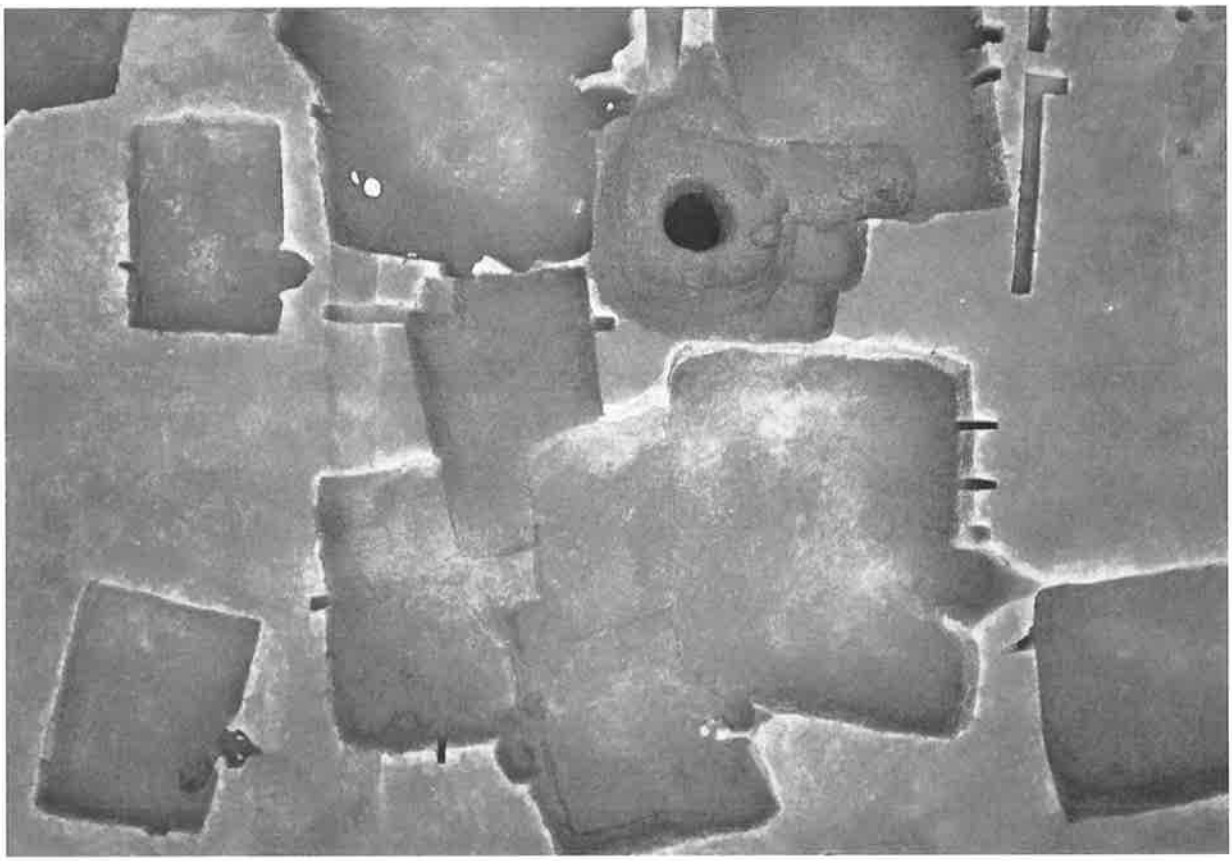
Ｗ－１号・２号遺跡　全景（北から）



Ｗ－３・５・６・７・８号遺跡全景（北から）

Ⅰ－１号井戸跡　全景（南から）

Ⅰ－４号井戸跡　全景（西から）

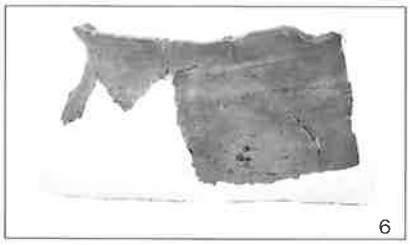


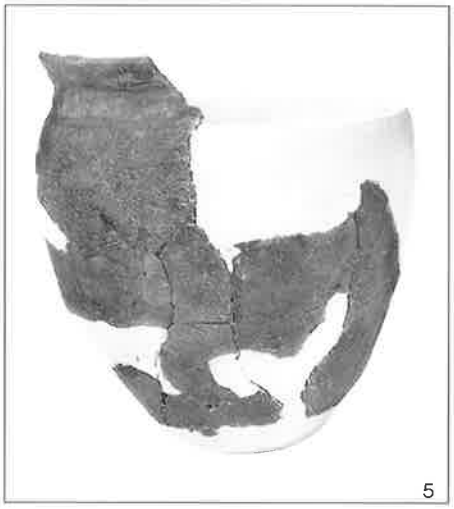
Ⅰ－６号井戸跡周辺全景（上が北）

ＤＢ－１号土坑墓　全景（北から）

ＤＢ－１号土坑墓　Ｄ－７土坑セクション（北から）

4


6


5

10

11

12

9

13

14

15

16

17

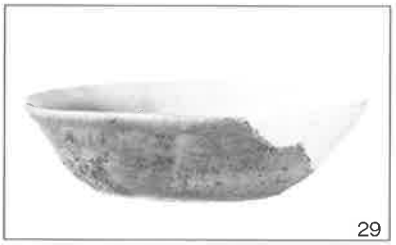
19

26

25

22

28


29

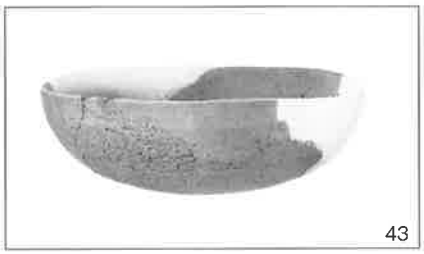
PL. 14

31

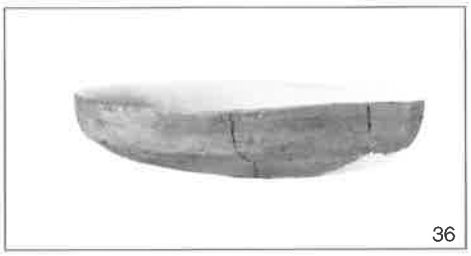
32

33

34

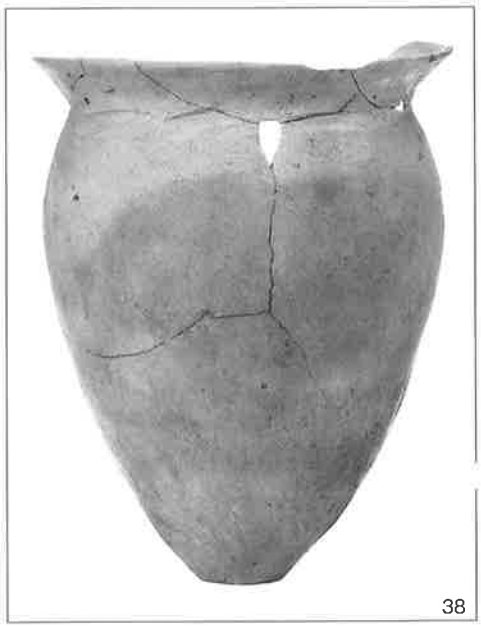

43

37


36

44

48


38

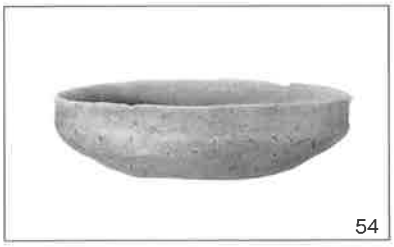
49

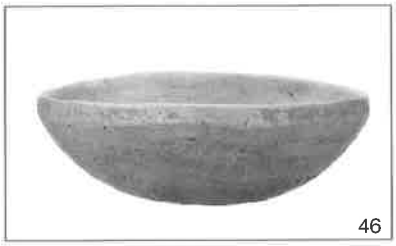
50

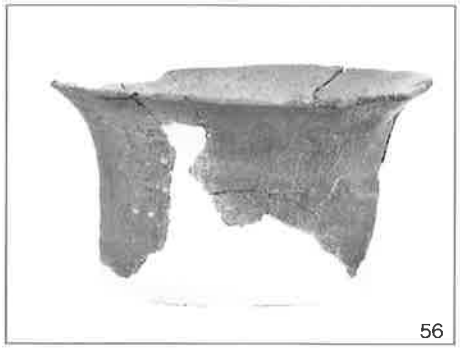
51

52

53


54


46


56

60

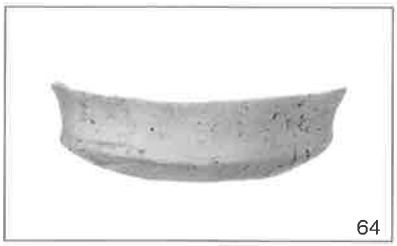
61

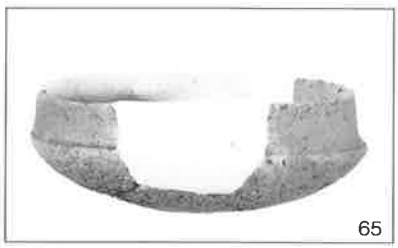
68

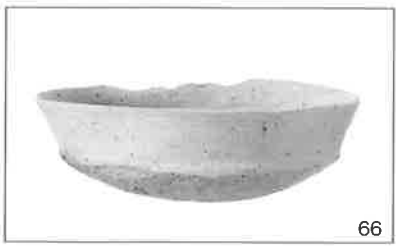
58

63

81


64


65


66

67

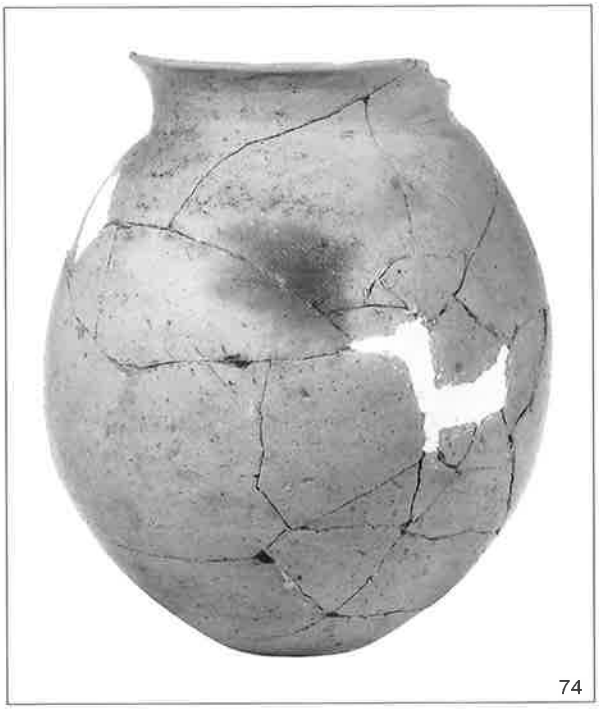
71

72

69

73

PL. 16


74

75

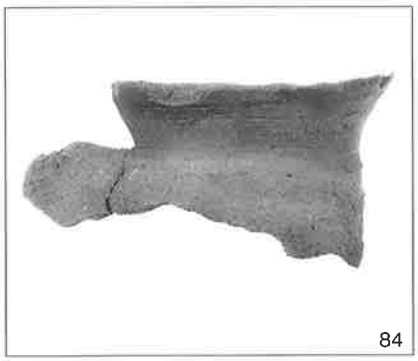
79

76

80

80

77


84

82

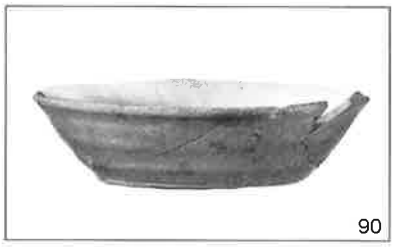
85

86

87

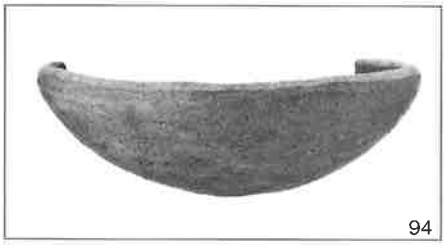
88

89

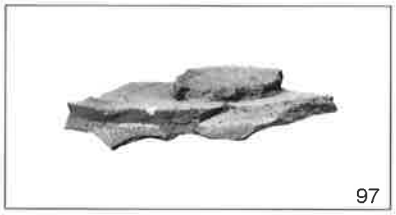

90

91

93


94

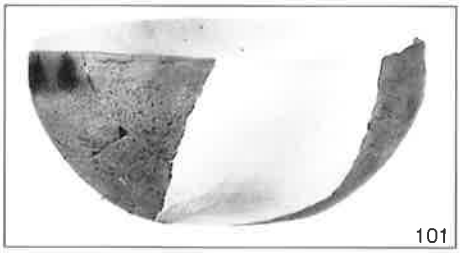
95


97

100

102

111

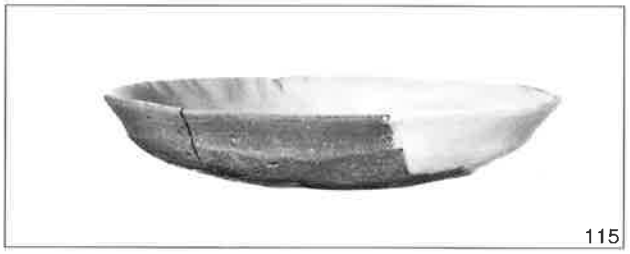

101

103

105

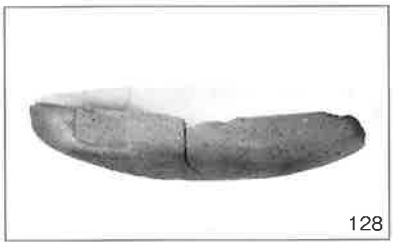
107

114

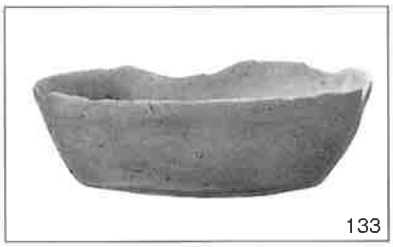

115

PL. 18

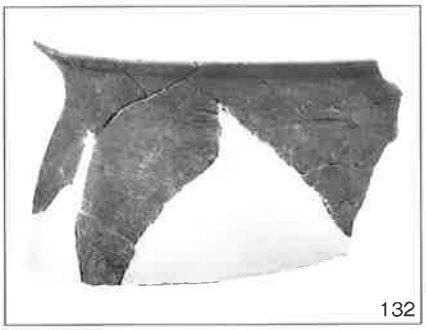
127


128

130


133

134


132

135

139

125

136

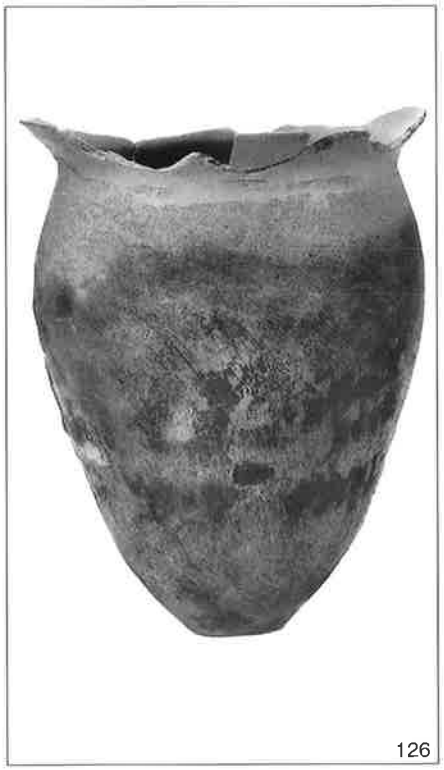
140

141

142

120

117


126

143

144

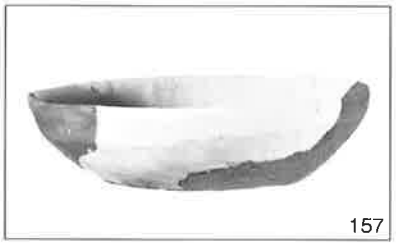
145

146

147

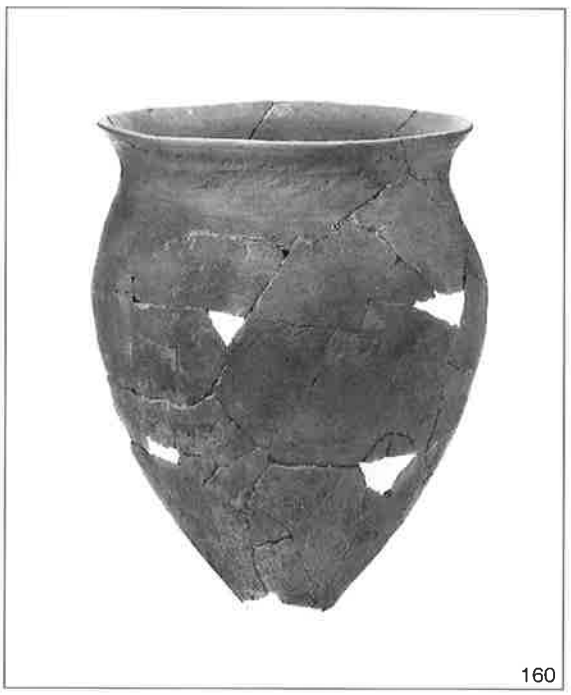
150

156


157

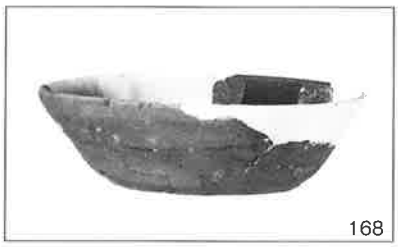
153

158

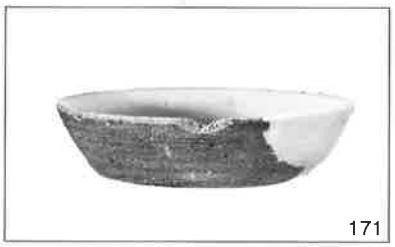

160

161

162


168

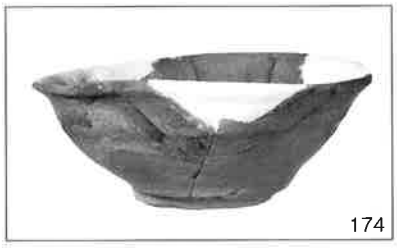
169

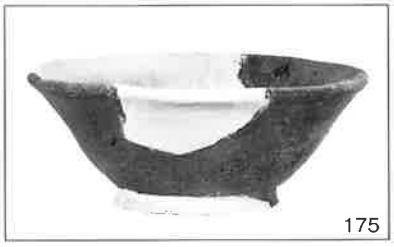

171

PL. 20

172

173


174


175

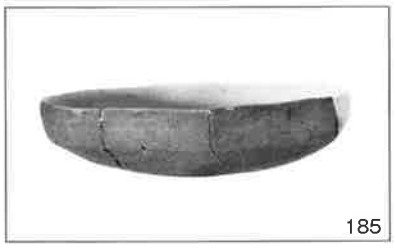
176

177

178

180

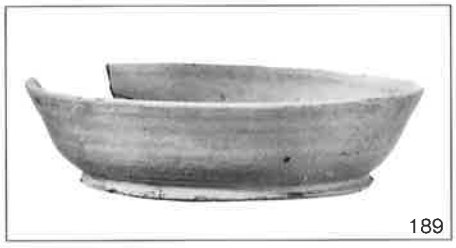
181


185

186

188

187

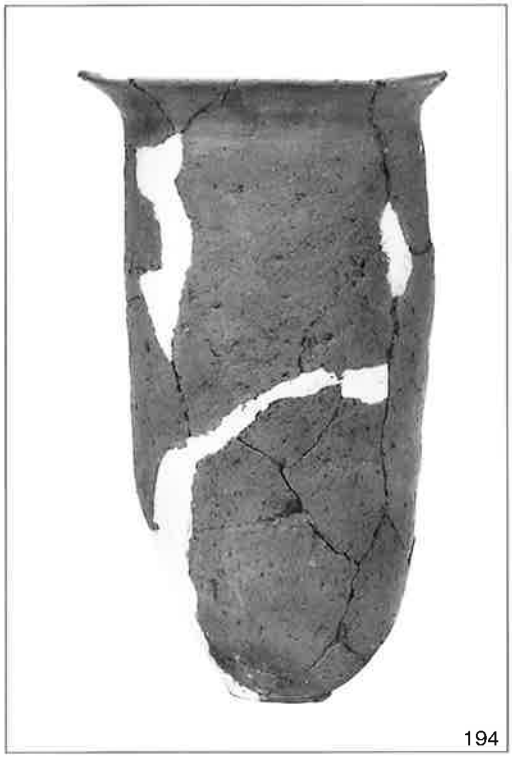

189

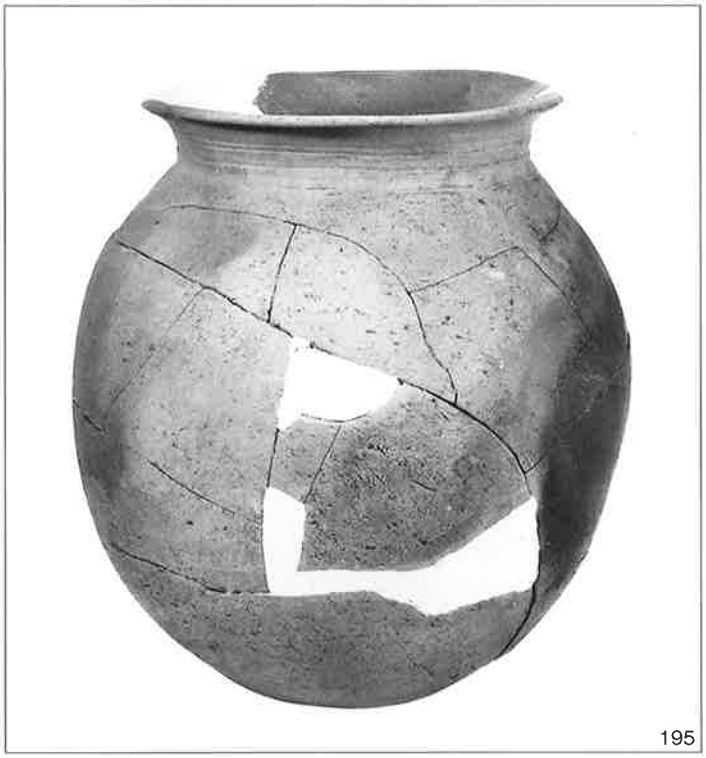
193

183

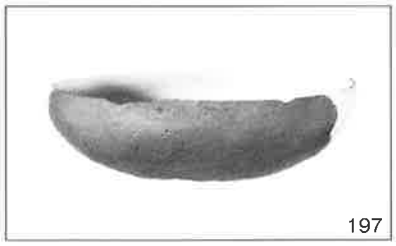
190

191


194


195

196


197

198

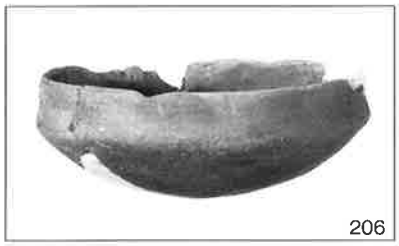
200

203

208

202

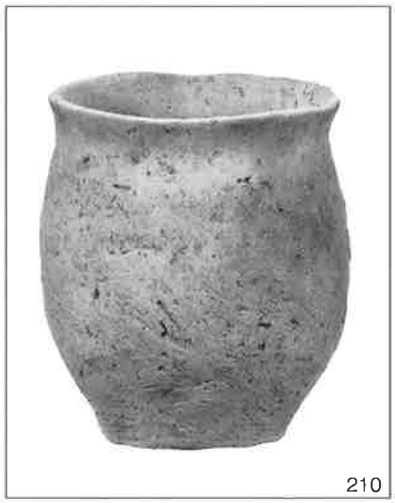
204


206

207

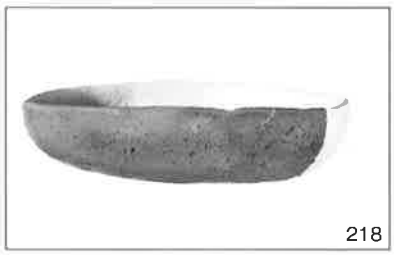
PL. 22

209


210

211

216


218

214

216

220

221

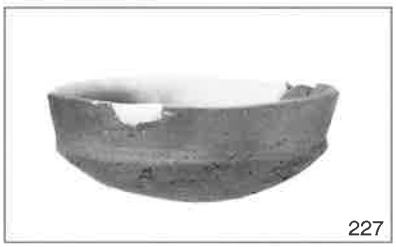
222

223

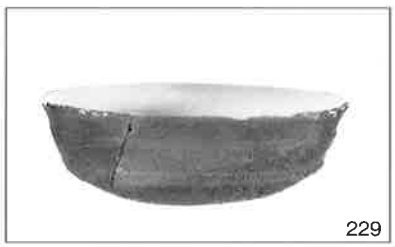
224

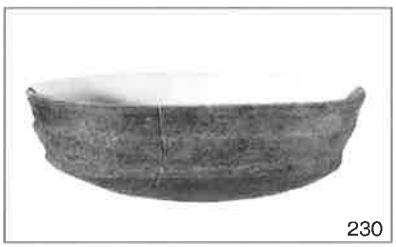
225

226

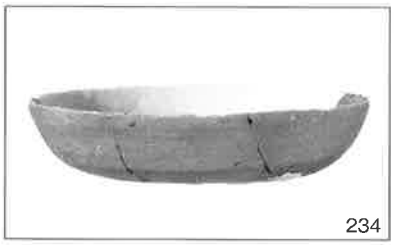

227

228


229

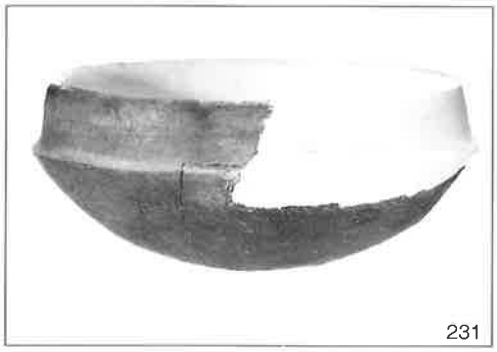

230

232


234

235

233


231

237

239

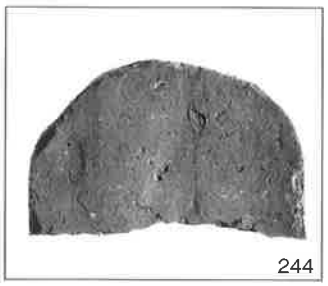
236

240

243

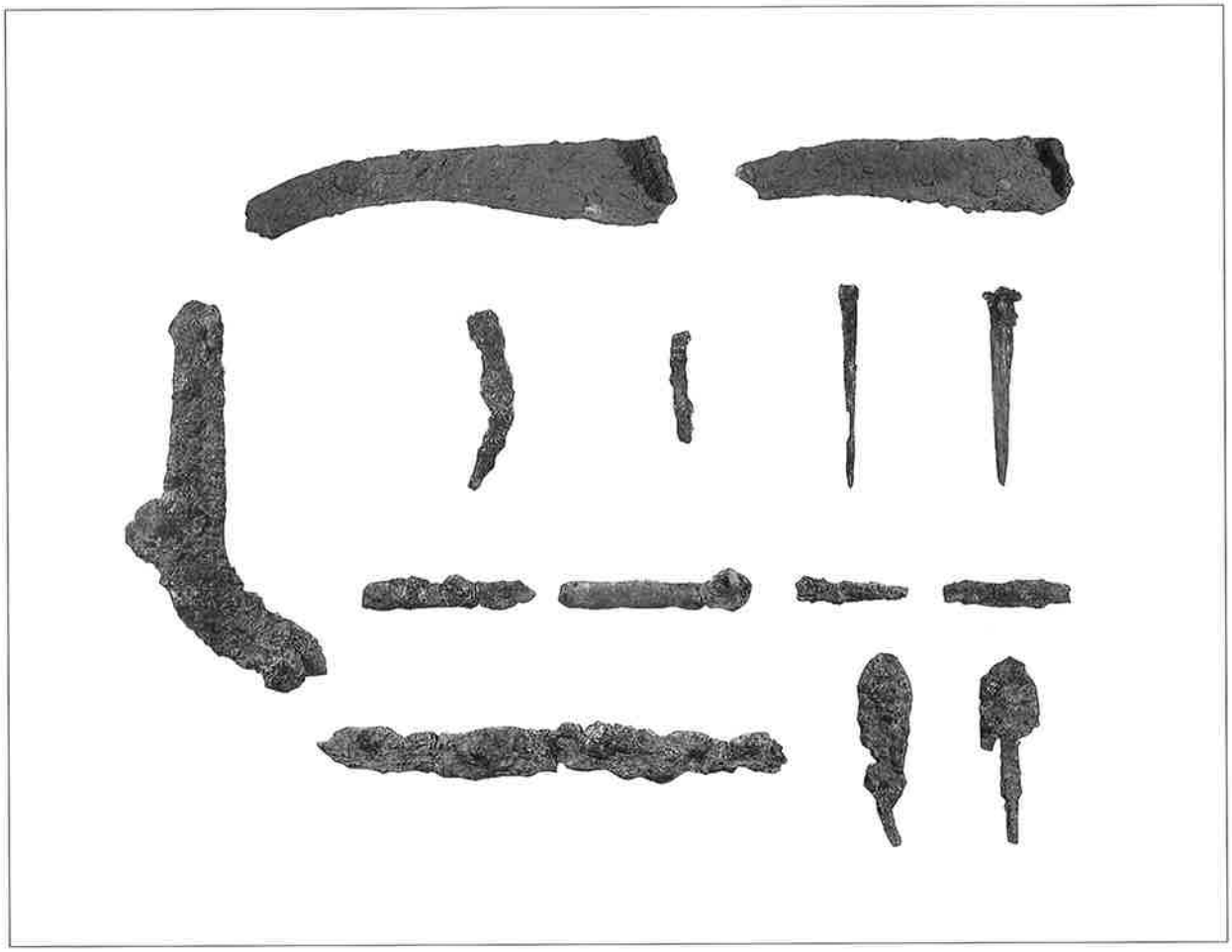
241

242


244

244

PL. 24



鉄器・鉄製品

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン(12)
書名	元総社蒼海遺跡群（12）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	梅澤　克典・近藤　雅順・阿久澤真一・遠藤たか美
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団発掘調査報告書
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－２
発行年月日	西暦2007年３月５日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置(日本測地系)		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ﾓﾄｿｳｼﾞｬｵｳﾐｲｾｷｸﾞﾝ (12) 元総社蒼海遺跡群 (12)	ﾏｴﾊﾞｼｼﾓﾄｿｳｼﾞｬﾏﾁ 前橋市元総社町 1823番ほか	10201	18A130 -12	36° 23′ 23″	139° 02′ 05°	20060904 ～ 20061215	1,363㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(12)	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡４軒、竪穴状遺構１軒	土師器	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡74軒、竪穴状遺構１軒、溝跡３条、井戸跡２基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡12条、井戸跡４基、土坑墓１基	鉄製品	

元総社蒼海遺跡群（12）

2007年２月26日　印　刷
2007年３月５日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10－２
ＴＥＬ 027－231－9531
印 刷 所　上毎印刷工業株式会社